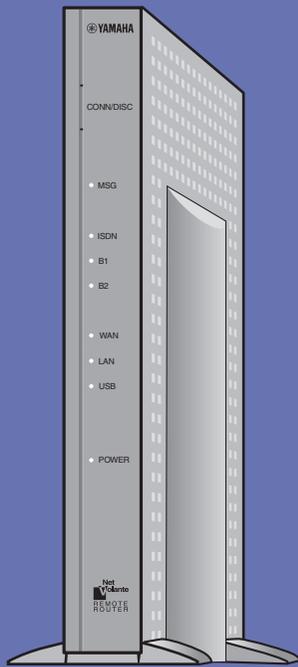


RTA55i

ブロードバンド&ISDNルータ/TA



活用マニュアル

本機をお使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。本書はなくさないように、大切に保管してください。

付属マニュアルのご案内

本機の機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。

設定マニュアル



本機を使い始めるときに読むマニュアルです。

設置のしかたや設定のしかただけでなく、CATV/ADSLなどのブロードバンドルータとしての基本的な使いかたについて説明しています。

活用マニュアル(本書)



本機の機能を活用するために読むマニュアルです。

電話、FAX、ISDNルータ、ターミナルアダプタ(TA)としての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。

困ったときは



本機のトラブル発生時の対策や、サポート窓口のご案内について、まとめて説明しています。

コマンドリファレンス(PDF形式)



コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。本機のコソールコマンドについて解説しています。

 マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください(188ページ)。

- 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

重要なお知らせ

プロバイダ契約について

本機をルータとしてお使いになる前(または新たにプロバイダ契約を行う前)に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。**プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。**

禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

通信料金について

本機をダイヤルアップルータとしてお使いになる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。本機をパソコンやLANに接続した場合、本機はパソコンのソフトウェア(電子メールソフトウェアやWebブラウザなど)が送信するデータや、LAN上を流れるデータの宛先を監視します。LAN外の宛先があると、あらかじめ設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。

そのため、**設定間違いや回線切断忘れがあった場合、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダの接続料金がかかる場合があります。**

ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかご確認ください。また、本機の設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、定期的にNetVolanteシリーズのホームページ(<http://NetVolante.jp/>)をご覧ください。これを強くおすすめいたします。

以下の場合に、予想外の通信料金がかかっている場合があります

- 本機を使い始めたとき
- 本機のプロバイダ接続設定を変更したとき
- MP接続を設定したとき
- パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更したとき(TA機能利用時)
- RealPlayerソフトウェアをインストールしたとき
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールしたとき
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき
- 本機のファームウェアをリビジョンアップしたとき

- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたときなど
- プロバイダ契約を解除/変更した場合は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用のみ)の両方を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。
- プロバイダ側の状態(アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など)によって、予想外の通信料金がかかる場合があります。プロバイダからの告知情報には常にご注意ください。

セキュリティ対策と本機のファイアウォール機能について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する不正アクセスの危険に、世界中からさらされることになります。

特にインターネットに常時接続したり、サーバなどを公開したりする場合には、その危険性を理解して、必要なセキュリティ対策を行う必要があります。本機にはそのためのファイアウォール機能を装備していますが、不正アクセスの手段や抜け道(セキュリティホール)は、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。**インターネット接続には、常に危険がともなうことをご理解いただくとともに、常に新しい情報入手し、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強くおすすめいたします。**

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

RTA55ilは「外国為替および外国貿易管理法」に基づいて規制される戦略物資(または役務)に該当します。このため、日本国外への持ち出しには、日本国政府の事前の許可が必要となる場合があります。

目次

付属マニュアルのご案内	2
重要なお知らせ	3
本書の表記について	7
 警告	8
 注意	9
使用上のご注意	9

第1章 はじめに

ネットボランチRTA55iでできること	10
各部の名称とはたらき	12
前面	12
左側面	13
背面/電池ボックス内部	14
インターネットとルータの基礎知識	15
IPアドレスとは?	16
TAとルータの違いは?	18
ISDNの付加サービス	19

第2章 本機の設定を変更する

利用できる設定方法の種類	20
電話機で設定する	21
設定のしかた	21
設定例	22
電話機設定機能一覧	23
Webブラウザから「かんたん設定ページ」で設定する	26
かんたん設定ページ画面の見かた	26
設定のしかた	27
ATコマンドで設定する	29
設定のしかた	30
コンソールコマンドで設定する	31
設定のしかた	31
離れた場所のルータを設定する	32

第3章 電話を使う (ISDN)

電話をかける/受ける	33
電話をかける	33
電話を受ける	34
内線電話をかける	35
フッキング操作を練習する	35
外線通話を他の内線へ転送する	36
通話中に他の着信を受ける	37
INSキャッチホン/擬似キャッチホンを 使えるように設定する	37
INSキャッチホン/擬似キャッチホンを使う	38
通話を別の外線へ転送する	39
通信中転送/擬似通信中転送を 使えるように設定する	40
通信中転送/擬似通信中転送する	40
三人で通話する	41
三者通話/擬似三者通話を使うように 設定する	42
三者通話/擬似三者通話する	42
外線の着信を転送する	44
着信転送/擬似着信転送を使うように 設定する	44
着信転送/擬似着信転送を解除する	46
INSボイスワープ使用時のご注意	46
相手へ通知する電話番号を登録する	47
相手によって着信ベル音を変更する	48
ナンバー・ディスプレイを利用する	49
着信拒否を設定する	50
擬似ナンバー・リクエストを設定する	51
Lモードの機能を利用する	52
本機にLモード対応電話機やFAXを 接続する場合のご注意	52
メッセージ到着お知らせサービスを 利用できるようにする	53
TELポートごとに使い分ける	54
i-ナンバーサービスの設定例	54
ダイヤルインサービスの設定例	55
TELポートごとの設定例	55

第4章 FAXを使う (ISDN)

FAX機器を使う	56
FAXモデムを使う	57
LANからFAXを送受信する (RVS-COM)	57
RVS-COMとは?	57
RVS-COMの設定を変更する	59
パソコンからFAXを送信する	60
パソコンでFAXを受信する	60

第5章 メール確認／通知機能を使う

メール着信確認機能とは？	61
確認したいメールアドレスを登録する	62
メールの着信を確認する	63
着信したメールを自動転送する	64
メールの確認や転送を中止する	65
メールサーバ登録を削除する	66
料金情報をメールで通知する	66
不正アクセス検知をメールで通知する	67

第6章 USB 接続機能を活用する

本機のUSB接続機能でできること	69
USBポート経由の接続を準備する	70
Windows 98SEの場合	71
Windows Meの場合	73
Windows 2000の場合	74
Windows XPの場合	76
MacOS(9以降)の場合	77
MacOS X(10.1以降)の場合	77
USBポートからTA接続する (ISDN)	78
Windows 98SE/Meの場合	78
Windows 2000の場合	81
Windows XPの場合	84
MacOS(9以降)の場合	87
MacOS X(10.1以降)の場合	89
USBポートからブロードバンドTA接続する	91
Windows 98SE/Meの場合	91
Windows 2000の場合	93
Windows XPの場合	96
MacOS(9以降)の場合	98
MacOS X(10.1以降)の場合	100
USBポートからLANに接続する(擬似LAN)	102
Windows 98SE/Meの場合	102
Windows 2000の場合	104
Windows XPの場合	107
MacOS(9以降)の場合	110
MacOS X(10.1以降)の場合	111

第7章 ファイアウォール機能を使う

本機のファイアウォール機能の概要	114
パケット単位のルーティング／	
セキュリティを設定できます	114
セキュリティ対策の必要性について	115
不正アクセスに対抗するには	116
本機のフィルタ設定でできること	116
セキュリティレベルを変更する	118
フィルタを設定する	119
Webブラウザで設定する	119
コンソールコマンドで設定する	121
フィルタの設定例	123
フィルタ設定の考えかた	123
意図しない発信を防ぐフィルタの設定例	123
セキュリティの設定例	126
不正アクセスを検出して警告する	129
不正アクセス検知機能を設定する	129
不正アクセス検知履歴を確認する	130

第8章 ルータを使いこなす

本機へのアクセスを制限する	131
本機の設定を変更する	133
ブザー音の設定を変更する	133
本機のIPアドレスを変更する	134
本機の時刻を自動的に合わせる	135
ネットワークゲームやICQ用に設定を変更する	136
静的IPマスカレード設定で問題を解決する	136
DMZホスト機能を使って問題を解決する	137
ダイヤルアップ接続を制限する (ISDN)	138
接続制限をリセットする	140
自動切断しないように設定する (テレホーダイ・タイム)	141
128kbit/sで接続する (ISDN)	142
複数の接続先を使い分ける	143
メール専用の接続先を使い分ける	143
パソコンごとに接続先を使い分ける	144
複数のルータ間で通話する (機器間アナログ通話) (ISDN)	145
アナログ子機にするルータの設定を変更する	145
アナログ親機 (ISDN回線を接続している ルータ) の設定を変更する	146
通話する	147
専用線で接続する	148
専用線を接続する	148
専用線接続を設定する	150

PPPoEネットワーク型ADSLで接続する	154	第9章 その他の情報	
準備する	154	Acrobat Readerで説明書を読む	188
接続設定を変更する	154	Acrobat Readerをインストールする	188
TAやPIAFS対応のPHSから		Acrobat Readerの使いかた	189
リモートアクセスする (ISDN)	158	パソコンのIPアドレスを管理する	190
必要な設定	158	現在のIPアドレスを確認する	190
接続相手を登録する	159	IPアドレスを変更する	191
LAN内のサーバやパソコンを設定する	161	IPアドレスをリセットする	195
リモートアクセスするパソコンの設定を		主な仕様	196
変更する	162	「かんたん設定ページ」設定項目一覧	197
本機へアクセスする	168	一般ユーザ用ページ	197
外部にサーバを公開する	169	管理者用ページ	197
静的IPマスカレードの設定を変更する	170	ATコマンド一覧	200
アクセスを許可する設定に変更する	171	ATコマンド	200
パソコンのIPアドレスを設定する	171	Sレジスタの詳細	203
ファイルサーバソフトの設定を変更する	171	リザルトコードの詳細	205
ISDN回線経由でLANとLANを接続する		用語解説	206
(LAN間接続) (ISDN)	172	索引	213
LAN間接続に必要な設定	172	英数字	213
TCP/IPプロトコルのファイル共有		五十音順	214
設定例	173		
Windows 95/98/Meにおけるファイル			
共有設定例	177		
LAN-TA機能を使って接続する (ISDN)	180		
本機の設定を変更する	180		
仮想プライベートネットワーク (VPN) を			
インストールする	181		
パソコンのダイヤルアップネットワーク			
設定を変更する	182		
接続する	184		
IPv6環境で使う	184		
IPv6を導入する前に	185		
IPv6を使えるように設定する	185		
IPv6接続を確認する	187		

本書の表記について

マークの意味

本書では、本機を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。



警告

人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。



注意

機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

また、ISDN回線に本機を接続した場合のみに使用できる機能の説明については、マークがタイトルについています。

略称について

本書ではそれぞれの製品について、以下のように略称で記載しています。

- YAMAHA RTA55i: 本機
- Microsoft® Windows®: Windows
- Microsoft® Windows 95®: Windows95
- Microsoft® Windows 98®: Windows98
- Microsoft® Windows 98 Second Edition®: Windows98SE
- Microsoft® Windows NT®: WindowsNT
- Microsoft® Windows 2000®: Windows2000
- Microsoft® Windows Millennium Edition®: WindowsMe
- Microsoft® Windows XP®: WindowsXP
- INSネット64: ISDN
- 10BASE-T(100BASE-TX)ケーブル: LANケーブル

設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- Apple、Macintosh、MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe、Acrobatは米国AdobeSystems社の登録商標です。
- Stac LZSは米国Hi/fn社の登録商標です。
- 本製品は、RSA Security Inc.のRSA® BSAFE™ WirelessCoreソフトウェアを搭載しております。

RSAはRSA Security Inc.の登録商標です。BSAFEはRSA Security Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。



RSA Security Inc. All rights reserved.



本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

- 本機は家庭および一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。

誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切ってACアダプタをコンセントから抜き、バックアップ電池を取りはずしてください。そのまま使用を続けると、火災や感電のおそれがあります。
- 濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。感電や故障のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ACアダプタは必ず本機に付属のもの(P9V1.1A)をお使いください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 付属のACアダプタは日本国内用AC100V(50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 安全のため、ACアダプタは容易に外すことのできるコンセントに接続してください。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 本機の通風口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 電源を入れたまま、USBケーブル以外のケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- 乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショート(短絡)させたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。
- 電池を破棄する場合には、端子にテープなどを貼って絶縁してください。他の金属と接触すると発熱や破裂などの原因となります。

- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- メーカーや種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 長時間使用しない場合は、電池を取り外してください。
- 電池から漏れた液が目に入った場合は、こすらずにすぐに大量のきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。失明等の障害のおそれがあります。
- 電池から漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに大量のきれいな水で洗ってください。化学やけなどの障害の恐れがあります。
- 電池から漏れた液が口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- アナログポートやISDNポート、USBポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。

注意

本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。アース接続は必ず、ACアダプタをコンセントにつなぐ前に行ってください。又、アース接続をはずす場合は、必ずACアダプタをコンセントから切り離してから行ってください。
- 停電後や長時間電源を切っていた場合には、電池を交換することをお勧めします。また、停電等が発生しなかった場合でも、1年間を目安に電池を交換することをお勧めします。電池から液が漏れて火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。
- 本機を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を保存し、電池をすべて外した状態にしてください。輸送中に電池から液が漏れて、火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池の液漏れによる修理は、保証期間中であっても実費を請求させていただきます。

使用上のご注意

- ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用手法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- 自動接続が設定されている場合に、「かんたん設定ページ」の[ネットボランチホームページ]をクリックするとインターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- 本機のアナログポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- 本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本機を譲渡する際は、マニュアル類も同時に譲渡してください。
- 本機を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。

第1章 はじめに

この章では、本機の特長やインターネットのしくみ、ネットワークについての基礎知識について解説しています。本機を使いこなすためやトラブルを避けるために、必ずご一読ください。

ネットボランチ RTA55i でできること

本機は、ブロードバンドルータ、ダイヤルアップルータ、アナログポート、DSU、TAの機能をすべて内蔵した、多機能ルータです。ISDNのダイヤルアップ接続からCATV/ADSL接続、専用線接続まで、さまざまなインターネット接続方法に対応できます。より高速な回線で接続したいときにも、本機の設定変更のみで対応できます。

ブロードバンド&ISDN対応

CATVやADSLなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートに加えて、従来のISDNダイヤルアップルータ機能を装備しています。「インターネットはCATV回線で接続し、電話はISDN回線」という環境でお使いの場合でも、本機1台で対応できます。

ご注意

ISDN回線以外では、本機のインターネット電話以外の電話機能は利用できません。

ファイアウォール機能

静的/動的の2種類のフィルタによるパケットフィルタリング機能で、外部からの不正アクセスに対してセキュリティを強化できます。不正アクセスや攻撃を検出した場合にお知らせする、不正アクセス検知機能も搭載しています。

TA (ターミナルアダプタ) 機能搭載

Windows98SE/Me/2000/XP、Mac OS9/MacOSXのパソコンから、本機をUSB接続のISDN TAや、ブロードバンドTA(PPPoE方式のみ対応)として使用できます。手動で接続/切断を制御できるので、常時接続回線契約をしていても、セキュリティ面で心配なときに便利です。

また、本機はWindows98/Me/2000/XPの仮想プライベートネットワーク機能を使ったLAN-TA機能を搭載しているため、LAN上のWindowsパソコンから、本機を仮想TAとして使用することもできます。

インターネット電話機能

通話の相手先もRTA55iを使用している場合には、インターネット経由の会話(インターネット電話)を楽しめます。インターネット経由で通話するため、プロバイダへの通信料以外の通話料金はかかりません。



うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

メール着信確認／メール着信転送機能

登録したメールアドレスへのメール着信を通知するメール着信確認機能を搭載しているため、パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無を確認できます。メール着信を確認するだけでなく、着信したメールを携帯電話やPHSの電子メールなどの他のメールアドレスに転送できる、メール着信転送機能も搭載しています。

LANポートのないパソコンでも、USBポート経由でアクセス可能

USBポートに接続したパソコンをLANに接続できる擬似LAN機能を搭載しているため、LANボードを装着できないパソコンでも、USB経由でLANへアクセスできます。

かんたん設定

付属のユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」でパソコンのネットワーク設定を自動的に行えます。本機は設定のためのホームページ「RTA55iかんたん設定ページ」を内蔵しているため、本機の基本的な設定はパソコンのWebブラウザで変更できます。

充実のNetVolanteホームページ

NetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.jp/>) では、NetVolanteシリーズの最新情報や機能の設定方法、FAQ、リビジョンアッププログラムなど、NetVolanteを活用するための情報を満載しています。本機の「かんたん設定ページ」画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックするだけでアクセスできます。

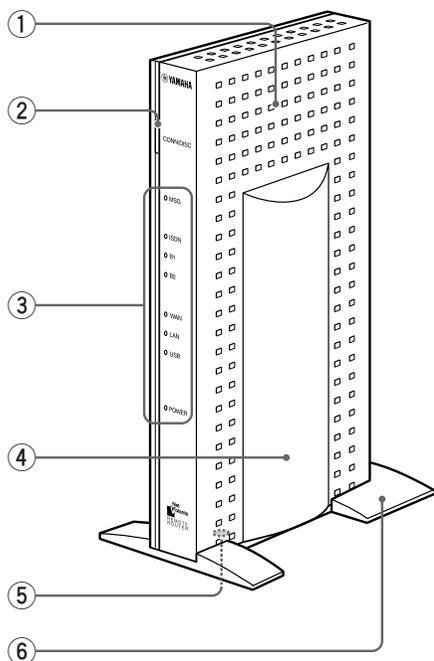
また、ヤマハルータRTシリーズホームページ (<http://www.rupro.yamaha.co.jp/>) では、RTシリーズルータを使った高度な活用例や詳しい解説がご覧いただけます。

その他多機能ルータとして便利な機能を装備

- 停電時には、乾電池によるバックアップ電源でTEL1ポートを使用でき、ライフラインとしての電話回線を確保できます (ISDN回線使用時のみ)。
- TELポートは2ポート装備しているので、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。サブアドレスやフレックスホン、ナンバー・ディスプレイ、i・ナンバー、ダイヤルインなどのISDNサービスにも対応しています。また、Lモードにも対応しています。
- 64/32kbit/s PIAFS対応ダイヤルアップサーバ機能を搭載しているため、PHS電話機で外出先からLANにアクセスできます (PIAFS 32k、64kbit/sに対応。64kbit/sはギャランティーマードとベストエフォートモードの両方に対応)。
- LAN上のパソコンからFAXモデムなしでFAXを送受信できる、Windows用FAXソフトウェア「RVS-COM 2000」に対応しています (利用するには別途「RVS-COM 2000」が必要です)。なお、RVS-COM 2000R2には対応していません。
- ご購入後に新しい機能が追加されても、本機内蔵ソフトウェアのリビジョンアップ (バージョンアップ) を行うことで、最新の機能が利用できます。

各部の名称とはたらき

前面



① 通風口

内部の熱を逃がすための穴です。

② CONN/DISCボタン

ISDN回線を利用したプロバイダへのルータ接続を、手動で接続／切断するときに押します。

③ ランプ

本機の動作状態を示します。

- **MSG**:登録したメールアドレスへメールが着信しているときに、点滅します(63ページ)。
- **ISDN**:ISDNの回線状態を示します。回線が使用できる状態のときに点灯します。
- **B1**:ISDNのB1チャンネルの使用状態を示します。接続中は点灯、データ通信中は点滅します。
- **B2**:ISDNのB2チャンネルの使用状態を示します。接続中は点灯、データ通信中は点滅します。
- **WAN**:WANポートの使用状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **LAN**:LANポートの使用状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **USB**:USBポートの使用状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **POWER**:本機の電源の状態を示します。電源が入っているときは点灯、停電でバックアップ電源(電池)により動作しているときは点滅します。

動作状態と点灯動作の関係については、次ページをご覧ください。

④ 電池ボックスカバー

カバー内部にバックアップ用電池ボックスがあります。詳しくは、「設定マニュアル」(別冊)の「バックアップ電池を取り付ける」(128ページまたは164ページ)をご覧ください。

⑤ INITスイッチ

このスイッチを押しながら本機の電源を入れると、本機の設定を工場出荷状態に戻すことができます。詳しくは、「困ったときは」(別冊)の「本機の設定を工場出荷状態に戻す」(33ページ)をご覧ください。

⑥ スタンド

本機を縦置きで設置するためのスタンドです。詳しくは、「設定マニュアル」(別冊)の「ルータを設置する」(14ページ)をご覧ください。

前面ランプの点灯状態

●点灯、◐点滅、◑ゆっくり点滅、○消灯

MSGランプ

- ◐ プロバイダのメールサーバにメールが到着しています(かんたん設定ページで、メールサーバを登録する必要があります)。

ISDNランプ

- ISDN回線／専用線が正常な状態です。
- ISDN回線／専用線が使用できない状態です。

B1ランプ

- B1チャンネルを使用しています。
- ◐ B1チャンネルにデータが流れています。
- B1チャンネルが空いています。

B2ランプ

- B2チャンネルを使用しています。
- ◐ B2チャンネルにデータが流れています。
- B2チャンネルが空いています。

WANランプ

- WANが使用可能な状態です。
- ◐ WANポートにデータが流れています。
- WANが使用不可能な状態です。

LANランプ

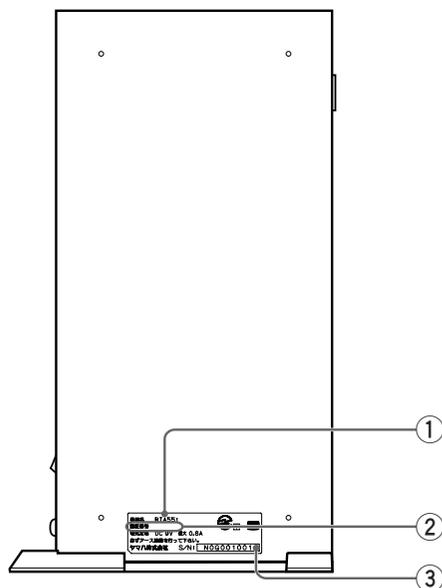
- LANが使用可能な状態です。
- ◐ LANにデータが流れています。
- LANが使用不可能な状態です。

USBランプ

- USBが使用可能な状態です。
- ◐ USBにデータが流れています。
- ◑ USBデバイスとして正しく認識されていない状態、またはサスペンド状態です。
- パソコンやUSBハブの電源が切れているか、USBケーブルが抜けています。

POWERランプ

- 電源が入っています。
- ◐ 停電状態でバックアップ電池による動作中です。
- ◑ 停電状態でバックアップ電池による動作中であり、電池残量が少ない状態です。新しい電池に交換してください。
- 電源が切れているか、または停電しています。

左側面**① 機器名**

ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている機器名を記入します。

② 認証番号

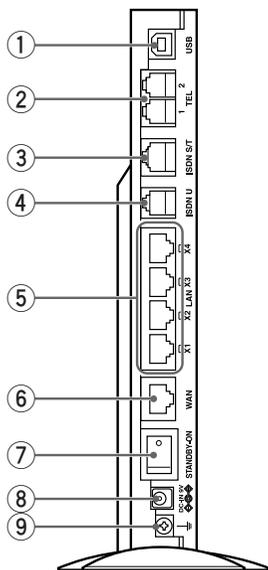
ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている認証番号を記入します。

③ シリアル番号

製品を管理／区別するための製造番号です。

背面／電池ボックス内部

背面



① USBポート

本機をTAとして使う場合に、パソコンのUSBポートとUSBケーブルで接続します。

② TELポート

アナログの電話機やFAX、モデムを2台まで接続できます。停電時はバックアップ電源により、TEL1ポートのみ使用できます。

③ ISDN S/Tポート

ISDN機器を接続します。内蔵のDSUを使わない場合は、このポートとDSUまたはISDN機器をISDNケーブルで接続します。

④ ISDN Uポート

ISDN回線や専用線をモジュラーケーブルで接続します。

⑤ LANポート

パソコンのLANポートまたはHUBのポートとLANケーブルで接続します。

⑥ WANポート

CATVやADSLで接続する場合、ケーブルモデムやADSLモデムとLANケーブルで接続します。

⑦ STANDBY-ON (電源) スイッチ

本機の電源を入／切します。

⑧ DC-IN 9Vコネクタ

付属のACアダプタを接続します。

⑨ アース端子

アースコードを接続します。必ず接続してください。

⑩ DSUスイッチ

内蔵のDSUを切り離します。内蔵のDSUを使うときは「ON」、使わないときは「OFF」にします。

⑪ TERM (ターミネータ) スイッチ

ISDN機器のターミネータ(終端抵抗)を設定します。

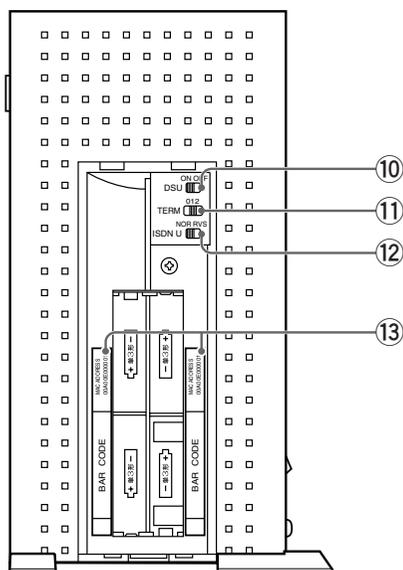
⑫ ISDN U (極性反転) スイッチ

ISDN Uポートの極性を反転します。

⑬ MACアドレス

機器固有のネットワーク識別番号です。

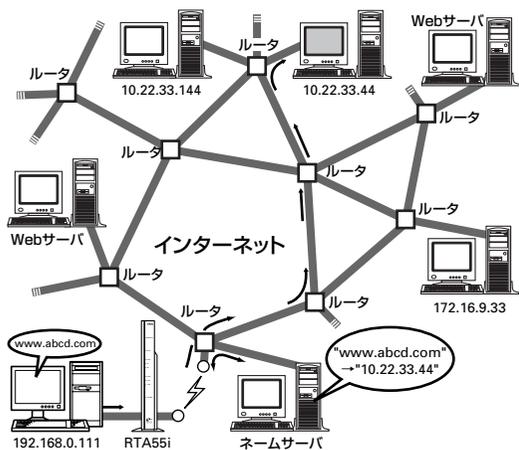
電池ボックス内部



インターネットとルータの基礎知識

インターネットは、世界中のさまざまなネットワークを接続したネットワークです。そしてネットワークどうしをつなぐ装置が「ルータ」です。

インターネットでは、世界中のコンピュータから1台のコンピュータを識別するために、「192.168.0.250」のように4つの数字からなる「IPアドレス」という識別番号を使っています。ルータは流れてきたデータをIPアドレスで判断し、送り先を決めています。1つのデータが目的のコンピュータへ届くまでには、数多くのルータを通過していきます。このような通信ルールを「TCP/IP」と呼びます。



例:パソコンでホームページのアドレス (URL) を入力すると

- 1 プロバイダのネームサーバ(DNS)でURLがIPアドレスに変換されます。
- 2 そのアドレスのWebサーバまで「ホームページのデータを送れ」という要求(リクエスト)が届けられます。
- 3 その要求を受けて、Webサーバはホームページや画像データを要求元のパソコンのIPアドレスへ送り返します。

このように、誰から誰へ送れば良いのかはすべてIPアドレスで管理されているので、インターネットに接続するときは必ずIPアドレスが必要になります。

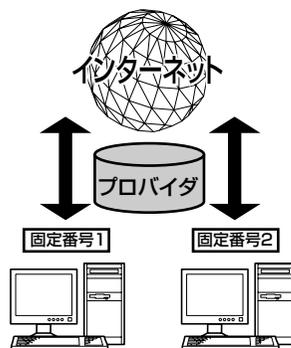
IPアドレスの入手方法は、インターネットへの接続方法によって異なります

モデム/TAで接続する端末型ダイヤルアップ接続や、CATV/ADSL (PPPoE方式以外) 接続、フレッツ・ADSLなどのPPPoE方式での接続の場合は

プロバイダに接続するたびに、プロバイダが持っているIPアドレスの中から、そのとき限りのIPアドレスが割り当てられます。このIPアドレスは、接続を切るまで有効です。次に接続したときは、以前接続したときとは異なるIPアドレスが割り当てられます。

専用線接続やLAN型ダイヤルアップ接続の場合は

プロバイダと契約すると、あらかじめ指定されたIPアドレスを、必要な数だけ割り当ててもらえます。割り当てられたIPアドレスを個々のパソコンに設定することで、インターネットへ接続できるようになります。



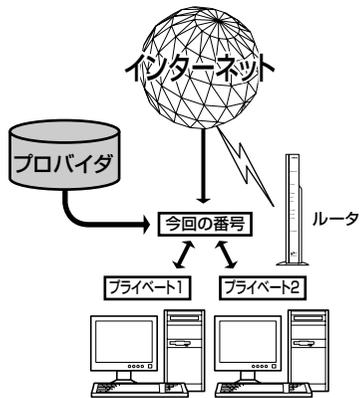
次のページにつづく▶

本機などのアドレス変換機能を持ったダイヤルアップルータで接続する場合は

ルータからLAN内専用のプライベートIPアドレスが各パソコンに割り当てられます。

インターネットに接続するときは、ルータが個々のプライベートIPアドレスをプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスに変換してインターネットへ送ります。もどってきたデータは、元のプライベートIPアドレスに変換してLAN内のパソコンへ送ります。

この変換機能を「NAT機能」と「IPマスカレード機能」と呼び、この機能によって端末型ダイヤルアップ契約でも複数のパソコンからインターネットが使えるようになっています。



プロバイダと契約すると、必ずIPアドレスの情報が通知されます。重要な情報なので必ず確認し、大切に保管してください。

IPアドレスとは?

IPアドレスは、「192.168.0.250」のような、0~255までの4つの数字からなる識別番号です。インターネットでは、世界中のコンピュータから1台のコンピュータを識別するために、IPアドレスを使っています。IPアドレスには、インターネット上で通用する「グローバルIPアドレス」と、自分のLAN内だけで通用する「プライベートIPアドレス」の2種類があります。

グローバルIPアドレス

グローバルIPアドレスは、インターネットで世界中につながっているコンピュータの中から、1つのコンピュータを特定するためのIPアドレスです。グローバルIPアドレスは重複することができませんので、正式な手続きを経て取得する必要があります。専用線接続やLAN型ダイヤルアップ接続、CATV/ADSL(PPPoE方式以外)接続の契約を申し込むと、グローバルIPアドレスが割り当てられます。端末型ダイヤルアップ接続やフレッツ・ADSLなどのPPPoE方式での接続の契約では、接続するたびにプロバイダが取得したグローバルIPアドレスを一時的に借りてインターネットに接続しています。

ご注意

接続業者によっては、プライベートIPアドレスが割り当てられる場合があります。

プライベートIPアドレス

プライベートIPアドレスは、自分のLAN内に限って使用できるIPアドレスです。約43億通りのIPアドレスのうち、以下の範囲のIPアドレスを使用できます。

- 10.0.0.0~10.255.255.255
- 172.16.0.0~172.31.255.255
- 192.168.0.0~192.168.255.255

ヒント

本機の初期設定値は「192.168.0.1」に設定されています。

ネットマスク

ネットワークのIPアドレス範囲を表わす数値を「ネットマスク」といいます。ネットマスクの仕組みは、以下のようになっています。

例: ネットワーク番号192.168.11.0/26を使う場合

192.168.11.0を2進数で表わすと、32桁になります。左からネットマスクの個数分1を並べ、残りに0を並べます。1の範囲がそのネットワークを示す識別番号となり、0の範囲がネットワーク内の各機器を示す識別する番号となります。

- ネットワーク番号

(10進数表示): 192.168.11.0

(2進数表示):

11000000.10101000.00001011.00000000

- ネットマスク (2進数表示):

11111111.11111111.11111111.11000000

IPアドレスの範囲をわかりやすい10進数で表わすと、次のようになります。

- IPアドレスの最初(10進数表示): 192.168.11.0
- IPアドレスの最後(10進数表示): 192.168.11.63

💡 ヒント

- ネットマスクは、「192.168.11.0/26」の他に「26ビット」や「255.255.255.192」と表記されることもあります。
- 本機の初期設定値は「192.168.0.0/24」に設定されています。

IPアドレスのルール

専用線契約でプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスの範囲や、プライベートIPアドレスとして設定した範囲のうち、始めの番号は「ネットワークアドレス」、最後の番号は「ブロードキャストアドレス」に割り当てられる決まりになっています。この2つの番号は、パソコンなどに割り当てて使用することはできません。

例: 「172.16.128.112/28」のIPアドレスを割り当てられた場合

割り当てられた番号は「172.16.128.112」～「172.16.128.127」の16個ですが、以下のように実際にルータやパソコンなどに使える番号は、「172.16.128.113」～「172.16.128.126」の14個となります。このルールは、ご自分のLANにプライベートIPアドレスを設定して使うときにも適用されますので、ご注意ください。

IPアドレス範囲最初 → 172.16.128.112

(ネットワークアドレス)

172.16.128.113(ルータ)

172.16.128.114(サーバA)

172.16.128.115(パソコン1)

172.16.128.116(サーバB)

172.16.128.117(パソコン2)

172.16.128.118(パソコン3)

172.16.128.119

:

172.16.128.120

172.16.128.121

172.16.128.122

172.16.128.123

172.16.128.124

172.16.128.125

172.16.128.126

自由に使える
範囲

IPアドレス範囲最後 → 172.16.128.127

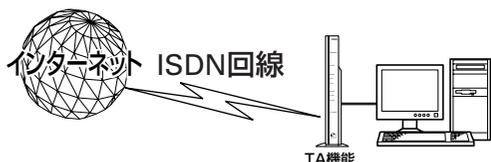
(ブロードキャストアドレス)

TAとルータの違いは？

ISDN回線を利用してインターネットへ接続するための機器としてはTAとルータの2種類があり、それぞれ特徴が違います。

TA(ターミナルアダプタ)の機能

TAは、パソコンの通信データをISDN回線用のデジタル信号に変換する機器です。ISDN回線用のモデムに相当し、モデムと同様にパソコンの接続ソフトを使って手動でインターネットへ接続します。

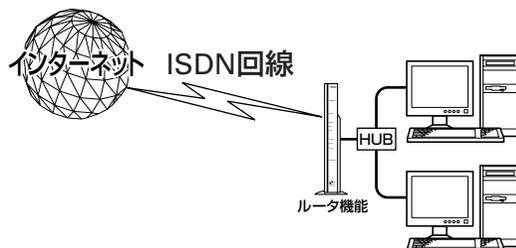


TAの場合は、パソコン1台につき1つのTAと回線が必要です。また、プロバイダ接続情報をパソコンに設定して使うので、パソコンごとに設定作業が必要になります。TAでインターネットへ端末型ダイヤルアップ接続すると、プロバイダのグローバルIPアドレスが割り当てられますので、ネットワークゲームやICQなど、グローバルIPアドレスを利用したサービスを利用できます。また、パソコンでWindowsのダイヤルアップサーバやMacintoshのARA(アップル・リモート・アクセス)サーバを利用したいときは、TAが必要です。

ルータの機能

ルータは、LAN内のデータの宛先を監視して、データの流れを制御(ルーティング)する機器です。ダイヤルアップルータは、LAN内のデータにインターネット宛てのものを見つけると、ルータが自動的にプロバイダへ電話をかけてインターネットに接続します。接続/切断操作が不要のため、専用線で接続しているような感覚でインターネットを利用できます。

ルータは1つの回線で接続するため、1つのプロバイダ接続契約でLAN内の複数のパソコンから、同時にインターネットに接続できます。また、プロバイダ接続情報はルータに設定するだけです。パソコンが何台増えてもルータ以外に管理する必要はありません。



ただし、ルータでは、LAN内のプライベートIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換して接続するため、ネットワークゲームやICQなど、グローバルIPアドレスを利用したソフトウェアやサービスを利用できない場合があります。

ルータのNAT機能とは？

インターネット上のコンピュータはすべてグローバルIPアドレスを持つ必要があるため、LAN内のプライベートIPアドレスでは、インターネットに接続できません。本機では、内蔵のNAT(Network Address Translator)機能を利用して、プライベートIPアドレスを端末型ダイヤルアップ接続でプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスに変換することで、LAN内のパソコンからインターネットへ接続できるようにしています。

IPマスカレード機能

さらに、本機のIPマスカレード機能を利用することで、複数のパソコンのプライベートIPアドレスを1つのグローバルIPアドレスに自動的に変換して、端末型ダイヤルアップ接続でも複数のパソコンからインターネットに接続できるようにしています。

また、専用線接続で割り当てられているグローバルIPアドレスの数が足りない場合でも、NAT機能とIPマスカレード機能を使うことで、より多くのパソコンを接続することができるようになります。

ISDNの付加サービス

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。その他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知 発信者の番号を相手に通知できます。

サブアドレス通知

ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続したい機器を指定して着信させることができます。

ナンバー・ディスプレイ(有料)

着信時に発信者の番号が通知されません。

i・ナンバー(有料)

電話番号を最大2つまで増設でき、アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。

ダイヤルイン(有料)

電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。

料金情報通知

通話にかかった料金が通知されるサービスです。回線から通知される料金は、小数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスが適用されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。また、NTT以外の通信業者では通知されません。

ユーザ間情報通知

通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。

通信中着信通知サービス

通話中に着信を知らせるサービスです。

【フレックスホン】

INSキャッチホン(有料)

通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できるキャッチホンサービスです。

三者通話(有料)

通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。

通信中転送(有料)

通話中の通信を第三者へ転送できません。

着信転送(有料)

着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

【ご注意】

- 本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現できます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。
- NTTのフレックスホンは、回線の状態にかかわらず利用できます。
- 擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2チャンネル同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。そのため、擬似フレックスホン使用時は2チャンネル共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。インターネット接続などで、すでに1チャンネルを接続している状態では、擬似フレックスホン機能は使用できません。

第2章 本機の設定を変更する

この章では、本機の機能やいくつかの設定方法について紹介しています。一番操作しやすい方法でお使いください。

利用できる設定方法の種類

本機の機能は、以下の操作方法で設定したり、設定を確認したりできます。一番操作しやすい方法でお使いください。

電話機で設定する (21ページ)

本機のTELポートに接続したプッシュボタン式電話機から、本機の電話機能を設定できます。設定は、受話器を上げてダイヤルボタンを押して行います。

パソコンのWebブラウザで設定する (26ページ)

本機にパソコンを接続している場合は、Webブラウザで本機内蔵の「かんたん設定ページ」を開いて本機の状態を見たり、各種機能を設定したりすることができます。

ATコマンドで設定する (29ページ)

本機のUSBポートにパソコンを接続している場合は、パソコン通信ソフトを使って、本機のTA機能を設定できます。

コンソールコマンドで設定する (31ページ)

TELNETソフトウェアを使ってコンソール画面からコマンドを入力して、本機の状態を確認したり、各種の機能を設定できます。

リモートセットアップで設定する (32ページ)

すでにヤマハRTシリーズのルータをお使いの場合は、本機からISDN回線／専用線経由で相手のルータを設定したり、相手のルータから本機を設定したりすることができます。



うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

電話機で設定する

TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で、本機を設定できます。電話機からは、主に本機の電話機能を設定できます。

設定できる機能と設定値については、「電話機設定機能一覧」(23ページ)をご覧ください。よく使う設定例については、次ページをご覧ください。

で注意

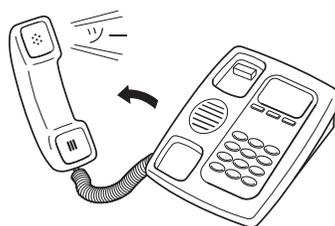
- 電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン(プッシュ)に切り替えてから操作してください。パルス(ダイヤル)方式だけでトーンの機能がない電話機からは、設定できません。
- 外線電話からは設定できません。
- 電話機から設定すると、設定内容は本機の内蔵メモリに保存されますので、本機の電源を切っても内容は消えません。ただし、IPアドレスとネットマスクは記憶されませんのでご注意ください。

設定のしかた

電話機で「**✖**」、「**㊦**」、機能番号、TELポート番号、設定値]の順でダイヤルしてから**㊦**を押すと、本機の電話機能を設定できます。設定できる機能と機能番号について詳しくは、「電話機設定機能一覧」(23ページ)をご覧ください。

ここでは、TEL2ポートにダイヤルイン番号「031-333-2002」を登録する場合を例にして、操作の手順を説明します。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 電話機の **✖** と **㊦** ボタンを押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 機能番号を押す。

ダイヤルイン番号を設定する場合は、「11」と押します。

4 TELポート番号を押す。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。TEL2ポートを指定する場合は、「2」を押します。

- **✖** を押すと、設定に使っている電話機が接続されているTELポートが選ばれます。
- TELポート番号が不要な機能は、何も押さずに次の手順へ進んでください。

5 設定値を押す。

ダイヤルイン番号「031-333-2002」を登録するときは、「0313332002」と押します。

6 **㊦** を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

設定内容が適切でなかったり、設定が正常に変更されていません。設定内容を確認してから、手順3から操作し直してください。

7 受話器を置く。



続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順3~6の操作を繰り返します。

設定例

① ダイヤルイン番号を設定する

例: TEL2ポートのダイヤルイン番号を「031-333-2002」にする:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、11(機能番号)、2(TEL2ポート)、0313332002、**(#)**と押す。

② サブアドレスを設定する

例: TEL1ポートのサブアドレスを「88」にする:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、12(機能番号)、1(TEL1ポート)、88、**(#)**と押す。

③ アナログポートを使用制限する

例: TEL2ポートに何も接続しない:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、14(機能番号)、2(TEL2ポート)、0(何も接続しない)、**(#)**と押す。

④ フレックスホンを設定する

●例: NTTのINSキャッチホンを使用する(すべてのTELポート共通):

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、52(機能番号)、1、**(#)**と押す。

●例: NTTの通信中転送を使用する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、53(機能番号)、1、**(#)**と押す。

●例: NTTの三者通話を使用する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、54(機能番号)、1、**(#)**と押す。

●例: TEL2ポートでNTTの着信転送を使用する(転送先アドレスは「031-333-5555」、1回コール後に転送):

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、55(機能番号)、2(TEL2ポート)、1、**(#)**と押す。

そのあとに続けて、56(機能番号)、2(TEL2ポート)、0313335555、**(#)**と押し、さらに58(機能番号)、2(TEL2ポート)、1、**(#)**と押す。

⑤ 話中着信の設定

例: TEL1ポートで話中着信を許可する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、36(機能番号)、1(TEL1ポート)、1、**(#)**と押す。

⑥ ダイヤルの桁間隔時間を設定する

例: TEL1ポートのダイヤルの桁間隔時間を10秒にする:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、41(機能番号)、1(TEL1ポート)、10、**(#)**と押す。

⑦ フッキング判定時間を設定する

例: TEL1ポートのフッキング判定時間を1.2秒にする:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、42(機能番号)、1(TEL1ポート)、12、**(#)**と押す。

⑧ 識別着信を設定する

例: 031-444-1818からTEL2ポートへの着信を拒否する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、32(機能番号)、2(TEL2ポート)、2、**(#)**と押す。

そのあとに続けて、33(機能番号)、2(TEL2ポート)、0314441818、**(#)**と押す。

⑨ ナンバー・ディスプレイ対応に設定する

例: TEL2ポートをナンバー・ディスプレイ対応にする:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、39(機能番号)、2(TEL2ポート)、1、**(#)**と押す。

⑩ Lモードメッセージ到着お知らせ機能の設定

例: Lモードメッセージ到着お知らせ機能を利用する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、86(機能番号)、1(TEL1ポート)、1、**(#)**と押す。

⑪ パスワードを変更する

例: パスワード「666」を「77」に変更する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、00(機能番号)、666(旧パスワード)、**(✖)**、77(新パスワード)、**(✖)**、77(新パスワード確認)、**(#)**と押す。

⑫ IPアドレスとネットマスクを新規設定する

例: IPアドレスを「192.168.11.1」、ネットマスクを「255.255.255.0」(24ビット)に新規に設定する:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、71(機能番号)、192、**(✖)**、168、**(✖)**、11、**(✖)**、1、**(#)**と押す。

そのあとに続けて、72(機能番号)、255、**(✖)**、255、**(✖)**、255、**(✖)**、0、**(#)**と押す。

ご注意

●専用線接続時にLANのIPアドレスとしてグローバルIPアドレスを設定する場合は、必ずプロバイダの接続情報を確認してから作業してください。不安なときは、プロバイダまたは電話事業者の技術者に相談してください。万一間違ったIPアドレスを設定した場合、LAN外のホストやネットワークにトラブルが起きることがあります。

●IPアドレスを変更するときは、LANの管理者に本機に割り当てるIPアドレスとネットマスクをお問い合わせください。管理者がいないときは、LAN上のすべての機器のIPアドレス設定を調べて、ネットマスクの設定値と、重複しないIPアドレスを決めてください。

電話機設定機能一覧

電話機から設定できる機能の詳細については、コマンドリファレンスをご覧ください。

機能	機能番号	設定値	初期設定値
TELポートのダイヤル番号設定	11	回線番号またはダイヤルイン番号	番号なし
TELポートのサブアドレス設定	12	サブアドレス	番号なし
通信機器の種類設定	13	0=指定なし 1=電話 2=FAX(G2/G3)	0
アナログポート使用制限の設定	14	0=使用しない 1=発信のみ 2=着信のみ 3=発信・着信可能	3
インターネット電話 着信制限の設定	15	0=着信不可 1=自己アドレスのみ着信 2=すべて着信	2
インターネット電話 発信制限の設定	16	0=発信不可 1=発信可	1
発信者番号通知	21	0=通知しない 1=通知する	0
即時発信	22	0=使用しない 1=使用する	1
グローバル着信	31	0=しない 1=する	1
識別着信	32	0=しない 1=一致時着信 2=一致時拒否	2
識別着信の番号登録	33	識別する電話番号	番号なし
サブアドレスなしの着信	34	0=拒否 1=許可	1
通信機器種別指定の着信	35	0=拒否 1=許可	1
話中着信	36	0=拒否 1=許可	0
優先着信ポート	37	0=優先なし 1=TEL1ポート 2=TEL2ポート	0
着信ベル設定	38	1=パターン1、識別する相手の電話番号 2=パターン2、識別する相手の電話番号	番号なし
ナンバー・ディスプレイ機能	39	0=使用しない 1=ナンバー・ディスプレイのみ使用する 2=ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用する	0
ダイヤル桁の間隔設定(秒)	41	1=TEL1	1~59
フッキング判定時間(1/10秒)	42	2=TEL2	5~20
フッキング後の操作有効時間(秒)	43		1~9
フッキング,オン フック無効時間(秒)	44		1~3 0=すべて有効

機能	機能番号	設定値		初期設定値
擬似切断信号の設定	45	TELポート 番号	0=送出しない 1=送出する	1
モデム信号タイプ設定	46	1=TEL1 2=TEL2	1=タイプ1 2=タイプ2 3=タイプ3	3
キャッチホン機能	52	—	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	2
通信中転送機能	53	—	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	0
三者通話機能	54	—	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	0
着信転送機能	55	TELポート 番号 1=TEL1 2=TEL2	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	0
着信転送先番号登録	56		転送先番号	番号なし
着信転送トーク設定	57		0=なし 1=転送先のみ 2=転送元のみ 3=あり	0
着信転送起動タイミング設定	58		0=無音転送 1~10=コール数	0
着信転送失敗時の動作設定	59		0=話中音 1=着信ベル	1
送話PADの音量設定	61		0=PADなし 4=-12dB 1=-3dB 5=-15dB 2=-6dB 6=-18dB 3=-9dB 7=-21dB	0
受話PADの音量設定	62		0=PADなし 4=-12dB 1=-3dB 5=-15dB 2=-6dB 6=-18dB 3=-9dB 7=-21dB	0
DTMF検出レベル	63		0=PADなし 6=-18dB 1=-3dB 7=-21dB 2=-6dB 8=-24dB 3=-9dB 9=-27dB 4=-12dB 10=-30dB 5=-15dB	0

機能	機能番号	設定値			初期設定値
LAN側のルータIPアドレス設定	71	IPアドレス			192*168*0*1
LAN側のネットマスク設定	72	ネットマスク			255*255*255*0
BODの設定	73	0=使用しない 1=使用する			1
i・ナンバーの設定	81	0=使用しない 1=i・ナンバー1着信 2=i・ナンバー2着信 3=i・ナンバー3着信 12=i・ナンバー1、2着信 13=i・ナンバー1、3着信 23=i・ナンバー2、3着信 123=i・ナンバー1、2、3着信 *=全て			TEL1=1 TEL2=2
着信時サービス設定	82	TELポート 番号 1=TEL1 2=TEL2	発信端末タイプ 0=なし 1=電話 2=FAX *=全て	着信サービス タイプ 1= PBダイヤル イン 2= モデムダイ ヤルイン 3= 無鳴動着信	ダイヤル イン 番号 設定なし
擬似ナンバーリクエスト	83	発信番号なし着信 0=拒否 1=許可 2=擬似ナンバー リクエスト	非通知理由 1=公衆電話 2=ユーザによる通知拒否 3=表示圏外 *=全て	発信番号なし着信 すべて許可	
ダイヤル完了ボタン設定	84	0=使用しない 1=使用する			1
再呼出時間設定(秒)	85	10~180			30
メッセージ到着お知らせ機能	86	0=使用しない 1=使用する			0
アナログポート設定の消去	91	-			-
識別着信の番号削除	92	登録済みの電話番号			-
着信ベルの番号削除	93	着信ベル番号	登録済みの電話番号		-
料金情報の消去	94	-			-
アナログポート設定の全消去	99	-			-
パスワードの設定	00	(旧パスワード)*(新パスワード)*(新パスワード)			-

Web ブラウザから「かんたん設定ページ」で設定する

本機をLAN接続で使っている場合は、Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使って本機を設定できます。Webブラウザで設定操作をする場合は、電話機による設定操作よりも、多くの機能を簡単に設定することが可能です。

ご注意

- 「かんたん設定ページ」を使用するには、Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0以降を除く)のWebブラウザが必要です。
- 本機をTAとして使っている場合は、Webブラウザで設定することはできません。擬似LAN接続の設定を行ってから、擬似LAN接続で本機に接続してください(102ページ)。

ヒント

- 「かんたん設定ページ」の設定項目については、「『かんたん設定ページ』設定項目一覧」(208ページ)をご覧ください。
- 「かんたん設定ページ」各設定に関する詳細情報については、各画面の[ヘルプ]をクリックして表示される「ヘルプ」画面をご覧ください。

かんたん設定ページ画面の見かた

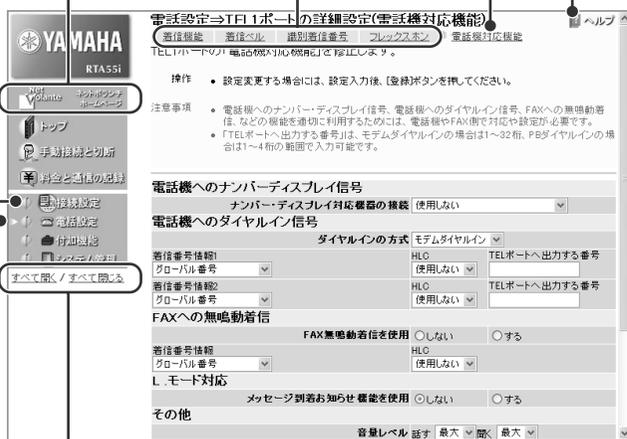
サブメニューを開閉します。

詳細設定画面を選びます。

ネットボランチホームページを表示します(インターネットに接続するので、課金が発生します)。

現在の詳細設定画面を示します。

ヘルプ画面を表示します。



すべてのサブメニューを開閉します。

現在の設定画面を示します。

設定のしかた

電話機能を設定する場合の例

1 パソコンでWebブラウザを起動して、ファイルメニューの[開く]を選ぶ。

「ファイルを開く」画面が表示されます。

2 「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。



「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

ご注意

専用線でインターネットに接続している場合など、本機のIPアドレスを変更している場合には、「192.168.0.1」のかわりに本機のIPアドレスを入力します。

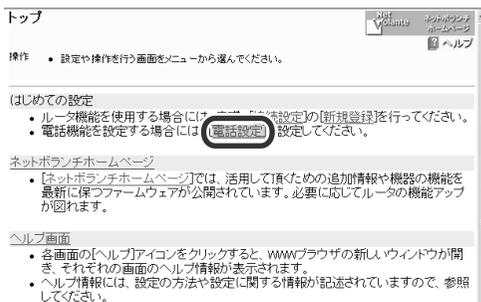
ルータの管理パスワードを設定していない場合は「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。ルータの管理パスワードと現在の日時を設定してください。

3 [パスワード]欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

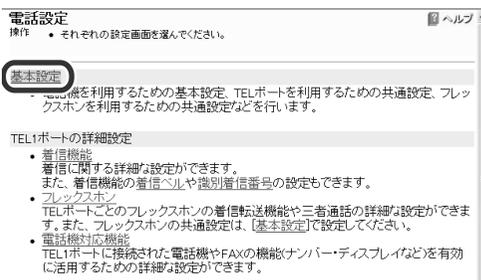


「トップ」画面が表示されます。

4 [電話設定]をクリックする。

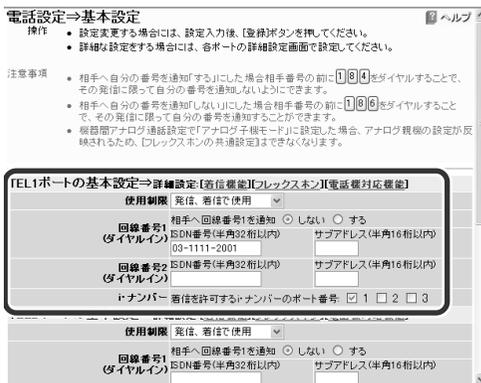


5 [基本設定]をクリックする。



6 TELポートに電話番号を設定してから、優先着信ポートやフレックスホンなどを選び、[登録]をクリックする。

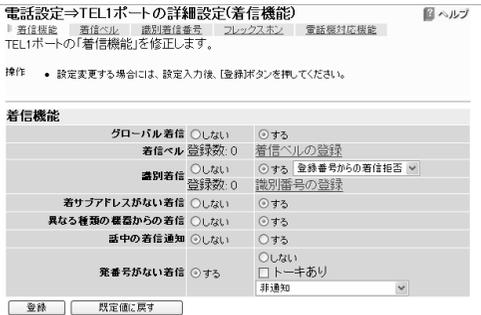
TEL1ポートに契約者番号「03-1111-2001」を登録する場合の例



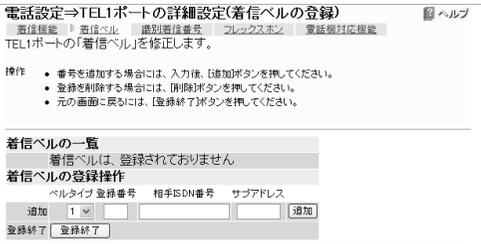
次のページにつづく▶

7 詳しい設定を行う場合には、各ポートごとの [着信機能] [着信ベル] [識別着信番号] [フレックスホン] [電話機対応機能] をクリックする。設定項目について詳しくは、「かんたん設定ページ」のヘルプ画面をご覧ください。

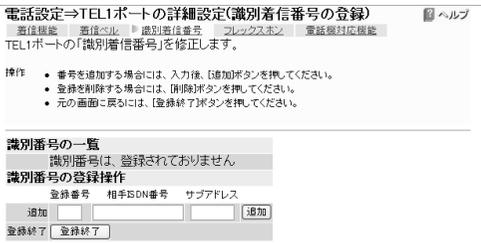
「着信機能」画面



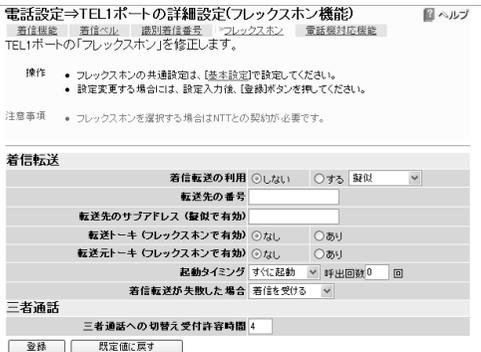
「着信ベル」画面



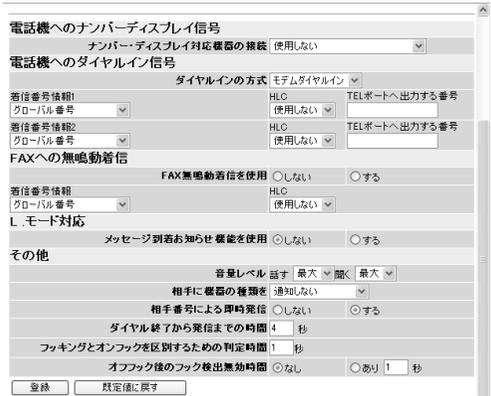
「識別着信番号」画面



「フレックスホン」画面



「電話機対応機能」画面



8 画面入力が終わったら、[登録] をクリックする。

通信記録を見る場合の例

TELポートやインターネット接続などで通信した記録を調べることができます。

1 パソコンでWebブラウザを起動して、ファイルメニューの[開く]を選ぶ。

「ファイルを開く」画面が表示されます。

2 「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。



「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

3 [パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。



4 画面左側の【料金と通信の記録】をクリックする。

累積料金 (ISDN回線で接続時のみ) や着信転送件数、メール着信件数、メール転送件数、通信履歴が表示されます。

通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積接続時間	累積発信回数	累積着信回数
プロバイダ接続 (設定管理)					
1 (PP01) ISDN ISDN選択中	9円	54円	00:19:11	6回	0回
アナログポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
USBポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN (RVS-COM)	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA接続	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA接続	0円	0円	00:00:00	0回	0回
各アナログポートごとの料金情報					
TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL2ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	0円	0円	00:00:00	0回	0回

5 確認が終わったら、画面下の【終了】をクリックする。

ルータのパスワードについて

「かんたん設定ページ」を開くときに入力するルータのパスワードには、「管理パスワード」と「ログインパスワード」の2種類があります。

「管理パスワード」を入力すると

すべての画面を見ることができ、各画面の設定内容を変更できます。ルータを管理する人だけが使うことをお勧めします。

「ログインパスワード」を入力すると

「手動接続と切断」画面と「料金と通信の記録」画面のみを見ることができ、設定ページは表示できません。管理者以外のユーザにはログインパスワードを知らせれば、設定を勝手に変更されることなく、手動切断したり、メール着信を確認してもらうことができます。

💡 ヒント

- 「かんたん設定ページ」を初めて開いたときに設定したパスワードが、「管理パスワード」と「ログインパスワード」の両方に設定されます。どちらかのパスワードを変更したいときは、「システム管理」画面で設定できます。
- ログインパスワードを設定しない場合でも、パスワードを入力せずに「手動接続と切断」と「料金と通信の記録」画面を確認できます。

本機のUSBポートにパソコンを接続している場合は、ATコマンドを使って本機のTA機能を設定できます。

📌 ご注意

ATコマンドで設定するには、USB接続の設定が必要で(70ページ)。

ATコマンドとは?

米国 Hayes社が開発した、モデムを制御するためのコマンドで、モデムやTAを使用したパソコン通信によく使われています。本機をTAとして使用してプロバイダにアクセスするための設定を行ったり、プロバイダへ接続したりする場合に使います。

ATコマンドを使用するためには、本機のUSBポートへパソコンを接続し、そのパソコン上でターミナルソフトと呼ばれるアプリケーションを起動して、設定や操作を行います(次ページ)。

ATコマンドに関連した用語として、以下の用語があります。

用語	説明
リザルトコード	ATコマンドを実行した結果、パソコンまたは通信相手から返ってくる返事です。
Sレジスタ	ATコマンドによる設定や実行結果内容などを保存する記憶場所です。Sレジスタには番号があり、番号によって記憶内容や役割があらかじめ決められています。
INFファイル	ターミナルソフトウェアやダイヤルアップソフトウェアが本機の使用を開始する際に参照する、Windows用のファイルです。中身はATコマンドなどで記述されています。
CCLファイル	Macintosh用のモデム記述ファイルです。WindowsのINFファイルに相当します。
モデム初期化コマンド	モデムを使用して通信を始める前に自動的にモデムやTAに実行させるコマンドです。INFファイルやCCLファイルによる設定以外のオプション設定コマンドなどを記述します。

設定のしかた

ATコマンドによる設定は、一般的に以下のような流れになります。

💡 ヒント

ATコマンドについて詳しくは、「ATコマンド一覧」(200ページ)をご覧ください。

1 ターミナルソフトを起動する。

ターミナルソフトでは本機が接続されている通信(COM)ポートを指定する必要があります。

📌 ご注意

ターミナルソフトで本機のUSBポートにアクセスしている間は、絶対にUSBケーブルを抜いたり、本機の電源を切らないでください。

Windowsの場合は

通信(COM)ポート番号は以下の方法で調べることができます。

- **Windows98SE/Meの場合:** [コントロールパネル] - [システム] - [デバイスマネージャ] - [モデム]の[RTA55i USB xxxx]をダブルクリックして、[モデム]タブでCOMポート番号を確認します。
- **Windows2000/XPの場合:** [コントロールパネル] - [システム]の[ハードウェア]タブでデバイスマネージャ - [モデム]の[YAMAHA RTA55i USB]を開き、[モデム]タブでCOMポート番号を確認します。

MacOSの場合は

- **MacOS9以降の場合:** [USB Modem]を選びます。
- **MacOSXの場合:** [RTA55i]を選びます。

2 「AT」と入力してから、Enterキーを押す。

「OK」という文字が表示されるのを確認します。

3 ATコマンド一覧を参照して、「AT&V」コマンドで設定内容を調べてから、必要な設定を行う。

4 設定した内容を本機に保存するには、「AT&W」と入力してからEnterキーを押す。

5 ターミナルソフトを終了する。

📌 ご注意

- 手順4の&Wコマンドを実行しないと、設定した内容が本機の内蔵メモリに保存されません。内蔵メモリに保存しないと、本機の電源を切ると、設定内容が失われます。
- ATコマンドに関する設定の保存と、ルータ機能に関する設定の保存は同じ内蔵メモリに対して行われます。ただし、ATコマンドで設定を保存すると、ATコマンドに関する設定だけが内蔵メモリに保存されますので、ご注意ください。

ATコマンド使用上のご注意

ATコマンドを使用するときは、以下の点にご注意ください。

- **入力文字:** 半角のASCII文字だけを使用できます。
- **先頭文字:** 「AT」または「at」のみ使用できます。「At」や「aT」というように、大文字と小文字を混在することはできません。
- **繰り返し:** 「A」または「a」を入力すると、直前のコマンドを繰り返して実行できます。
- **連続実行:** 複数のコマンドを1回で入力できます。
例: 「AT&D0」と「AT\$M1」というコマンドをまとめて、「AT&D0\$M1」と入力できます。

コンソールコマンドで設定する

本機に直接コマンドを送って、機能を設定できます。コンソールコマンドはTELNETソフトウェアから入力しますので、お使いの環境用のTELNETソフトウェアをご用意ください。

コンソールコマンドとは？

コンソールコマンドは、ルータに直接命令を送って、機能を設定する方法です。コンソールコマンドを使うと、他の方法よりも、より詳しい設定が行えます。コンソールコマンドの詳細については、コマンドリファレンスをご覧ください。

ヒント

本機のUSBポートに接続したパソコンからターミナルソフトを使って、本機をコンソールコマンドで設定することもできます。

設定のしかた

LANポートに接続しているパソコンからTELNETソフトウェアで本機にログインし、コンソールコマンドを送信して設定します。ここでは、Windows標準のTELNETを使用する場合を例に説明します。Macintoshではフリーウェアなどをお使いください(MacOS Xでは、MacOS Xに付属のTerminalソフトウェアを使用できます)。

ご注意

コンソールコマンドは、コマンドの動作をよく理解した上でお使いください。「かんたん設定ページ」で設定後にコンソールコマンドで設定を変更すると、意図しない動作につながる場合があります。設定後に意図した動作をするかどうか、必ずご確認ください。

ヒント

コンソールコマンドの詳細については、コマンドリファレンスをご覧ください。

1 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選ぶ。



2 「telnet 192.168.0.1」と入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレスを変更している場合には、「192.168.0.1」のかわりに本機のIPアドレスを入力します。



3 「Password:」と表示されたら、ログインパスワードを入力してからEnterキーを押す。

何も表示されないときは、1度Enterキーを押します。

「>」が表示されると、コンソールコマンドを入力できるようになります。



ヒント

- 「help」と入力してからEnterキーを押すと、キー操作の説明が表示されます。
- 「show command」と入力してからEnterキーを押すと、コマンド一覧が表示されます。

4 「administrator」と入力してから、Enterキーを押す。

5 「Password:」と表示されたら、管理パスワードを入力する。

「#」が表示されると、各種のコンソールコマンドを入力できます。

6 コンソールコマンドを入力して、設定を行う。

コンソールコマンドについて詳しくは、付属のコマンドリファレンス(PDFファイル)をご覧ください。

次のページにつづく▶

7 設定が終わったら、「save」と入力してからEnterキーを押す。

コンソールコマンドで設定した内容が、本機のメモリに保存されます。

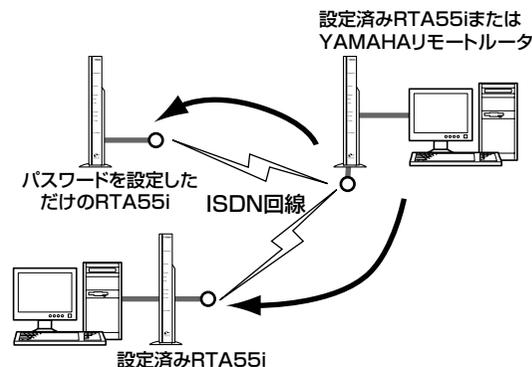
8 設定を終了するには、「quit」と入力してからEnterキーを押す。

9 コンソール画面を終了するには、もう1度「quit」と入力してからEnterキーを押す。

離れた場所のルータを設定する

すでにヤマハ製RTシリーズルータをお使いの場合は、離れた場所のルータでもISDN回線や専用線経由で設定できます。これを「リモートセットアップ」といいます。パスワードが設定されたRTA55iであれば、リモートセットアップで設定することが可能です。

ISDN回線で相手のルータに直接接続するので、プロバイダに契約していなくても、インターネット接続できない状態でも設定できます。



ご注意

- リモートセットアップで設定される側は、パスワードが設定されている必要があります。パスワードを知らないと設定することはできません。また、リモートセットアップを拒否するようにも設定できるため、拒否に設定しておけば、不特定の手相からの侵入を防げます。
- ヤマハ製リモートルータ以外のルータからリモートセットアップすることはできません。
- CATVやADSLなどのWANポート経由で、リモートセットアップすることはできません。

リモートセットアップはコンソールから行ないます。相手のYAMAHAリモートルータへのログインが完了すると、設定したいルータをコンソールコマンドで設定できるようになります。

例: ISDN番号が03-1111-7788のRTA55iを設定するためにログインする場合

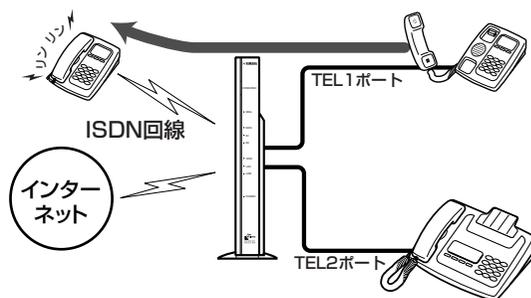
```
Telnet 192.168.0.1
Password:
RTA55i Rev.4.06.03 (alpha version) (Fri Feb 22 15:19:39 2002)
Copyright (c) 1994-2002 Yamaha Corporation.
Copyright (c) 1998-2000 Tokyo Institute of Technology.
Copyright (c) 2000 Japan Advanced Institute of Science and Technology, HOKURIKU
U.
00:a0:de:00:4f:1a, 00:a0:de:00:4f:1b
Memory 8Mbytes, 2LAN, 1ERI
> administrator
Password:
# remote setup 03-1111-7788
Password:
RTA55i Rev.4.06.03 (alpha version) (Fri Feb 22 15:19:39 2002)
Copyright (c) 1994-2002 Yamaha Corporation.
Copyright (c) 1998-2000 Tokyo Institute of Technology.
Copyright (c) 2000 Japan Advanced Institute of Science and Technology, HOKURIKU
U.
00:a0:de:00:4f:1a, 00:a0:de:00:4f:1b
Memory 8Mbytes, 2LAN, 1ERI
>
```

第3章 ISDN 電話を使う

この章では、本機をISDN回線でお使いの場合に利用できる電話機能について、簡単な電話のかけかたから、さまざまなISDNサービスを利用した使いかたまでを紹介します。よくお読みいただき、本機の電話機能を十分に活用ください。本機をCATV／ADSL回線や専用線に接続している場合は、外線に通話することはできません。

電話をかける

電話機で外線をかけるときは、通常の電話と同じ操作でかけられます。また、2回線まで同時に通信できるので、FAXを使いながら電話をかけたり、インターネットをいながら電話をかけることもできます。

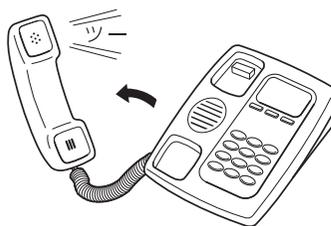


ご注意

- 電話機のダイヤル設定は、できる限り「トーン」(プッシュ)でお使いください。「パルス」の場合は、**⊗** および **⊕** の入力ができないため、次のような制限があります。
 - 内線をかけることができません。
 - 外線をかけるときにサブアドレスを指定できません。
 - 電話機からの設定ができません。
- 本機の電話機能は、ISDN回線の場合に利用できます。本機をCATV／ADSL回線や専用線に接続している場合は、TELポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外、電話をかけたり受けたりすることはできません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

次のページにつづく▶



うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

相手がISDN回線でサブアドレスを設定している場合は、

電話番号に続けて (✳) とサブアドレス番号を押します。

サブアドレス2番にかける場合の例：

0313337777、(✳)、2と押す。

💡 ヒント

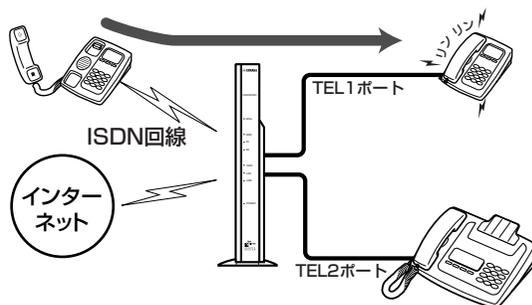
- ダイヤルを押した後に (☎) を押すと、すぐに発信します。また、何も押さなくてもダイヤル桁の間隔設定(23ページ)で設定された時間(工場出荷時は4秒)を過ぎると、自動的に発信します。
- 一度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去20件までの相手先は (☎) なしでもすぐに発信します。

3 通話が終わったら、受話器を置く。



電話を受ける

電話がかかってくると、本機のTELポートに接続したアナログ機器から呼び出し音が鳴ります。また、通話中に着信があった場合は、他の機器の呼び出し音が鳴り、同時に2通話まで使うことができます。



ご注意

本機の電話機能は、ISDN回線の場合に利用できます。本機をCATV／ADSL回線や専用線に接続している場合は、TELポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外、電話をかけたり受けたりすることはできません。

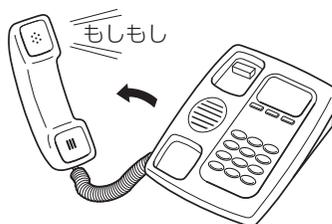
1 電話がかかってくると、呼び出し音が鳴りません。



💡 ヒント

i-ナンバーやダイヤルインサービス、サブアドレスを設定した場合は、設定したポートのアナログ機器のみ呼び出し音を鳴らすことができます。

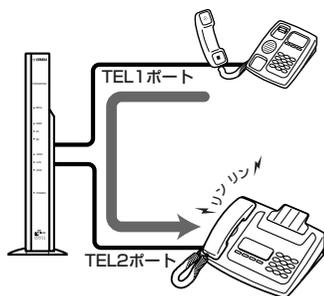
2 受話器を上げて、通話する。



3 通話が終わったら、受話器を置く。

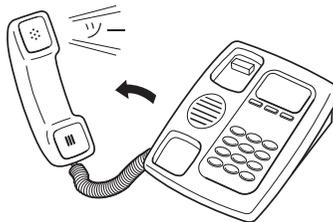
内線電話をかける

TELポートに接続したアナログ機器どうしで、内線通話ができます。アナログ機器の内線番号は、TEL1ポートが[1]、TEL2ポートが[2]となります。



1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 ② に続けて、内線番号をダイヤルする。

- TEL1ポートを呼び出す場合の例: ②、1
- 全てのポートを呼び出す場合の例: ②、②

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

ご注意

- 指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。
- 機器間アナログ通話機能を利用するときの操作は、「複数のルータ間で通話する(機器間アナログ通話)」(145ページ)をご覧ください。

3 通話が終わったら、受話器を置く。

フッキング操作を練習する

フックボタンを押してすぐ放す操作を「フッキング」と呼び、電話を転送したり、着信中に電話を受けたときに通話先を切り替えたりするときに使います。



多機能電話などをお使いのときは、フッキング操作は、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押す操作となります。詳しい操作は、お使いのアナログ電話機の取扱説明書でご確認ください。

ご注意

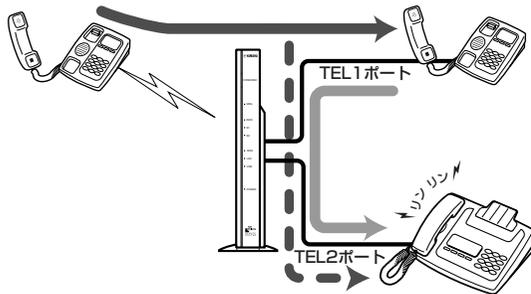
フックボタンを長く(1秒以上)押しと、「オンフック」(受話器を置いた状態)とみなされて電話が切れてしまいます。

ヒント

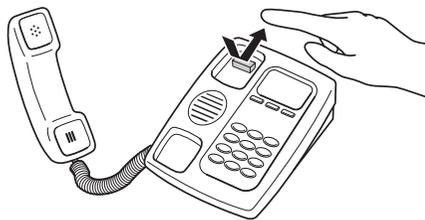
フッキングと判定する時間は、フッキング判定時間の設定(23ページ)で変更できます。

外線通話を他の内線へ転送する

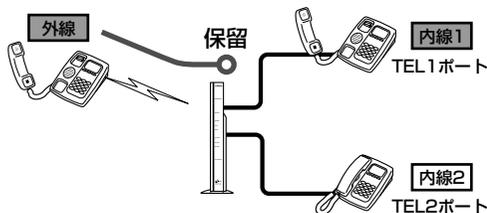
通話中の外線通話を他のアナログ機器へ転送できます。



1 外線の相手に待っていただくよう伝えてから、フッキングする。

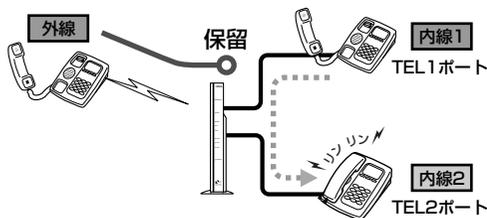


通話中の相手は保留になります。



2 「ブププププ」 という音が聞こえたら、**⊗** に続けて内線番号をダイヤルする。

例えばTEL2ポートへ転送する場合は、**⊗**、2の順に押します。
指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。



3 内線の相手が出たら、外線の転送を伝えてからフッキングする。



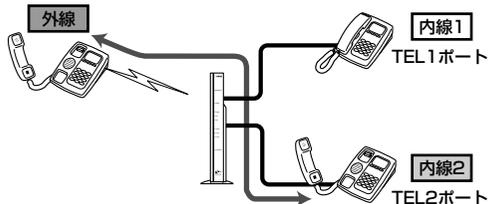
💡 ヒント

呼出中に受話器を置くと、内線相手が出る前に転送できます。

4 「ツツツツツ」 という音が聞こえている間に、受話器を置く。



外線通話が転送されます。



💡 ヒント

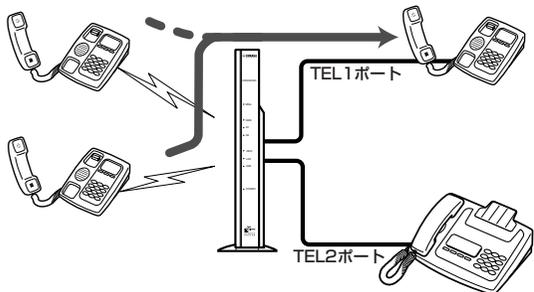
- 「ツツツツツ」 という音が聞こえている間にフッキングすると、TEL1ポートとTEL2ポートと外線の三者通話になります。
- 「ツツツツツ」 という音が聞こえている間に**⊗** をダイヤルすると、通話相手の切り替えができます。

⚠️ ご注意

指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。

通話中に他の着信を受ける

ISDN付加サービスのINSキャッチホン(コールウェイトイング)を契約していなくても、通話中に電話がかかってきた場合に、通話中の相手を保留にして、着信した電話を受けることができます(擬似キャッチホン)。



擬似キャッチホン機能とは?

擬似キャッチホン機能は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した、キャッチホンサービスに相当する機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- 各TELポート毎に擬似キャッチホンをするかしないかを設定できます。FAXやアナログモデムをつないだTELポートでは動作しないように、使い分けることもできます。
- 擬似キャッチホンの場合、他で回線を使っているときは利用できません。その場合は、今話している通話を切ると、着信を受けることができます。
- ISDN付加サービスのINSキャッチホンの場合は、最大2つのTELポートで別々に利用することができます。

ご注意

- 本機能のために、NTTの「通信中着信通知サービス」の契約をお勧めします。
- 擬似キャッチホンを利用する場合は電話機から設定するか(21ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で利用するTELポートの「話中の着信通知」を「する」に設定してください。本機の工場出荷時は、「しない」になっています。

ISDN付加サービスのINSキャッチホンを契約している場合は

電話機から設定するか(21ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、利用するTELポートの「話中の着信通知」を「する」に、フレックスホンのINSキャッチホンを「使用する」に設定してください。本機の工場出荷時は、「擬似キャッチホンを使用する」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

INSキャッチホン／擬似キャッチホンを使うように設定する

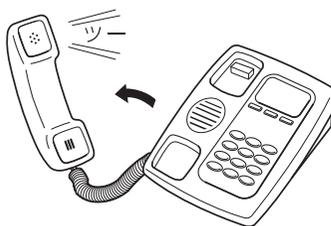
ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 ※ と ㊦ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを3,6(機能番号36)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。現在使用している電話機のTELポートに設定したいときは、※ を押します。

5 ダイヤルボタン1を押す。

6 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されません。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

7 ダイヤルボタンを5,2(機能番号52)と押す。

次のページにつづく▶

8 キャッチホンの種類を選んでから、ダイヤルボタンを押す。

ISDN付加サービスのINSキャッチホンを契約している場合は1、擬似キャッチホンを利用する場合は2を押します。

9 **Ⓜ** を押す。

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順7から操作し直してください。

10 受話器を置く。

別のポートも続けて設定する場合は、受話器を置かずに手順3～6を繰り返します。

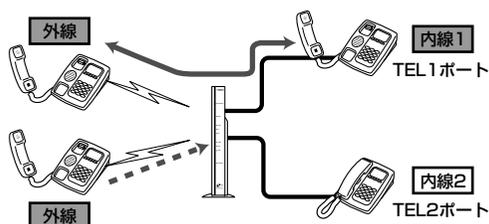


ご注意

アナログ機器を接続していないTELポートは、必ず「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」に設定してください(23ページ)。

INSキャッチホン／擬似キャッチホンを使う

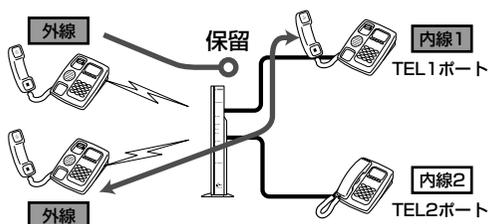
1 通話中に電話がかかってくると、「ブツ、ブツ」という話中着信音が聞こえます。



2 フッキングする。



通話中の相手が保留になり、着信した相手と通話できます。

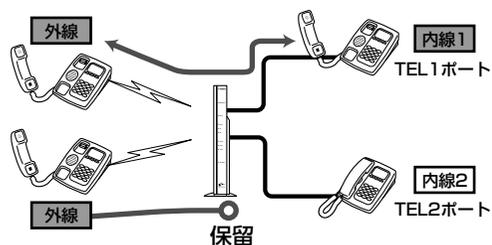


3 通話の相手を切り替えるときは、フッキングする。



通話を別の外線へ転送する

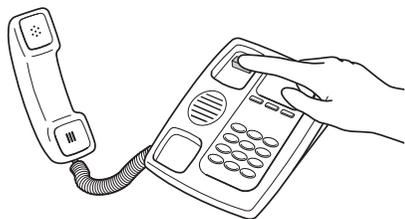
「ツツー、ツツー」という音が聞こえて通話中の相手が保留になり、フッキング後の操作有効時間(工場出荷時は約4秒)後に、保留していた相手と切り替わります。



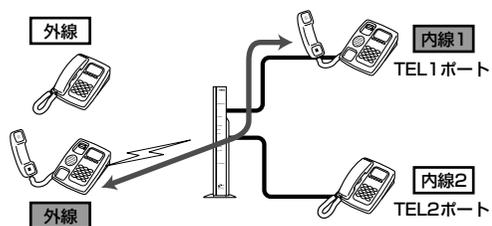
ヒント

フッキング後に(✖)を押すと、すぐに保留していた相手に切り替わります。

4 通話を切るときは、フックボタンを長く押して放す。

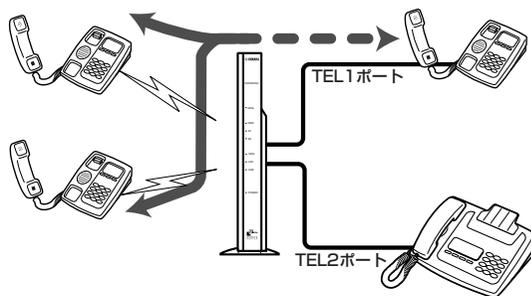


通話中の電話が切れて、保留になっていた相手と通話できます。



通話中に別の外線へ転送ができます(通信中転送)。

ISDN付加サービスの通信中転送を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似通信中転送」機能を利用できます。通信中転送または擬似通信中転送機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



擬似通信中転送とは？

擬似通信中転送は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した、通信中転送機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- 本機から発信した通話は本機に課金されます。
- 擬似通信中転送の場合は、発信時に他で回線を使っているときには転送できません。ISDN付加サービスの通信中転送の場合は、通話中のチャンネルのみを使用するためにもう1つのチャンネルを別の通話で使うことができます。

ご注意

ISDN付加サービスの通信中転送を契約している場合は、電話機から設定するか(21ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの通信中転送を[使用する]に設定してください。本機の工場出荷時は、「通信中転送を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

通信中転送／擬似通信中転送を使うように設定する

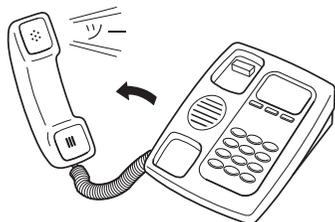
ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザで設定することもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 ⊛ と ⊕ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、3(機能番号53)と押す。

4 通信中転送の種類を指定する。

ISDN付加サービスの通信中転送機能を契約している場合は1を、本機の擬似通信中転送機能を利用する場合は2を押します。

5 ⊕ を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

6 受話器を置く。

ご注意

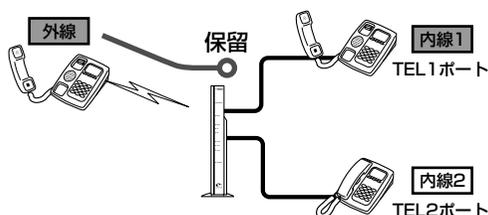
アナログ機器を接続していないTELポートは、必ず「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」に設定してください(23ページ)。

通信中転送／擬似通信中転送する

1 外線の相手に待っていただくよう伝えてから、フッキングする。

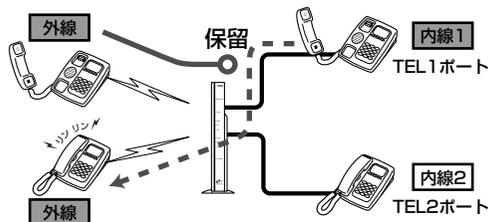


通話中の相手は保留状態になります。



2 受話器から「ブップブップ」という音が聞こえたら、転送したい相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえます。

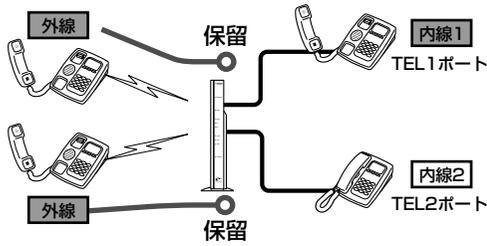


3 相手の方が出たら、外線を転送することを伝え、フッキングする。



三人で通話する

「ツツツ、ツツツ」という音が聞こえ、両方の外線相手が保留になります。



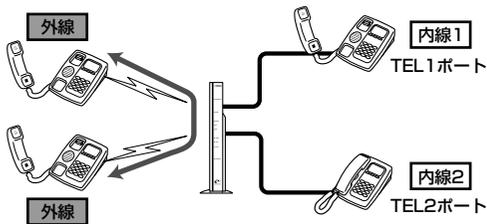
ヒント

呼出中に受話器を置くと、相手が出る前に転送することもできます。

4 「ツツツ、ツツツ」という音が聞こえている間に、受話器を置く。



受話器を置いた後に、外線の相手と保留した外線につながります。



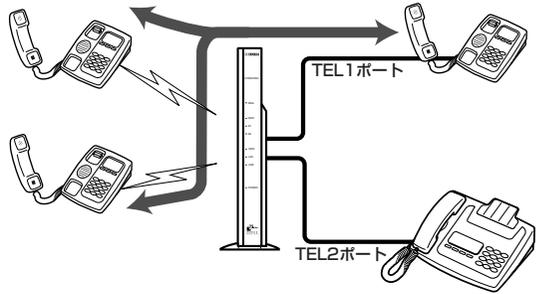
ご注意

ISDN付加サービスの通信中転送の場合は、転送完了後に発着信できるようになります。ただし、疑似通信中転送機能を使用した場合は、発着信できません。

ヒント

疑似通信中転送中は、受話器を上げると「プップッププ」という音がします。その状態でフッキングすると、転送中の通話を強制的に切断することができます。

通話中に別の相手を呼び出して三人で通話することができます(三者通話)。ISDN付加サービスの三者通話を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似三者通話」機能を利用できます。三者通話または擬似三者通話機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



擬似三者通話とは？

擬似三者通話は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した三者通話機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- 呼び出した通話分の料金は、本機に課金されます。
- 擬似三者通話の場合は、通話時に他で回線を使っているときには呼び出すことはできません。ISDN付加サービスの場合は、通話中のチャンネルのみを使用するので、もう1つのチャンネルを別の通話で使うことができます。

ご注意

ISDN付加サービスの三者通話を契約している場合は、電話機から設定するか(21ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの三者通話を「使用する」に設定してください。本機の工場出荷時は、「三者通話を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

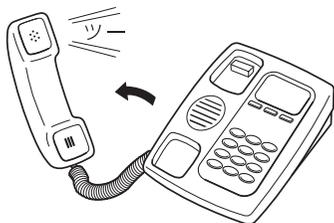
三者通話／擬似三者通話を使うように設定する

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ※ と ㊦ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、4(機能番号54)と押す。

4 三者通話の種類を指定する。

ISDN付加サービスの三者通話機能を契約している場合は1を、本機の擬似三者通話機能を利用する場合は2を押します。

5 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

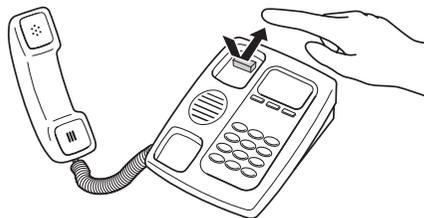
「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

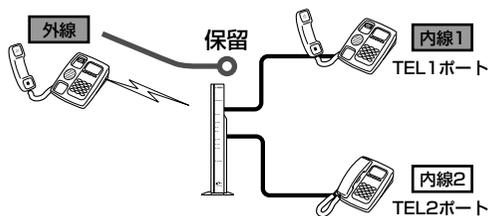
6 受話器を置く。

三者通話／擬似三者通話する

1 外線の相手に待っていただくよう伝えてから、フッキングする。

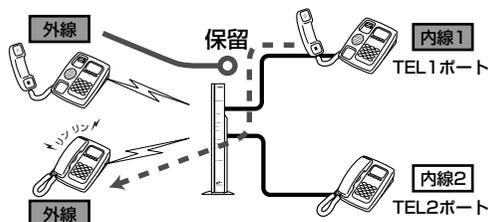


「プッププッ」という音が聞こえ、通話中の相手は保留状態になります。

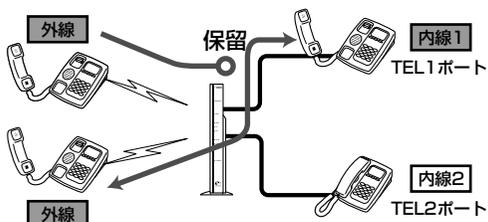


2 受話器から「プッププッ」という音が聞こえたら、三者通話を行いたい相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえます。



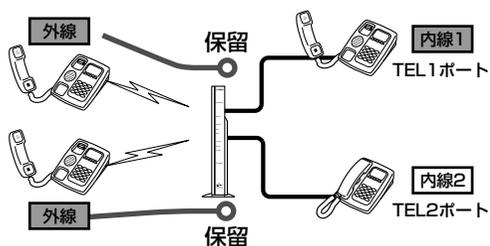
3 相手が出たら、通話する。



4 フッキングする。



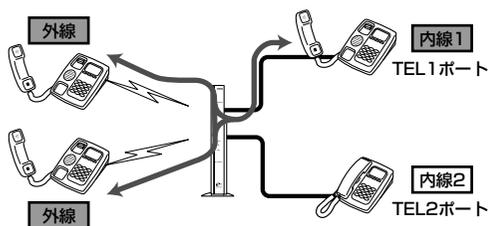
「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。



5 「ツツー、ツツー」という音が聞こえている間に、もう1度フッキングする。



通話中の相手と、保留中の相手の三者で通話可能になります。



💡 ヒント

- 三者通話を解除するには、フッキングします。三者通話になる前に話していた相手と通話状態になり、もう一方の相手は保留になります。
- 通話の相手を切り替えるとき(保留中の相手と通話するとき)は、フッキングします。「ツツー、ツツー」という音が聞こえたらフッキング後の操作有効時間(工場出荷時は4秒)待つか、を押すことで保留中の相手と通話できます(通話中の相手は保留中になります)。

6 話が終わったら、受話器を置く。



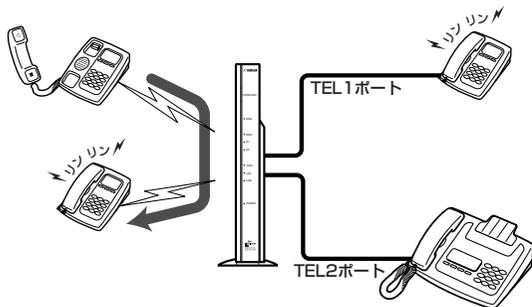
三者通話の状態を受話器を置くと、両方の相手が切断されます。三者通話でない状態を受話器を置くと、保留中の相手があれば呼び出し音が鳴り、受話器を取ることでその相手と話することができます。

外線の着信を転送する

外線の着信があったときに、その着信に 응답しないで、あらかじめ登録しておいた番号に転送できます(着信転送)。ISDN付加サービスのフレックスホン着信転送やINSボイスワープ、INSボイスワープセレクトを契約していなくても、本機に内蔵の「擬似着信転送」機能を利用できます。フレックスホン着信転送や擬似着信転送機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。

ご注意

INSボイスワープやINSボイスワープセレクトを契約している場合は、「INSボイスワープ使用時のご注意」(46ページ)をご覧ください。



擬似着信転送とは?

擬似着信転送は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した着信転送機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- TELポートに実際にアナログ通信機器が接続されていなくても、着信転送できます。
- TEL1、TEL2ポートに異なる転送先アドレスを設定する場合は、それぞれのポートを指定して着信させるようにi-ナンバーやダイヤルイン番号を設定してください(ただし、起動できるのは先に転送開始した1つの着信のみです)。
- 転送した通話分の料金は、本機に課金されます。
- 着信時に他で回線を使っているときは、転送できません。
- フレックスホン着信転送の場合は、転送完了後に発信可能になりますが、擬似着信転送機能を使用した場合には、転送した通話が終わるまで発信も着信もできません。

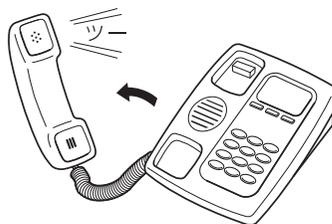
ご注意

転送先の回線によっては、擬似着信転送ができない場合があります。

着信転送/擬似着信転送を使えるように設定する

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ※ と ㊦ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5,5(機能番号55)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

※ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 着信転送の種類を指定する。

フレックスホン着信転送を契約している場合は1を、本機の擬似着信転送機能を利用する場合は2を押します。

6 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が適切でなかったり、正常に変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作をやり直してください。

7 ダイヤルボタンを5,6(機能番号56)と押す。

8 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

※ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

9 転送先の電話番号をダイヤルする。

サブアドレスを指定するときは、電話番号に続けて(✳)とサブアドレス番号をダイヤルします。サブアドレスは擬似着信転送機能のときのみ有効です。

10 (✎) を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順7から操作し直してください。

11 ダイヤルボタンを5、8(機能番号58)と押す。

12 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

(✳)を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

13 着信時のコール回数を押す。

0を押すと、呼出音を鳴らさずに転送します。

14 (✎) を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順11から操作し直してください。

15 受話器を置く。



この後、設定したTELポートへの着信は全て転送されます。

なお、設定したコール数以内に受話器を取ると転送せずに応答することができます。

設定を行ったあとに着信すると

呼出音が設定回数鳴ったあとに、着信が転送されます。

ご注意

- フレックスホン着信転送の場合は、転送完了後に発着信可能になります。
- 擬似着信転送機能を使用した場合には発信も着信もできません。

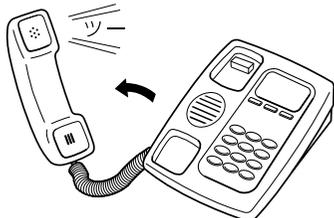
💡 ヒント

- 着信転送モードを解除するときには「着信転送/擬似着信転送を解除する」(次ページ)をご覧ください。
- 擬似着信転送中は、受話器を上げると「ブップブップ」という音がします。この状態でフッキングすると、転送中の通話を強制的に切断することができます。

着信転送／擬似着信転送を解除する

着信転送モードをセットしたり解除しても転送先番号の設定は消えません。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ⊛ と ⊞ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、5(機能番号55)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

⊛ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 ダイヤルボタン0を押す。

6 ⊞ を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

7 受話器を置く。



着信転送／擬似着信転送をもう1度使うときは

上記の手順5で、ダイヤルボタン1(フレックスホン着信転送を契約している場合)、または2(本機の擬似着信転送機能を利用する場合)を押します。

INSボイスワープ使用時のご注意

INSボイスワープまたはINSボイスワープセレクト(以下、INSボイスワープと略します)を契約している場合は、以下の点にご注意ください。

💡 ヒント

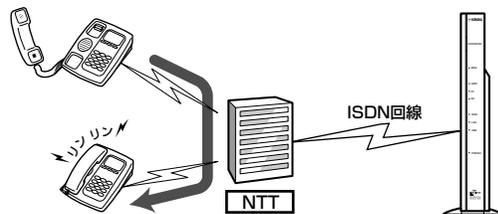
ネットボランچのホームページ(<http://NetVolante.jp/>)から、「RTシリーズのアナログTA機能に関するFAQ」も合わせてご覧ください。

INSボイスワープサービスとフレックスホンの着信転送サービスの違い

INSボイスワープサービスとフレックスホンの着信転送サービスは異なります。

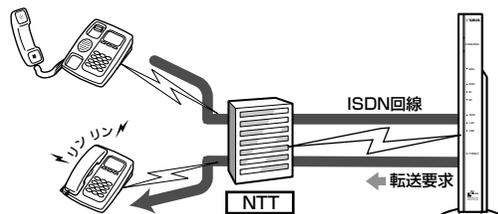
INSボイスワープサービス

- NTT内部の交換機で行う、ネットワーク型の転送サービスです。
- 転送先や転送条件などの設定は、NTT内部の交換機が保持します。
- NTT内部の交換機内で行われるため、回線の状態や端末の状態に関わらず利用できます。



フレックスホンの着信転送サービス

- ルータや電話機などで行う、端末型の転送サービスです。
- 転送先や転送条件などの設定は、ルータや電話機などの端末が保持します。
- 転送はルータや電話機などの端末による転送要求によって、NTT内部の交換機が行います。
- 回線の状態や端末の状態によって、サービスが利用できないことがあります。



相手へ通知する電話番号を登録する

本機でINSボイスワープサービスを利用するには

新規にINSボイスワープを契約する場合は

INSボイスワープを契約する際に、「スティミュラスプロトコル手順」のサポートの有無についてNTTから確認がある場合があります。本機は「スティミュラスプロトコル手順」をサポートしています。

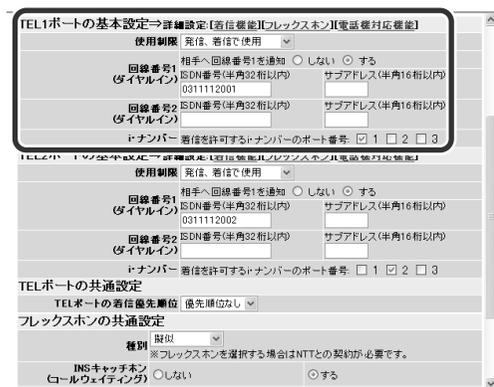
INSボイスワープを利用する場合は

INSボイスワープサービスはネットワーク型(NTT内部の交換機で行う)の転送サービスのため、本機で特に設定を行う必要はありません。

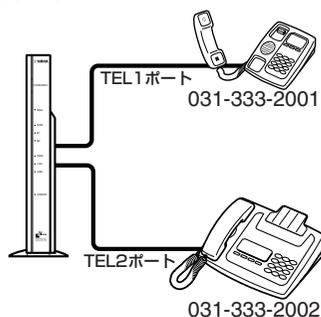
転送サービスの設定を変更する場合は

ダイヤルインやi-ナンバー、代表取扱サービスを利用している場合は、本機に発信者番号を登録する必要があります。

「かんたん設定ページ」の「電話設定」-「基本設定」画面で、INSボイスワープ契約した電話番号を入力して、回線番号を通知するように設定します。

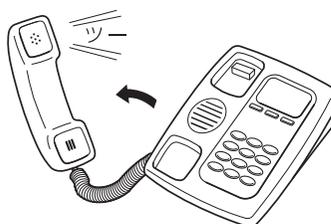


TELポート毎に相手へ通知する電話番号(契約者回線番号もしくはダイヤルイン、i-ナンバー)を登録できます。相手がナンバー・ディスプレイサービスや携帯電話を利用している場合に通知される番号となります。また、ダイヤルイン契約時は、ダイヤルイン番号による着信判定にも使われます。



ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ⊛ と ⊕ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを1,1(機能番号11)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

⊛ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 契約者回線番号またはダイヤルイン番号を押す。

サブアドレスを指定するときは、電話番号に続けて ⊛ とサブアドレス番号をダイヤルします。

- 6 **Ⓜ** を押す。
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

- 7 受話器を置く。



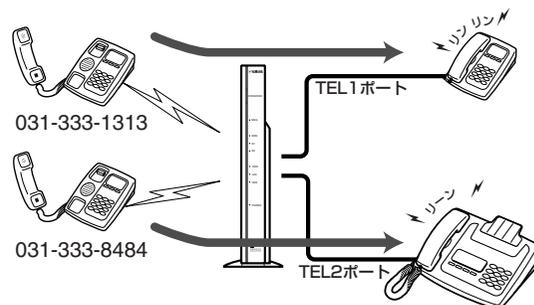
💡 ヒント

電話番号は、契約者回線番号およびダイヤルイン、i・ナンバーを合わせて、TELポートごとに最大5つまで登録できます。ただし、相手には最初の登録番号が通知されます。

相手によって着信ベル音を変更する

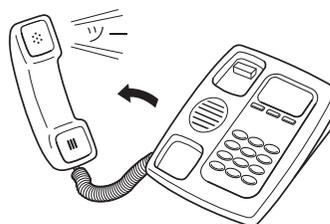
ISDN回線や携帯電話、PHSからの着信時に、発信者番号ごとに着信ベル音を変更できます。着信したTELポートごとにベル音を2種類から選ぶこともできます。

なお、相手が一般回線の場合でも発信者番号ごとに着信ベル音を変更するには、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)を申し込む必要があります。



ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

- 1 受話器を上げる。

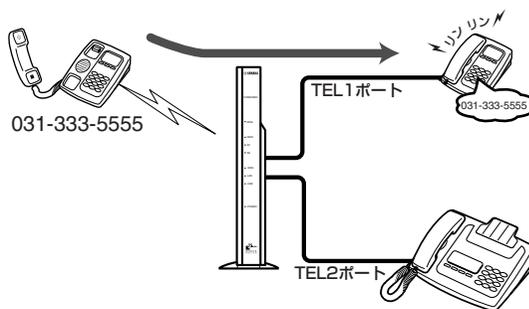


発信音が聞こえます。

- 2 **✖** と **Ⓜ** を押す。
発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。
- 3 **ダイヤルボタンを3,8(機能番号38)と押す。**
- 4 **TELポート番号を指定する。**
TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。
✖ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

ナンバー・ディスプレイ を利用する

ナンバー・ディスプレイは、着信時に発信者の電話番号を表示するサービスです。電話に出る前に相手の電話番号が確認できます。また、通話中に着信した時にも電話番号を表示できるキャッチホン・ディスプレイにも対応しています。



ご注意

- 相手が一般回線の場合も表示したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。
- ナンバー・ディスプレイやキャッチホン・ディスプレイを利用するには、ナンバー・ディスプレイやキャッチホン・ディスプレイ対応の電話機やFAXが必要です。

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。工場出荷設定では「使用しない」になっています。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

ご注意

本設定の前に、お使いの電話機やFAXのナンバー・ディスプレイが利用できる設定になっていることを確認してください。

- 5 着信ベル音番号を指定する。**
着信ベル音は1と2から選べます。

ご注意

お使いのアナログ機器によっては、着信音が鳴らない場合があります。

- 6 発信者番号を押す。**

- 7 ㊦を押す。**

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

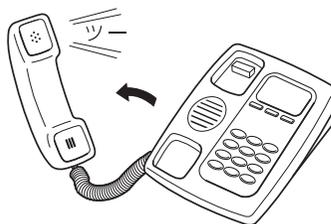
「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

- 8 受話器を置く。**



- 1 受話器を上げる。**



発信音が聞こえます。

- 2 ㊦と㊦を押す。**

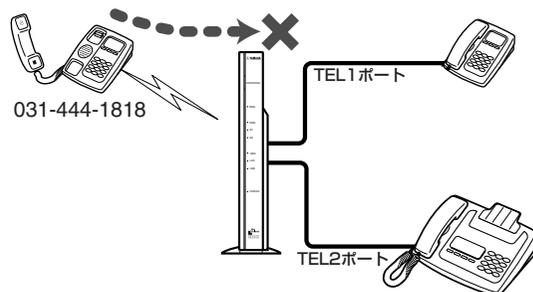
発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

- 3 **ダイヤルボタンを3,9(機能番号39)と押す。**
- 4 **TELポート番号を指定する。**
TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。
⊗を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。
- 5 **ナンバー・ディスプレイの種類を指定する。**
 - ナンバー・ディスプレイを使用しない場合:0を押します。
 - ナンバー・ディスプレイのみを使用する場合:1を押します。
 - ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用する場合:2を押します。
- 6 **⊕を押す。**
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは
正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。
- 7 **受話器を置く。**

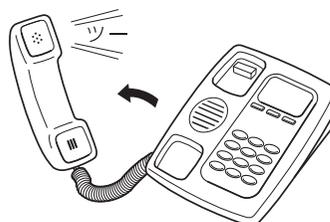


識別着信機能を使うと、登録した電話番号の着信を拒否したり、登録番号以外の着信を拒否することができます。迷惑電話でお困りのときに便利です。
相手が一般回線の場合でも着信拒否したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



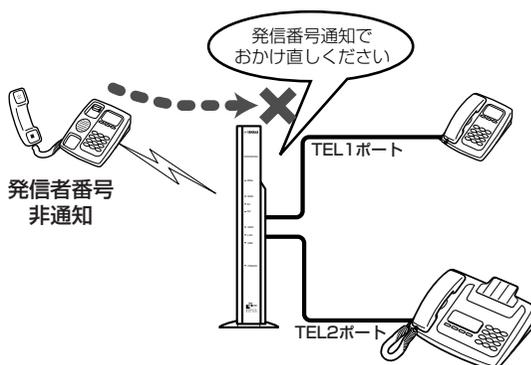
発信音が聞こえます。

- 2 **⊗ と ⊕ を押す。**
発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。
- 3 **ダイヤルボタンを3,3(機能番号33)と押す。**
- 4 **TELポート番号を指定する。**
TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。
⊗を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。
- 5 **拒否したい電話番号をダイヤルする。**

疑似ナンバー・リクエストを設定する

疑似ナンバー・リクエスト機能は、発信者番号通知がない着信に対して番号を通知してかけ直すよう音声案内（トーク）を流す機能です。

相手が一般回線の場合でも疑似ナンバー・リクエスト機能を利用したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



ご注意

疑似ナンバー・リクエストを使用すると、発信者側に通話料金がかかります。

- 6 **Ⓜ** を押す。
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

- 7 **ダイヤルボタンを3.2(機能番号32)と押す。**

- 8 **TELポート番号を指定する。**

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

ⓧ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

- 9 **着信拒否の種類を指定する。**

- 手順5で指定した番号を拒否する場合:2を押します。
- 手順5で指定した番号以外を拒否する場合:1を押します。
- 使用しない場合:0を押します。

- 10 **Ⓜ** を押す。

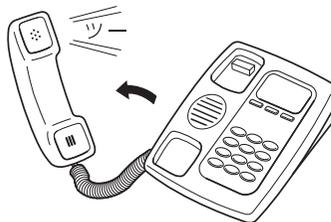
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順7から操作し直してください。

- 11 **受話器を置く。**

- 1 **受話器を上げる。**



発信音が聞こえます。

- 2 **ⓧ と Ⓜ を押す。**

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

- 3 **ダイヤルボタンを8.3(機能番号83)と押す。**

- 4 **TELポート番号を指定する。**

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

ⓧ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

次のページにつづく▶

5 動作を指定する。

- 発信者番号情報なし着信を拒否する場合:0を押しします。
- 発信者番号情報なし着信を許可する場合:1を押しします。
- 擬似ナンバー・リクエストで拒否する場合:2を押しします。

6 擬似ナンバー・リクエストを実行する条件を指定する。

- 公衆電話からの着信に対して実行する場合:1を押しします。
- ユーザによる通知拒否の着信に対して実行する場合:2を押しします。
- 表示圏外の着信に対して実行する場合:3を押しします。
- すべての着信に対して実行する場合:⊗を押します。

7 ⊕を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

設定内容が適切でなかったり、正常に変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

8 受話器を置く



続けて設定するときには、受話器をあげたまま手順3～7の操作を繰り返します。

Lモードの機能を利用する

「Lモード」とは、東日本電信電話株式会社(NTT東日本)および西日本電信電話株式会社(NTT西日本)が提供する、電話機やFAXを使ってメールを送受信したり、情報を検索したりできるサービスです。

Lモード対応電話機やFAXなどのアナログ機器を本機に接続すれば、Lモードのメッセージ到着お知らせサービスを利用できます。

ご注意

Lモードを利用するには、Lモード対応電話機/FAX以外に、NTT東日本またはNTT西日本との契約が必要です。

本機にLモード対応電話機やFAXを接続する場合のご注意

Lモードのメッセージ到着お知らせ機能を、ダイヤルインやi・ナンバー契約している回線で利用する場合は、Lモード対応のアナログ機器が接続されているTELポートと、電話が着信するTELポートの設定が同じである必要があります。設定が異なっていると、メッセージ到着お知らせ機能を利用できません。

ダイヤルイン契約している回線の場合

- Lモード契約した電話番号で着信するように設定したTELポートに、Lモード対応のアナログ機器を接続してください。
- ダイヤルイン契約時に「グローバル着信あり」で申し込まれている場合は、グローバル着信するように設定してください。

i・ナンバー契約されている回線の場合

Lモード契約したi・ナンバーのポート番号が着信するように設定したTELポートに、Lモード対応のアナログ機器を接続してください。

例:i・ナンバー設定が工場出荷状態のとき

- Lモード契約をi・ナンバー1(契約回線番号)で申し込んだ場合は、Lモード対応のアナログ機器をTEL1ポートに接続します
- i・ナンバー2(追加番号)でLモード契約した場合は、Lモード対応のアナログ機器をTEL2ポートに接続します。

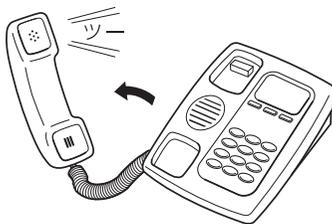
メッセージ到着お知らせサービスを利用できるようにする

本機に接続したLモード対応電話機やFAXからLモードのメッセージ到着お知らせサービスを利用するには、以下の手順で設定を行います。

ご注意

- 設定の前に、お使いの電話機やFAXがLモード対応製品であることを確認してください。
- ダイヤルイン番号やiナンバー等の追加番号でLモードを契約している場合は、Lモード対応アナログ機器を接続しているTELポートに、Lモード契約した電話番号を設定してください。
- 「かんたん設定ページ」の「TELポートの詳細設定(電話機対応機能)」画面の「ダイヤル終了から発信までの時間」の設定値、およびダイヤル桁の間隔設定(機能番号41、23ページ)は、初期設定値(4秒)より短くしないでください。
- 「かんたん設定ページ」の「TELポートの詳細設定(電話機対応機能)」画面の「相手に機器の種類を」の設定は、必ず「電話として通知する」以外を選んでください。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 (✖) と (㊦) を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを8,6(機能番号86)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2です。

(✖) を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 動作を指定する。

- メッセージ到着お知らせ機能を使用しない場合：0を押します。
- メッセージ到着お知らせ機能を使用する場合：1を押します。

6 (㊦) を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

設定内容が適切でなかったり、正常に変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

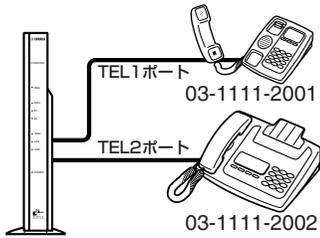
7 受話器を置く。



TELポートごとに使い分ける

本機のTELポートに接続したアナログ機器に合わせて、TELポートごとにさまざまな設定を行うことができます。お使いのアナログ機器や付加サービスに応じて設定してください。設定は、「かんたん設定ページ」の電話設定画面で行います。

ここでは、図のようにアナログ機器を接続した場合の設定例を紹介します。



i・ナンバーサービスの設定例

i・ナンバーサービスは、契約者回線番号とは別に最大2つの電話番号を追加できるサービスです。契約者番号と合わせて3つの電話番号を使い分けることができます。i・ナンバーによる着信は、電話やFAX、RVS-COM、データ通信のいずれにも適用できるので、電話などのアナログ着信とデータ着信を明確に振り分けられます。電話はアナログポートで受けて、FAXはRVS-COMで受けたいといったときに便利です。

アナログ通信とデータ通信のi・ナンバーは独立して同時に設定できるため、ルータとTEL1ポートを同時にi・ナンバーのポート番号2に設定するような使いかたもできます。

i・ナンバーによる着信について

本機に着信があると、まずアナログ着信であるかどうか判定され、アナログ着信の場合はi・ナンバーに合致したアナログポートだけを呼び出します。

アナログ着信ではない場合は

データ着信の扱いとなり、次の順番でi・ナンバーの設定に合致して着信に応答するかどうか判定されます。

- 1) ルータ
- 2) ISDN-DCP (RVS-COM)
- 3) TA

ご注意

- ルータとISDN-DCP、TAが同じi・ナンバーポートに設定されている場合は、常にルータのほうに着信が優先されるため、ISDN-DCPとTAでは着信を受けられなくなります。
- ルータに着信するかどうかは最終的にはルータ着信に関する設定にも依存します。i・ナンバーが合致するとルータに必ず着信するとは限りません。

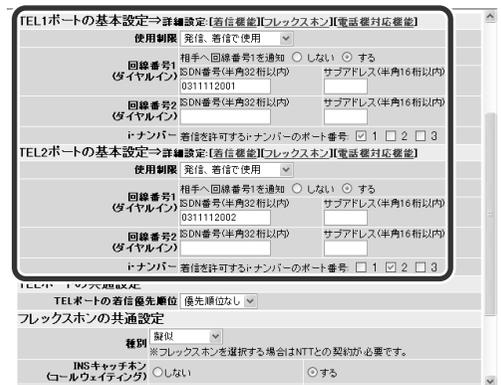
i・ナンバーの設定がされているときに、発信時に相手に通知される発信者番号には、各々以下の設定が使用されます。

1. アナログポート: [かんたん設定ページ] - [電話設定]画面で設定した、各ポートの回線番号1(「相手へ自分の番号を通知する」の場合)
2. ルータ: [かんたん設定ページ] - [接続設定] - [ISDN回線設定]画面で設定した、ルータのISDN番号
3. ISDN-DCP: RVS-COMソフトの設定ウィザードで設定した自回線番号
4. TA: [AT\$Z]コマンドで設定したISDN番号
5. LAN-TA機能: [付加機能] - [LAN-TA機能]画面で設定した、自己ISDN番号

「電話設定」画面の設定例

ここでは、i・ナンバーサービスを利用して、「03-1111-2001」をTEL1ポートの電話機、「03-1111-2002」をTEL2ポートのFAXで使い分ける例を紹介します。

「かんたん設定ページ」の開きかたについては、「Webブラウザから『かんたん設定ページ』で設定する」(26ページ)をご覧ください。



ご注意

各設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプ画面をご覧ください。

ダイヤルインサービスの設定例

ダイヤルインサービスは、契約者回線番号とは別にいくつかの電話番号を追加できるサービスです。ダイヤルイン番号毎に着信条件を設定することにより、アナログ電話やISDN回線から機器を指定して電話をかけることができます。

「電話設定」画面の設定例

ここでは、契約者回線番号「03-1111-2001」をTEL1ポートの電話機、FAX用のダイヤルイン番号「03-1111-2002」をTEL2ポートのFAXで使い分ける例を紹介します。

ご注意

- 各設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプ画面をご覧ください。
- HLC(高位レイヤ)情報は、接続した機器の種類を示す情報です。機器の種類に応じて着信するTELポートを使い分けることができます。ただし、相手が正しいHLC情報を送ってこない場合は、着信ができなくなります。設定するときはご注意ください。
- Fネットの1,300Hzの呼出信号に対応しているFAXをお使いの場合、FAX無鳴動着信の項目を設定すると、無音でFAXを自動着信させることができます。ただし、HLCの種類を同時に設定した場合は、相手がHLC情報を送ってこないときに、着信できないことに気付かないおそれがあります。

TELポートごとの設定例

ダイヤルインサービスを利用して電話番号を使い分けるときは、接続機器に合わせた設定を行ってください。以下の画面は、ダイヤルイン契約時の申し込みでグローバル着信ありで申し込んだ場合の設定例です。

TEL1ポートの詳細設定画面

契約者回線番号を設定したTELポートは、[グローバル着信]で[する]を選びます。

TEL2ポートの詳細設定画面

FAX用の電話番号を設定したTELポートは、[グローバル着信]で[しない]を選びます。これで契約者回線番号では着信しなくなります。

第4章 ISDN FAXを使う

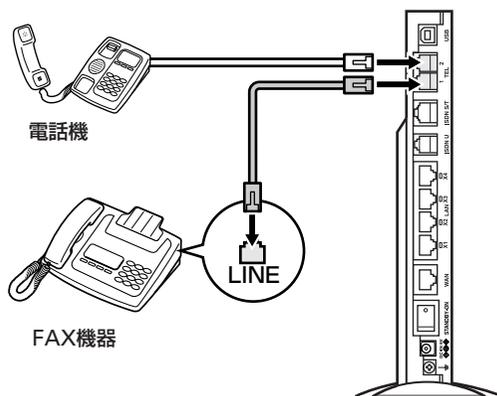
この章では、本機をISDN回線でお使いの場合に利用できるFAX送受信の3つの方法について紹介しています。よくお読みいただき、お持ちの機器やソフトウェアに合わせてお使いください。本機をCATV/ADSL回線のみ接続している場合や、専用線に接続している場合は、いずれの方法でもFAXを送受信することはできません。

FAX 機器を使う

FAX機器をお持ちの場合は、本機のTELポートに接続して、これまでと同様に使えます。

FAX機器を接続する

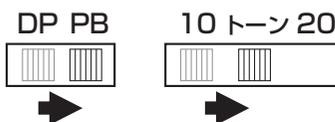
FAX機器は、下図のように接続します。



回線の設定のしかた

今まで「プッシュ」(トーン)回線だった場合は、そのままの設定で使えます。

ダイヤル(パルス)回線からISDN回線に切り替えた場合は、FAX機器の回線設定を「プッシュ」(トーン)回線に変更してください。



FAX送受信のしかた

今までと同様にFAX機器から送受信できます。詳しい操作方法については、お使いのFAX機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- FAXやモデムでデータの送受信ができないときやエラーが多いときは、「かんたん設定ページ」や電話機から受信や送信の音量レベル(PAD調整)値を徐々に下げて調整してください(24ページ)。
- FAXと電話をTELポートごとく使い分ける場合は、i-ナンバーサービスやダイヤルインサービスへ加入する必要があります(19、54ページ)。



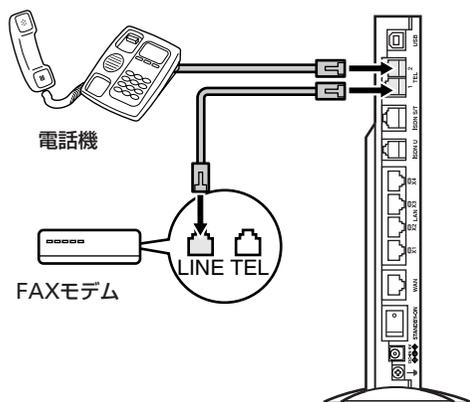
うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

FAX モデムを使う

FAXモデムをお持ちの場合は、FAXモデムを本機のTELポートに接続して、パソコンでFAXを送受信できます。

FAXモデムを接続する

FAXモデムは、下図のように接続します。



ご注意

FAXモデムの中には、FAXモデムのTELポートにさらに電話機を接続できるものもありますが、この場合モデムに接続した電話機とモデムの着信を使い分けることはできません。FAXモデムや電話機によっては正しく動作しない場合がありますので、本機の別のTELポートに直接接続することをおすすめします。

パソコンの設定について

すでにパソコンでFAXを送受信していた場合は、現在お使いのFAXソフトをそのまま使用できます。ダイヤル(パルス)回線からISDN回線に切り替えた場合は、FAXソフトウェアの回線設定を、「ブッシュ」(トーン)に変更してください。詳しい操作方法については、お使いのFAXソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

FAX送受信のしかた

すでにパソコンでFAXを送受信していた場合は、今までと同様にFAXを送受信できます。詳しい操作方法については、お使いのFAXソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

FAXやモデムでデータの送受信ができないときやエラーが多いときは、「かんたん設定ページ」または電話機から受信や送信の音量レベル(PAD調整)値を徐々に下げ調整してください(24ページ)。

LANからFAXを送受信する(RVS-COM)

RVS-COMとは?

RVS-COMとは、ドイツのRVS社が開発したWindows用のISDN回線専用のFAXソフトウェアで、ISDN-DCPというソフトウェアインタフェースを使用しています。本機はこのISDN-DCPIに対応しているため、ISDN-DCPに対応したRVS-COM2000を使って、LAN上のパソコンからFAXを送受信できます。

詳しくは、RVS-COM製品添付のユーザズマニュアルをご覧ください。国内では、RVS-COM製品はメガソフト株式会社が取り扱っています。製品自体のインストール方法やご使用方法、サポート等については、メガソフト株式会社にお問い合わせください。

URL <http://www.megasoft.co.jp/>

また、RVS-COM対応に関する最新情報については、NetVolanteホームページ(<http://NetVolante.jp/>)をご覧ください。

ご注意

本機はRVS-COM 2000R2には対応していません。

ISDN-DCP対応の主な特長

- 最大10クライアントまで着信待ちできます。ただし、RVS電話とRVSコムセンターなど、アプリケーションごとに1つのクライアントとして扱われるため、必ずしも10台のパソコンで同時に着信待ちできるわけではありません。
- ISDN-DCPクライアントで、同時に2つまで通信できます。
- G4 FAXが使用できます(デバイスタイプISDN-DCP使用時)。

ヒント

- 最大10個のISDN番号を登録可能なので、NTTのダイヤルイン契約を併用して、着信待ちしているLAN上の特定のパソコンに着信を直接振り分けることもできます。
- NTTのi・ナンバーサービス契約を併用して、アナログポートとRVS-COMを振り分けて運用することもできます。

ご注意

- ISDN-DCPでは非同期V.110によるデータ転送をサポートしていません。
- ISDN-DCPIによる転送ではルーティングによる転送をサポートしていません。

次のページにつづく▶

RVS-COMインストール時のご注意

- 「環境設定ウィザード」で設定する際に、通信デバイスの検出画面で「通信デバイスをマニュアル操作で選択する」にチェックを付けてください(自動では検出されません)。
- 「環境設定ウィザード」で設定する際に、「RVS ISDN-DCP対応 ISDNルータ」の「名前またはIP アドレス」入力画面で、本機のLANインタフェースのIP アドレス(工場出荷状態は192.168.0.1)を入力してください。
- 「RVSコムセンター」の「デバイス」タブの「ダイヤルのプロパティ」画面の中で、市外局番の先頭の0は削除してください。
- 「RVSコムセンター」の「回線番号」タブで表示される「ISDN回線番号」は、発信時に相手に通知される番号となります。
- 「RVSコムセンター」の「ISDN」タブの「このISDN回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」チェックボックスは、i・ナンバーサービスを契約した場合とグローバル着信ありのダイヤルイン契約ではチェックを外し、グローバル着信のない通常のダイヤルイン契約を行った場合にはチェックを付けてください。
- 最大数10のクライアントが着信待ちになっている場合は、それ以上RVS-COM ISDN-DCP版のソフトウェアをパソコンにインストールできません。インストールを継続するには、着信待ちになっているいくつかのクライアントを一時的に解除して、クライアント数の合計を9以下に減らしてください(現在のクライアント数を確認するには、「show status isdn-dcp」コマンドを使用します)。
- ダイヤルイン契約を行って、複数のダイヤルイン番号を取得して番号ごとに着信を振り分ける場合は、以下の項目の設定内容を確認してください。
 - 「かんたん設定ページ」- 「電話設定」画面のアナログポートのダイヤルイン番号
 - 「かんたん設定ページ」- 「システム管理」画面の「ルータのISDN番号」
 - 「かんたん設定ページ」- 「付加機能」- 「LAN版RVS-COM」画面の「着信許可番号」
 - 「RVSコムセンター」の「ISDN」タブの「このISDN回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」のチェックボックス

ご注意

- RVS-COMの通信中には、「かんたん設定ページ」にアクセスしないでください。
- RVS-COMの通信中には、コンソールコマンドの「save」コマンドを実行しないでください。
- 本機の電源を入れ直したり再起動を行った場合には、RVS-COMも再起動してください。

着信条件の制限

ISDN-DCPとして着信を受けるには、最低限、以下の2つの条件を同時に満たしている必要があります。

- ISDN-DCPクライアントが少なくとも一つ着信待ちになっている。
- 本機の設定でISDN-DCPの着信が許可されている。工場出荷状態では許可状態(isdn-dcp arrive permit on)に設定されています。

データ通信とアナログ通信の着信について

RVS-COMは、電話やG3 FAXなどのアナログ通信と、ファイル転送などを行うデータ通信の両方を処理できます。データ通信は、以下の優先順位で着信処理されます。

- 1 ルータ
- 2 RVS-COM ISDN-DCP
- 3 TA

もし、ルータとして着信を受けられる設定がされているときは、すべてルータに着信してしまい、ISDN-DCPやTAでは着信を受けられません。i・ナンバーサービスを利用すると、これら3つの各転送モードに適用できますが、この優先順位は変わりません。

アナログの着信があると最初にアナログポートを呼び出しますが、指定時間(工場出荷状態では15秒間)アナログポートの機器が応答しなければ、自動的にISDN-DCPのほうに着信が切り替わります。この切り替え時間は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」- 「LAN版RVS-COM」画面を開き、「RVS-COMへの切り替え時間」で変更できます。

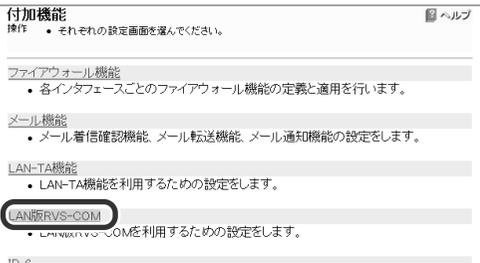
ご注意

即座にISDN-DCPIに着信させる設定ではなく、かつ、アナログポートに着信転送(擬似を含む)が設定されている場合には、ISDN-DCPIには着信できません。

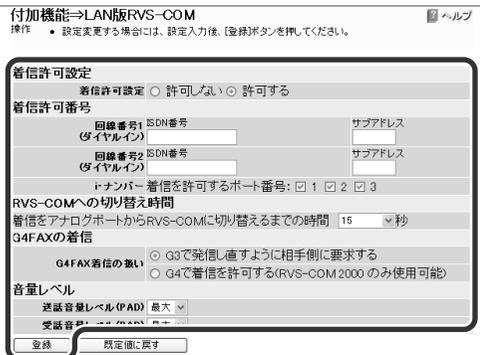
RVS-COMの設定を変更する

ここでは、かんたん設定ページから設定できる項目を説明します。コンソールコマンドについては、本機に付属CD-ROMに収録されている「コマンドリファレンス」を参照してください。RVS-COM製品を使って通信を行うためにはパソコンのRVS-COM側の設定も必要です。

- 1 通信中のRVS-COMクライアントがないことを確認する。
- 2 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」を開く。
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 4 [付加機能]をクリックする。
- 5 [LAN版RVS-COM]をクリックする。



- 6 RVS-COMの各項目を必要に応じて設定してから、[登録]をクリックする。



着信許可設定

LAN版RVS-COMを使用するかどうかを設定します。

着信許可番号

LAN版RVS-COMの発着信で使用する、電話番号とサブアドレスを設定します。ダイヤルイン番号は着信許可のための番号ですが、発信時に相手に通知される発番号はRVS-COM側で設定する必要があります。i-ナンバーの設定を行うと、着信時のダイヤルインの番号は着信動作では無視されます。

RVS-COMへの切り替え時間

アナログからRVS-COMへ切り替えるまでの時間を設定します。アナログからRVS-COMへ切り替える時間を更に微調整したい場合には、コンソールコマンドを使います。詳しくはコマンドリファレンスをご覧ください。

G4FAXの着信

RVS-COM製品がG4 FAX通信に対応している場合のみ、設定が有効になります。

- G3で送信し直すように相手側に要求する: G4通信対応のFAXがない場合に選びます。
- G4で着信を許可する(RVS-COM 2000のみ使用可能): G4通信対応のFAXがある場合に選びます。

音量レベル 音量レベルはRVS電話やG3 FAX、ソフトモデムなどの音声データを扱う通信がうまくいかない場合にだけ、徐々にレベルを下げて調整します。

注意

本機がMP通信により2本のチャネルとも使用中の場合は、ISDN-DCPIによる通信はできません。

パソコンからFAXを送信する

- 1 パソコンでRVS-COMを起動する。
- 2 送信したいファイルを開き、プリンタドライバに「RVS Fax」を指定してから、印刷と同じ操作を行う。
- 3 RVS-COMのダイアログに従って、相手電話番号などを入力する。

パソコンでFAXを受信する

パソコンのRVS-COMを起動して、FAX受信できる状態にする。

アナログの着信があると、接続してあるアナログ機器の呼出音が鳴ります。

15秒経過すると、自動的にアナログ機器の呼出音が切れ、RVS-COMが応答します。

ヒント

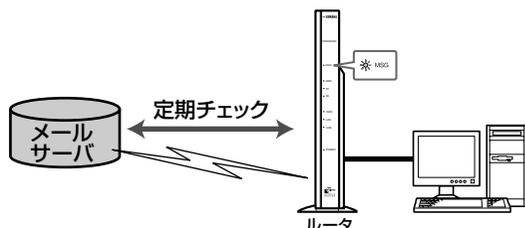
- アナログ機器を呼び出す時間は工場出荷設定で15秒ですが、5秒から160秒の間に設定変更できます。詳しくはコマンドリファレンスをご覧ください。
- 「かんたん設定ページ」の「付加機能」—「LAN版RVS-COM」画面でも、おおまかに設定できます(59ページ)。

第5章 メール 確認／通知 機能を使う

この章では、メール着信確認機能の設定方法や使いかた、メールで本機の各種情報を受け取る方法について紹介しています。よくお読みいただき、本機のメール機能を十分活用してください。

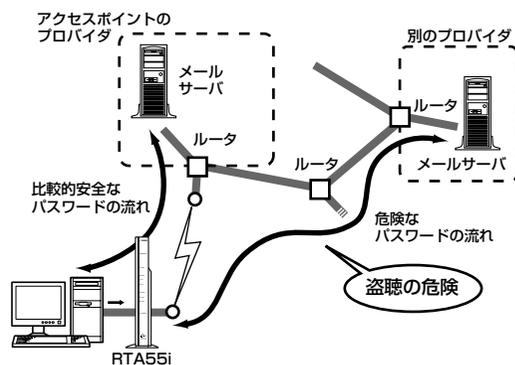
メール着信確認機能とは？

メール着信確認機能は、新しい電子メールが届いているかどうか、本機がプロバイダのメールサーバを定期的確認する機能です。メールが届いていると、本機前面のMSGランプが点滅するため、パソコンの電源を入れてなくてもメール着信の有無を確認でき、便利です。メールアドレスは、4つまで登録できます。



ご注意

- プロバイダと接続中に、他のプロバイダのメールサーバに対してこのコマンドを実行すると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上に流れてしまいますので、十分ご注意ください。



- 本機はメール着信確認を行うためにインターネット接続を行うので、メール着信確認を行うたびに通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続している場合は、料金にご注意ください。
- 電子メールソフトウェアでメールサーバにメールを残すように設定している場合は、メールを確認するたびに新着メールが着信していることとなります。新着メールがあるかどうかを正確に確認したい場合は、受信済みメールをサーバに残さないように電子メールソフトウェアの設定を変更してください。



うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

確認したいメールアドレスを登録する

「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で、確認したいメールアドレスを登録します。メールアドレスは、4つまで登録できます。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

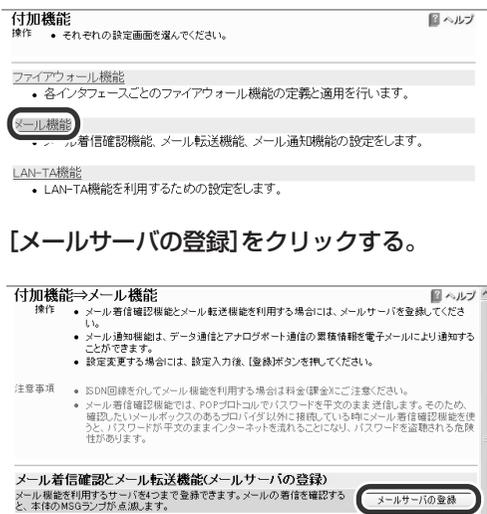
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

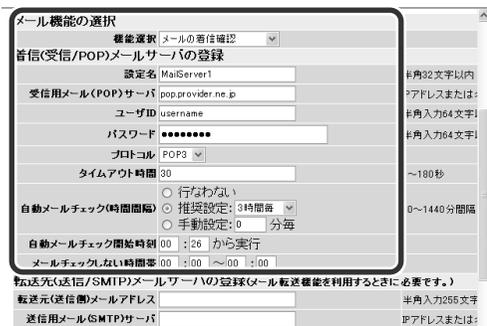
「トップ」画面が表示されます。

3 [付加機能]をクリックする。

4 [メール機能]をクリックする。



6 確認したいメールアドレスに合わせて、必要な設定をする。



機能選択 [メールの着信確認]を選びます。

設定名 わかりやすい名前を自由に入力できます(半角英数字で32文字まで)。

受信用メール(POP)サーバ

確認するメールの受信サーバ名を入力します。

ユーザID メール受信用のアカウント名を入力します。メールアドレスとは異なる場合がありますので、プロバイダの書類を確認してください。

パスワード メール受信用のパスワードを入力します。ダイヤルアップ用パスワードとは異なる場合がありますので、プロバイダの書類を確認してください。

タイムアウト時間

メールサーバの応答を待つ時間を設定します。この時間以内に応答がないと、エラーを表示します。

プロトコル

- POP3:通常はこちらを選びます。
- APOP:認証を行う際に暗号を使用するメール受信手順です。プロバイダのメールサーバが対応している場合は、こちらを選びます。

自動メールチェック

メールを定期的にチェックする間隔を設定します。

- 行わない:毎回手動で行いたい場合に選びます。
- 推奨設定:3、6、12、24時間のなかから選びます。
- 手動設定:分単位で設定できます。時間は10~1440分(24時間)の間で設定してください。

自動メールチェック開始時刻

確認を始める時間を設定します。

メールチェックしない時間帯

確認しない時間帯を設定します。

メールの着信を確認する

ご注意

本機はメール着信確認を行うために、インターネットに接続します。メール着信確認を行うたびに通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続している場合は、料金にご注意ください。

7 画面下部の[登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

ご注意

接続先プロバイダは、「プロバイダ接続管理」画面で設定したプロバイダになります。

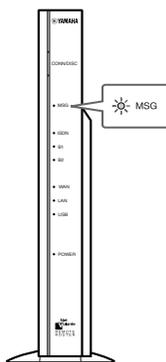
メールが届いていると、本機前面のMSGランプが点滅します。Webブラウザから手動で確認することもできます。

ご注意

- 本機はメール着信確認を行うために、インターネットに接続します。メール着信確認を行うたびに通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続している場合は、料金にご注意ください。
- 電子メールソフトウェアでメールサーバにメールを残すように設定している場合は、メールを確認するたびに新着メールが着信していることとなります。新着メールがあるかどうかを正確に確認したい場合は、受信済みメールをサーバに残さないように電子メールソフトウェアの設定を変更してください。

定期的を確認する

指定された時刻に本機がメールサーバをチェックし、メールが着信していると、MSGランプが点滅します。



MSGランプの点滅は次の状態を表しています。

- 「ピカッ」(1回点滅): メールサーバ1にメール着信あり
- 「ピカッピカッ」(2回点滅): メールサーバ2にメール着信あり
- 「ピカッピカッピカッ」(3回点滅): メールサーバ3または4にメール着信あり

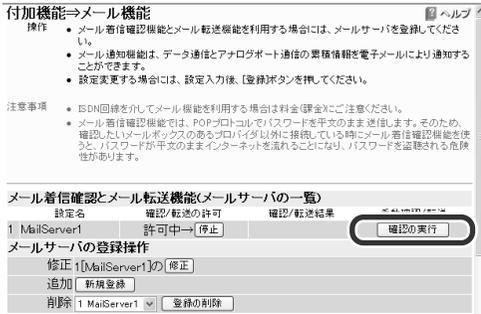
次のページにつづく▶

着信したメールを自動転送する

手動で確認する

メール着信の確認は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」画面で行います。

- 1 62ページの手順1~4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 登録したメールサーバの名称に対応する「手動確認/転送」欄の、「確認の実行」をクリックする。



メールサーバに新規メールが届いているかどうか確認されます。確認した結果は、「確認/転送結果」欄に表示されます。

ご注意

プロバイダと接続中に、他のプロバイダのメールサーバに対してこのコマンドを実行すると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上に流れてしまいますので、十分ご注意ください。

- 3 確認が終わったら、「確認/転送結果」欄の「OK」をクリックする。

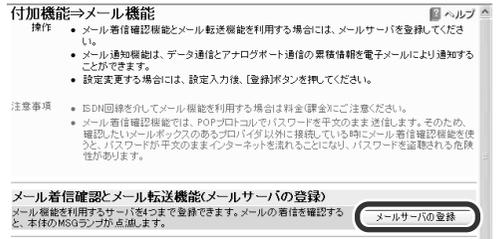


対応したサーバ番号に対応するMSGランプ点滅パターンが停止します。

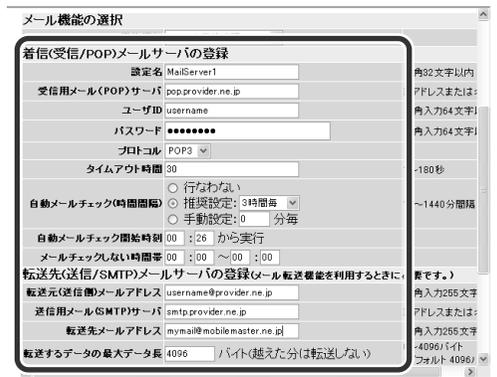
メール着信転送は、着信したメールを登録したメールアドレスへ転送する機能です。転送文字数を設定したり、送信元や題名などの、さまざまな転送条件を設定することもできます。

着信したメールを自動転送するには、「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で設定します。インターネットメールをサポートする機器（携帯電話、PHS、電話機を含む）であれば、どの機器/アドレスにも転送できます。

- 1 62ページの手順1~4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 「メールサーバの登録」をクリックする。すでに登録してあるメールサーバの場合は、「メールサーバの登録操作」欄の「修正」をクリックします。



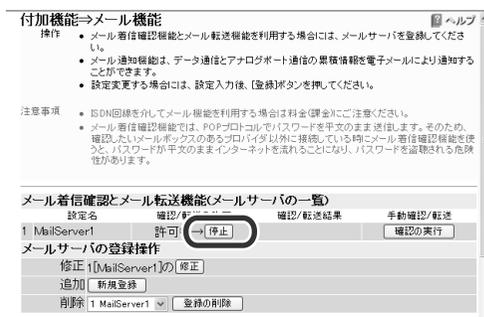
- 3 着信確認するメールアドレス情報と、転送先のメールアドレス情報を入力する。



メールの確認や転送を中止する

メール着信確認／転送を一時的に停止したり、再開したりしたい場合は、「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で設定します。

- 1 62ページの手順1～4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 停止したいメールサーバの【確認/転送の許可】の【停止】をクリックする。



メール確認や転送が中止されます。
再開したいときは、[再開]をクリックします。

- 3 他のメールサーバのメールも中止したいときは、手順2の操作を繰り返す。

機能選択 [メールの着信確認と転送]を選びます。

転送元(送信側)メールアドレス
通常は受信メールアドレスと同じものを入力します。

送信用メール(SMTP)サーバ
送信サーバ名を入力します。転送元メールアドレスで利用可能な送信サーバを入力してください。

転送先メールアドレス
転送先のメールアドレスを入力します。

転送するデータの最大データ長
転送するデータの大きさを設定します。データの先頭から指定された長さまでのデータのみが転送されます。

転送条件 転送するメール内容の条件を設定します。条件は4つまで設定できます。

- 以下のすべての条件が満たされたとき:すべての条件を満たしたメールのみ転送されます。
- 以下のどれかひとつの条件が満たされたとき:4つの条件のいずれかに該当したメールが転送されます。

- 4 画面下部の【登録】をクリックする。
メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

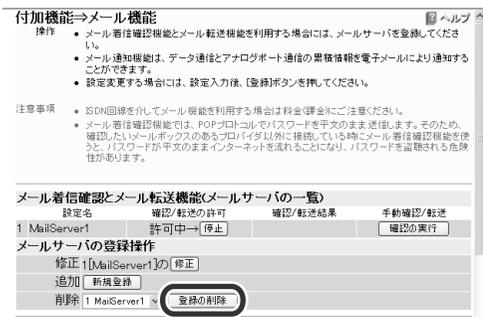
ご注意

受信メール容量が最大長(工場出荷値は10240バイト)を超えている場合、メールは転送されません。受信メールの最大長は、コンソールコマンドの「mail-transfer receive maxlength」で変更できます。詳しくはコマンドリファレンスをご覧ください。

メールサーバ登録を削除する

メール確認／転送で不要になったメールサーバの登録を削除するには、「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で設定します。

- 1 62ページの手順1～4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 [メールサーバの登録操作]で削除したいメールサーバを選んでから、[登録の削除]をクリックする。



メールサーバの登録内容が削除されます。

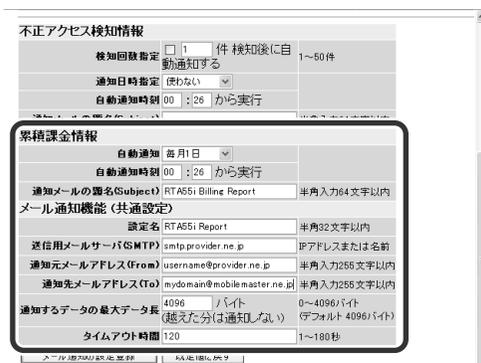
- 3 他のメールサーバの登録も削除したいときは、手順2の操作を繰り返す。

料金情報をメールで通知する

データ通信とTELポートの累積料金情報を、指定したメールアドレスへ定期的送信できます(メール通知機能)。意図しない自動接続をメールで監視したり、累積料金の定期的リセット機能と組み合わせることで、定期的利用記録を電子メールとして残すことができます。

「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で、送信先と送信する日時を設定します。

- 1 59ページの手順1～4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 通知の送付先メールアドレス、題名、通知間隔などを入力する。



自動通知 通知を定期的送信する間隔を設定します。

自動通知時刻 通知を送信する時刻を設定します。

通知先メールの題名(Subject) 通知の題名を入力します。

設定名 通知機能の名称を任意の半角英数字32文字以内で入力します。

送信用メールサーバ(SMTP) 送信サーバ名を入力します。送信元メールアドレスで利用可能な送信サーバを入力してください。

通知元メールアドレス(From)、通知先メールアドレス(To) それぞれ送信元、通知先のメールアドレスを入力します。

不正アクセス検知をメールで通知する

送信するデータの最大データ長

通知するデータの大きさを設定します。データの先頭から指定された長さまでのデータのみが送信されます。

タイムアウト時間

メールサーバの応答を待つ時間を設定します。この時間以内に応答がないと、エラーを表示します。

- 3 「メール通知の設定登録」をクリックする。
メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

ご注意

接続先プロバイダは、「プロバイダ接続管理」画面で設定したプロバイダになります。

本機のファイアウォール機能(114ページ)で検知した不正アクセス記録を、指定したメールアドレスへ定期的に送信できます。

「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で、送信先と送信する日時を設定します。

- 1 62ページの手順1~4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 「不正アクセス検知情報」の「自動通知する」にチェックを付ける。
- 3 通知の送付先メールアドレス、題名、通知間隔などを入力する。

不正アクセス検知情報	
検知回数指定	<input checked="" type="checkbox"/> 1 件 検知後に自動通知する
通知日時指定	00:26 から実行
自動通知時刻	00:26 から実行
通知メールの題名(Subject)	RT A51: Attack Report (半角入力64文字以内)

メール通知機能 (共通設定)	
設定名	RT A51: Report (半角32文字以内)
送信用メールサーバ(SMTP)	smtp.provider.ne.jp (IPアドレスまたは名前)
通知元メールアドレス(From)	username@provider.ne.jp (半角入力255文字以内)
通知先メールアドレス(To)	mydomain@mobilemaster.ne.jp (半角入力255文字以内)
通知するデータの最大データ長	4096 バイト (0~4096バイト (デフォルト 4096バイト) (越えた分は通知しない))
タイムアウト時間	120 1~180秒

検知回数設定

チェックを付けて、不正アクセスを何件検知するごとにメールを送るかを指定します。

通知日時指定

通知を送信する日時を指定したいときは、設定します。

自動通知時刻

通知を送信する時刻を設定します。

通知メールの題名(Subject)

通知の題名を入力します。

設定名

通知機能の名称を任意の半角英数字32文字以内で入力します。

送信用メールサーバ(SMTP)

送信サーバ名を入力します。送信元メールアドレスで利用可能な送信サーバを入力してください。

通知元メールアドレス(From)、通知先メールアドレス(To)

それぞれ送信元、通知先のメールアドレスを入力します。

送信するデータの最大データ長

通知するデータの大きさを設定します。データの先頭から指定された長さまでのデータのみが送信されます。

タイムアウト時間

メールサーバの応答を待つ時間を設定します。この時間以内に応答がないと、エラーを表示します。

4 [メール通知の設定登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

ご注意

接続先プロバイダは、「プロバイダ接続管理」画面で設定したプロバイダになります。

第6章 USB 接続機能を 活用する

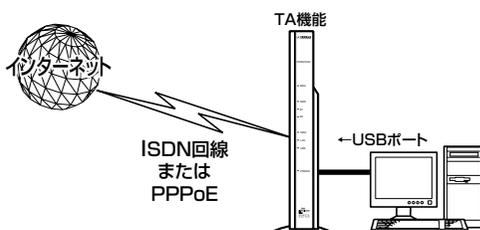
この章では、USB接続で本機のTA機能や擬似LAN機能を使う場合の接続／設定方法について説明しています。利用する機能やOSに合わせて、接続およびパソコンの設定を行ってください。

本機のUSB接続機能でできること

Windows 98SE(Second Edition)/Me/2000/XP、MacOS9以降、MacOSX 10.1以降のパソコンをお使いの場合は、本機のUSB接続機能を利用できます。

TA(78ページ)またはブロードバンドTA(91ページ)として使い、ネットワークに接続する

ISDN回線用TA(ターミナルアダプタ)またはPPPoEを利用したブロードバンドTAとして、本機を使用できます。ネットワークゲームがうまく動作しないときなどは、TAとしてお使いください。パソコンにLANポートもあれば、同時に接続して、目的別に使い分けることもできます。



ご注意

- TA接続はISDN回線またはPPPoE方式の回線でのみ使用できます。
- 工場出荷状態では、ブロードバンドTA接続を行うと、現在使用中のルータ接続はいったん切断されます。
- USBケーブルを抜く前に、必ずパソコンの電源を切ってください。電源を入れたままUSBケーブルの抜き差しすると、パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- USBによる通信を行った後にWindowsを終了する場合、終了するまでに5分以上かかることがあります。この問題を回避するには、終了する前にいったん再起動してから終了するようにしてください。
- Windows 95/98/NTやMacOS8.6以前、MacOSX 10.0.xのパソコンをお使いの場合、USB経由で本機とパソコンを接続することはできません。
- TA接続の場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(102ページ)。

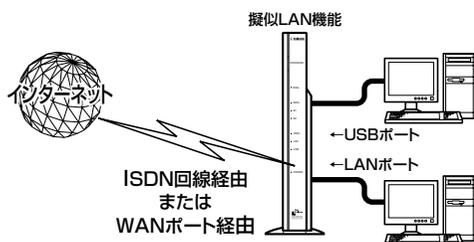


うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

USBポート経由の接続を準備する

擬似LAN機能でネットワークに接続する (102ページ)

本機のUSBポートには擬似LAN機能があり、LANポートのないパソコンでも、TCP/IPプロトコルでLANに接続できます。ただし、アクセスできるのはTCP/IPプロトコルに対応したファイルサーバやWebサーバです。AppleShareなどのファイル共有は利用できません。



ご注意

- USBケーブルを抜く前に、必ずパソコンの電源を切ってください。電源を入れたままUSBケーブルの抜き差しすると、パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- USBによる通信を行った後にWindowsを終了する場合、終了するまでに5分以上かかることがあります。この問題を回避するには、終了する前にいったん再起動してから終了するようにしてください。
- Windows 95/98/NTやMacOS8.6以前、MacOSX 10.0.xのパソコンをお使いの場合、USB経由で本機とパソコンを接続することはできません。

USBポートを使用する前に、あらかじめ別冊の「はじめにお読みください」の説明にしたがって、本機の設置から回線の接続までの準備を行う必要があります。

ルータや回線の準備が終わり、電話機が正常に使えることが確認できたら、以下の手順でパソコンにUSBドライバやモデムをインストールします。インストール方法は、お使いの環境によって異なります。

- Windows 98SEの場合→71ページ
- Windows Meの場合→73ページ
- Windows 2000の場合→74ページ
- Windows XPの場合→76ページ
- MacOS(9以降)の場合→77ページ
- MacOS X(10.1以降)の場合→77ページ

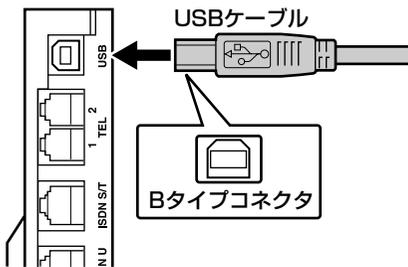
ご注意

- インストールには、OSのインストールCD-ROMが必要になる場合があります。あらかじめご用意ください。
- Windowsの場合、ドライバのインストールが正常に行えなかった時は、付属のCD-ROMの[USB]フォルダー[UnUSB]フォルダー[UnUSBTA.exe]を使用して、いったんドライバをアンインストールしてから、もう一度ドライバをインストールしてください。

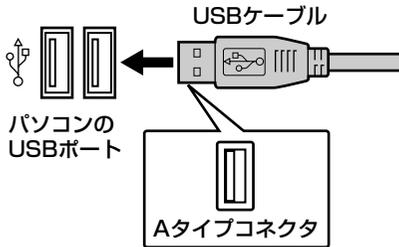
Windows 98SEの場合

Windows 98SEの場合は、USBドライバとモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートに、USBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

- 5 [次へ]をクリックする。



- 6 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 7 [検索場所の指定]を選んでから[参照]をクリックして、CD-ROMドライブの[USB]フォルダ内にある[WIN9X]フォルダを選び、[OK]をクリックする。



[検索場所の指定]欄に「D:\USBWIN9X」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

- 8 ドライバの名称を確認してから、[次へ]をクリックする。



次のページにつづく▶

9 表示されたドライバのある場所を確認してから、[次へ]をクリックする。

「D:¥USB¥WIN9X¥YMHUSBTA.INF」になっていない場合は[戻る]をクリックして、選択し直してください。



USBドライバのインストールが始まります。コピーの途中で「Windows98 Second Edition CD-ROMラベルの付いたディスクを挿入してください」と表示された場合は、Windows98 Second Edition CD-ROMをドライブにセットしてから、[OK]をクリックしてください。

10 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。



これで、USBドライバのインストールが完了しました。

続いて新しいハードウェアが検知されて、モデムのインストールが始まります。手順9でWindows98 Second Edition CD-ROMを入れた場合は、本機に付属のCD-ROMをドライブにセットしてください。

11 [次へ]をクリックする。



12 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



13 [検索場所の指定]を選んでから[参照]をクリックし、CD-ROMドライブの[USB]フォルダ内の[WIN9X]フォルダを指定して[OK]をクリックする。



[検索場所の指定]に「D:¥USB¥WIN9X」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

14 [RTA55i USB(Sync)]と表示されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

128kbit/s(MP)接続で使用する場合は、[ほかのドライバ]を選んでから[一覧の表示]をクリックし、[RTA55i USB(MP)]を選んで[OK]をクリックします。



15 表示されたドライバのある場所を確認してから、[次へ]をクリックする。

[D:¥USB¥WIN9X¥RTA55.INF]になっていない場合は[戻る]をクリックして、選び直してください。



モデムのインストールが始まります。

16 インストールが終了したら、[完了]をクリックする。

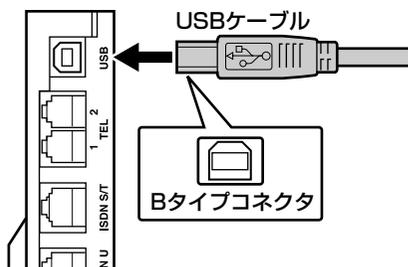


これで、モデムのセットアップが完了しました。

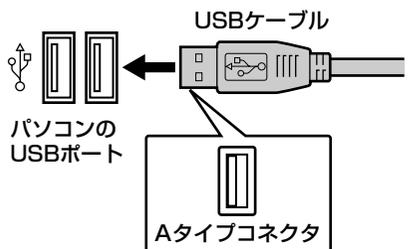
Windows Meの場合

Windows Meの場合は、USBドライバとモデムのインストールを行います。付属のCD-ROMをセットすると、本機用のドライバが自動検索されてインストールされます。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

- 5 [適切なドライバを自動的に検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。



これで、USBドライバのインストールが完了しました。

続いて新しいハードウェアが検出されて、モデムのインストールが始まります。

7 [適切なドライバを自動的に検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



8 [RTA55i USB(Sync)]を選んでから、[OK]をクリックする。

128kbit/s (MP) 接続で使用する場合は、[RTA55i USB (MP)] を選びます。



モデムのインストールが始まります。

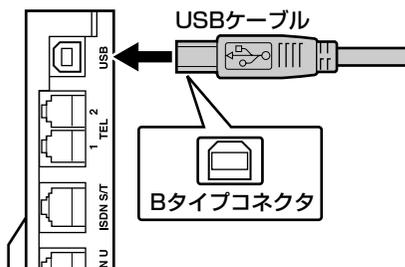
9 インストールが終了したら、[完了]をクリックする。

これで、モデムのセットアップが完了しました。

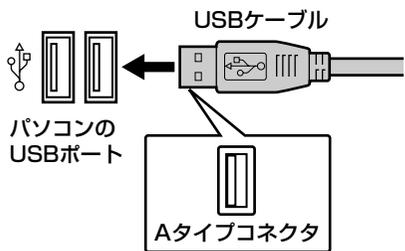
Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、ウィザードに従ってUSBモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。

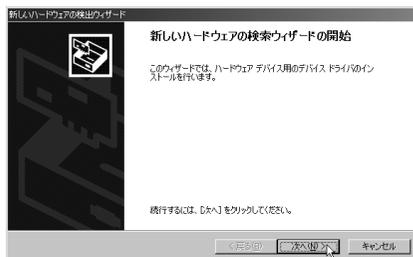


- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。

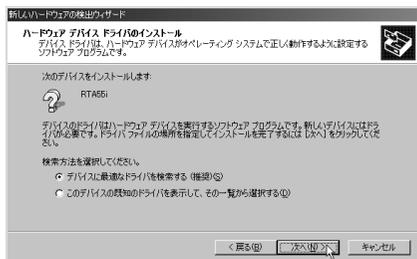


パソコンの画面に、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

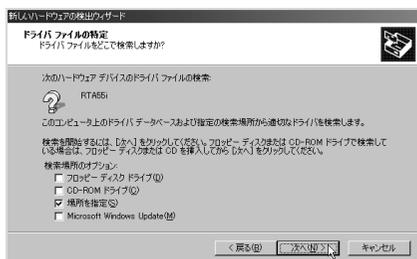
- 5 [次へ]をクリックする。



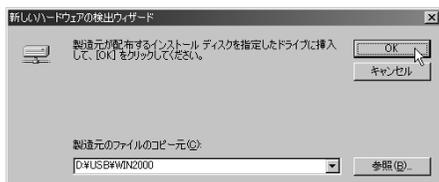
- 6 [デバイスに最適なドライバを検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 7 [場所を指定]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 8 [参照]をクリックしてCD-ROMドライブの[USB]フォルダ内にある[WIN200]フォルダを選んでから、[OK]をクリックする。



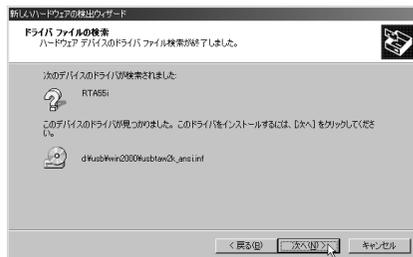
「製造元のファイルのコピー元」欄に「D:¥USB¥WIN200」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合は

[はい]をクリックしてインストールを続行してください。

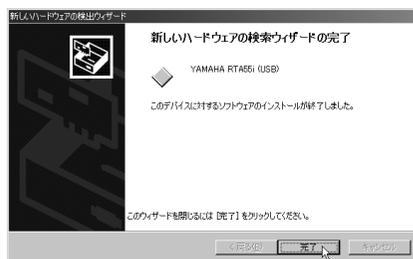
- 9 表示されたドライバのある場所を確認してから、[次へ]をクリックする。

「D:¥USB¥WIN200¥USBTAW2K.INF」になっていない場合は[戻る]をクリックして、選び直してください。



USBドライバのインストールが始まります。

- 10 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。

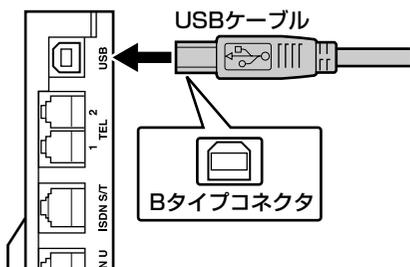


これで、USBモデムのセットアップが完了しました。

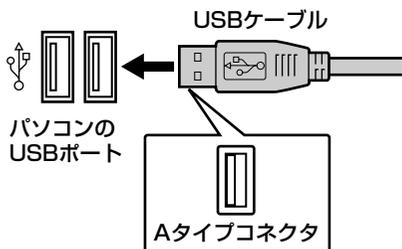
Windows XPの場合

Windows XPの場合は、ウィザードに従ってUSBモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。

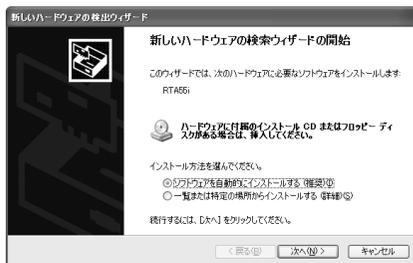


- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

- 5 [ソフトウェアを自動的にインストールする]を選んでから、[次へ]をクリックする。



USBドライバのインストールが始まります。

- 6 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。



これで、USBモデムのセットアップが完了しました。

💡 ヒント

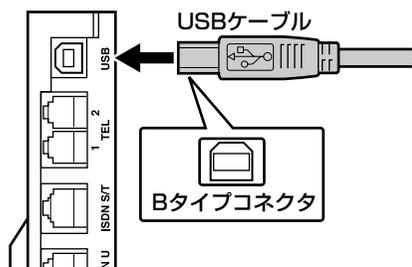
手順5で[ソフトウェアを自動的にインストールする]の代わりに[一覧または特定の場所からインストールする]を選んでインストールする場合は、Windows2000の場合の手順7以降(75ページ)の操作を行ってください。

MacOS (9以降) の場合

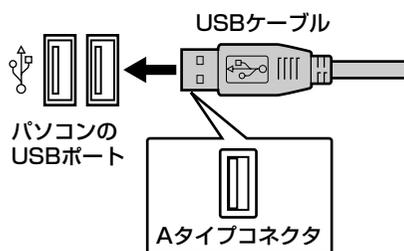
MacOS 9の場合は、USBケーブルを接続してから、CCLファイルをインストールします。

USBケーブルを接続する

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 3 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



CCLファイルをインストールする

- 1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 2 CD-ROMの[CCLファイル]フォルダ内のCCLファイルを、起動ハードディスクの[システムフォルダ]—[機能拡張]—[Modem Scripts]フォルダにコピーする。
これで、これで、USBのセットアップが完了しました。

MacOS X (10.1以降) の場合

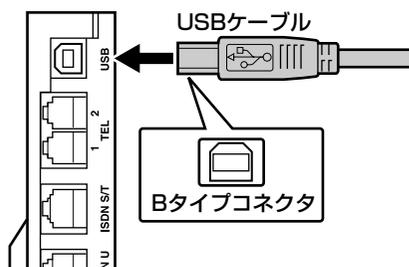
MacOS Xの場合は、CCLファイルをインストールしてから、USBケーブルを接続します。

CCLファイルをインストールする

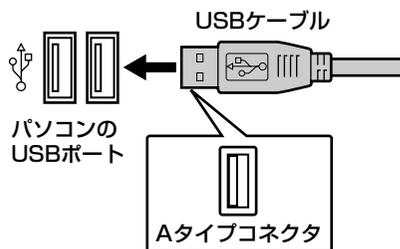
- 1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 2 DOCK内の「システム環境設定」に▲が表示されていないことを確認する。
▲が表示されている場合は、「システム環境設定」を終了してください。
- 3 CD-ROMの「CCLファイル」フォルダ内のCCLファイルを、起動ディスクの[Library]—[Modem Scripts]フォルダにコピーする。
これで、CCLファイルのインストールが完了しました。

USBケーブルを接続する

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 3 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。

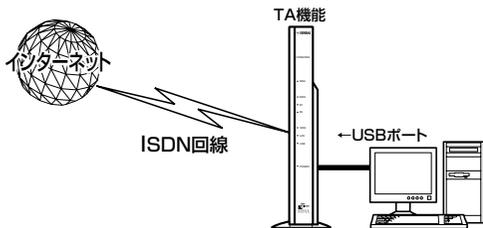


これで、USBのセットアップが完了しました。

USBポートからTA接続する **ISDN**

本機をISDN回線用TA(ターミナルアダプタ)として使うことができます。

ネットワークゲームがうまく動作しないときなどは、TAとしてお使いください。パソコンにLANポートもあれば、同時に接続して、目的別に使い分けることもできます。



本機をTAとして使う場合は、パソコンにネットワークとダイヤルアップを設定します。

設定方法は、お使いの環境によって異なります。

- Windows 98SE/Meの場合→78ページ
- Windows 2000の場合→81ページ
- Windows XPの場合→84ページ
- MacOS (9以降)の場合→87ページ
- MacOS X(10.1以降)の場合→89ページ

ご注意

- TA接続はISDN回線でのみ使用できます。
- USBケーブルを抜く前に、必ずパソコンの電源を切ってください。電源を入れたままUSBケーブルの抜き差しすると、パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- USBによる通信を行った後にWindowsを終了する場合、終了するまでに5分以上かかることがあります。この問題を回避するには、終了する前にいったん再起動してから終了するようにしてください。
- Windows 95/98/NTやMacOS8.6以前、MacOSX 10.0.xのパソコンをお使いの場合、USB経由で本機とパソコンを接続することはできません。
- TA接続の場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(102ページ)。

Windows 98SE/Meの場合

Windows 98SE/Meの場合は、ダイヤルアップネットワークの設定を行います。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(102ページ)。

ダイヤルアップネットワークを設定する

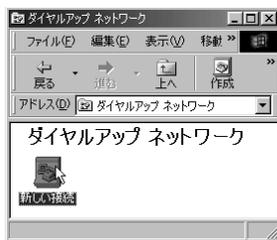
1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

2 [マイコンピュータ]内の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開きます。

3 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。「ダイヤルアップネットワークへようこそ」ウィンドウが表示された場合は、[次へ]をクリックします。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



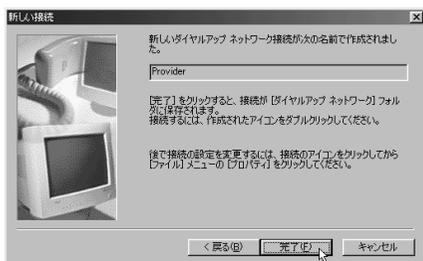
- 4 プロバイダ名を入力し、[モデムの選択]に [RTA55i USB (Sync)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 5 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力してから、[次へ]をクリックする。

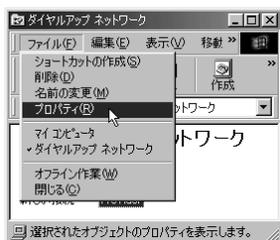


- 6 [完了]をクリックする。



「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

- 7 プロバイダのアイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



- 8 [サーバーの種類]タブをクリックする。

Windows Meの場合は、[ネットワーク]タブをクリックします。



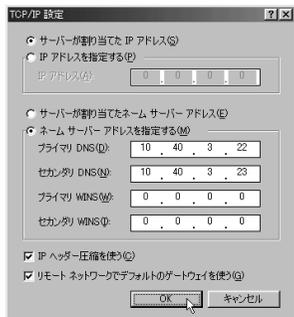
- 9 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮する]: チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の [NetBEUI]、[IPX/SPX互換]: チェックを外す。
- [TCP/IP]: チェックを付ける。



次のページにつづく▶

- 10 「**名前サーバーアドレスを指定する**」を選んで、プロバイダから指定された名前サーバのIPアドレスを入力してから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、TA接続の設定が完了しました。

ヒント

プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[サーバーが割り当てた名前サーバアドレス]を選びます。

インターネットへ接続する

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダのプロバイダ名アイコンをダブルクリックする。



- 2 [ユーザー名]と[パスワード]を入力してから、[接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。

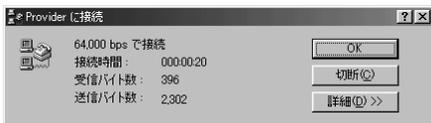
ヒント

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたいくときは、チェックを付けないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。



プロバイダとの接続が切れます。

Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、ダイヤルアップの設定を行います。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(102ページ)。

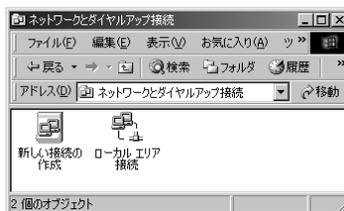
ダイヤルアップネットワークを設定する

1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

2 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



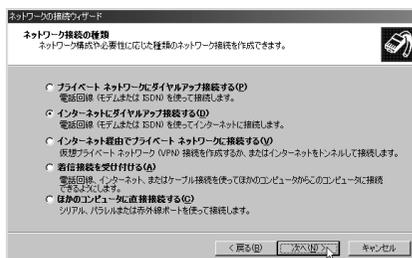
3 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



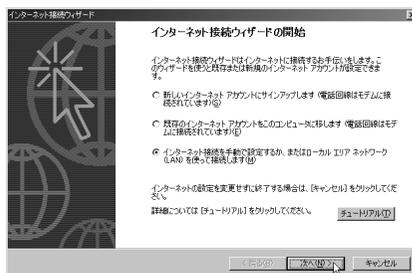
4 [次へ]をクリックする。



5 [インターネットにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6 [インターネット接続を手動で設定するか、またはローカル エリア ネットワーク(LAN)を使って接続します]を選んでから、[次へ]をクリックする。

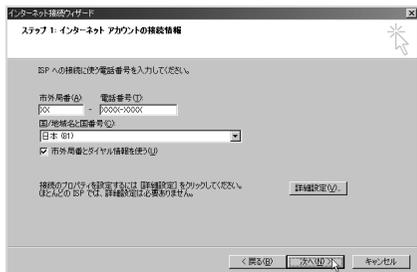


7 [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します]を選んでから、[次へ]をクリックする。

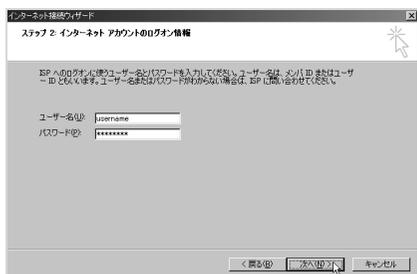


[モデムの選択]の画面が表示された場合は、[YAMAHA RTA55i (USB)]を選んでから[次へ]をクリックしてください。

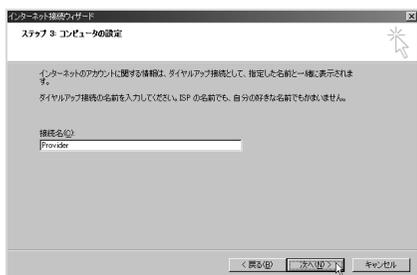
8 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力してから、[次へ]をクリックする。



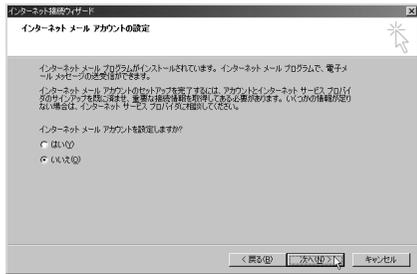
9 ユーザー名とパスワードを入力してから、[次へ]をクリックする。



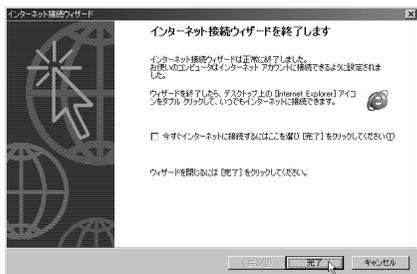
10 [接続名]に任意の名前を入力してから、[次へ]をクリックする。



11 [いいえ]を選んでから、[次へ]をクリックする。



12 [完了]をクリックする。



[ネットワークとダイヤルアップ接続]フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

13 プロバイダのアイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



14 [ネットワーク]タブをクリックする。



15 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選ん
だから、[プロパティ]をクリックする。



16 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]にチェ
ックを付けてDNSサーバアドレスを入力して
から、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウ
ィンドウを閉じる。



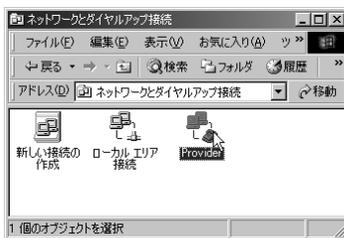
これで、TA接続の設定が完了しました。

ヒント

プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]を選びます。

インターネットへ接続する

1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダの
プロバイダ名アイコンをダブルクリックする。



2 [ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間
が表示されます。接続中は、B1ランプまたはB2
ランプが点灯します。

ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパス
ワードの入力が不要になります。ただし、他人に使わ
れたくないときは、チェックしないでください。

3 Webブラウザを起動して、「http://
NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを
押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを
確認してください。

4 接続を解除するときは、[切断]をクリックす
る。



プロバイダとの接続が切れます。

Windows XPの場合

Windows XPの場合は、ダイヤルアップの設定を行います。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使用していると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(102ページ)。

ダイヤルアップネットワークを設定する

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



- 3 [ネットワーク接続]をクリックする。



- 4 [新しい接続を作成する]をクリックする。



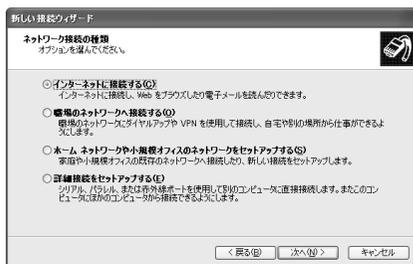
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してから、[OK]をクリックしてください。

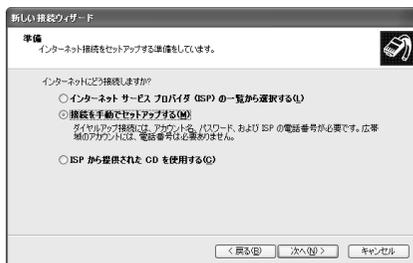
- 5 [次へ]をクリックする。



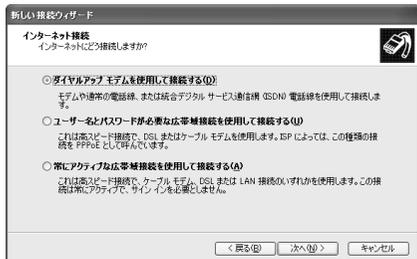
- 6 [インターネットに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 7 [接続を手動でセットアップする]を選んでから、[次へ]をクリックする。



8 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



9 ISP名に任意の名前を入力してから、[次へ]をクリックする。



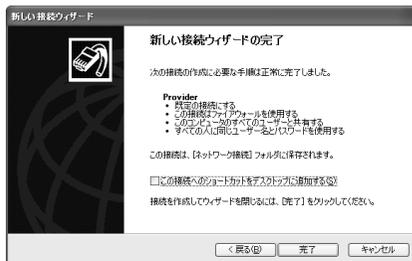
10 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力してから、[次へ]をクリックする。



11 ユーザー名とパスワードを入力してから、[次へ]をクリックする。



12 [完了]をクリックする。



13 プロバイダのアイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。



14 [ネットワーク]タブをクリックする。

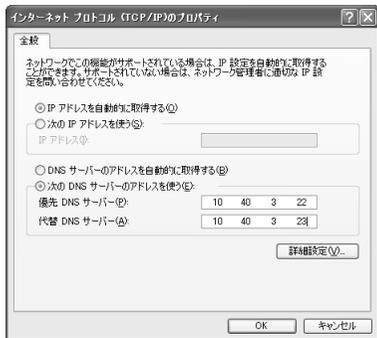


15 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



次のページにつづく▶

16 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選んでDNSサーバアドレスを入力してから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、TA接続の設定が完了しました。

ヒント

プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]を選びます。

インターネットへ接続する

1 「マイ コンピュータ」画面の[マイ ネットワーク]をクリックする。



2 [ネットワーク接続を表示する]をクリックする。



3 プロバイダのアイコンを選んでから、[この接続を開始する]をクリックする。



4 [ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。

ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

5 Web ブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

6 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。

プロバイダとの接続が切れます。

MacOS (9以降) の場合

MacOS 9では、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス(PPP)の設定を行います。作業を始める前に、NetVolante用CCLファイルを付属のCD-ROMの[CCLファイル]フォルダから[システムフォルダ]→[機能拡張]→[Modem Scripts]フォルダ内へコピーしてください。

ここではMacOS 9.0.4の画面を例に説明しています。

ご注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

ネットワーク機能を設定する

コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]の設定を変更します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 アップルメニューから[コントロールパネル]→[TCP/IP]を選ぶ。
- 3 以下のように設定する。
 - ・経由先: PPP
 - ・設定方法: PPPサーバを参照
 - ・ネームサーバアドレス欄: プロバイダから入手したネームサーバのIPアドレスを入力する。



- 4 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

- 5 アップルメニューから[コントロールパネル]→[モデム]を選ぶ。
- 6 [経由先]を[USB Modem]、[モデム]をプロバイダの通信速度に合った[NetVolante XXXX]、[ダイヤル]の種類を[トーン]に設定する。



プロバイダの回線速度	選択項目名
同期64k(制御文字変換なし)	NetVolante 64k
同期64k(制御文字変換あり)	NetVolante 64k(v1.2)
同期128k(制御文字変換なし)	NetVolante MP
同期128k(制御文字変換あり)	NetVolante MP(v1.2)

ご注意

- ・プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[NetVolante MP]を選択してください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入力してください。
- ・同期接続では通常は制御文字変換なし([NetVolante 64k]または[NetVolante MP])を使用してください。

- 7 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

ダイヤルアップ接続を設定する

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 プロバイダから入手したユーザIDとパスワード、ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力する。



- 3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから [終了]を選ぶ。

💡 ヒント

[パスワードを保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

インターネットへ接続する

- 1 [コントロールパネル]の[リモートアクセス]を開く。
[リモートアクセス]画面が表示されます。
- 2 [接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。

💡 ヒント

[パスワードを保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときは、「リモートアクセス」画面の[接続を切る]をクリックする。



プロバイダとの接続が切れます。

MacOS X (10.1以降) の場合

MacOS Xでは、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス(PPP)の設定を行います。

ご注意

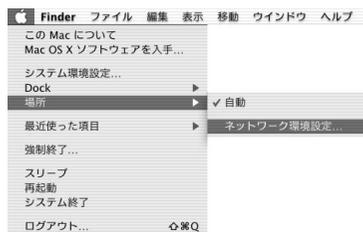
プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

ネットワーク機能を設定する

[ネットワーク]システム環境設定の設定を変更します。

1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

2 アップルメニューから[場所]—[ネットワーク環境設定]を選ぶ。



3 「場所」から[新しい場所]を選び、新しい場所の名前を入力してから[OK]をクリックする。



4 「表示」から[RTA55i]を選ぶ。



ご注意

[RTA55i]が表示されない場合は、Macintoshを再起動してください。

5 [TCP/IP]タブの[設定]から、[PPPを使用]を選ぶ。



6 [PPP]タブをクリックしてから、以下のように設定する。



- サービスプロバイダ: 名称を入力する。
- 電話番号: プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力する。
- アカウント名: ユーザIDを入力する。
- パスワード: パスワードを入力する。

ご注意

[パスワードを保存する]にチェックをつけると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

7 [PPPオプション]をクリックして、表示された「セットアップオプション」画面の[PPPエコーパケットを送信]のチェックを外してから、[OK]をクリックする。

ヒント

無通信タイマによる自動切断を使用しない場合は、手順7は必要ありません。

8 [モデム]タブをクリックしてから、以下のよう
に設定する。



- モデム: プロバイダの回線速度に合った選択項目を選ぶ。

プロバイダの回線速度	選択項目名
同期64k (制御文字変換なし)	NetVolante 64k
同期64k (制御文字変換あり)	NetVolante 64k(v1.2)
同期128k (制御文字変換なし)	NetVolante MP
同期128k (制御文字変換あり)	NetVolante MP(v1.2)

- ダイヤル: トーン

ご注意

- プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[NetVolante MP]を選択してください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入力してください。
- 同期接続では通常は制御文字変換なし([NetVolante 64k]または[NetVolante MP])を使用してください。

9 設定が終わったら、[今すぐ適用]をクリックする。

インターネットへ接続する

- 1 Finderウィンドウの[アプリケーション]をクリックしてから、[Internet Connect]をダブルクリックする。

- 2 [接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときには、「Internet Connect」画面の[接続解除]をクリックする。

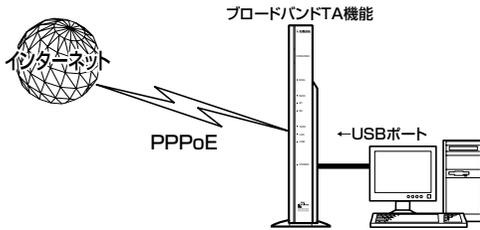


プロバイダとの接続が切れます。

USBポートからブロードバンドTA接続する

本機をPPPoEを利用したブロードバンドTA(ターミナルアダプタ)として使うことができます。

ネットワークゲームがうまく動作しないときなどは、ブロードバンドTAとしてお使いください。パソコンにLANポートもあれば、同時に接続して、目的別に使い分けることもできます。



本機をブロードバンドTAとして使う場合は、パソコンにネットワークとダイヤルアップを設定します。設定方法は、お使いの環境によって異なります。

- Windows 98SE/Meの場合→91ページ
- Windows 2000の場合→93ページ
- Windows XPの場合→96ページ
- MacOS (9以降)の場合→98ページ
- MacOS X (10.1以降)の場合→100ページ

ご注意

- ブロードバンドTA接続は、PPPoE方式の接続でのみ使用できます。
- 工場出荷状態では、ブロードバンドTA接続を行うと、現在使用中のルータ接続はいったん切断されます。
- ブロードバンドTA接続中に、本機の設定を保存しないでください。
- USBケーブルを抜く前に、必ずパソコンの電源を切ってください。電源を入れたままUSBケーブルの抜き差しすると、パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- USBによる通信を行った後にWindowsを終了する場合、終了するまでに5分以上かかることがあります。この問題を回避するには、終了する前にいったん再起動してから終了するようにしてください。
- Windows 95/98/NTやMacOS 8.6以前、MacOS X 10.0.xのパソコンをお使いの場合、USB経由で本機とパソコンを接続することはできません。
- ブロードバンドTA接続の場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(102ページ)。

Windows 98SE/Meの場合

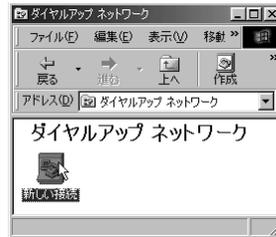
ブロードバンドTA接続するときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

2 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は、[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックします。

3 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示された場合は、[次へ]をクリックします。「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



4 [接続名]に「NetVolante-BTA」と入力し、[モデムの選択]に「RTA55i USB (Sync)」を選んでから、[次へ]をクリックする。



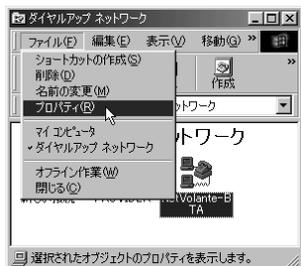
次のページにつづく▶

5 市外局番は空欄のまま、電話番号に半角英数字で「* * * #」と入力してから、国番号に[日本(81)]を選んで[次へ]をクリックし、[完了]をクリックする。



[ダイヤルアップ ネットワーク]フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

6 [NetVolante-BTA]アイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



7 [サーバーの種類]タブをクリックする。
Windows Meの場合は、[ネットワーク]タブをクリックします。

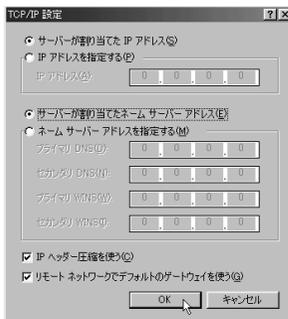


8 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮する]: チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[NetBEUI]、[IPX/SPX互換]: チェックを外す。
- [TCP/IP]: チェックを付ける。



9 [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス]を選んでから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、ブロードバンドTA接続の設定が完了しました。

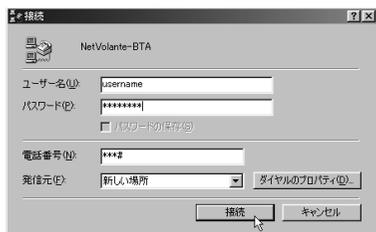
インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、[NetVolante-BTA]アイコンをダブルクリックして、本機のブロードバンドTA機能にダイヤルアップします。

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の[NetVolante-BTA]アイコンをダブルクリックする。



- 2 プロバイダから入手したユーザー名とパスワードを入力し、[パスワードの保存]をチェックして[接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。

💡 ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

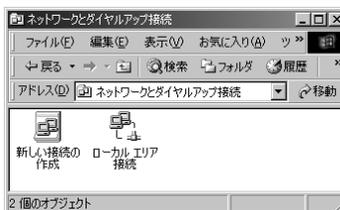
Windows 2000の場合

ブロードバンドTA接続するときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



- 3 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。

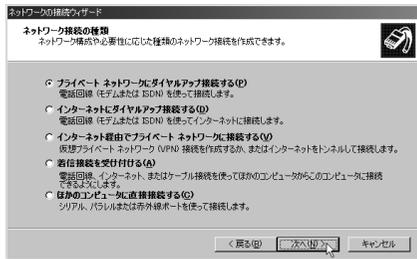


- 4 [次へ]をクリックする。



次のページにつづく▶

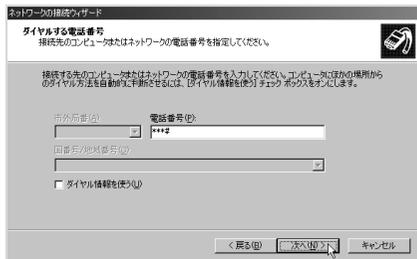
5 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



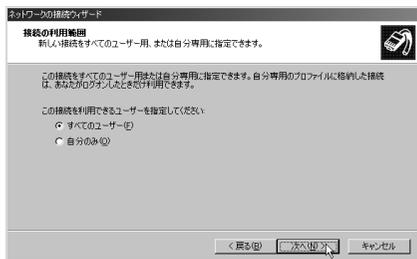
ご注意

「デバイスの選択」画面が表示された場合は、[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから[次へ]をクリックします。

6 電話番号に半角英数字で「* * * #」と入力してから、[次へ]をクリックする。



7 [すべてのユーザー]を選んでから、[次へ]をクリックする。



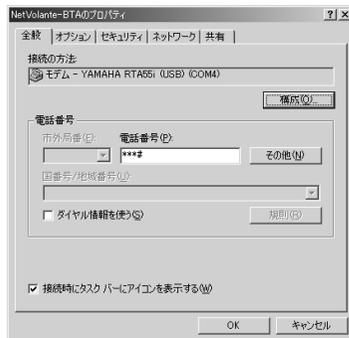
8 [接続名]に「NetVolante-BTA」と入力してから、[完了]をクリックする。



9 [NetVolante-BTA]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

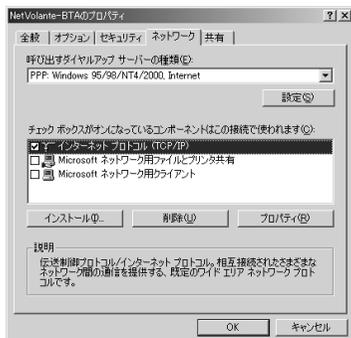


10 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]を選ぶ。



11 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のよう に設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)] : チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有] : チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント] : チェックを外す。



これで、ブロードバンドTA接続の設定が完了しました。

インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、[NetVolante-BTA]アイコンをダブルクリックして、本機のブロードバンドTA機能にダイヤルアップします。

1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の [NetVolante-BTA]アイコンをダブルクリッ クする。



2 プロバイダから入手したユーザー名とパスワ ードを入力し、[パスワードの保存]をチェッ クして[ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間
が表示されます。

💡 ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパス
ワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使わ
れたくないときは、チェックしないでください。

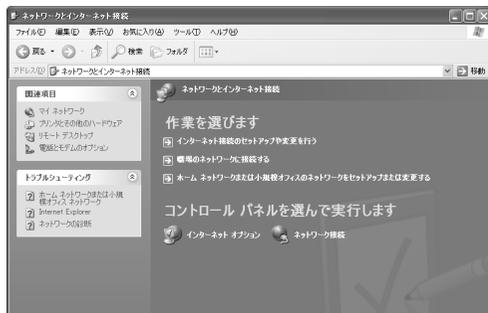
Windows XPの場合

ブロードバンドTA接続するときには、ダイアルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイアルアップ接続します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



- 3 [ネットワーク接続]をクリックする。



- 4 [新しい接続を作成する]をクリックする。



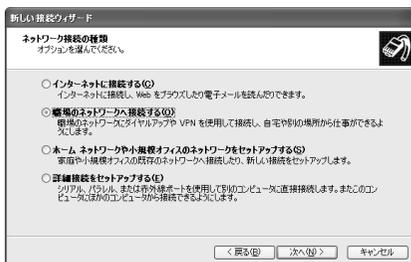
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してから、[OK]をクリックしてください。

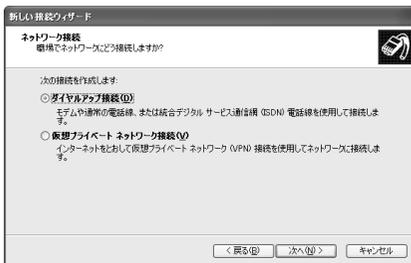
- 5 [次へ]をクリックする。



- 6 [職場のネットワークに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 7 [ダイアルアップ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。



ご注意

「デバイスの選択」画面が表示された場合は、[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから[次へ]をクリックします。

- 8 [会社名]に「NetVolante-BTA」と入力してから、[次へ]をクリックする。



9 電話番号に半角英数字で「***#」と入力してから、[次へ]をクリックする。



10 [完了]をクリックする。



11 [NetVolante-BTA]アイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。



12 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]を選ぶ。



13 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のよう設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]: チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]: チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]: チェックを外す。



これで、ブロードバンドTA接続の設定が完了しました。

インターネットへ接続する

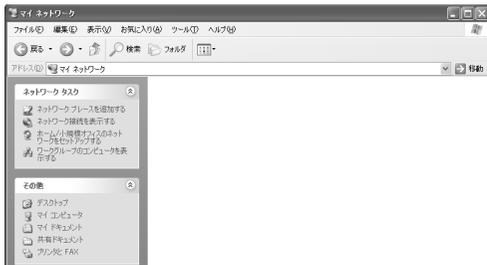
インターネットへ接続するときは、[NetVolante-BTA]アイコンをダブルクリックして、本機のブロードバンドTA機能にダイヤルアップします。

1 「マイ コンピュータ」画面の[マイ ネットワーク]をクリックする。



次のページにつづく▶

2 [ネットワーク接続を表示する]をクリックする。



3 [NetVolante-BTA]アイコンを選んでから、[この接続を開始する]をクリックする。



4 プロバイダから入手したユーザー名とパスワードを入力し、[パスワードの保存]をチェックして[ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。

ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われないときは、チェックしないでください。

MacOS (9以降) の場合

ネットワーク機能を設定する

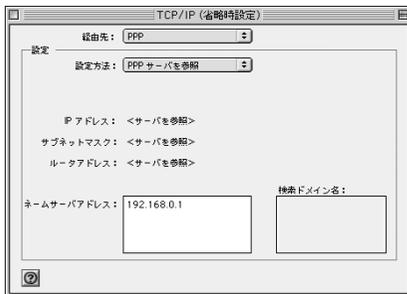
コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]を設定します。

1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

2 アップルメニューから[コントロールパネル] - [TCP/IP]を選ぶ。

3 以下のように設定する。

- 経由先: PPP
- 設定方法: PPPサーバを参照
- ネームサーバアドレス: 本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)



4 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

5 アップルメニューから[コントロールパネル] - [モデム]を選ぶ。

6 以下のように設定する。

- 経由先: USB Modem
- モデム: NetVolante 64k(v1.2)
- ダイアル: トーン



6 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

ダイヤルアップ接続を設定する

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 以下のように設定する。
 - ユーザ ID: プロバイダから入手したユーザー名
 - パスワード: プロバイダから入手したパスワード
 - パスワードを保存: チェックを付ける。
 - 電話番号: 半角英数字で「***#」と入力。



- 3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから [終了]を選ぶ。

インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、コントロールパネルの[リモートアクセス]を開いて本機にダイヤルアップ接続します。

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 [接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。

💡 ヒント

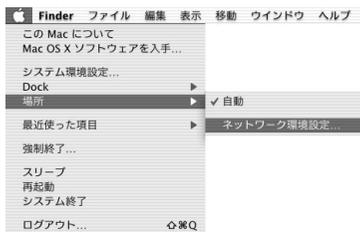
[リモートアクセス]のエイリアスをシステムフォルダ内の[起動項目]フォルダに入れておくと、Macintoshを起動すると自動的に「リモートアクセス」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANへアクセスできます。

MacOS X (10.1以降) の場合

ネットワーク機能を設定する

[ネットワーク]システム環境設定の設定を変更します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 アップルメニューから[場所] - [ネットワーク環境設定]を選ぶ。



- 3 「場所」から[新しい場所]を選び、新しい場所の名前を入力してから[OK]をクリックする。



- 4 「表示」から[RTA55i]を選ぶ。



ご注意

「RTA55i」が表示されない場合は、Macintoshを再起動してください。

- 5 [TCP/IP]タブの[設定]から、[PPPを使用]を選ぶ。



- 6 [PPP]タブをクリックしてから、以下のように設定する。



- サービスプロバイダ: 名称を入力する。
- 電話番号: 半角英数字で「***#」と入力。
- アカウント名: プロバイダから入手したユーザー名
- パスワード: プロバイダから入手したパスワード
- パスワードを保存: チェックを付ける。

ご注意

[パスワードを保存する]にチェックをつけると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 7 [PPPオプション]をクリックして、表示された「セットアップオプション」画面の[PPPエコーパケットを送信]のチェックを外してから、[OK]をクリックする。

💡 ヒント

無通信タイマによる自動切断を使用しない場合は、手順7は必要ありません。

- 8 [モデム]タブをクリックしてから、以下のよう



- モデム: NetVolante 64k(V1.2)
- ダイアル: トーン

- 9 設定が終わったら、[今すぐ適用]をクリックする。

インターネットへ接続する

- 1 Finderウィンドウの[アプリケーション]をクリックしてから、[Internet Connect]をダブルクリックする。

- 2 [接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときは、[Internet Connect]画面の[接続解除]をクリックする。



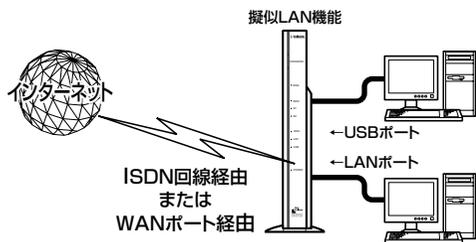
プロバイダとの接続が切れます。

💡 ヒント

Internet Connectソフトウェアを[システム環境設定]の[ログイン] - [ログイン項目]に登録しておく、MacOS Xにログイン後に自動的に[Internet Connect]画面が表示されます。[接続]をクリックするとすぐにインターネットへアクセスでき、便利です。

USBポートからLANに接続する(擬似LAN)

本機に内蔵の擬似LAN機能を使うと、USBポートに接続したパソコンも、TCP/IPプロトコルでLANにアクセスできるようになります。LANボードを取り付けられないパソコンを接続するときは、この方法で接続してください。



LANに接続すると、TCP/IPプロトコルのファイルサーバにアクセスできるようになり、ダイヤルアップルータの自動接続機能によるインターネット接続も利用できます。ただし、Windowsのファイル共有やAppleShareのファイル共有は利用できません。

擬似LAN機能の設定方法は、お使いの環境によって異なります。

- Windows 98SE/Meの場合→102ページ
- Windows 2000の場合→104ページ
- Windows XPの場合→107ページ
- MacOS (9以降)の場合→110ページ
- MacOS X(10.1以降)の場合→111ページ

Windows 98SE/Meの場合

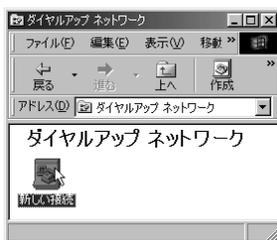
擬似LAN接続するには、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

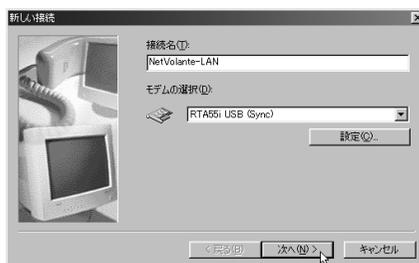
2 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は、[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックします。

3 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示された場合は、[次へ]をクリックします。「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



4 [接続名]に「NetVolante-LAN」と入力し、[モデムの選択]に[RTA55i USB (Sync)]を選んだから、[次へ]をクリックする。

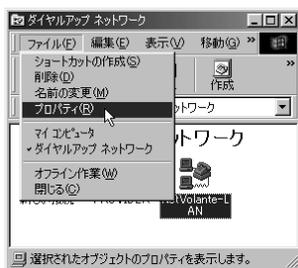


- 5 市外局番は空欄のまま、電話番号に半角英数字で「****」と入力してから、国番号に[日本(81)]を選んで[次へ]をクリックし、[完了]をクリックする。



「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

- 6 [NetVolante-LAN]アイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



- 7 [サーバーの種類]タブをクリックする。

Windows Meの場合は、[ネットワーク]タブをクリックします。

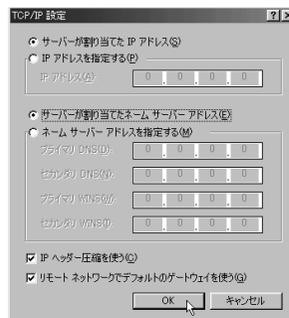


- 8 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮する]: チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[NetBEUI]、[IPX/SPX互換]: チェックを外す。
- [TCP/IP]: チェックを付ける。



- 9 [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス]を選んでから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、擬似LAN接続の設定が完了しました。

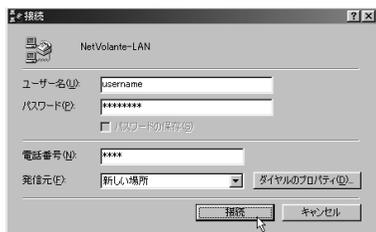
LANに接続する

LANへ接続するときは、[NetVolante-LAN]アイコンをダブルクリックして、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップします。

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の[NetVolante-LAN]アイコンをダブルクリックする。



- 2 [ユーザー名]に任意の名前を入力し、[パスワード]は空欄、[パスワードの保存]をチェックして[接続]をクリックする。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。

ヒント

作成した[NetVolante-LAN]アイコンのショートカットをスタートメニューの[スタートアップ]に追加すると、Windowsを起動すると自動的に「接続」画面が表示されます。[接続]をクリックすると、簡単にLANにアクセスできます。

Windows 2000の場合

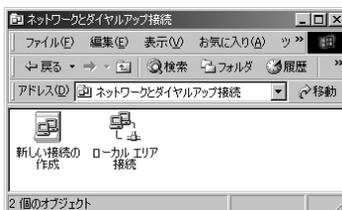
擬似LAN接続するには、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

- 2 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



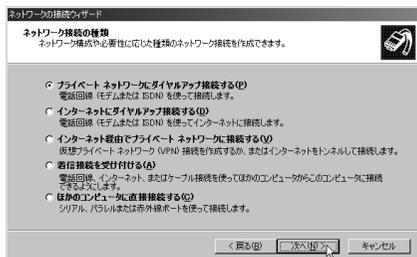
- 3 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



- 4 [次へ]をクリックする。



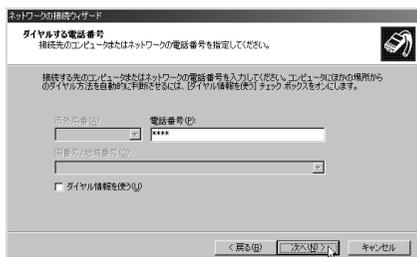
- 5 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



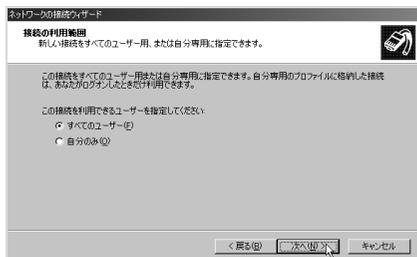
ご注意

「デバイスの選択」画面が表示された場合は、[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから[次へ]をクリックします。

- 6 電話番号に半角英数字で「****」と入力してから、[次へ]をクリックする。



- 7 [すべてのユーザー]を選んでから、[次へ]をクリックする。



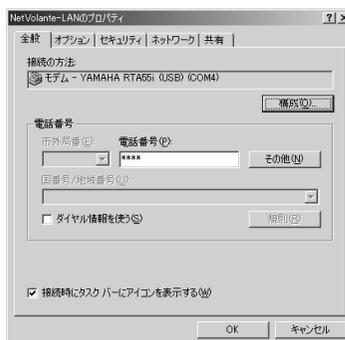
- 8 [接続名]に「NetVolante-LAN」と入力してから、[完了]をクリックする。



- 9 [NetVolante-LAN]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



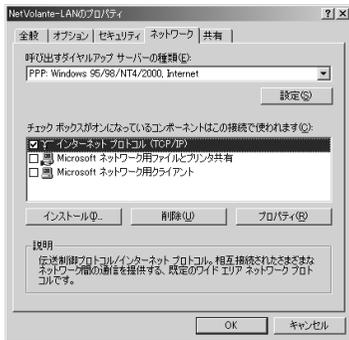
- 10 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]を選ぶ。



次のページにつづく▶

11 [ネットワーク] タブをクリックして、以下のよう
に設定してから、[OK] をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)] : チェックを付ける。
- [Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] : チェックを外す。
- [Microsoft ネットワーク用クライアント] : チェックを外す。



これで、擬似LAN接続の設定が完了しました。

LANへ接続する

LANへ接続するときは、[NetVolante-LAN] アイコンをダブルクリックして、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップします。

1 [ダイヤルアップネットワーク] フォルダ内の [NetVolante-LAN] アイコンをダブルクリックする。



2 [ユーザー名] に任意の名前を入力し、[パスワード] は空欄、[パスワードの保存] をチェックして [ダイヤル] をクリックする。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。

ヒント

作成した [NetVolante-LAN] アイコンのショートカットをスタートメニューの [スタートアップ] に追加すると、Windows を起動すると自動的に「NetVolante-LANへ接続」画面が開くようになります。[接続] をクリックすると、簡単にLANにアクセスできます。

Windows XPの場合

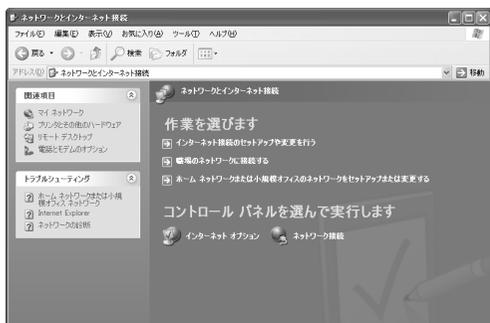
擬似LAN接続するには、ダイアルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイアルアップ接続します。

1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。

2 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



3 [ネットワーク接続]をクリックする。



4 [新しい接続を作成する]をクリックする。



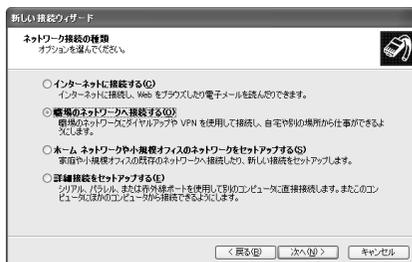
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してから、[OK]をクリックしてください。

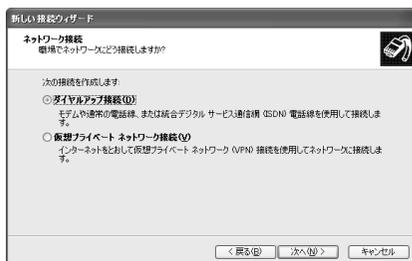
5 [次へ]をクリックする。



6 [職場のネットワークに接続する]を選んだから、[次へ]をクリックする。



7 [ダイアルアップ接続]を選んだから、[次へ]をクリックする。



ご注意

「デバイスの選択」画面が表示された場合は、[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから[次へ]をクリックします。

次のページにつづく▶

8 [会社名]に「NetVolante-LAN」と入力してから、[次へ]をクリックする。



9 電話番号に半角英数字で「****」と入力してから、[次へ]をクリックする。



10 [完了]をクリックする。



11 [NetVolante-LAN]アイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。

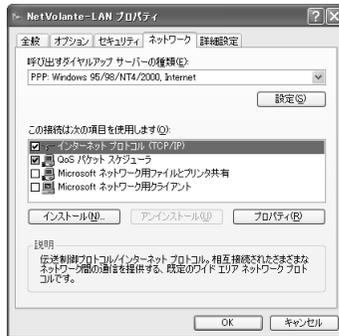


12 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTA55i(USB)(COMx)]を選ぶ。



13 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のよう
に設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]: チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]: チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]: チェックを外す。



これで、擬似LAN接続の設定が完了しました。

LANに接続する

- 1 「マイ コンピュータ」画面の[マイ ネットワーク]をクリックする。



- 2 [ネットワーク接続を表示する]をクリックする。



- 3 [NetVolante-LAN]アイコンを選んでから、[この接続を開始する]をクリックする。



- 4 [ユーザー名]に任意の名前を入力し、[パスワード]は空欄、[パスワードの保存]をチェックして[ダイヤル]をクリックする。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。

ヒント

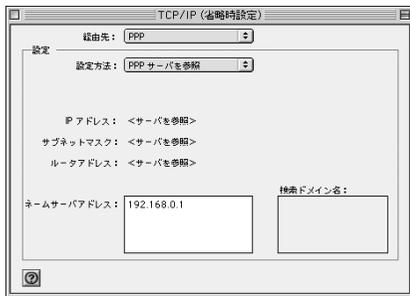
作成した[NetVolante-LAN]アイコンのショートカットをスタートメニューの[スタートアップ]に追加すると、Windowsを起動すると自動的に「NetVolante-LANへ接続」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANにアクセスできます。

MacOS (9以降) の場合

ネットワーク機能を設定する

コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]を設定します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 アップルメニューから[コントロールパネル] - [TCP/IP]を選ぶ。
- 3 以下のように設定する。
 - 経由先: PPP
 - 設定方法: PPPサーバを参照
 - ネームサーバアドレス: 本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)



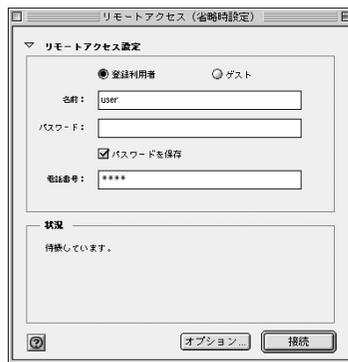
- 4 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。
- 5 アップルメニューから[コントロールパネル] - [モデム]を選ぶ。
- 6 以下のように設定する。
 - 経由先: USB Modem
 - モデム: NetVolante 64k
 - ダイアル: トーン



- 6 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

ダイヤルアップ接続を設定する

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 以下のように設定する。
 - ユーザ ID: 任意のユーザ名
 - パスワード: 空欄
 - パスワードを保存: チェックを付ける。
 - 電話番号: 半角英数字で「****」と入力。



- 3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

LANへ接続する

LANへ接続するときは、コントロールパネルの[リモートアクセス]を開いて本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 [接続]をクリックする。



本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続し、LANにアクセスできるようになります。



ヒント

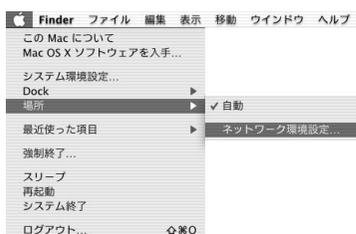
[リモートアクセス]のエイリアスをシステムフォルダ内の[起動項目]フォルダに入れておくと、Macintoshを起動すると自動的に「リモートアクセス」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANへアクセスできます。

MacOS X (10.1以降) の場合

ネットワーク機能を設定する

[ネットワーク]システム環境設定の設定を変更します。

- 1 「USBポート経由の接続を準備する」(70ページ)の手順にしたがって、本機とパソコンの準備をする。
- 2 アップルメニューから[場所] - [ネットワーク環境設定]を選ぶ。



- 3 「場所」から[新しい場所]を選び、新しい場所の名前を入力してから[OK]をクリックする。



- 4 「表示」から[RTA55i]を選ぶ。



ご注意

「RTA55i」が表示されない場合は、Macintoshを再起動してください。

次のページにつづく▶

5 [TCP/IP]タブの[設定]から、[PPPを使用]を選ぶ。



6 [PPP]タブをクリックしてから、以下のように設定する。



- サービスプロバイダ: 任意の名称を入力する。
- 電話番号: 半角英数字で「****」と入力。
- アカウント名: 任意のユーザ名
- パスワード: 空欄
- パスワードを保存: チェックを付ける。

ご注意

[パスワードを保存する]にチェックをつけると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

7 [PPPオプション]をクリックして、表示された「セットアップオプション」画面の[PPPエコーパケットを送信]のチェックを外してから、[OK]をクリックする。

ヒント

無通信タイマによる自動切断を使用しない場合は、手順7は必要ありません。

8 [モデム]タブをクリックしてから、以下のように設定する。



- モデム: NetVolante 64k
- ダイヤル: トーン

9 設定が終わったら、[今すぐ適用]をクリックする。

LANへ接続する

- 1 Finderウィンドウの[アプリケーション]をクリックしてから、[Internet Connect]をダブルクリックする。
- 2 [接続]をクリックする。



本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続し、LANにアクセスできるようになります。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。
NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。
- 4 接続を解除するときは、「Internet Connect」画面の[接続解除]をクリックする。



ヒント

Internet Connectソフトウェアを[システム環境設定]の[ログイン] - [ログイン項目]に登録しておくこと、MacOS Xにログイン後に自動的に[Internet Connect]画面が表示されます。[接続]をクリックするとすぐにLANへアクセスでき、便利です。

第7章 ファイアウォール機能を使う

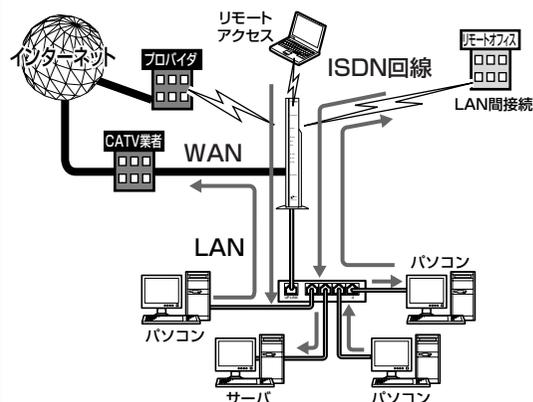
ファイアウォールとは、外部からの不正アクセスを禁止する機能です。この章では、本機のファイアウォール機能を使ったセキュリティ／ルーティング機能や、不正アクセス検知機能について説明します。設定にはネットワークの知識が必要になるものもありますが、該当する例を参考にして、本機の機能を十分活用してください。より専門的な設定例については、付属の「コマンドリファレンス」(PDF形式)やヤマハRTシリーズのホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) をご覧ください。

本機のファイアウォール機能の概要

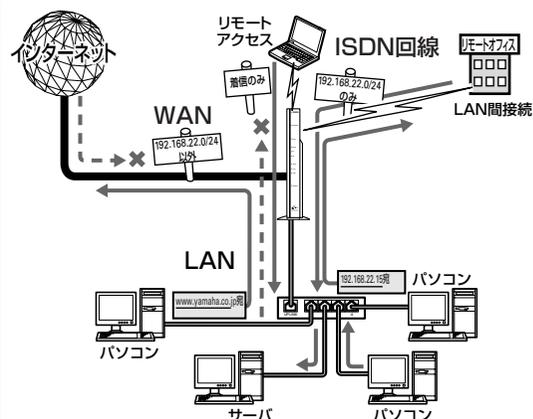
パケット単位のルーティング／セキュリティを設定できます

ネットワークを流れるデータの単位を「パケット」と呼びます。ネットワークに流れているデータは、パケット単位で分割されていて、それぞれが発信元や送信先、データの種類などの情報を持っています。

本来「ルータ」とは、ネットワークを流れるパケットの送信元や送信先、データの種別を監視して、パケットの行き先を制御(ルーティング)する装置のことを呼びます。従来のISDNダイヤルアップルータは、ISDN回線とLANポートの間でルーティングを行っていました。本機はISDN回線に加えてWANポートも装備しているため、ISDN回線とWANポート、LANポートの間でルーティングを行う機能を持っています。



本機では、パケットの条件を設定して不要な自動接続を防止したり、パケットの行き先を指定して複数の接続先を使い分けたりすることができます(フィルタ)。フィルタを設定することで、さまざまなルーティングやセキュリティを設定することが可能になります。



うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

セキュリティ対策の必要性について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、世界中の人たちと電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する不正アクセスの危険に、世界中からさらされることとなります。

特にサーバを公開したりするなど、インターネットに常時接続する環境を導入する場合は、ネットワークの危険についてよくご理解いただいた上で、十分なセキュリティ設定を行うことが必要です。もちろん常時接続する場合以外でも、インターネットに接続している間は、世界中から危険にさらされているという点では同じです。本機の機能を利用して、十分なセキュリティ設定を行ってください。

ご注意

不正アクセスの手段やセキュリティ上の抜け道／穴(セキュリティホール)は、日夜新たに発見されています。本機の機能を含めて、すべての問題を解決できる完璧なセキュリティ対策は存在せず、インターネット接続には常に危険があることをご理解ください。常に新しい情報を入手し、お客様の自己責任でセキュリティ設定を強化することを強くおすすめいたします。

なお、本機を使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

インターネットからの不正アクセスとは

インターネットに接続している間は、悪意のある者からパソコンやルータがアタック(不正なアクセス)される可能性があります。ルータを介してパソコンを接続している場合は、NATやIPマスカレードといったアドレス変換機能によって比較的安全ですが、設定の誤りや不足によって、同様の危険にさらされる場合があります。

本機の設定を改変されたり、パソコンのシステムやデータを破壊された場合、多大なデータの被害や金銭的被害に遭うことも十分に考えられます。本機のフィルタを設定するなどのセキュリティ対策を行って、自己防衛してください。

悪意を持った者がアタックを行うときに主な足がかりにするのが、「グローバルIPアドレス」です

同じグローバルIPアドレスを長時間使用している場合は、不正アクセスの被害にあう確率が高くなります。固定アドレスの専用線やネットワーク型ダイヤルアップ、接続時に割り当てられた動的アドレスを使い続けるフレッツ・ISDN／CATV／ADSL／フレッツ・ADSLなどで接続する場合は、十分なセキュリティを設定することをおすすめいたします。ダイヤルアップ接続でも、グローバルIPアドレスを割り当てられている間は同様です。十分なセキュリティ対策を行うことを、おすすめいたします。

本機のパスワード設定にもご注意ください

パスワードを設定しないで本機を使用することは、セキュリティ上大変危険です。必ずパスワードを設定だけでなく、ときどきパスワードを変更して、本機をお使いください。

接続方法と危険度

接続の種類	グローバルIP アドレスの種類	危険度
端末型ダイヤルアップ接続	動的IPアドレス	× (接続中危険)
ネットワーク型ダイヤルアップ接続	固定IPアドレス	×× (接続中危険)
フレッツ・ISDN接続	動的IPアドレス	×× (長時間接続時危険)
CATV接続	プライベートIP アドレスの場合	× (CATV内アドレスに対して危険)
	動的IPアドレスの場合	×× (長時間接続時危険)
	固定IPアドレスの場合	××× (常に危険)
ADSL接続	動的IPアドレスの場合	×× (長時間接続時危険)
	固定IPアドレスの場合	××× (常に危険)
フレッツ・ADSL接続	動的IPアドレス	×× (長時間接続時危険)
専用線接続	固定IPアドレス	××× (常に危険)

不正アクセスに対抗するには

インターネットの不正アクセスは、いくつかの種類に分けられます。それぞれの対抗手段には次のようなものがあります。

不正なパケットで侵入するもの

- インターネットへの接続を切断したり、グローバルIPアドレスを変更することが、もっとも効果的です。フレッツ・ISDNやフレッツ・ADSLなどの常時接続でも、本機の自動切断機能を設定することで、接続／切断のたびに動的IPアドレスを変更できます。
- パケットフィルタリング式ファイアウォールで、不要なパケットを通さないことも、ある程度効果があります。パケットフィルタリングは、本機のフィルタ設定で登録できます。
- アプリケーション・ゲートウェイ式ファイアウォールソフトウェアも、整合性のないパケットや不審なActiveX、Javaアプレットをパソコンに受け入れないようにするため、かなり効果があります。ウイルス検知ソフトと組み合わせて使うこともできます。ただしこの場合は、ファイアウォール用サーバを設けて、アプリケーション・ゲートウェイ式ファイアウォールソフトウェアをインストールする必要があります。

OSやサーバソフトウェアのセキュリティホールから侵入するもの

OSやサーバソフトウェアのバージョンアップや、適切な設定／運用を行うことで、かなり防止できます。

電子メールの添付ファイルとして侵入するもの

添付ファイルを開くことで、感染します。不審な添付ファイルは開かないことを徹底するだけでなく、パソコンにウイルス検知ソフトウェアをインストールして、ウイルスを早期発見／早期駆除することで、被害を最小限に抑えることができます。

本機のフィルタ設定でできること

本機のフィルタ設定では、接続先ごとに100個までのフィルタを設定できます。それぞれのフィルタでパケットの送信元や送信先、パケットの種類、プロトコルの種類、方向によって、パケットを通さないよう設定できます。不正なアクセスに使われやすいパケットや、あり得ないパケットをルータ通過時に破棄するように設定することで、不正なパケットがLAN内に入ることを防ぐことができます。

ただし、高度に偽装したパケットやメールに添付されるウイルス、ActiveX、Javaアプレットなどのように、正規のパケットとして通過するものは、本機のフィルタで防ぐことはできません。ウイルス検知ソフトウェアやアプリケーション・ゲートウェイ式ファイアウォールソフトウェアを併用するようおすすめいたします。

セキュリティを目的としたフィルタ設定の考えかた

フィルタを設定するときは、以下の考えかたを基本にすると良いでしょう。

LAN側からインターネット側へのアクセス（出力方向）は原則許可し、必要に応じて禁止する

LAN側からインターネット側へのアクセスを厳しく規制すると、非常に使いにくいものになり、管理や設定変更には手間がかかります。原則自由とした上で、問題があればその部分だけ制限します。

インターネット側からLAN側へのアクセス（入力方向）は、原則禁止し、必要に応じて許可する

インターネット側からLAN側へのアクセスは、原則禁止して外部からのアクセスを防ぎます。Webサーバの公開など、必要がある場合にのみ最小限だけ許可します。

ご注意

この場合、インターネット側からのアクセスとは、インターネット側からリクエストが始まったパケットのことを指します。LAN側からリクエストしたパケットの応答パケット（例：URLを指定してホームページのデータを要求する）は、該当しません。応答パケットにはACKフラグという識別子が付くので、ホームページのデータや電子メールの受信に制限はありません。

静的フィルタと動的フィルタ

本機で設定できるフィルタには、次の種類があります。

- **静的フィルタ**:1度設定を行うと、データや通信の有無にかかわらず、常に有効になります。
- **動的フィルタ**:通信状態を監視しながら、必要に応じてフィルタが有効になります。例えば、「通常はインターネットからLANへのデータはすべて禁止にしておき、LAN側からftpのアクセスが発生したときだけ許可する」といった設定ができます。

実際に使用する場合は、それぞれの良いところを併用しながら設定を行います。

「かんたん設定ページ」が自動設定するフィルタ

「かんたん設定ページ」では、各設定に応じて自動的にフィルタを適用します。

プロバイダ接続の場合は

フィルタの組み合わせパターンで、7段階のセキュリティレベルを定義しています。

プロバイダの新規登録時に、接続の種類にあわせて以下の設定を自動的に適用します。セキュリティレベルは、必要に応じて後で変更することができます。

- **自動切断を行う設定**:セキュリティレベル3
- **常時接続を行う設定**:セキュリティレベル4または5

LAN間接続や、リモートアクセスサーバ運用の場合は

Netscape Navigatorを終了する際に、自動的にインターネットへの接続を開始してしまう問題を防ぐフィルタが適用されます。また、Windowsのセキュリティホールに関する定義も自動生成しますので、必要に応じて適用してください。

LANで運用の場合には

WindowsのNetBIOSによる意図しない発信や、Windowsのセキュリティホールへのアクセスを防ぐフィルタが自動的に適用されます。

ご注意

セキュリティレベルや設定内容は予告なく変更する場合があります。

フィルタ番号の意味

本機のフィルタ機能の番号は、ほぼ無制限に利用できますが、かんたん設定ページでは各接続先毎に100個(0番～99番)ずつ設定できるようにしています。以下に「かんたん設定ページ」の利用する、フィルタ番号の対応を示します。

割当領域	コンソールコマンドのフィルタ番号
LAN/WANポート用割当領域	100000～199999
例) LANポートの静的フィルタ(0～99)	100000～100099
WANポートの静的フィルタ(0～99)	101000～101099
接続先設定用割当領域	200000～299999
例) PP01の静的フィルタ(0～99)	200000～200099
PP02の静的フィルタ(0～99)	201000～201099
:	
PP30の静的フィルタ(0～99)	229000～229099
専用線の静的フィルタ(0～99)	231000～231099
Anonymousの静的フィルタ(0～99)	233000～233099
フィルタ型ルーティング用割当領域	500000～599999

ご注意

- セキュリティのために、フィルタの設定変更は機能を十分にご理解の上、行ってください。
- フィルタを多く適用すると、処理が複雑になり、インターネットへのアクセス速度が遅くなる場合があります。

セキュリティレベルを変更する

本機の「かんたん設定ページ」では、フィルタを組み合わせた7段階のセキュリティレベルが定義されています。プロバイダの新規登録時に、接続の種類にあわせて自動的にセキュリティレベルが設定されます。設定されたセキュリティレベルは、必要に応じてあとから変更することもできます。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

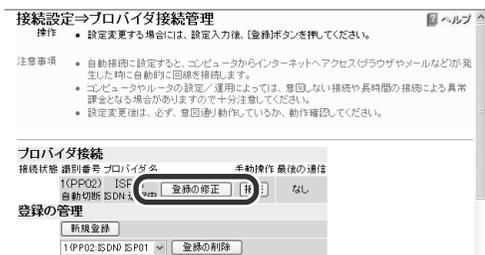
5 接続先名の[登録の修正]をクリックする。

ご注意

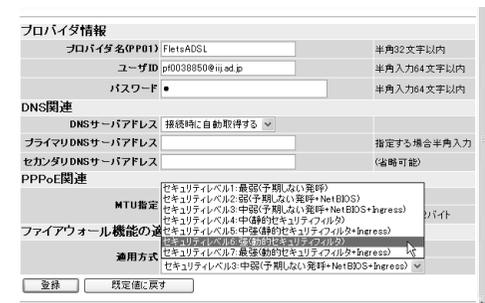
- セキュリティレベルの数字が大きくなるほど、適用されるフィルタが複雑になり、安全性は高くなります。ただし、パソコンの設定やお使いのソフトウェアによっては、インターネットへのアクセスができなくなったり、制限される場合があります。
- ファイアウォール機能を適用しなおすと、手動設定されたフィルタも含めてすべてのフィルタがいったんクリアされ、新たに設定されます。

7 [登録]をクリックする。

セキュリティレベルが選んだレベルに変更されます。



6 [ファイアウォール機能の適用]の[適用方式]でセキュリティレベルを選んでから、[ファイアウォール機能を適用しなおす]にチェックを付ける。



フィルタを設定する

フィルタを設定するには、「かんたん設定ページ」の「ファイアウォール機能」画面またはコンソールコマンドを使用します。

Webブラウザで設定する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

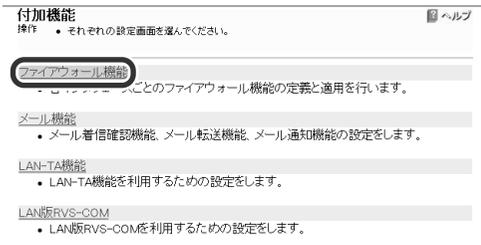
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

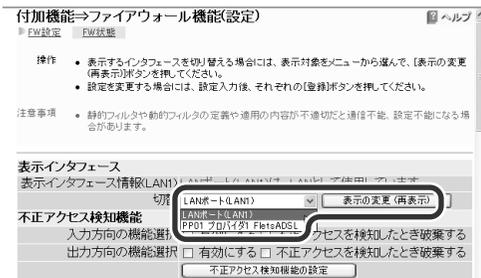
3 [付加機能]をクリックする。

4 [ファイアウォール機能]をクリックする。



5 設定する接続先を選んでから、[表示の変更]をクリックする。

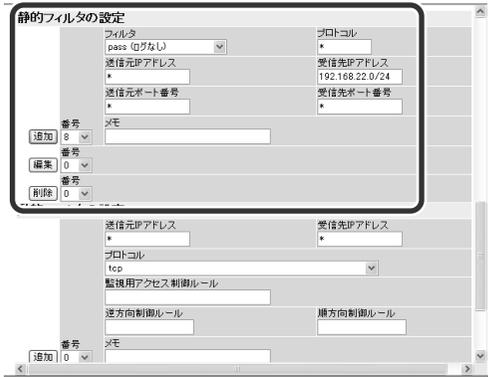
LANポートもひとつの接続先になります。



ご注意

LANを選ぶと、LANポートに接続しているパソコン、およびLANポートに接続しているHUBに接続しているすべてのパソコンが対象になります。

6 [静的フィルタの設定]でフィルタ番号を選んでから、各設定項目を入力する。



フィルタ番号

接続先毎に0~99まで使用できます。
番号の小さい順に設定内容が優先されます。

フィルタ

処理する方法を選びます。

- pass(ログなし): 指定したパケットを通す(記録なし)
- pass(ログあり): 指定したパケットを通す(記録あり)
- reject(ログなし): 指定したパケットを通さない(記録なし)
- reject(ログあり): 指定したパケットを通さない(記録あり)
- restrict(破棄時ログあり): 接続中だけ指定したパケットを通し、破棄したパケットの記録を残す
- restrict(ログなし): 接続中だけ指定したパケットを通す(記録なし)
- restrict(ログあり): 接続中だけ指定したパケットを通す(記録あり)

次のページにつづく▶

プロトコル フィルタの対象にするプロトコルを入力します。

例) * (すべてのプロトコルを指定)
 tcp (1つのプロトコルを指定)
 tcpfin, tcprst(“, ”で区切って複数指定)

- *: すべて
- tcp: TCPパケット
- established: 応答TCPパケット (ACKフラグのあるTCPパケット)
- tcpfin: FINフラグのあるTCPパケット
- tcprst: RSTフラグのあるTCPパケット
- udp: UDPパケット
- icmp: ICMPパケット
- icmp-error: エラー通知のためのICMPパケット
- icmp-info: 情報通知または診断のためのICMPパケット
- ah: IPsecのahパケット
- esp: IPsecのespパケット

送信元IPアドレス

送信元のIPアドレスを入力します。単独アドレスでもネットワークアドレス(アドレス範囲)でも指定できます。すべての場合は、「*」を入力します。

例) 192.168.0.13 (個別のIPアドレスで指定)
 192.168.0.0/24 (ネットワーク範囲で指定)
 192.168.0.20-192.168.0.50 (IPアドレス範囲で指定)

送信元ポート

送信元アプリケーションソフトの種類を示すポート番号または二ーモニクを入力します。

例) * (すべてのポート番号を指定)
 137-139 (NetBIOS関係のポート番号で指定)
 www, pop3, ftp (二ーモニクで指定)

- *: すべて
- 23(telnet): telnet
- 25(smtp): 電子メール(送信)
- 70(gopher): インターネット情報検索システム
- 79(finger): 機器利用ユーザの情報を調べる機能
- 80(http): ホームページ閲覧、Webサーバ公開
- 110(pop3): 電子メール(受信)
- 113(ident): 電子メール(ユーザ認証)
- 119(nntp): ネットワークニュース
- 123(ntp): ネットワーク時刻合わせ
- 137(netbios_ns): NetBIOS名前解決
- 138(netbios_dgm): NetBIOSデータグラム転送
- 139(netbios_ssn): NetBIOSストリームデータ転送(Windowsファイル共有)
- 194(irc): インターネット・リレー・チャット
- 443(https): 暗号化されたWebサーバ
- 445(microsoft-ds): Windows 2000のSMB
- 1723:PPTP(Microsoft VPN Adapter)

受信先IPアドレス

受信先のIPアドレスを入力します。単独アドレスでもネットワークアドレス(アドレス範囲)でも指定できます。すべての場合は、「*」を入力します。

受信先ポート

受信先アプリケーションソフトの種類を示すポート番号を入力します。すべての場合は、「*」を入力します。

メモ 設定したフィルタの説明を記入することができます。半角英数字が使用できます。

ご注意

フィルタの具体的な設定例については、「フィルタの設定例」(123ページ)をご覧ください。

7 [追加]をクリックする。

フィルタ一覧に追加されます。

8 フィルタを設定する方向にチェックを付けてから、[適用]をクリックする。

番号	適用	方向	プロトコル	送信元 IPアドレス	ポート	送信先 IPアドレス	ポート	メモ
1	<input type="checkbox"/>	入	reject	udp	*	138	*	Windows: DCE RPC
2	<input type="checkbox"/>	出	reject	udp	*	*	138	Windows: DCE RPC
3	<input type="checkbox"/>	入	reject	udp	*	137-138	*	Windows: NetBIOS (NS, I)
4	<input type="checkbox"/>	出	reject	udp	*	*	137-138	Windows: NetBIOS (NS, I)
5	<input type="checkbox"/>	入	reject	udp	*	139	*	Windows: NetBIOS (SSH)
6	<input type="checkbox"/>	出	reject	udp	*	*	139	Windows: NetBIOS (SSH)
7	<input type="checkbox"/>	入	reject	udp	*	445	*	Windows: Direct Hostings
8	<input type="checkbox"/>	出	reject	udp	*	*	445	Windows: Direct Hostings
9	<input type="checkbox"/>	入	allow	しない	*	*	192.168.22.0/24	
10	<input type="checkbox"/>	出	allow	しない	*	*	*	pass all

静的フィルタの一覧
登録されていません。

動的フィルタの一覧
登録されていません。

静的フィルタと動的フィルタの適用
[適用] チェックされている静的フィルタと動的フィルタの定義を適用する

動的フィルタ用アクセス制御ルールの一覧
登録されていません。

適用 対象にするパケットの流れる向きを指定します。

- 入: 接続先から入ってくるパケット
- 出: 接続先へ出て行くパケット

9 複数のフィルタを設定する場合は、手順5~7の操作を繰り返す。

コンソールコマンドで設定する

LANポートに接続しているパソコンからTELNETソフトで本機にログインし、コンソールコマンドを送信して設定します。ここでは、Windows標準のTELNETを使用する場合の操作を説明します。Macintoshではフリーウェアなどをお使いください(MacOS Xでは、MacOS Xに付属のTerminalソフトウェアからTELNETを使用できます)。

1 [スタート]メニューをクリックして、[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2 [telnet setup.netvolante.jp]と入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開くこともできます。



3 「Password:」と表示されたら、ログインパスワードを入力してから、Enterキーを押す。

何も表示されなければ一度リターンキーを押します。

「>」の文字が表示されると、コンソールコマンドが入力できます。

```

Telnet setup.netvolante.jp
Password:
RT455i Rev.4.06.03 (alpha version) (Fri Feb 22 15:19:39 2002)
Copyright (c) 1994-2002 Yanaha Corporation.
Copyright (c) 1998-2000 Tokyo Institute of Technology.
Copyright (c) 2000 Japan Advanced Institute of Science and Technology, HOKURIKU
U.
00:a0:de:00:4f:1a, 00:a0:de:00:4f:1b
Memory 8Mbytes, 2LAN, 1BR1
> administrator
Password:
# ip filter 200001 reject * * udp,tcp 137-139 *
# ip filter 200002 reject * * udp,tcp * 137-139
# ip filter 200099 pass * * * *
# po select 1
pp# ip po secure filter out 200001 200002 200099
pp# save
セーブ中...
セーブ終了
pp# quit
pp> quit

```

ヒント

以下のコマンドを入力してからEnterキーを押すと、説明が表示されます。

- help: キー操作の説明が表示されます。
- show command: コマンド一覧が表示されます。

4 「administrator」と入力してから、Enterキーを押す。

5 「Password:」と表示されたら、管理パスワードを入力する。

「#」の文字が表示されると、各種ルータコンソールコマンドが入力できます。

コンソールコマンドの種類と働きについて詳しくは、コマンドリファレンスをご覧ください。

6 フィルタコマンドを入力してから、Enterキーを押す。

複数のフィルタを設定する場合は、フィルタコマンド入力操作を繰り返してください。

設定例:

NetBIOSのデータで発信しないようにする

```
ip filter 200001 reject * * udp,tcp 137-139 *
```

(どの機器から送信されたものであっても、NetBIOS、TCPとUDPプロトコルのデータを通さない)

```
ip filter 200002 reject * * udp,tcp * 137-139
```

(どの機器から送信されたものであっても、NetBIOS、TCPとUDPプロトコルのデータを通さない)

```
ip filter 200099 pass * * * *
```

(その他の全データを通す)

ご注意

- フィルタの具体的な設定例については、「フィルタの設定例」(次ページ)をご覧ください。
- フィルタコマンド「ip filter」について詳しくは、コマンドリファレンスをご覧ください。

7 フィルタを有効にするコマンドを入力してから、Enterキーを押す。

接続先の方向毎にコマンドを入力してください。

設定例:

プロバイダ (PP01) へ出るパケットに200001、200002、200099のフィルタを有効にする

```
pp select 1
```

(接続先を選択)

```
ip pp secure filter out 200001 200002 200099
```

(適用する方向とフィルタ番号を指定)

ご注意

- フィルタの具体的な設定例については、「フィルタの設定例」(次ページ)をご覧ください。
- 「ip pp secure filter」コマンドについては、コマンドリファレンスをご覧ください。

8 設定が終わったら「save」と入力してからEnterキーを押して、設定を本機に保存する。

9 設定を終了するには、「quit」と入力してから、Enterキーを押す。

10 コンソールを終了するには、もう1度「quit」と入力してから、Enterキーを押す。

フィルタの設定例

ここでは、よく使われるフィルタの設定例を紹介します。例を参考に、実際使用している接続先やプライベートIPアドレスに合わせて入力してください。

ここでは、下記の接続先条件を例に説明しています。

- PP01:ダイヤルアップによるプロバイダ接続
- PP02:LAN間接続(192.168.22.0/24)
- PP03:リモートアクセスユーザ
- LEASED:専用線接続(133.176.200.0/28)
- LAN:LANに接続したパソコン
- WAN:WANポート(インターネット)経由で接続されるパソコン

フィルタ設定の考えかた

フィルタは「接続先、IN/OUT、始点アドレスの始点ポート/終点アドレスの終点ポート、プロトコル、タイプ」という順序で構成されていますので、「どこから来た(へ行く)、どこから始まるどんなパケットを、どうする」と日本語で考えると、フィルタを作りやすくなります。

例1:プロバイダから来た、すべてのNetBIOS関連のtcpとudpパケットを、通さず記録しない

このフィルタは「PP01 IN * 137-138 tcp,udp reject-nolog」と表現されます。

つまり、「PP01(プロバイダ) IN(から来る) *(すべての) 137-138(NetBIOS関連) tcp,udp(tcpとudpパケット) reject-nolog(通さずに記録しない)」こととなります。

例2:ADSLへ行く、すべてのNetBIOS関連のtcpとudpパケットを、通さず記録する

このフィルタは「wan OUT * 137-138 tcp,udp reject-log」と表現されます。

つまり、「wan(WANポートに接続された回線、この場合はADSL) OUT(へ出ていく) *(すべての) 137-138(NetBIOS関連) tcp,udp(tcpとudpパケット) reject-log(通さずに記録する)」こととなります。

すこし難しいかもしれませんが、以下の設定例を通してフィルタ設定の考えかたに慣れて、本機のフィルタ機能をぜひ使いこなしてください。

意図しない発信を防ぐ フィルタの設定例

Windowsのファイル共有による 自動接続を防ぐ

Windowsのネットワークでは、NetBIOS over TCP/IP プロトコルが使われています。ネットワーク内のNetBIOSパケットにより、自動接続してしまうことがあります。また、Windowsファイル共有やPersonal Webサーバ機能を使っている場合は、接続先側から覗かれてしまう場合もあります。防ぎたい場合は、接続先へNetBIOSパケットが出入りしないようにフィルタを設定します。

ダイヤルアップ接続プロバイダにNetBIOSパケットを一切通さない設定例

NetBIOS関係のポート137~139に加えて、Windows 2000のファイル共有に使用するSMBプロトコルのポート445を出入り共に通さず、その他を通すように設定します。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) **プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (S/D/N)**
切替 PP01 プロバイダ Provider 表示の変更(再表示)
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ		適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
番号	入	出	IPアドレス				ポート	IPアドレス	ポート		
22	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	137-139	*	*	
23	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	*	137-139	
24	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	445	*	*	
25	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	*	445	
99	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200022 reject-log * * udp,tcp 137-139 *
ip filter 200023 reject-log * * udp,tcp * 137-139
ip filter 200024 reject-log * * udp,tcp 445 *
ip filter 200025 reject-log * * udp,tcp * 445
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter in 200022 200023 200024 200025
200099
ip pp secure filter out 200022 200023 200024 200025
200099
```

LAN間接続でWindowsファイル共有のみ通す設定例

NetBIOS関係のポート番号137~138のパケットを出入り共に通さず、ファイル共有に必要な139やその他を通すように設定します。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(LAN2) プロバイダ接続に使用しています。設定名: Provider (WAN)

切替 | PPO2 LAN間接続 WestOffice | 表示の変更

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用 入 出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
					IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
22	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	137-138	*	*	
23	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	137-138	
24	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	445	*	*	
25	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	445	
99	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 210022 reject-log * * udp,tcp 137-138 *
ip filter 210023 reject-log * * udp,tcp * 137-138
ip filter 210024 reject-log * * udp,tcp 445 *
ip filter 210025 reject-log * * udp,tcp * 445
ip filter 210099 pass-nolog * * * * *
pp select 2
ip pp secure filter in 210022 210023 210024 210025
210099
ip pp secure filter out 210022 210023 210024 210025
210099
```

ネットワーク時刻合わせによる自動接続を防ぐ

NTPやSNTPサーバで時刻を合わせる機能では、ntpポートが使われます。ネットワーク内パソコンからネットワーク時刻合わせを禁止したいときは、ntpポートのパケットを通さず、その他を通すように設定します。

restrictを指定すると、すでにプロバイダに接続しているときは通しますが、切断中は通しませんので、ネットワーク時刻合わせのためだけに自動接続することを防ぐことができます。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名: Provider (GSDN)

切替 | PP01 プロバイダ Provider | 表示の変更 (再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用 入 出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
					IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
32	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	restrict	しない	tcp	*	*	*	123	
99	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200032 restrict-nolog * * tcp * 123
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200032 200099
ip pp secure filter in 200099
```

インターネット速度計による自動接続を防ぐ

インターネット速度計ソフトは、icmpプロトコルで定期的にpingを発信して応答速度を計測しています。インターネット速度計ソフトによる自動接続を禁止したいときは、icmpプロトコルのパケットを通さず、その他を通すように設定します。restrictを指定すると、すでにプロバイダに接続しているときは通しますが、切断中は通しませんので、インターネット速度計ソフトによる余計な自動接続を防ぐことができます。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider(OSDN)
切替 PP01 プロバイダ1 Provider 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
番号	適用				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
30	<input type="checkbox"/>	restrict	しない	icmp	*	*	*	*	
99	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200030 restrict-nolog * * icmp * *
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200030 200099
ip pp secure filter in 200099
```

Netscape Communicator/Navigator 4.0以降による自動接続を防ぐ

Netscape Communicator/Navigator 4.0以降では、終了するときにtcpfinやtcprstプロトコルのパケットを送る場合があります、自動接続の原因になっています。

Netscape Communicator/Navigator終了時の自動接続を防ぎたいときは、tcpfinやtcprstプロトコルのパケットを通さず、その他を通すように設定します。restrictを指定すると、すでにプロバイダに接続しているときは通しますが、切断中は通しませんので、tcpfinやtcprstプロトコルのパケットによる、余計な自動接続を防ぐことができます。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider(OSDN)
切替 PP01 プロバイダ1 Provider 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
番号	適用				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
26	<input type="checkbox"/>	restrict	破棄時	tcpfin	*	*	*	80,21,119	
27	<input type="checkbox"/>	restrict	破棄時	tcprst	*	*	*	80,21,119	
99	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200026 restrict-log * * tcpfin * 80,21,119
ip filter 200027 restrict-log * * tcprst * 80,21,119
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200026 200027 200099
ip pp secure filter in 200099
```

セキュリティの設定例

特定のパソコンにインターネット接続を禁止する

LAN内の特定のパソコンがインターネットに接続できないようにするには、発信元IPアドレスによるフィルタを設定します。複数のパソコンを指定したい場合は、ネットワーク範囲で設定することができます。不要なパケットを通さないことにより、好ましくない自動接続を防ぐことができます。

ご注意

この設定を使うには、あらかじめLAN内のパソコンに固定プライベートアドレスを設定する必要があります。設定方法については、「パソコンのIPアドレスを管理する」(190ページ)をご覧ください。

表示インタフェース	
表示インタフェース情報(PP01)プロバイダ接続に使用しています。設定名:OCNNeo	
切替	PP01 プロバイダ Provider
表示の変更 (再表示)	
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)	
入力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定	

静的フィルタの一覧									
番号	適用 入 出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元 IPアドレス	ポート	受信先 IPアドレス	ポート	メモ
14	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.22	*	*	*	
15	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.42-192.168.0.45	*	*	*	
99	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200014 reject-log 192.168.0.22 * * * *
ip filter 200015 reject-log 192.168.0.42-192.168.0.45
* * * *
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200014 200015 200099
```

特定のサーバをインターネットに公開する

専用線でLAN内のサーバをインターネットに公開する場合は、送信先IPアドレスによるフィルタを設定します。不要なアクセスを防ぐため、サーバの種類によって公開するポートもあわせて設定してください。

ご注意

サーバを公開するには、その他にもルータやサーバの設定が必要です。設定方法については、「外部にサーバを公開する」(169ページ)をご覧ください。

サーバへのWWWとメールアクセスを通す設定例

表示インタフェース	
表示インタフェース情報(専用線)プロバイダ接続に使用しています。設定名:OCNNeo	
切替	専用線によるプロバイダ接続
表示の変更	
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)	
入力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定	

静的フィルタ									
番号	適用 入 出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
4	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	pass	する	udp,tcp	192.168.0.2	*	*	80,110,113	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 230004 pass-log 192.168.0.2 * udp,tcp *
80,110,113
pp select leased
ip pp secure filter in 230004
```

発信元IPアドレス偽装による不正アクセスを防ぐ

LAN内のプライベートIPアドレスを装って、LANの外から不正アクセスされることがあります。この手法は「ip spoofing攻撃」や「land攻撃」、「smurf攻撃」と呼ばれています。これらの攻撃を回避するには、発信元IPアドレスがプライベートIPアドレスの場合や、自分に割り当てられたグローバルIPアドレスの場合に、パケットを通さないようなフィルタを設定します。

プロバイダ側やWAN側からプライベートIPアドレスでアクセスされることはあり得ませんし、自分のネットワークに割り当てられたグローバルIPアドレスで他からアクセスされることもあり得ませんので、実用上の問題はありません。また、LAN側からプロバイダ側やWAN側へ出るパケットにも設定すると、間違ったパケットがLANの外部に出ることも同時に防ぐことができます。

ご注意

CATV接続の場合など、プロバイダのネットワーク内でプライベートIPアドレスが使われている場合がありますので、そのアドレスは設定しないでください。

プロバイダ接続で固定グローバルIPアドレスを使っていない場合の設定例

表示インタフェース	
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider(GSDN)	
切替	PP01 プロバイダ1 Provider
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)	
入力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき 破棄する
出力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき 破棄する
不正アクセス検知機能の設定	

静的フィルタ		通用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
番号	入	出	IPアドレス				ポート	IPアドレス	ポート		
0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	10.0.0.0/8	*	*	*	*	
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	172.16.0.0/12	*	*	*	*	
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/16	*	*	*	*	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	133.176.200.0/28	*	*	*	*	
10	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	10.0.0.0/8	*	*	
11	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	172.16.0.0/12	*	*	
12	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	192.168.0.0/16	*	*	
13	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	133.176.200.0/28	*	*	
98	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	133.176.200.0/28	*	*	
99	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	133.176.200.0/28	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200000 reject-log 10.0.0.0/8 * * * *
ip filter 200001 reject-log 172.16.0.0/12 * * * *
ip filter 200002 reject-log 192.168.0.0/16 * * * *
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter in 200000 200001 200002 200099
```

プロバイダ接続で固定グローバルIPアドレスを使っている場合の設定例

ここでは、グローバルIPアドレス(133.176.200.0/28)を割り当てられている場合を例にしています。実際には、ご自分に割り当てられたグローバルIPアドレスを入力してください。

表示インタフェース	
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider(GSDN)	
切替	PP01 プロバイダ1 Provider
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)	
入力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき 破棄する
出力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき 破棄する
不正アクセス検知機能の設定	

静的フィルタ		通用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
番号	入	出	IPアドレス				ポート	IPアドレス	ポート		
0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	10.0.0.0/8	*	*	*	*	
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	172.16.0.0/12	*	*	*	*	
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/16	*	*	*	*	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	133.176.200.0/28	*	*	*	*	
10	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	10.0.0.0/8	*	*	
11	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	172.16.0.0/12	*	*	
12	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	192.168.0.0/16	*	*	
13	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	*	*	*	133.176.200.0/28	*	*	
98	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	133.176.200.0/28	*	*	
99	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	133.176.200.0/28	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200000 reject-log 10.0.0.0/8 * * * *
ip filter 200001 reject-log 172.16.0.0/12 * * * *
ip filter 200002 reject-log 192.168.0.0/16 * * * *
ip filter 200003 reject-log 133.176.200.0/28 * * * *
*
ip filter 200098 pass-nolog * 133.176.200.0/28 * *
*
pp select 1
ip pp secure filter in 200000 200001 200002 200003
200098
ip filter 200010 reject-log * 10.0.0.0/8 * * *
ip filter 200011 reject-log * 172.16.0.0/12 * * *
ip filter 200012 reject-log * 192.168.0.0/16 * * *
ip filter 200013 reject-log * 133.176.200.0/28 * *
*
ip filter 200099 pass-nolog 133.176.200.0/28 * * *
*
pp select 1
ip pp secure filter out 200010 200011 200012 200013
200099
```

LAN側のネットワークを守る設定例 (静的フィルタ)

LAN内のパソコンでインターネット接続を行い、外部からのアクセスを静的フィルタで制限する場合の設定です。接続先設定の入力で制限を行い、出力では制限していません。

ご注意

LAN内に各種サーバを設置したり、UDPを利用する場合は、それぞれの通信を可能にするための静的passフィルタを、入力側に追加して適用する必要があります。より高いセキュリティが必要な場合は、動的フィルタを使用した設定例を参考にしてください。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (GSDN)

切替 [PP01 プロバイダ Provider] 表示の変更 (再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ										
番号	適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/24	*	*	*	
30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	icmp	*	*	192.168.0.0/24	*	
31	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	established	*	*	192.168.0.0/24	*	
32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	*	192.168.0.0/24	113	
33	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	20	1192.168.0.0/24	*	
35	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	udp	*	53	1192.168.0.0/24	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200003 reject 192.168.0.0/24 * * * *
ip filter 200030 pass * 192.168.0.0/24 icmp * *
ip filter 200031 pass * 192.168.0.0/24 established
* *
ip filter 200032 pass * 192.168.0.0/24 tcp * ident
ip filter 200033 pass * 192.168.0.0/24 tcp ftpdata
*
ip filter 200035 pass * 192.168.0.0/24 udp domain *
pp select 1
ip pp secure filter in 200003 200030 200031 200032
200033 200035
```

LAN側のネットワークを守る設定例 (静的フィルタ+動的フィルタ)

LAN内のパソコンでインターネット接続を行い、外部からのアクセスを静的フィルタと動的フィルタの両方を組み合わせて制限する場合の設定です。

静的フィルタでは、動的フィルタで制限できないパケットを接続先設定の入力で制限します。動的フィルタでは、接続先設定の出力で制限しています。

ご注意

LAN内に各種サーバを設置する場合は、それぞれの通信を可能にするための静的passフィルタを、入力側に追加して適用する必要があります。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (GSDN)

切替 [PP01 プロバイダ Provider] 表示の変更 (再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ										
番号	適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/24	*	*	*	
30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	icmp	*	*	192.168.0.0/24	*	
32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	*	192.168.0.0/24	113	

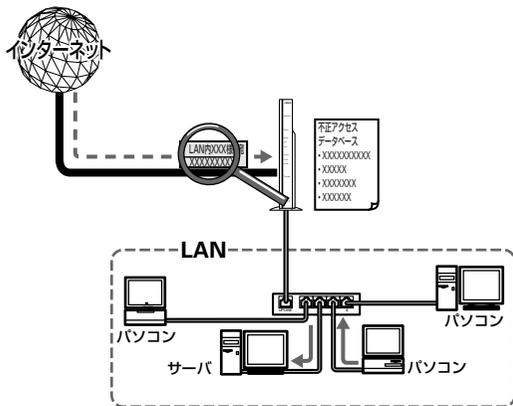
動的フィルタの一覧											
番号	適用		プロトコル	監視	順序	方向	逆方向	送信元		受信先	メモ
	入	出						IPアドレス	IPアドレス		
80	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ftp					*	*		
98	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	tcp					*	*		
99	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	udp					*	*		

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200003 reject 192.168.0.0/24 * * * *
ip filter 200030 pass * 192.168.0.0/24 icmp * *
ip filter 200032 pass * 192.168.0.0/24 tcp * ident
ip filter dynamic 200080 * * ftp
ip filter dynamic 200098 * * tcp
ip filter dynamic 200099 * * udp
pp select 1
ip pp secure filter in 200003 200030 200032
ip pp secure filter out dynamic 200080 200098 200099
```

不正アクセスを検出して警告する

不正アクセス検知機能は、インターネットからの侵入や攻撃などを検出して、警告する機能です。ルータを通過するパケットを、ルータ内の侵入／攻撃パターンのデータベースと比較して、不正アクセスが疑われるパケットを記録／破棄できます。また、この情報を元に不審な発信元やアプリケーションを通さないフィルタを設定することで、よりセキュリティを高めることができます。



ご注意

- 不正アクセスの手段や侵入／攻撃パターンは、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。この機能ですべての不正アクセスを検知できるものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- この機能は侵入／攻撃パターンに近いものを検知する機能ですので、タイミングなどさまざまな理由により、検知できない場合があります。また、検知されたパターンが必ずしも重大な不正アクセスであることを判断するものではありません。あくまでセキュリティ管理の目安であることをご理解の上、ご利用ください。
- 本機能は各インタフェース、入出力に適用可能ですが、適用数によっては、インターネットなどへのアクセス速度が遅くなる場合があります。

不正アクセス検知機能を設定する

不正アクセス検知機能の設定は、「かんたん設定ページ」の「ファイアウォール機能」画面で行います。インタフェースごとに、検知するパケットの方向や検知時の処理方法を設定できます。

ご注意

- 不正アクセス検知機能を有効にすると、侵入検知の際にブザーが鳴るように工場出荷状態では設定されています。ブザーを鳴らしたくないときは、「かんたん設定ページ」-「システム管理」-「ルータ設定」画面の「ブザー設定」で変更できます。
- 不正アクセス検知機能は各インタフェース、入出力に適用可能ですが、適用数によってはインターネットなどへのアクセス速度が遅くなる場合があります。

1 Webブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

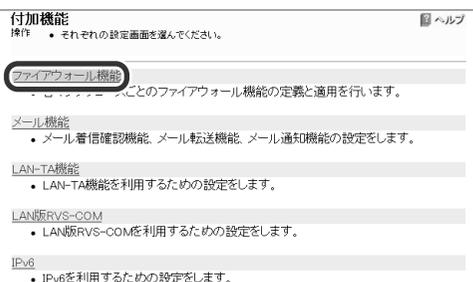
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [付加機能]をクリックする。

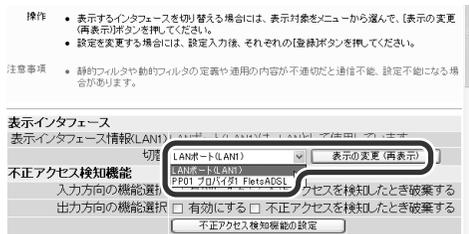
4 [ファイアウォール機能]をクリックする。



次のページにつづく▶

5 設定する接続先を選んでから、[表示の変更]をクリックする。

通常は、インターネットに接続するインタフェース(PPxxやWAN)を選びます。



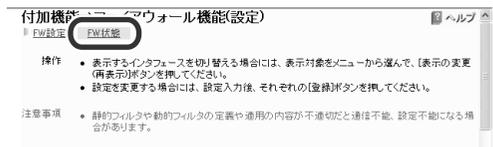
6 [不正アクセス検知機能]の[入力方向の機能選択]または[出力方向の機能選択]で機能を設定してから、[不正アクセス検知機能の設定]をクリックする。



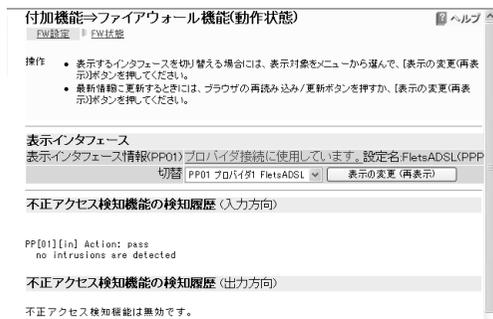
不正アクセス検知履歴を確認する

不正アクセス検知履歴は、「かんたん設定ページ」-「ファイアウォール機能」-「FW状態」画面で確認できます。

- 1 129ページの手順1~4の操作を行う。
- 2 [FW状態]をクリックする。



不正アクセスの検知履歴が表示されます。



ご注意

- 不正アクセス検知機能を有効にすると、侵入検知の際にブザーが鳴るように工場出荷状態では設定されています。ブザーを鳴らしたくないときは、「かんたん設定ページ」-「システム管理」-「ルータ設定」画面の「ブザー設定」で変更できます。
- 不正アクセスの手段や侵入/攻撃パターンは、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。この機能ですべての不正アクセスを検知できるものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- この機能は侵入/攻撃パターンに近いものを検知する機能ですので、タイミングなどさまざまな理由により、検知できない場合があります。また、検知されたパターンが必ずしも重大な不正アクセスであることを判断するものではありません。あくまでセキュリティ管理の目安であることをご理解の上、ご利用ください。

ヒント

不正アクセスを検知した場合に、自動的にメールで知らせるように設定することもできます。外出先からでも不正アクセスがないかどうか監視したいときに便利です。詳しくは「不正アクセス検知をメールで通知する」(67ページ)をご覧ください。

入力方向の機能選択

インタフェースから入ってくるパケットに対する機能を設定します。

- 有効にする:不正アクセスを検知すると、記録します。
- 不正アクセスを検知したとき破棄する:不正アクセスを検知すると、不正アクセス検知履歴に記録してから、そのパケットを破棄します。

出力方向の機能選択

インタフェースへ出ていくパケットに対する機能を設定します。

- 有効にする:不正アクセスを検知すると、記録します。
- 不正アクセスを検知したとき破棄する:不正アクセスを検知すると、不正アクセス検知履歴に記録してから、そのパケットを破棄します。

第8章 ルータを 使いこなす

この章では、本機を使いこなすための活用例を紹介します。設定によってはネットワークの知識が必要になるものもありますが、該当する例を参考にして、本機をご活用ください。より専門的な設定例については、「コマンドリファレンス」、ヤマハRTシリーズのホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) をご覧ください。

本機へのアクセスを制限する

本機には、本機自体のセキュリティを確保するために、パスワード機能や利用ホスト制限機能を装備しています。これらの機能を利用することで、第三者が不正にルータの設定を変更できないように設定できます。

パスワードには2種類があります

パスワードには「管理パスワード」と「ログインパスワード」の2つの種類があり、以下のような機能の違いがあります。

- **管理パスワード**: すべての画面の設定を閲覧/変更できます。
- **ログインパスワード**: 「手動接続と切断」「料金と通信の記録」の設定のみ閲覧/変更できます。

ご注意

本機の「かんたん設定ページ」を最初に開いたときに設定するパスワードは、「管理パスワード」です。また、最初はログインパスワードにも管理パスワードと同じものが設定されます。

パスワードや利用ホスト制限の設定は、「かんたん設定ページ」の「ルータ設定」画面で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

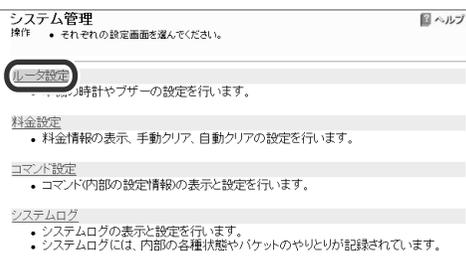
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

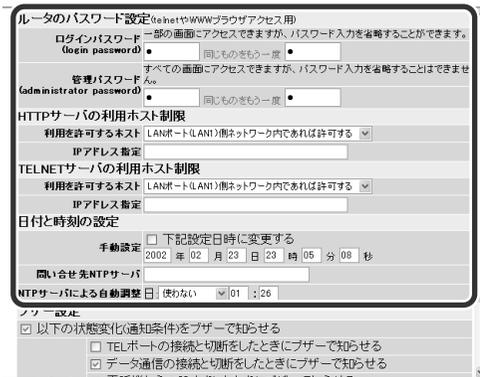
3 画面左側の[システム管理]をクリックする。

4 [ルータ設定]をクリックする。



うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

5 必要なセキュリティ項目を設定する。



ログインパスワード

一般ユーザ用のパスワードを設定します。2つとも同じパスワードを入力してください。

管理者パスワード

ルータ管理者用のパスワードを設定します。2つとも同じパスワードを入力してください。

HTTPサーバ利用者制限

Webブラウザで本機の設定を変更できるパソコンを指定します。

- **すべて許可する:** LAN側やWAN側、ISDN側のパソコンすべてに許可します。
- **同一ネットワーク内であれば許可する:** LAN側とWAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **LANポート(LAN1)側ネットワーク内であれば許可する:** LAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **WANポート(LAN2)側ネットワーク内であれば許可する:** WAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **指定したIPアドレスを許可:** 指定したIPアドレスのパソコンにのみ許可します。

TELNETサーバ利用者制限

TELNETで本機の設定を変更できるパソコンを指定します。

- **すべて許可する:** LAN側やWAN側、ISDN側のパソコンすべてに許可します。
- **同一ネットワーク内であれば許可する:** LAN側とWAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **LANポート(LAN1)側ネットワーク内であれば許可する:** LAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **WANポート(LAN2)側ネットワーク内であれば許可する:** WAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **すべて許可しない:** TELNETによる設定操作を禁止します。コンソールコマンドや電話機で設定してください。
- **指定したIPアドレスを許可:** 指定したIPアドレスのパソコンにのみ許可します。

6 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されます。

本機の設定を変更する

ブザー音の設定を変更する

本機にはブザーが内蔵されており、工場出荷状態ではインターネットへ接続するときと切断するときにはブザー音が鳴るように設定されています。ブザー音は、「かんたん設定ページ」の「システム管理」画面で止めたり、鳴らしたりすることができます。

ご注意

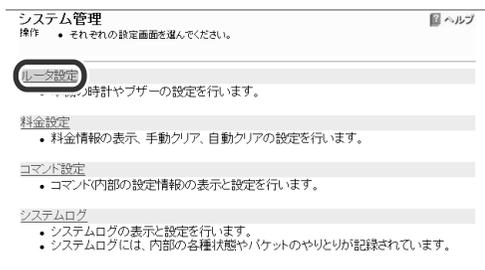
電池駆動時は、ブザー音は鳴りません。

- 1 パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。
- 2 「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。
本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 3 ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

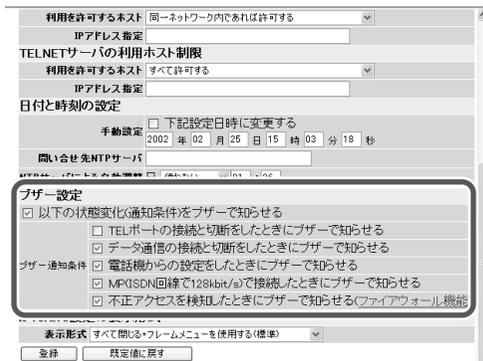


「トップ」画面が表示されます。

- 4 画面左側の[システム管理]をクリックする。
- 5 [ルータ設定]をクリックする。



- 6 ブザー設定でブザー音の動作を設定する。
設定できる条件は、以下の通りです。



以下の状態変化(通知条件)をブザーで知らせる

ブザー音を止めたいときはチェックを外します。鳴らしたいときはチェックを付けて、条件を選びます。

- TELポートの接続と切断をしたときにブザーで知らせる: TELポートに接続した電話機やFAXで発信/着信/切断するたびに、ブザーが鳴ります。
- データ通信の接続と切断をしたときにブザーで知らせる: ルータ機能やTA機能で発信や切断するたびに、ブザーが鳴ります。
- 電話機からの設定をしたときにブザーで知らせる: TELポートに接続した電話機で設定操作を行うと、ブザーが鳴ります。
- MP(ISDN回線で128kbit/s)で接続したときにブザーで知らせる: 128kbit/sMP接続で設定したプロバイダに発信するたびに、ブザーが鳴ります。
- 不正アクセスを検知したときにブザーで知らせる(ファイアウォール機能): 本機のファイアウォール機能を設定してある場合、不正アクセスを検知した時にブザーが鳴ります。

- 7 設定が終わったら、[登録]をクリックする。

本機のIPアドレスを変更する

すでにプライベートIPアドレスが指定されているLANに本機を導入する場合は、本機のIPアドレスを変更する必要があります。IPアドレスを変更する前に、本機に割り当てるIPアドレスとネットマスクをLANの管理者にお問い合わせください。

ご注意

- 専用線接続されていて、LAN内の各パソコンにグローバルIPアドレスを設定している場合は、必ずプロバイダの接続情報を確認してから作業してください。不安なときは、プロバイダまたは電話事業者の技術者にご相談ください。万一間違ったIPアドレスを設定してしまうと、LAN外のホストやネットワークに問題が起きることがあります。
- 管理者がいないときは、LAN内のすべての機器のプライベートIPアドレス設定を調べて、ネットマスクの設定値と、重複しないIPアドレスを決めてください。

ヒント

パソコンのIPアドレスを変更するには、「パソコンのIPアドレスを管理する」(190ページ)をご覧ください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [LAN/WAN設定]をクリックする。

5 [プライマリ・IPアドレス]で本機のIPアドレスとネットマスク、DHCPサーバのIPアドレス割り当て範囲とネットマスクを設定する。



6 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

ご注意

ルータのIPアドレスを変更した場合、LAN上の各パソコンのIPアドレスをリセットする必要があります(195ページ)。

本機の時刻を自動的に合わせる

インターネット上のNTPサーバ(時刻配信サーバ)を利用して、本機の時刻を自動的に合わせることができます。また、NTPサーバを利用して手動で時刻を合わせたり、時刻を直接入力して合わせたりすることもできます。

ご注意

- NTPサーバを利用する場合は、インターネットにアクセスします。定期的にNTPサーバを利用して時刻合わせをするように設定すると、従量制のプロバイダ接続契約の場合、予期しない高額の課金が発生しますので、ご注意ください。
- 本機のセキュリティ設定によっては、NTPサーバが利用できない場合があります。利用する場合は、セキュリティ設定を変更してください(118ページ)。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [システム管理]をクリックする。

4 [ルータ設定]をクリックする。

5 [日付と時刻の設定]で各項目を入力する。

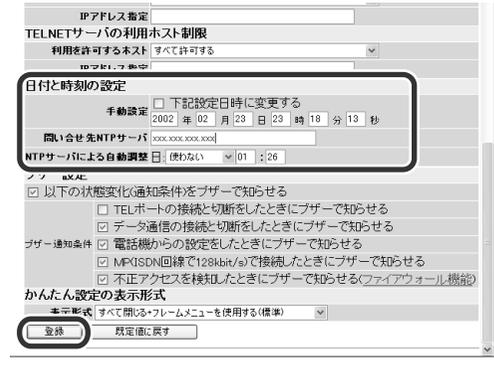
手動で時刻を入力して合わせる場合

[下記設定日時に変更する]にチェックを付けてから、日付と時刻を入力して[登録]をクリックします。



NTPサーバを利用して手動で時刻を合わせる場合

[問い合わせ先NTPサーバ]にNTPサーバのIPアドレスまたはドメイン名を入力してから[登録]をクリックして、さらに[今から更新する]をクリックします。



すぐに時刻が更新されます。

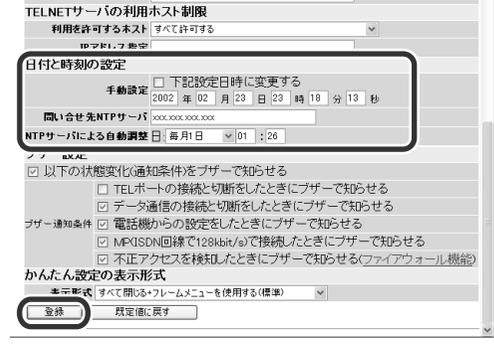
ご注意

プロバイダの接続設定で「常時接続」を選ぶなどして、ファイアウォール機能のセキュリティレベルが4または5(静的セキュリティフィルタ)に設定されている場合は、NTPサーバからの応答パケットが破棄されてしまうため、時刻を合わせることができません。この方法で時刻を合わせるときは、プロバイダの接続設定でセキュリティレベルを6または7(動的セキュリティフィルタ)に設定してください。

NTPサーバを利用して定期的に時刻を合わせる場合

[問い合わせ先NTPサーバ]にNTPサーバのIPアドレスまたはドメイン名を入力してから、[登録]をクリックします。

そのあとに[NTPサーバによる自動調整]に更新間隔と時刻を設定してから、[登録]をクリックします。



ネットワークゲームやICQ用に設定を変更する

ネットワークゲームやICQなどのグローバルIPアドレスを使ったサービスは、ルータでは正しく動作しない場合があります。この場合は、以下の順序で問題を解決してください。

1. グローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスの関連付け(静的IPマスカレード)の設定を行ってみる(136ページ)。
2. DMZホスト機能を利用する(137ページ)。
3. 1~2の設定で問題が解決しない場合は、USB端子経由でTA接続(78ページ)／ブロードバンドTA接続(91ページ)するか、LAN-TA機能(180ページ)で接続してください。

静的IPマスカレード設定で問題を解決する

必要な設定

静的IPマスカレードを設定するためには、次の設定が必要です。

- パソコンのIPアドレスを設定する
- 静的IPマスカレードの設定を変更する

パソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法について詳しくは、「パソコンのIPアドレスを管理する」(190ページ)をご覧ください。

静的IPマスカレード設定を変更する

1台のパソコンの静的マスカレードを設定する場合は、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続設定」画面で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

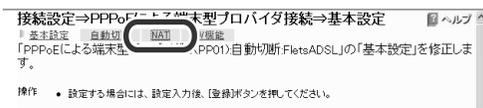
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

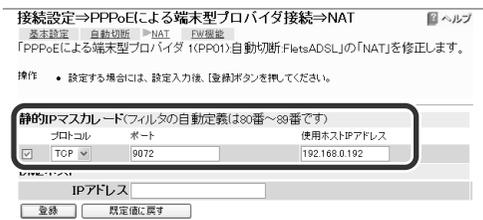
5 接続先名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 [NAT]をクリックする。



7 [静的IPマスカレード設定]をチェックしてからプロトコルを選び、ポート番号とパソコンのIPアドレスを入力する。



ご注意

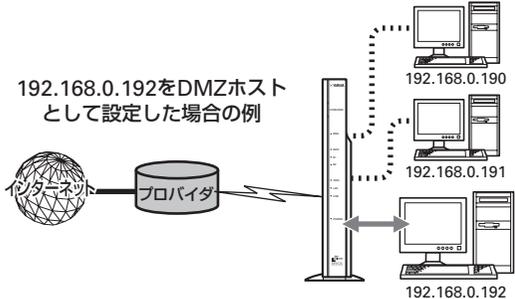
- プロトコルやポート番号については、利用するソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- 代表的なソフトウェアについては、「かんたん設定ページ」の「NAT」画面で[ヘルプ]をクリックすると、使用するポート番号などの設定例を確認できます。

8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

DMZホスト機能を使って問題を解決する

DMZホスト機能を利用することで、本機がNAT/IPマスカレードテーブルに登録されていない宛先へのパケットを受信したときに、設定したIPアドレスのホストに転送するように設定できます。



ご注意

- DMZとはDeMilitarized Zone (非武装地帯)の略語です。DMZホスト機能を利用中は、DMZの名の通りパケットがNAT/IPマスカレードテーブルを素通りできるため、外部から意図しない進入、攻撃を受ける可能性があります。
- DMZホスト機能を、同時に複数のパソコンで利用することはできません。
- DMZホスト機能は、Microsoft NetMeetingソフトウェアには対応していません。

ヒント

内部アドレスと分離することで、公開サーバなどが攻撃を受けても、内側アドレスのホストへの被害を防ぐことができます。

必要な設定

静的IPマスカレードを設定するためには、次の設定が必要です。

- パソコンのIPアドレスを設定する
- DMZホストのIPアドレスを指定する

パソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法について詳しくは、「パソコンのIPアドレスを管理する」(190ページ)をご覧ください。

DMZホストのアドレスを指定する

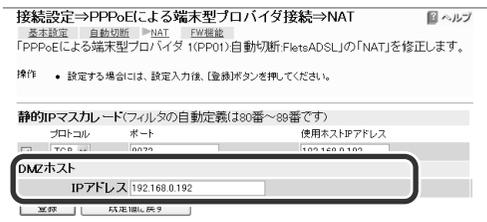
- Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- [接続設定]をクリックする。
- [プロバイダ接続管理]をクリックする。
- 接続先名の右の[登録の修正]をクリックする。



- [NAT]をクリックする。



- [静的IPマスカレード設定]をチェックしてからプロトコルを選び、ポート番号とパソコンのIPアドレスを入力する。



- 画面下にある[登録]をクリックする。
メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

ダイヤルアップ接続を制限する

ISDN回線でダイヤルアップ接続する場合、本機の自動接続機能を使うと、ダイヤルアップ操作なしで快適にインターネットへ接続できます。しかし、意図しない接続や使い過ぎで、従量制の契約では通話料金やプロバイダの接続料金が思わぬ高額になることがあります。

このようなトラブルを未然に防止するために、プロバイダ接続の累積料金や時間、回数に上限を設定したり、連続通信時間を制限することができます。

ヒント

設定した制限は、手動でプロバイダに接続した場合も適用されます。

ご注意

- 課金額は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。
- 端末型ダイヤルアップ接続の設定では、「かんたん設定ページ」からプロバイダ登録を新規に行くと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。
- コンソールコマンドで接続設定を変更した場合は、接続制限は自動的に設定されません。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

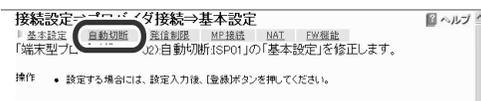
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合には、別冊の「はじめにお読みください」に記載されている操作を行ってください。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

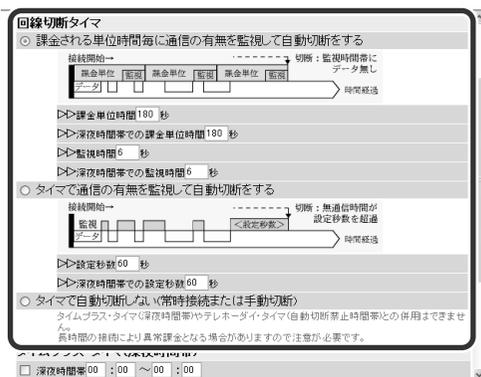
5 接続名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 自動切断の条件を設定するときは、[自動切断]をクリックする。



7 切断タイマの制限条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力してから、[登録]をクリックする。



課金される単位時間毎に通信の有無を監視して自動切断をする

3分10円などの課金単位で自動切断したいときは、チェックを付けます。タイムプラスなど、契約内容に合わせて昼間や深夜の単位時間を変更できます。

タイマで通信の有無を監視して自動切断をする

アクセスしない時間によって自動切断したいときは、チェックを付けます。

タイマで自動切断しない(常時接続または手動切断)

自動切断したくないときは、チェックを付けます。

タイムプラス・タイム(深夜時間帯)

深夜時間の設定を指定するときはチェックを付けて、深夜の時間帯を入力します。通常のNTT通話料金では、23:00~8:00が深夜料金扱いになります。

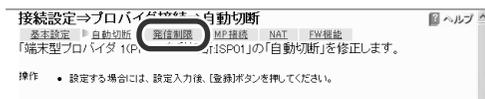
テレホーダイ・タイム(自動切断禁止時間帯)

テレホーダイを利用している場合、利用時間帯に自動切断しないよう設定したいときは、この項目をチェックし、時間帯を入力します。

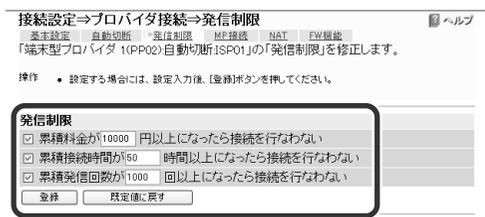
タイムに関係なく連続通信時間XXX分で強制的に切断する

連続通信時間を監視して切断したいときは、チェックを付けます。初期値は「540分」(9時間)です。

8 発信制限の条件を設定するときは、[発信制限]をクリックする。



9 発信制限の条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力してから、[登録]をクリックする。



累積料金がXXXXXX円以上になったら接続を行わない

プロバイダ接続の累積料金で制限したいときは、チェックを付けて、金額を設定します。初期値は「1万円」です。

累積接続時間がXXXXX時間以上になったら接続を行わない

プロバイダ接続の累積接続時間で制限したいときは、チェックを付けて、時間を設定します。初期値は「50時間」です。

累積発信回数がXXXXX回以上になったら接続を行わない

プロバイダ接続の累積発信回数で制限したいときは、チェックを付けて、回数を設定します。初期値は「1000回」です。

接続制限をリセットする

設定した課金／時間／回数制限に達したためにプロバイダに接続できなくなった場合は、累積情報をクリアして発信制限をリセットできます。

ご注意

- 通常の使いかたの場合でも制限が何度も働いてしまうときは、設定値を見直してください。
- 異常に早く制限機能が動作する場合は、意図しない間に接続動作が行われている可能性があります。通信記録を確認して、問題がないか確認してください。詳しくは、「困ったときは」(別冊)の「通信料金に異常がある」(28ページ)をご覧ください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [システム管理]をクリックする。

4 [料金設定]をクリックする。

「料金情報」画面には、各プロバイダ毎や各ポート毎の通話料金合計が表示されます。また、料金合計をリセットすることもできます。

5 接続制限をリセットしたい接続先の[クリア]をクリックする。



料金合計がリセットされます。

💡 ヒント

各ポート毎に、接続制限を定期的に自動リセットすることもできます。定期的にリセットしたいときは、各ポート毎にリセットする日付と時刻を設定します。[自動クリアの実行日時を一括して設定する]にチェックを付けてから日付と時刻を入力すると、すべての項目をまとめて設定することができます。

6 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

自動切断しないように設定する (テレホーダイ・タイマ)

インターネットに接続している間に、自動切断しない時間範囲を設定できます。テレホーダイを契約している場合に切断禁止に設定すると、テレホーダイタイム中に接続したままの状態で使用できます。

ご注意

- 自動切断しないように設定しても、プロバイダや回線の都合で切断されることがあります。
- 本機の電源を切ると、設定時間内であっても接続が切れます。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

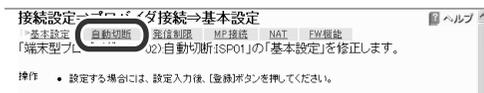
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

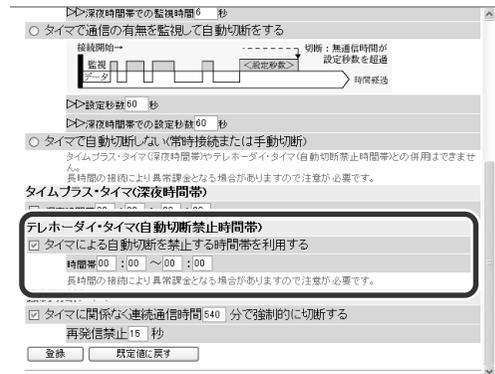
5 接続先名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 [自動切断]をクリックする。



7 [テレホーダイ・タイマ(自動切断禁止時間帯)]にチェックを付けてから、開始時間と終了時間を設定する。

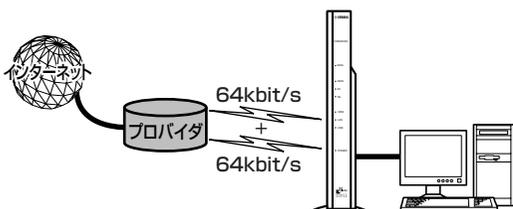


8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

128kbit/s で接続する (ISDN)

本機では、64kbit/sの回線を2つ同時に使って128kbit/sの通信速度で接続することができます。これを「MP (Multilink PPP) 接続」といいます。この機能を利用するには、128kbit/s接続(MP接続)に対応したプロバイダと契約する必要があります。設定を行う前にプロバイダの契約内容を確認してください。



ご注意

- MP接続に対応していないプロバイダやMP接続用以外の電話番号に対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返し、意図しない多額の料金を請求される場合があります。
- この機能は回線を2つ同時に使いますので、電話料金は2回線分かかります。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

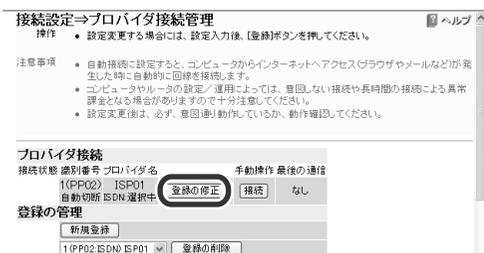
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

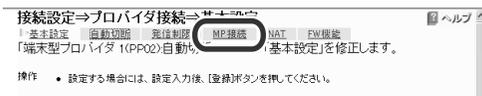
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

5 接続先名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 [MP接続]をクリックする。



7 [MPを使用する]にチェックを付けてから、通信条件を選ぶ。



MPを使用する

128kbit/s通信の接続方法を設定します。

- **アナログ通信がない限り2つのBチャンネルを使用する**:なるべく速く通信したい場合は、チェックを付けます。アナログ通話が着信すると通話用に自動的にチャンネルを空けるので、通信しながら通話できるようになります。
- **通信の負荷に応じてチャンネル数を増減する**:なるべく接続チャンネルを減らしてインターネット接続料金や通話料金を接続したい場合は、チェックを付けます。ただし、回線の状態によっては2チャンネル目の発信を繰り返し、料金がかかって増える可能性もあります。電話料金やインターネット接続料金に十分にご注意ください。

時間帯を指定

128kbit/s通信を行う時間帯を指定したいときにチェックを付け、時間帯を入力します。

8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

複数の接続先を使い分ける

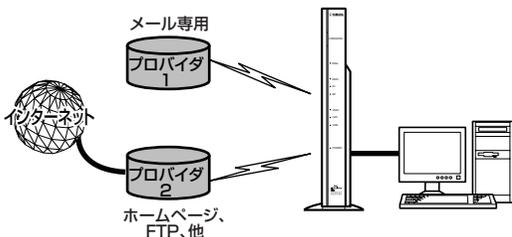
複数のプロバイダを登録しておき、おもに使用するプロバイダとメールの確認のためだけにアクセスするプロバイダなど、目的に応じて接続先を使い分けることができます。複数のプロバイダを登録している場合には、2チャンネル同時に別のプロバイダへ接続することもできます。

ご注意

- この機能は、端末型ダイヤルアップ接続時のみ利用可能です。
- 2チャンネル同時に別のプロバイダへ接続しているときに通話が着信すると、話中になります。同様に、こちらから通話(TELポートに接続した電話機などから発信)することもできません。

メール専用の接続先を使い分ける

契約しているプロバイダがメール専用の電話番号を設定している場合や、メール着信確認機能でプロバイダに直接接続したい場合など、メールとその他のインターネット接続で接続先を使い分けられます。

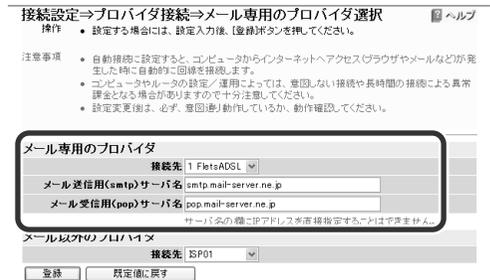


- 1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 3 [接続設定]をクリックする。
- 4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

- 5 [複数のプロバイダに同時接続する]を選び、[メール専用のプロバイダ選択]を選んで[プロバイダへの接続方法の登録(同時接続設定)]をクリックする。



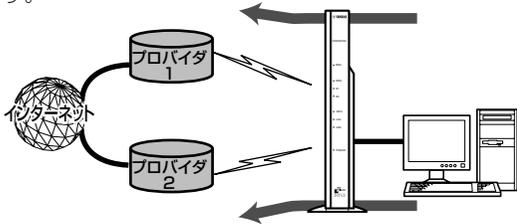
- 6 [メール専用のプロバイダ]の接続先で登録したプロバイダを選んでから、メールサーバ名を設定する。



- 7 [メール以外のプロバイダ]の接続先で登録したプロバイダを選ぶ。
- 8 画面下にある[登録]をクリックする。
メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

パソコンごとに接続先を使い分ける

パソコンごとに、接続するプロバイダを使い分けられます。



この場合は、LAN上のすべてのパソコンのIPアドレスをあらかじめ固定する必要があります。そのあとに、本機の複数プロバイダ選択に関する設定を行います。

各パソコンのIPアドレスを変更する

「パソコンのIPアドレスを管理する」(190ページ)の手順にしたがって、パソコンにIPアドレスを割り当てます。詳しくは、ネットワークの管理者にご相談ください。

本機の設定を変更する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

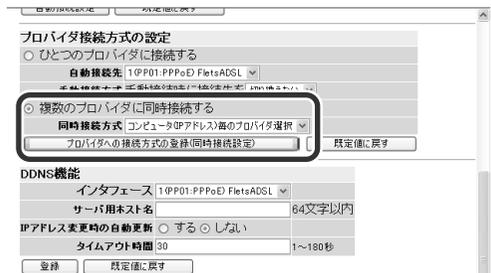
「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

5 以下のように設定してから、[プロバイダへの接続方式の登録(同時接続設定)]をクリックする。

- 自動接続設定: する
- プロバイダ接続方式の設定: [複数のプロバイダに同時接続する]を選んでから、[コンピュータ(IPアドレス)毎のプロバイダ選択]を選ぶ。



6 コンピュータのIPアドレスを入力してから、インターネットに接続する際の接続先プロバイダを選ぶ。



7 [上記コンピュータ以外の接続先]に、LAN上のその他すべてのコンピュータの接続先プロバイダを設定する。

8 メール着信確認機能を使用する場合には、[ルータによるメール着信確認先]でメールサーバのあるプロバイダを選ぶ。

メールサーバを登録したいときは、[システム管理]画面の[メールサーバの登録]画面で設定してください。

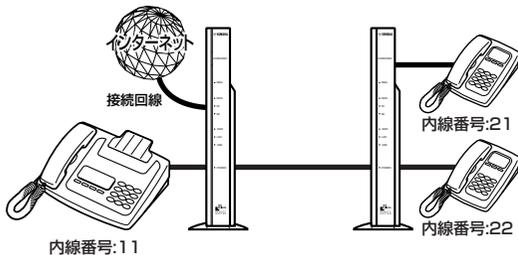
9 [登録]をクリックして、設定を保存する。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

複数のルータ間で通話する (機器間アナログ通話) ISDN

本機の「機器間アナログ通話機能」を使って、複数のRTA55i間でTELポートをまとめて管理して、内線通話を利用できます。また、1台のルータがISDN回線に接続されていれば、他のルータのTELポートに接続した電話から外線通話することもできます。ルータは9台まで接続できます。

複数ルータ間で通話するときは、ISDN回線を接続しているルータにアナログ機器番号1、その他のルータにアナログ機器番号2～9を設定します。



ご注意

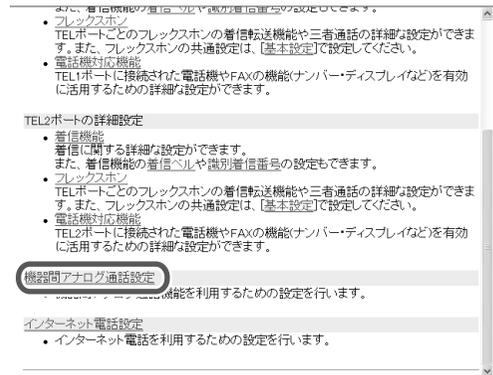
- 機器間アナログ通話機能は、ネットワークが混雑すると、音声が入切れる場合があります。
- アナログ子機にモデムやFAXを接続した場合、ネットワークの混雑状況により通信が入切れることがあります。このような場合はアナログ親機に接続してください。

アナログ子機にするルータの設定を変更する

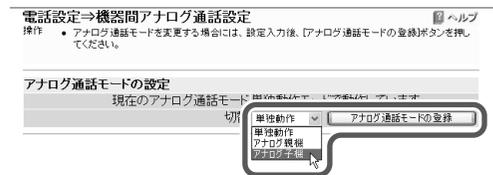
最初にアナログ子機 (ISDN回線を接続していないルータ) から設定を行います。

- 1 Webブラウザを起動して、アナログ子機に設定するルータの「かんたん設定ページ」を開く。「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。「トップ」画面が表示されます。
- 3 画面左側の[電話設定]をクリックする。

4 [機器間アナログ通話設定]をクリックする。



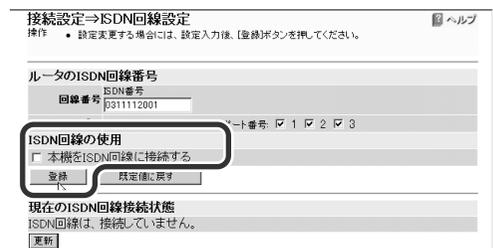
- 5 モード設定で[アナログ子機]を選んでから、[アナログ通話モードの登録]をクリックする。メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



6 画面左側の[接続設定]をクリックする。

7 [ISDN回線設定]をクリックする。

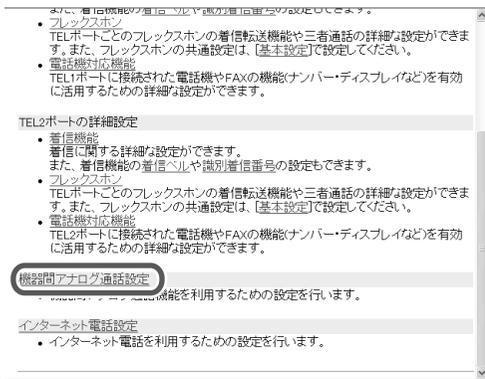
8 [ISDN回線の使用]の[本機をISDN回線に接続する]のチェックを外してから、[登録]をクリックする。



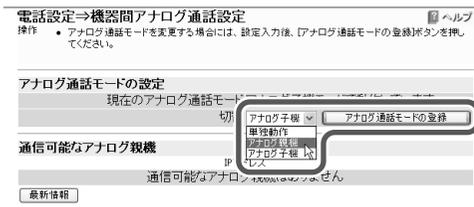
アナログ親機（ISDN回線を接続しているルータ）の設定を変更する

アナログ親機（ISDN回線を接続しているルータ）の設定をした後、アナログ子機の機器番号を割り当てます。

- 1 ブラウザを開き、アナログ親機に設定するルータの「かんたん設定ページ」を開く。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 3 画面左側の「電話設定」をクリックする。
- 4 [機器間アナログ通話設定]をクリックする。



- 5 モード設定で「アナログ親機」を選択して、「アナログ通話モードの登録」をクリックする。
メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



アナログ親機の状態や通信可能なアナログ子機一覧が表示されます。

- 6 現在のアナログ親機および通信可能なアナログ子機一覧で、アナログ親機と各アナログ子機の機器番号を選んでから、[登録/変更]をクリックする。

メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



これで機器間アナログ通話機能の設定は完了です。

ヒント

アナログ親機と各アナログ子機の機器番号は、[再割り当て]をクリックして、自動設定することもできます。

- 7 表示された現在のアナログ親機と通信可能なアナログ子機一覧に表示された、MACアドレスと機器番号をメモする。

ご注意

アナログ親機と各アナログ子機の機器番号は、内線通話するときに必要なになります。

通話する

外線にかける

ルータ間の接続の場合も、外線通話のかけかたはルータ1台の場合と同じです。受話器を取ってダイヤルすれば、通話できます。

1 受話器を上げて、相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

相手がISDN回線でサブアドレスを設定している場合は、電話番号に続けて **(*)** とサブアドレス番号を押します。

💡 ヒント

- ダイヤルを押した後に **(#)** を押すと、すぐに発信します。また、何も押さなくてもダイヤル桁の間隔設定(23ページ)で設定された時間(工場出荷時は4秒)を過ぎると、自動的に発信します。
- 1度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去20件までの相手先は **(#)** なしでもすぐに発信します。

2 通話が終わったら、受話器を置く。

内線にかける

ルータ間の接続の場合も、内線通話、外線転送などの機能が使えます。ただし、内線番号は「機器番号+TELポート番号」に変わります。

1 受話器を上げて、**(*)** に続けて内線番号をダイヤルする。

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

- アナログ子機2のTEL2ポートを呼び出す場合は、**(*)**、2、2とダイヤルします。
- アナログ子機3の全TELポートを呼び出す場合は、**(*)**、3、**(*)** とダイヤルします。
- 全ルータの全TELポートを呼び出す場合は、**(*)**、**(*)**とダイヤルします。

📌 ご注意

指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。

2 通話が終わったら、受話器を置く。

💡 ヒント

外線転送などその他の内線操作も同様に、内線番号の代わりに機器番号とTELポート番号を押します。

専用線で接続する

専用線を接続する

OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの専用線を利用する場合は、以下の方法で接続します。本機のDSUを利用するかどうかによって作業が異なりますので、申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

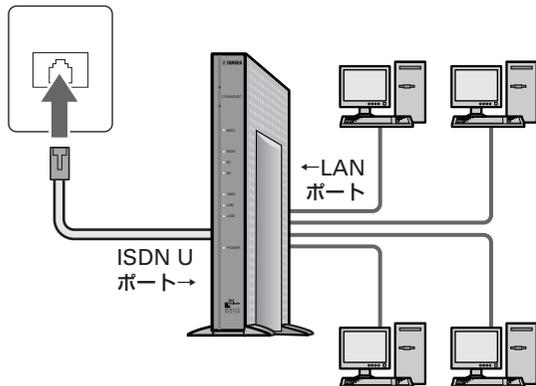
ご注意

- 専用線の場合は、TELポート間の内線通話以外でTELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。
- 専用線の場合は、他のISDN機器をS/Tポートに接続して使うことはできません。

本機のDSUを使う場合

- 専用線申込票の「DSU」項目で、本機内蔵のDSU使用で申し込んだとき
- 工事後の専用線が、通常のモジュージャックと同じ形(6極端子)をしているとき

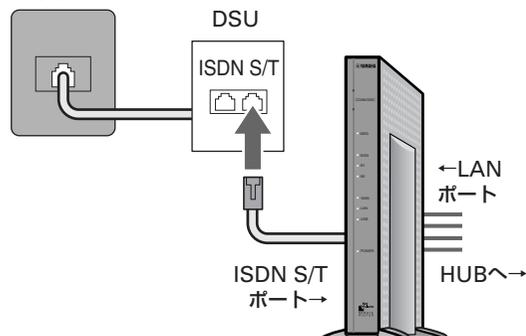
専用線



他のDSUを使う場合

- 専用線申込票の「DSU」項目で、回線業者のDSU使用で申し込んだとき
- 工事後の専用線が、通常のモジュージャックより幅の広い形(8極端子)をしているとき

専用線

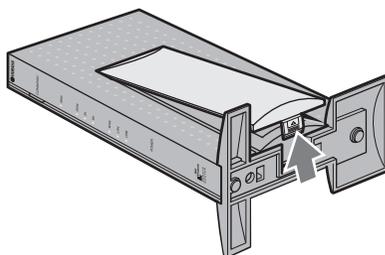


本機のDSUを使って専用線に接続する

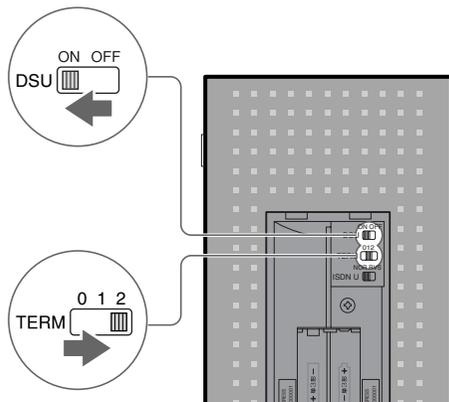
必要なもの

- モジュラーケーブル:**一般に市販の電話用ケーブルが使用できます(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものを除く)。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

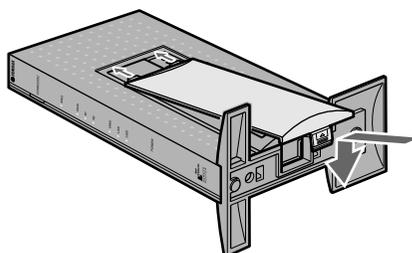
1 電池ボックスカバーを開く。



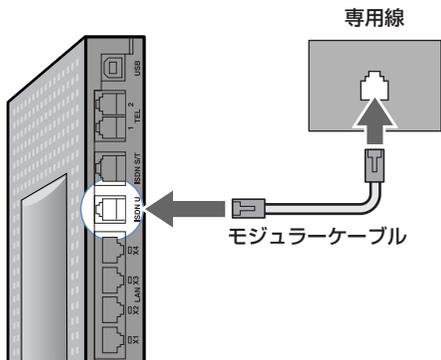
2 DSUスイッチを「ON」、TERM(ターミネータ)スイッチを「2」に合わせる。



3 カバー上部のツメを合わせて、電池ボックスカバーを閉じる。



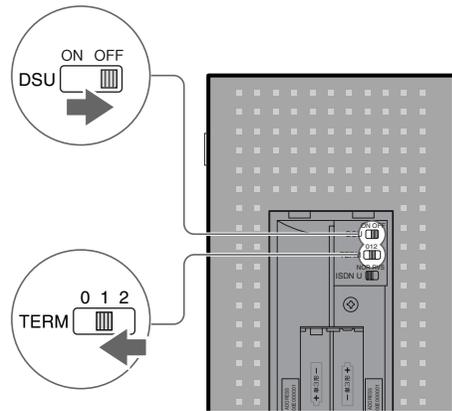
4 専用線のモジュージャックと本機のISDN Uポートを、モジュラーケーブル(灰色)で接続する。



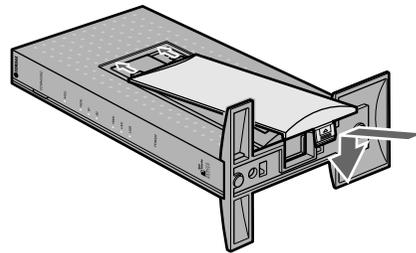
ご注意

専用線の場合はISDN S/Tポートは使用できませんので、機器を接続しないでください。

2 DSUスイッチを「OFF」、TERM(ターミネータ)スイッチを「1」に合わせる。



3 カバー上部のツメを合わせて、電池ボックスカバーを閉じる。



他のDSUを使って専用線に接続する場合

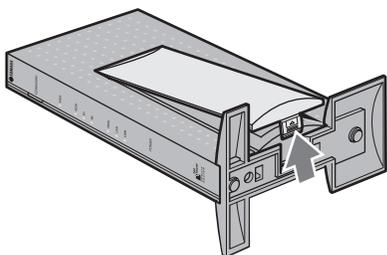
必要なもの

- ISDNケーブル:市販のISDNケーブルをご用意ください。ただし、DSUまで総延長が150m以内になるようにしてください。

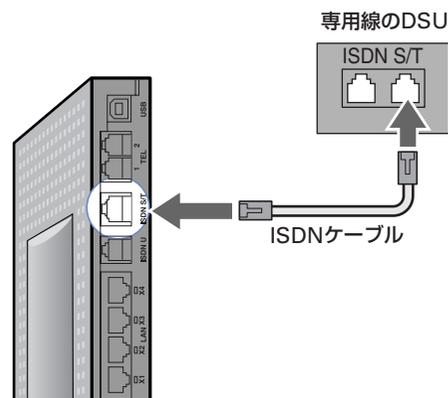
ご注意

ISDNケーブルは、LANケーブルのコネクタ(RJ-45)と同じ形状をしています。間違えないようにご注意ください。

1 電池ボックスカバーを開く。



4 専用線のDSUと本機のISDN S/Tポートを、ISDNケーブルで接続する。



専用線接続を設定する

OCNエコノミーやデジタルアクセス64/128などでインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、専用線の接続先を設定します。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行ってから、お使いください。詳しくは「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。

ここでは、IPマスカレードを使用した設定を、Windows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明しています。他の環境の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンの電源を切る。

ヒント

他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンのLANケーブルを直接接続している状態にして、設定を行います。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順4へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータとパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。詳しくは、別冊の「設定マニュアル」をご覧ください。

3 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力してから、日時を設定して[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。



ご注意

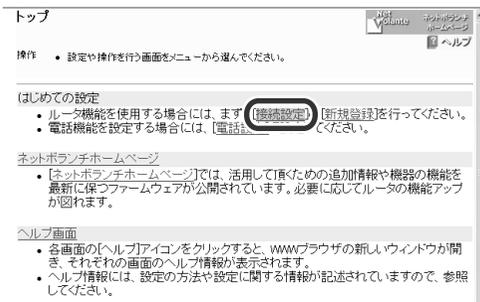
ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。

4 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

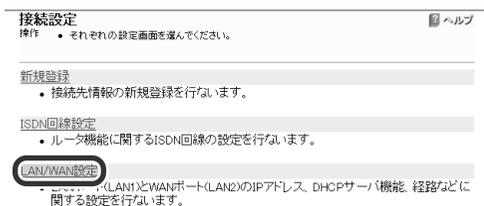


「トップ」画面が表示されます。

5 [接続設定]をクリックする。



6 [LAN/WAN設定]をクリックする。



7 以下の設定を行ってから、[登録]をクリックする。

- [LANポート(LAN1)のIPアドレス設定]の[セカンダリ・IPアドレス]:現在[プライマリ・IPアドレス]に設定されているプライベートIPアドレスとネットマスク(工場出荷時は192.168.0.1/24)を入力する。
- [プライマリ・IPアドレス]:プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中から、ルータに設定するIPアドレスとネットマスクを入力する。

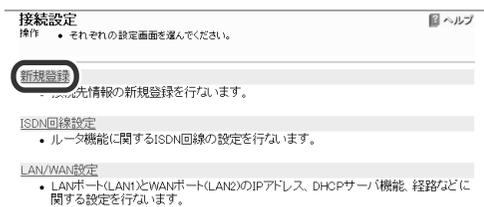


ヒント

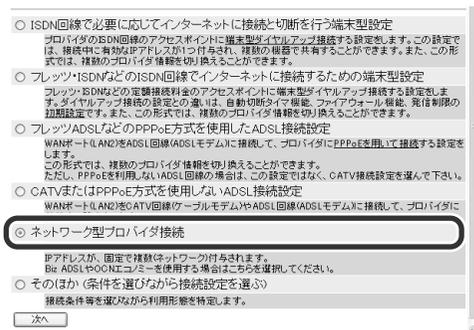
LAN側をプライベートアドレスで利用する場合は、LANポートのIPアドレスの設定を変更する必要はありません。

8 画面左側の[接続設定]をクリックする。

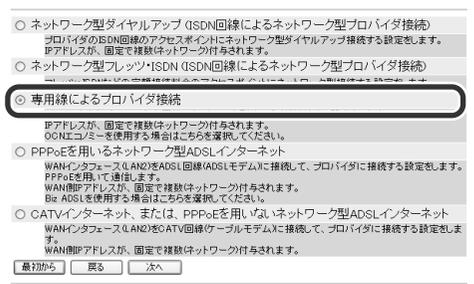
9 [新規登録]をクリックする。



10 [ネットワーク型プロバイダ接続]を選んだから、[次へ]をクリックする。

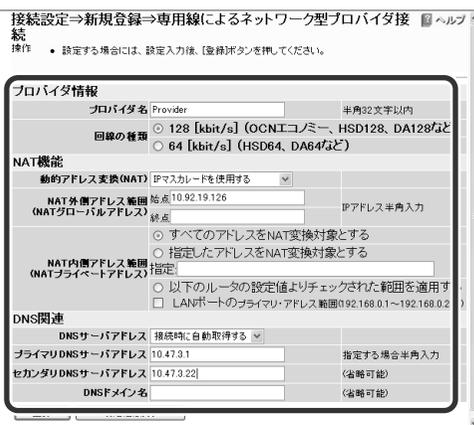


11 [専用線によるプロバイダ接続]を選んだから、[次へ]をクリックする。



設定入力画面が表示されます。

12 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。



次のページにつづく▶

プロバイダ名

接続先のわかるような名前を入力します。

回線の種類 契約した回線の種類を選びます。

- **64kbit/s:** デジタルアクセス64などの場合を選びます。
- **128kbit/s:** OCNエコノミーやデジタルアクセス128などの場合を選びます。

動的アドレス変換(NAT)

回線側とLAN側のアドレス変換方法を選びます。

- **IPマスカレードを使用する:** 回線側とLAN側のアドレスを1対多で変換する場合を選びます。
- **NATを使用する:** 回線側とLAN側のアドレスを1対1で変換する場合を選びます。
- **NATとIPマスカレードを併用する:** LAN側の機器にグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスを混在して設定する場合を選びます。
- **使用しない:** アドレス変換機能を使用しない場合を選びます。

NAT外側アドレス範囲

回線側に割り当てる共用グローバルIPアドレスを入力します。

NAT内側アドレス範囲

アドレス変換を行うプライベートIPアドレスの範囲を入力します。

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:** プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合を選びます。
- **接続時に自動取得する:** プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合を選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

ドメイン名 ドメイン名が指定されている場合に入力します(省略できます)。

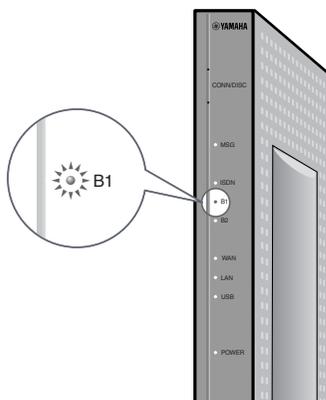
13 入力が終わったら、[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、接続先が登録されてルータが再起動します。

【ご注意】

インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。詳しくは「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。

14 本機の再起動が終わったら、B1ランプまたはB2ランプが点灯しているかどうか確認する。



正しく点灯しないときは、手順12の登録をやり直してください。

- 15 パソコンを再起動する。
- 16 Webブラウザを起動して、アドレス入力欄に「http://setup.netvolante.jp/」または「http://(ルータのIPアドレス)/」と入力してから、Enterキーを押す。
「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。
- 17 [パスワード]入力欄に管理ルータのパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されることを確認してください。
- 18 画面左上の[ネットボランチホームページ]をクリックする。
NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は成功です。
表示されない場合は
DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。[登録の修正]をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。
- 19 インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動する。
これで、専用線接続の設定は完了です。

ルータを正しく認識しないときは

パソコンのIPアドレスをリセットしてください。詳しくは、「IPアドレスをリセットする」(195ページ)をご覧ください。

使用できるIPアドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、始めの番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てられる規則になっているため、使うことができません。

例えば、「172.16.128.112/28」のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は「172.16.128.112」～「172.16.128.127」の16個ですが、

```
172.16.128.112=ネットワークアドレス
172.16.128.113
                :
172.16.128.126
172.16.128.127=ブロードキャストアドレス
```

になりますので、実際にルータやパソコンに割り当てられる番号は、「172.16.128.113」～「172.16.128.126」の14個となります。

PPPoE ネットワーク型 ADSL で接続する

InfoSphere Biz ADSL8サービスなどのように、PPPoEを利用したネットワーク型ADSL接続を利用する場合は、以下の方法で接続します。

準備する

フレッツ・ADSLの場合と同様に準備します。詳しくは、「設定マニュアル」(別冊)の「フレッツ・ADSL接続する」(69～87ページ)をご覧ください。

接続設定を変更する

本機の「かんたん設定ページ」を開いて、PPPoEネットワーク型ADSLの接続先を設定します。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行ってから、お使いください。詳しくは「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。

ここでは、IPマスカレードを使用した設定を、Windows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明しています。他の環境の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンの電源を切る。

ヒント

他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンのLANケーブルを直接接続している状態にして、設定を行います。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

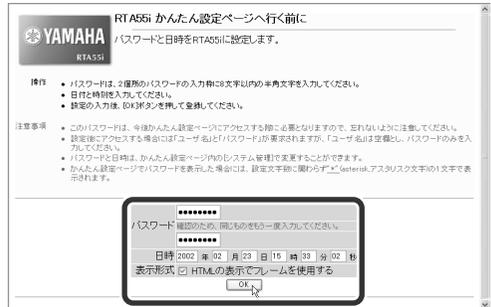
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順4へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータとパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。詳しくは、「設定マニュアル」(別冊)をご覧ください。

3 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力してから、日時を設定して[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。



ご注意

ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。

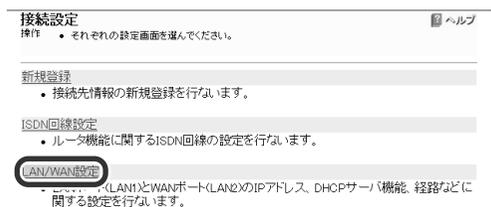
4 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。



「トップ」画面が表示されます。

5 [接続設定]をクリックする。

6 [LAN/WAN設定]をクリックする。



7 以下の設定を行ってから、[登録]をクリックする。

- [LANポート(LAN1)のIPアドレス設定]の[セカンダリ・IPアドレス]:現在[プライマリ・IPアドレス]に設定されているプライベートIPアドレスとネットマスク(工場出荷時は192.168.0.1/24)を入力する。
- [プライマリ・IPアドレス]:プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中から、ルータに設定するIPアドレスとネットマスクを入力する。

ヒント

LAN側をプライベートアドレスで利用する場合は、LANポートのIPアドレスの設定を変更する必要はありません。

8 [接続設定]をクリックする。

9 [新規登録]をクリックする。

10 [ネットワーク型プロバイダ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。

11 [PPPoEを用いるネットワーク型ADSLインターネット]を選んでから、[次へ]をクリックする。

設定入力画面が表示されます。

12 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

次のページにつづく▶

プロバイダ名

接続先のわかるような名前を入力します。

ユーザID ユーザIDを入力します。

パスワード パスワードを入力します。

動的アドレス変換(NAT)

回線側とLAN側のアドレス変換方法を選びます。

- **NATを使用する:**回線側とLAN側のアドレスを1対1で変換する場合には選びます。
- **IPマスカレードを使用する:**回線側とLAN側のアドレスを1対多で変換する場合には選びます。
- **NATとIPマスカレードを併用する:**LAN側の機器にグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスを混在して設定する場合には選びます。
- **使用しない:**アドレス変換機能を使用しない場合に選びます。

NAT外側アドレス範囲

回線側に割り当てる共用グローバルIPアドレスを入力します。

NAT内側アドレス範囲

アドレス変換を行うプライベートIPアドレスの範囲を入力します。

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

ドメイン名 ドメイン名が指定されている場合に入力します(省略できます)。

13 入力が終わったら、**[登録]**をクリックする。メッセージにしたがってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

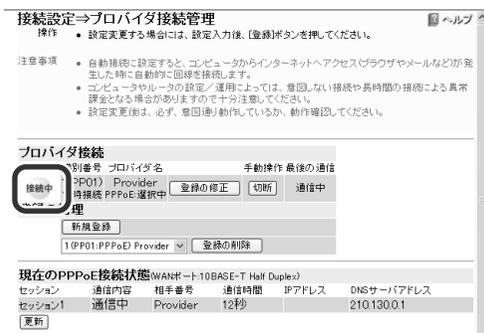
ご注意

インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。詳しくは「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。

14 **[プロバイダ接続管理]**をクリックする。

15 登録したプロバイダの**[接続]**をクリックして、**手動接続**してみる。

画面左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。



接続できない場合は

ユーザIDやパスワードの設定が間違っている可能性があります。

[登録の修正]をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字/小文字や全角/半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。

16 画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されます。

表示されない場合は

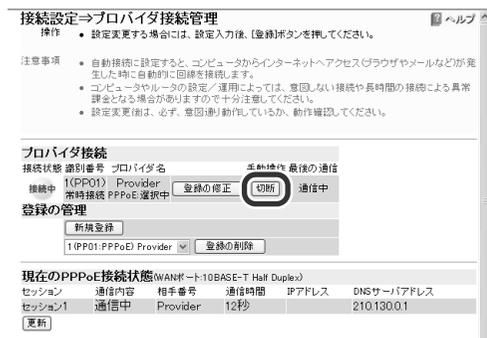
DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

[切断]をクリックしていったん接続を切断してから、[登録の修正]をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

17 接続できることを確認できたら、Webブラウザの[戻る]をクリックして「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

接続方式で[自動切断する]を選んでいる場合は、登録したプロバイダの[切断]をクリックして手動切断してください。

これで、PPPoEネットワーク型ADSLの接続設定は完了です。



接続方法で「自動切断する」を設定した場合は

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

💡 ヒント

ネットワーク型ADSL接続は定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。

ルータを正しく認識しないときは

パソコンのIPアドレスをリセットしてください。詳しくは、「IPアドレスをリセットする」(195ページ)をご覧ください。

使用できるIPアドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、始めの番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てられる規則になっているため、使うことができません。

例えば、「172.16.128.112/28」のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は「172.16.128.112」～「172.16.128.127」の16個ですが、

172.16.128.112=ネットワークアドレス

172.16.128.113

:

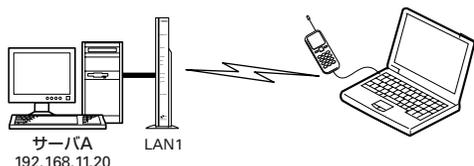
172.16.128.126

172.16.128.127=ブロードキャストアドレス

になりますので、実際にルータやパソコンに割り当てられる番号は、「172.16.128.113」～「172.16.128.126」の14個となります。

TA や PIAFS 対応の PHS から リモートアクセスする (ISDN)

TAやPIAFS対応のPHSを使って、外出先からLAN上のパソコンへアクセスできます(対応プロトコルはTCP/IPのみです)。リモートアクセスをするときは、本機にリモートアクセスユーザのユーザIDやパスワードを登録し、リモートのパソコンにはダイヤルアップ接続の設定を行います。



LAN1プライベートIPアドレス:
192.168.11.0~192.168.11.255

💡 ヒント

本機のPIAFS通信機能は、PIAFS ver1.0/2.0/2.1に対応しています。PHSのデータ通信に対応したPHSモデムカードや通信アダプタをつけたPHS電話機から、32kbit/sまたは64kbit/sでアクセスできます。

📌 ご注意

- リモートアクセスを利用するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。
- 携帯電話から、PIAFS通信機能でリモートアクセスすることはできません。
- 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

必要な設定

リモートアクセスするときは、ルータやパソコンに次のような設定が必要です。

ルータの設定

接続相手を登録する(159ページ)

LAN内サーバまたはパソコンに必要な設定

- 固定プライベートIPアドレスの設定(161ページ)
- ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録(161ページ)

リモートアクセスするパソコンの設定

ダイヤルアップ接続設定(162ページ)

接続相手を登録する

リモートアクセス設定は、「かんたん設定ページ」の[システム管理]で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

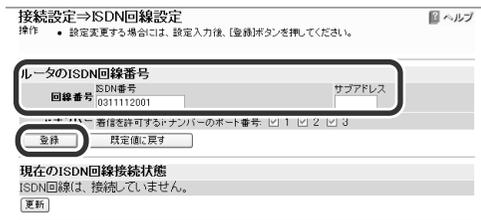
「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [ISDN回線設定]をクリックする。

5 本機のISDN回線番号およびサブアドレスを入力してから、[登録]をクリックする。

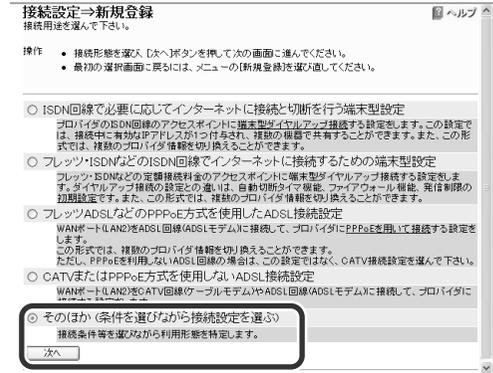
リモートアクセス接続の場合は、ルータの着信に長いサブアドレスを設定して、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できます。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご注意ください。



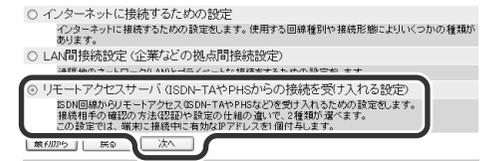
6 画面左側の[接続設定]をクリックする。

7 [新規登録]をクリックする。

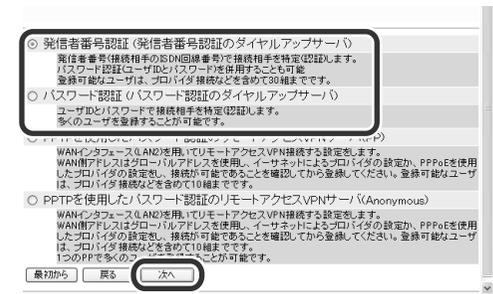
8 [そのほか]を選んでから、[次へ]をクリックする。



9 [リモートアクセスサーバ(ISDN-TAやPHSからの接続を受け入れる設定)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



10 認証方法を選んでから、[次へ]をクリックする。



発信者番号認証

発信者のISDN回線番号やPHS番号で認証します。特定の回線からしかアクセスできないので、比較的的安全です。

パスワード認証

ユーザIDとパスワードで認証を行います。

11 接続相手側の電話番号およびサブアドレス、ユーザID、パスワードを入力する。

接続設定⇒新規登録⇒リモートアクセスサーバ(パスワード認証) ヘルプ

操作 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

接続先情報(必須)	
認証用ユーザID	Mobile01 半角入力64文字以内
認証用パスワード	***** 半角入力64文字以内
接続先情報(省略可能)	
発信者番号認証の電話番号	半角入力32桁以内
発信者番号認証のサブアドレス	半角入力16桁以内
[共通設定] ※登録後の修正は、[接続設定]⇒リモートアクセスで行います。	
接続先に割り当てるIPアドレス	
割り当て方法	DHCPサーバ機能から割り当て
付与IPアドレス1	IPアドレス半角入力
付与IPアドレス2	IPアドレス半角入力
RTAS5が可能なパスワード認証	CHAPまたはPAPで認証する
パスワード認証	パスワードを後で入力 (省略可能)
接続相手が行なうパスワード認証	
パスワード認証	パスワードを後で入力 (省略可能)
接続用ユーザID	半角入力64文字以内
接続用パスワード	半角入力64文字以内

登録 既定値に戻す

認証用ユーザID

パスワード認証の場合は、ユーザIDを入力します。

認証用パスワード

パスワード認証の場合は、パスワードを入力します。

発信者番号認証の電話番号

発信者番号認証の場合は、相手の電話番号を入力します。

発信者番号認証のサブアドレス

発信者番号を確認してから接続するので、両方のルータに自分のISDN回線番号と接続相手の電話番号を設定してください。また、長いサブアドレスを設定しておくことで、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できるため、不特定の相手からのアクセスに対するセキュリティとしても有効です。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご注意ください。

なお、64kbit/sのPIAFS接続では、接続方式識別用の特別なサブアドレスが使用されるため、サブアドレスを使用することはできません。

IPアドレスの割り当て方法

接続相手がリモートアクセスの場合は、[接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定]にチェックを付けて、接続相手に割り当てる方法を設定します。通常は[DHCPサーバから割り当てる]を選びます。割り当てるIPアドレスを固定したいときは、[IPアドレスを指定する]を選んでから、IPアドレスを入力してください。

パスワード認証

パスワード設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせます。

12 画面下の[登録]をクリックする。

接続相手が登録され、「接続設定」画面に戻ります。

13 接続条件を設定したい場合は、[リモートアクセスサーバ管理]をクリックしてから、登録した接続相手の[登録の修正]をクリックする。

接続設定⇒リモートアクセスサーバ管理 ヘルプ

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

注意事項

- 自動接続に設定すると、コンピュータからインターネットへアクセス(ブラウザやメールなど)が発生した時に自動的に回線が再接続します。
- コンピュータやルータの設定/運用によっては、意図しない接続や長時間の接続による異常現象となる場合がありますので十分注意してください。
- 設定変更の際は、必ず、意図通り動作しているか、動作確認してください。

パスワード認証型リモートアクセスサーバ

登録ユーザ名
Mobile01 **登録の修正**

共通の設定
共通設定 登録の修正

登録の管理
新規登録
パスワード認証型 登録ユーザ名 Mobile01 登録の削除

14 コールバックの方式や相手の電話番号を設定してから、[登録]をクリックする。

接続設定⇒リモートアクセスサーバ(パスワード認証)⇒ユーザ設定 ヘルプ

操作 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

接続先情報(必須)

修正するユーザ名 Mobile01

接続先情報(省略可能)

発信者番号認証の電話番号 xxxxxxxxxxxx 半角入力32桁以内

発信者番号認証のサブアドレス 半角入力16桁以内

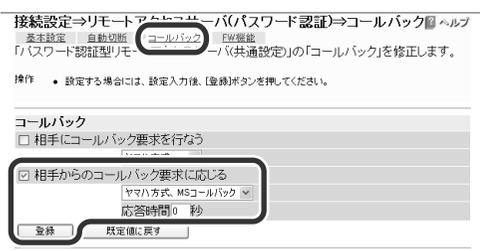
相手からのMSコールバック要求を許す

ユーザごとのコールバック指定 利用するためには、[共通設定]でMS方式のコールバックを許可しておく必要があります。

登録 既定値に戻す

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

- 15 [接続設定]をクリックする。
- 16 [リモートアクセスサーバ管理]をクリックしてから、[共通設定]の[登録の修正]をクリックする。
- 17 [コールバック]をクリックしてから、[相手からのコールバック要求に応じる]を選んで、[登録]をクリックする。



LAN内のサーバやパソコンを設定する

リモートアクセスするには、LAN内のサーバやパソコンにTCP/IPプロトコルでアクセスできるようにするための設定が必要です。

ご注意

- 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

サーバやパソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法については、「IPアドレスを変更する」(191ページ)をご覧ください。

ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトやネットワーク共有を設定して、公開するフォルダやユーザーID、パスワードを設定します。TCP/IPおよびNetBIOS over TCP/IPの設定例については、「ISDN回線経由でLANとLANを接続する(LAN間接続)」(172ページ)をご覧ください。

リモートアクセスするパソコンの設定を変更する

Windows95/98/Meの場合

Windows 95/98/Meの場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

- 1 [マイコンピュータ]を開き、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあるかどうか確認する。

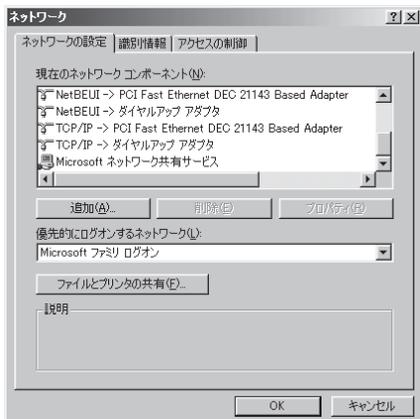
Windows Meの場合は、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダは[コントロールパネル]にあります。



[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがない場合は

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブの[通信] - [ダイヤルアップネットワーク]にチェックを付けて、WindowsのインストールCD-ROMから追加インストールしてください。

- 2 [コントロール パネル]の[ネットワーク]を開き、リストに「TCP/IP→ダイヤルアップアダプタ」があるかどうか確認する。



「TCP/IP→ダイヤルアップ アダプタ」がない場合は

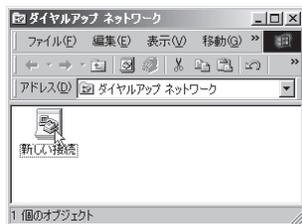
[追加]をクリックして、[プロトコル]の追加で[Microsoft]の[TCP/IP]を追加します。リストに「TCP/IPが表示されたら、「ネットワーク」ウィンドウを閉じます。

- 3 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は、[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックします。

- 4 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。

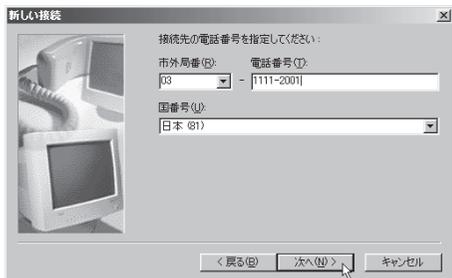
「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示された場合は、[次へ]をクリックします。「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



- 5 接続名とモデム名を入力してから、[次へ]をクリックする。

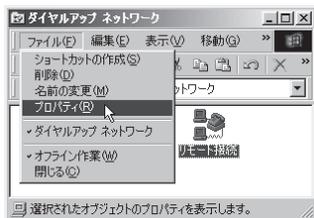


6 本機の電話番号とサブアドレスを入力して[次へ]をクリックしてから、[完了]をクリックする。



「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

7 新しく作成したアイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

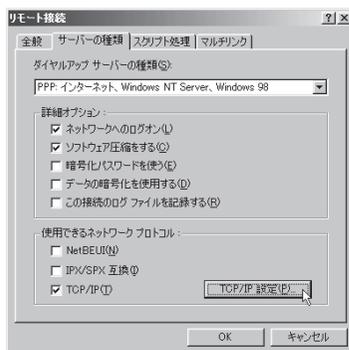


8 [サーバーの種類] タブをクリックする。



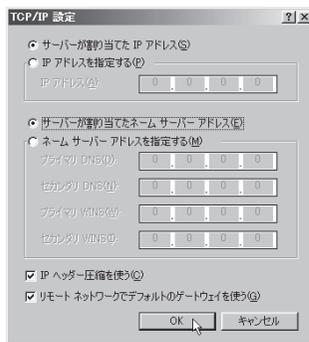
9 以下のように設定を変更してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮をする]:チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[NetBEUI]、[IPX/SPX互換]:チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[TCP/IP]:チェックを付ける。



10 [サーバが割り当てたネームサーバーアドレス]を選んでから各ウィンドウの[OK]をクリックして、ウィンドウを閉じます。

LAN内のDNSサーバIPアドレスが指定されている場合は、[ネームサーバーアドレスを指定する]を選び、指定されたIPアドレスを入力してください。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

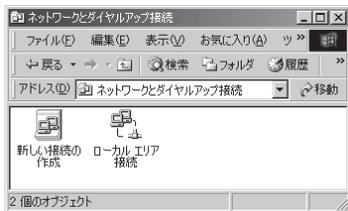
Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



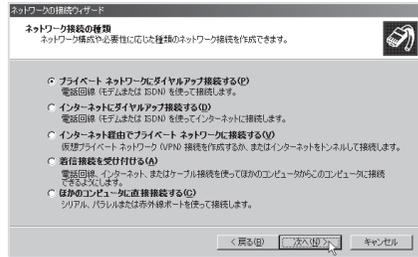
2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



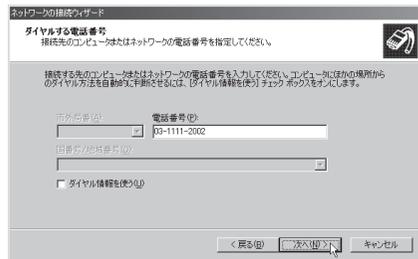
3 [次へ]をクリックする。



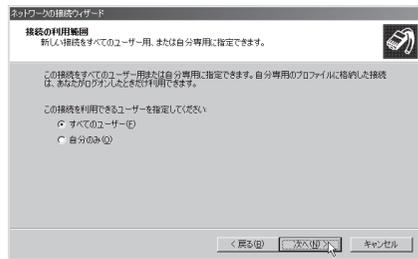
4 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



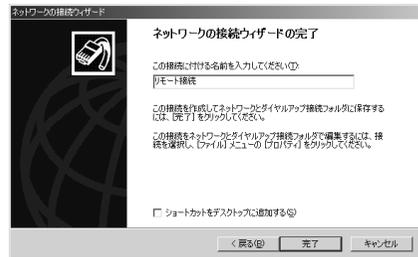
5 本機の電話番号とサブアドレスを入力してから、[次へ]をクリックする。



6 [すべてのユーザー]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [接続名]に[リモート接続]と入力してから、[完了]をクリックする。



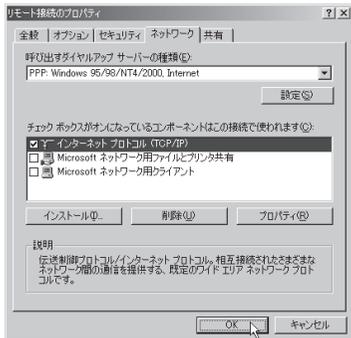
8 [リモート接続]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

9 [ネットワーク]タブをクリックする。



10 以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]:チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]:チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]:チェックを外す。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

Windows XPの場合

Windows XPの場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

1 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



2 [ネットワーク接続]をクリックする。



3 [新しい接続を作成する]をクリックする。



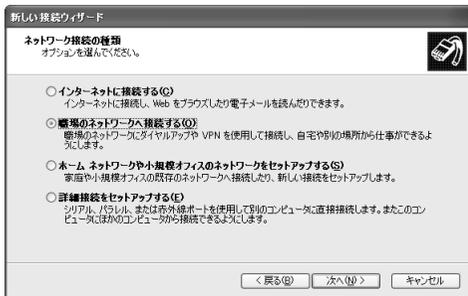
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してから、[OK]をクリックしてください。

4 [次へ]をクリックする。



5 [職場のネットワークに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6 [ダイヤルアップ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [会社名]に「リモート接続」と入力してから、[次へ]をクリックする。



8 電話番号を半角英数字で入力してから、[次へ]をクリックする。



9 [完了]をクリックする。



10 [リモート接続] アイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。



11 [ネットワーク]タブをクリックする



12 以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]:チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]:チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]:チェックを外す。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

Macintoshの場合

Macintoshでは、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス(PPP)の設定を行います。ここではMacOS 9.0の画面を例に説明しています。

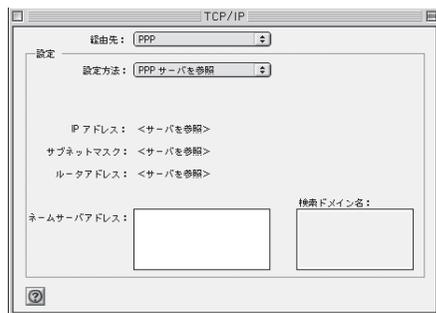
ご注意

MacOS8.1以前でアップルリモートアクセスをインストールしていない場合は、「PPP」コントロールパネルを開いてください。設定操作は「リモートアクセス」と同じです。

1 アップルメニューから[コントロールパネル]—[TCP/IP]を選び、[経路先]を「PPP」、[設定方法]を「PPPサーバを参照」に設定する。

LAN内のDNSサーバが指定されている場合は、「名前サーバアドレス」欄に指定されたIPアドレスを入力してください。

設定が終わったら[ファイル]メニューから[終了]を選び、「TCP/IP」コントロールパネルを閉じます。



2 アップルメニューから[コントロールパネル]—[モデム]を選び、[経路先]と[モデム]を設定する。



設定が終わったら[ファイル]メニューから[終了]を選び、「モデム」コントロールパネルを閉じます。

次のページにつづく▶

- 3 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選び、本機に設定したユーザIDとパスワード、本機の電話番号とサブアドレスを設定する。



設定が終わったら[ファイル]メニューから[終了]を選び、「リモートアクセス」コントロールパネルを閉じます。

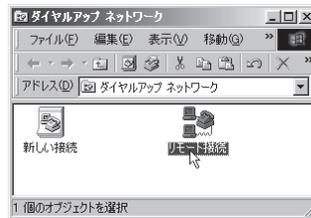
ご注意

[パスワードを保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

本機へアクセスする

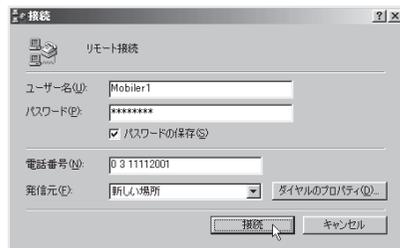
Windows95/98/Me/2000/XPの場合

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、本機のアイコンをダブルクリックする。



- 2 [接続]をクリックする。

パスワードを保存していない場合は、パスワードを入力します。



本機へのダイヤルアップをはじめます。

接続すると、「ダイヤルアップネットワーク(ブライダ名)」画面が表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

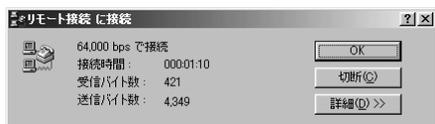
ご注意

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定して作業を行う。

外部にサーバを公開する

4 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。



本機との接続が切れます。

Macintoshの場合

1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。

[リモートアクセス]画面が表示されます。

2 [接続]をクリックする。

パスワードを保存していないときは、パスワードを入力します。



本機へのダイヤルアップをはじめます。

接続すると、接続時間や転送状況を示すバーが表示されます。

ご注意

[パスワードを保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

3 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定して作業を行う。

4 接続を切るときは、「リモートアクセス」画面の[接続を切る]をクリックする。

本機との接続が切れます。

専用線接続でインターネットへサーバを公開したい場合は、公開したいサーバに固定プライベートIPアドレスを設定してから、静的IPマスカレードを使用してサーバのIPアドレスとグローバルIPアドレスの関連付けを設定します。

このあとに本機にLAN外からのアクセスを許可するフィルタを設定することで、インターネットからアクセスすることができるようになります。

ご注意

LANの外部にサーバを公開するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。

ヒント

ネットボランチDNSサービスを利用することで、ダイヤルアップ接続などの固定グローバルIPを取得できない場合でも、サーバを公開して運用できます。詳しくは「新機能ガイド」(別冊)の「ネットボランチDNSサービスを利用する」をご覧ください。

必要な設定

サーバを公開するためには、次の設定が必要です。

ルータの設定

- 静的IPマスカレードの設定を変更する(170ページ)
- アクセスを許可する設定に変更する(171ページ)

サーバの設定

- パソコンのIPアドレスを設定する(171ページ)
- ファイルサーバソフトの設定を変更する(171ページ)

静的IPマスカレードの設定を変更する

サーバに設定した固定プライベートIPアドレスとサーバに割り当てたグローバルIPアドレスの関連づけを設定します。これにより、インターネット側からサーバのアドレスを指定することができるようになります。

ここでは、LAN内のサーバ(192.168.11.20)にグローバルIPアドレス(10.40.33.114)を割り当てる例を説明します。静的NATの設定は、「かんたん設定ページ」の「ネットワーク型プロバイダ接続」画面で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

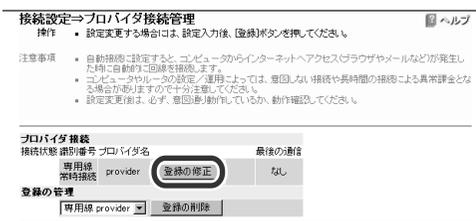
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

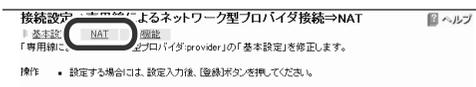
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

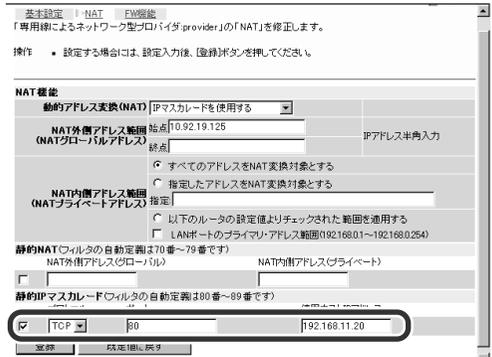
5 接続先の[登録の修正]をクリックする。



6 [NAT]をクリックする。



7 [静的IPマスカレード]をチェックしてから、入力欄にプロトコルとポート番号、公開するサーバのプライベートIPアドレスを入力する。



8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

アクセスを許可する設定に変更する

着信側のLANでは、アクセスを許可するサーバのプライベートIPアドレスや通信プロトコルを設定します。その他のパソコンは、外部からアクセスすることはできないことになります。ここでは、LAN内のサーバ(192.168.11.20)へのアクセスを許可する場合を例に説明します。

- 1 170ページの手順1~2を行い、本機の「かんたん設定ページ」のトップページを開く。
- 2 [付加機能]をクリックする。
- 3 [ファイアウォール機能]をクリックする。
- 4 [静的フィルタ設定]で下記の値を入力し、[追加]をクリックする。

ポート番号などのフィルタの設定について詳しくは、「フィルタを設定する」(119ページ)をご覧ください。

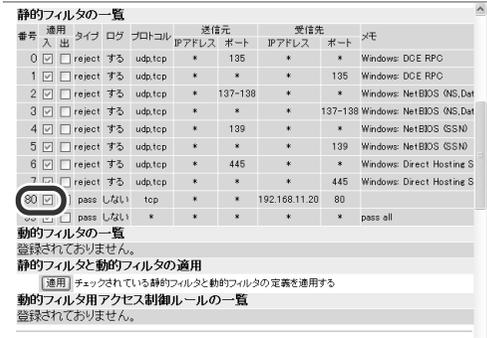
Webサーバを公開する場合の入力例



ご注意

- セキュリティフィルタが適用されている場合は、フィルタ番号80番~89番にすでに静的IPマスカレード用のフィルタが自動設定されています。
- 公開する相手を限定したい場合は、送信元IPアドレスに相手のIPアドレスを指定します。
- ポート番号は利用したいサーバアプリケーションが使用するプロトコルに合わせて変更してください。
- 使用できるフィルタ番号は、各接続先毎に0~99の100個です。フィルタやプロトコルなどについて詳しくは、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

- 5 [静的フィルタ設定]で追加したフィルタの[入]をチェックしてから、[適用]をクリックする。



パソコンのIPアドレスを設定する

外部からのアクセスを許可するサーバまたはパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法について詳しくは、「IPアドレスを変更する」(191ページ)をご覧ください。

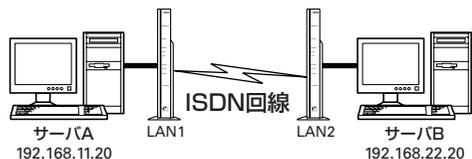
ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにサーバアプリケーションをインストールしてから、公開するフォルダやユーザーID、パスワードを設定します。設定の方法については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ISDN 回線経由で LAN と LAN を接続する (LAN 間接続) ISDN

本機のようなダイヤルアップルータが接続されている LAN どうしを、ISDN 回線経由で接続できます (LAN 間接続)。ダイヤルアップで LAN どうしを接続すると、離れた場所にある相手側のパソコンでも、自分の LAN 上にあるパソコンと同じようにアクセスできます。

ダイヤルアップルータを使うと必要なときだけ接続することができるので、専用線を使った場合と比較して、大幅な低コストで LAN 間接続を実現できます。なお、本機の LAN 間接続機能は、TCP/IP プロトコルのサーバソフトウェアに対応しています。



LAN1 プライベートIPアドレス:
192.168.11.0~192.168.11.255

LAN2 プライベートIPアドレス:
192.168.22.0~192.168.22.255

ご注意

- 同じネットワークアドレスを設定している LAN どうしの LAN 間接続はできません。あらかじめ、どちらかのネットワークアドレスを変更してください。
- LAN 間接続を利用するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方の LAN に接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。
- 本機の LAN 間接続は、Windows の NetBEUI プロトコルおよび MacOS の AppleTalk プロトコルには対応していません。
- Windows でファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IP プロトコルを使用するか、または Windows NT サーバを用意する必要があります。
- MacOS 8.1 以降の Macintosh でファイル共有する場合は AppleShare IP サーバが必要です。なお、MacOS 9 の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで [TCP/IP 接続でファイル共有を可能にする] にチェックを付けることで、AppleShare IP サーバなしでファイル共有できます。

LAN 間接続に必要な設定

LAN と LAN を接続するときは、お互いのルータやパソコンに次のような設定が必要です。

ルータに必要な設定

- プライベートIPアドレスの設定 (着信側 / 受信側)
- 接続相手の登録 (着信側 / 受信側)

サーバまたはパソコンに必要な設定

- 固定プライベートIPアドレスの設定
- ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録

ここでは、次の条件で設定する場合を例に説明します。

自分側 (LAN1)

- 回線の電話番号: 03-1111-2001
- プライベートIPアドレス:
192.168.11.0~192.168.11.255
- ネットマスク: 255.255.255.0 (24ビット)
- ルータIPアドレス: 192.168.11.1

相手側 (LAN2)

- 回線の電話番号: 06-2222-0002
- プライベートIPアドレス:
192.168.22.0~192.168.22.255
- ネットマスク: 255.255.255.0 (24ビット)
- ルータIPアドレス: 192.168.22.1

TCP/IPプロトコルのファイル共有設定例

プライベートIPアドレスを設定する

LAN間接続を行う場合は、それぞれのLAN内の機器のプライベートIPアドレスを重複しないように設定する必要があります。お互いの担当でプライベートIPアドレスを決めて、ルータのIPアドレス設定を変更してください。設定方法については、「本機のIPアドレスを変更する」(134ページ)をご覧ください。

ご注意

お互いのルータを工場出荷値のまま使っている場合は、必ず一方または双方のIPアドレス設定を変更してください。

パソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法については、「IPアドレスを変更する」(191ページ)をご覧ください。

ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトをインストールし、公開するフォルダやユーザID、パスワードを設定します。設定の方法については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

接続相手を登録する

発信側と着信側の両方のルータには、自分のISDN回線番号と接続相手の電話番号、ネットワークアドレスを設定します。接続相手の登録は、「かんたん設定ページ」の「接続設定」画面で行います。ここでは、ISDN回線経由の場合を例に説明します。

ご注意

LAN間接続は、ISDNの設定と専用線の設定を併用することはできません。切り替えるときは、いずれの場合もLAN間接続設定をすべて削除してから行ってください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [ISDN回線設定]をクリックする。

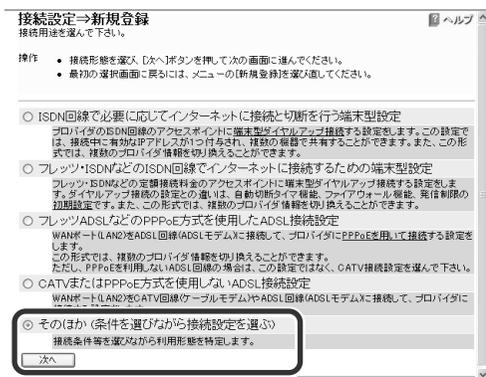
5 本機のISDN回線番号およびサブアドレスを入力してから、[登録]をクリックする。

LAN間接続の場合は、ルータの着信に長いサブアドレスを設定して、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できます。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみ場合がありますので、ご注意ください。

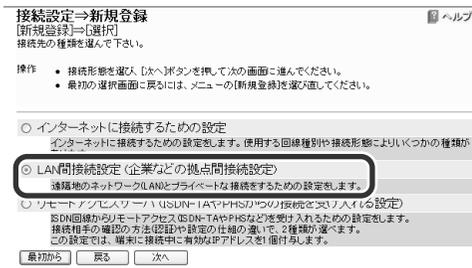
6 画面左側の[接続設定]をクリックする。

7 [新規登録]をクリックする。

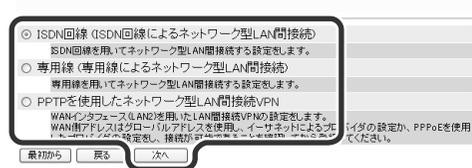
8 [そのほか]を選んでから、[次へ]をクリックする。



9 [LAN間接続設定(企業などの拠点間接続設定)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



10 回線の種類を選んでから、[次へ]をクリックする。



ISDN回線 ISDN回線でダイヤルアップ接続する場合に選びます。

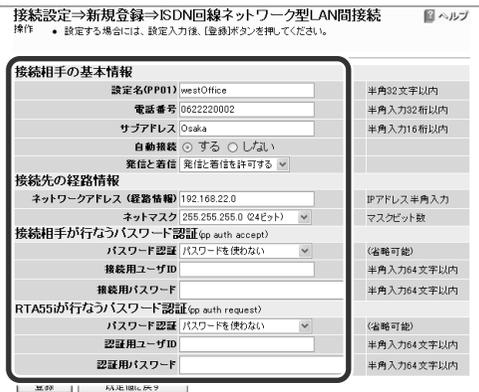
PPTPを使用したネットワーク型LAN間接続VPN PPTPを利用したVPNを構築する場合に選びます。詳しくは、「新機能ガイド」(別冊)の「PPTPを利用して、VPNを構築する」をご覧ください。

専用線 専用線で接続する場合に選びます。

ご注意

すでにISDN回線を使ったプロバイダ接続が登録されている場合は、「専用線」は表示されません。

11 接続先名と、接続相手側の電話番号およびサブアドレス、ネットワークアドレス、経路情報を入力する。



設定名 接続先名を入力します。

電話番号/サブアドレス

LAN間接続の場合は、発信者番号を確認してから接続するので、両方のルータに自分のISDN回線番号と接続相手の電話番号を設定してください。また、長いサブアドレスを設定しておくことで、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できるため、不特定の相手からのアクセスに対するセキュリティとしても有効です。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご注意ください。

自動接続 接続相手へ自動的に接続するかを設定します。

発信と着信 動作制限を設定します。

- **発信と着信を許可する**: 双方からの接続を許可します。
- **着信を許可する**: 相手からの着信のみを許可し、発信は禁止します。

ネットワークアドレス

接続相手のネットワークアドレスを設定します。双方でネットワークアドレスが重複している場合は、どちらかのネットワークアドレスを変更してください。

ネットマスク

接続相手のネットマスクを設定します。

パスワード認証

設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせてください。

ユーザID ユーザIDを設定することもできます。

パスワード パスワードを設定することもできます。設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせてください。LAN間接続の場合は、特定の発信者番号しか着信できないので、パスワードを特に設定する必要はありません。

12 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、接続相手が登録され、「接続設定」画面に戻ります。

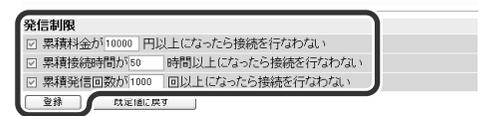
13 接続条件を設定したい場合は[LAN間接続管理]をクリックしてから、登録した接続相手の[登録の修正]をクリックする。



14 自動切断の条件を設定したい場合は、画面上部の[自動切断]をクリックしてから、回線切断の条件を設定して[登録]をクリックする。



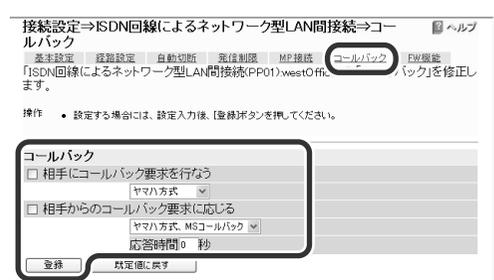
15 自動接続を制限したい場合は、画面上部の[発信制限]をクリックしてから、発信制限の条件を設定して[登録]をクリックする。



ご注意

- 接続相手の新規登録を行うと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。
- 制限に達して接続できなくなったときは、「料金設定」画面で接続相手の累積料金をリセットしてください。ひんぱんに接続できなくなる場合は、発信制限の数値を見直してください。

16 コールバックを設定したい場合は、画面上部の[コールバック]をクリックしてから、コールバックの方式や電話番号を設定して[登録]をクリックする。



次のページにつづく▶

専用線のLAN間接続例

専用線の場合は、回線の種類と本機のネットワークアドレス、接続相手のネットワークアドレスを設定します。

- 「接続設定」の「LAN/WAN設定」画面

- 「新規登録」の「専用線によるネットワーク型LAN間接続」画面

ヒント

接続相手側のDHCPサーバを利用することもできます。その場合は、「かんたん設定ページ」の「システム管理」→「LAN側設定」画面で、「DHCPサーバ機能を使用する」のチェックを外してください。

接続する

相手側のLANへ接続するときは、「かんたん設定ページ」の「手動接続と切断」画面で手動接続します。

- 1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

本機に内蔵の「トップ」画面が表示されます。

- 3 画面左側の「手動接続と切断」をクリックする。

- 4 接続相手名の「接続」をクリックする。

LANとLANが接続され、相手のLAN上のパソコンにアクセスできるようになります。

- 5 切断するときは、「切断」をクリックする。

ご注意

- 接続相手の新規登録を行うと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます(138ページ)。
- 制限に達して接続できなくなったときは、「料金設定」画面で接続相手の累積料金をリセットしてください。ひんぱんに接続できなくなる場合は、発信制限の数値を見直してください。

Windows 95/98/Meにおける ファイル共有設定例

Windowsの標準ネットワークプロトコルはNetBEUIですので、そのままではLAN間接続を利用したファイル共有はできません。TCP/IPプロトコルの設定に加えてNetBIOS over TCP/IPの設定を行うことで、LAN間接続(TCP/IPプロトコル経由)時にファイル共有ができるようになります。

必要な設定

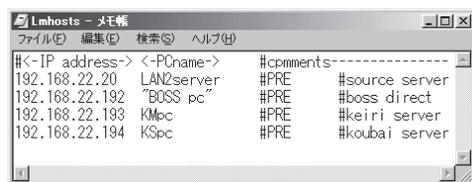
- Lmhostsファイルを作成する(下の説明)
- ネットワークのファイル共有設定を変更する(178ページ)
- 各フォルダ/ドライブの共有設定を変更する(178ページ)
- 本機のフィルタ設定を変更する(179ページ)

Lmhostsファイルを作成する

Lmhostファイルは、接続先LAN内のパソコン名とプライベートIPアドレスを関連付けるためのファイルです。このファイルを起動ドライブ(通常はCドライブ)内の「Windows」フォルダに保存しておく、接続時にこのファイルを自動的に参照するので、相手のLANにアクセスできるようになります。

- 1 【メモ帳】などのテキスト編集ソフトで、下図のように接続先LAN内でアクセスしたいパソコンのプライベートIPアドレスとパソコン名称を入力する。

パソコンの名称に空白が含まれている場合は、ダブルコーテーション(“ ”)で囲んで入力します。



パソコンの名称がわからないときは

相手先パソコンの[コントロールパネル]の[ネットワーク]をダブルクリックして、[識別情報](Windows95の場合は[ユーザ情報])を確認してください。

- 2 手順1で作成したファイルを、起動ドライブの「Windows」フォルダ内へ「Lmhosts」というファイル名で保存する。

保存したファイルに拡張子がついている場合は、ファイル名を「Lmhosts」(拡張子なし)に修正してください。

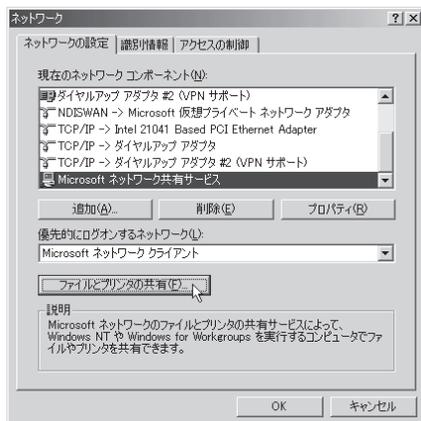
- 3 パソコンを再起動します。
- 4 双方のLAN上のパソコンにそれぞれ相手のパソコン名を入力した「Lmhosts」ファイルを起動ドライブの「Windows」フォルダ内へ保存して、パソコンを再起動する。

ネットワークのファイル共有設定を変更する

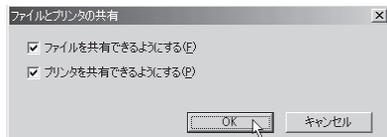
Windowsでファイルを共有するときは、[コントロールパネル]の[ネットワーク]に[Microsoftファイル共有サービス]を追加し、[ファイルとプリンタの共有]を設定します。

- 1 [マイコンピュータ]の[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開いてから、リストの中に[Microsoftネットワーク共有サービス]があるか確認する。

ない場合は[追加]をクリックして、[サービス]の[Microsoftファイル共有サービス]を追加してください。



- 2 [ファイルとプリンタの共有]をクリックして、[ファイルを共有できるようにする]と[プリンタを共有できるようにする]にチェックを付けたから、[OK]をクリックする。



- 3 [識別情報] (Windows95の場合は[ユーザ情報])を開き、パソコンの名称が相手側のLmhostsに登録されている名称と合っていることを確認する。

各フォルダ/ドライブの共有設定を変更する

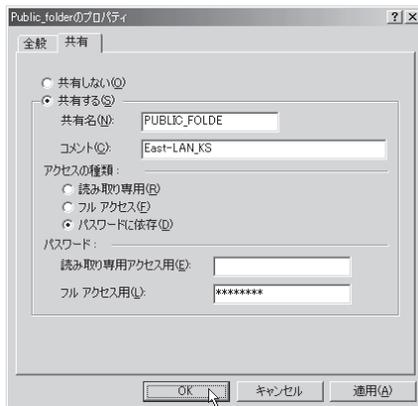
Windowsの場合は、公開するフォルダまたはドライブの共有設定を変更します。ここでは、「マイドキュメント」フォルダ内の「PublicFolder」フォルダを公開する場合を例にして説明します。

- 1 共有したいフォルダをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[共有]を選ぶ。



- 2 [共有]タブをクリックして[共有する]を選んだから、アクセスの種類やパスワードを入力して[OK]をクリックする。

フォルダアイコンに手のマークが付いた状態が、アクセスが許可されているフォルダです。同様の操作で、ドライブを共有することもできます。



本機のフィルタ設定を変更する

意図しない接続や課金を防ぐために、NetBIOSに対するフィルタが本機には設定されています。LAN間接続でWindowsのファイル共有を行う場合は、以下の手順でポート番号139の設定を変更する必要があります。

- 1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 3 [付加機能]をクリックする。
- 4 [ファイアウォール機能]をクリックする。
- 5 「静的フィルタ」の[適用]－[入]で4,5番のチェックを外してから、[適用]をクリックする。



ご注意

フィルタ変更後は、意図しない接続や課金がないか、「料金／通信記録」画面などでときどきチェックしてください。

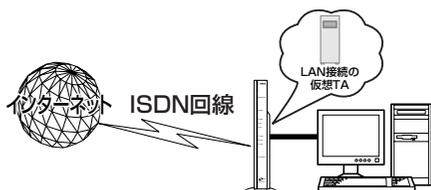
アクセスのしかた

相手先LANのWindowsパソコンにアクセスするときは、ルータのLAN間接続で相手のLANに接続した後、[スタート]ボタンの[検索]でパソコンを指定します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[検索]－[ほかのコンピュータ]をクリックする。
- 2 Lmhostsに登録したパソコンの名称を入力してから、[検索開始]をクリックする。
指定したパソコンがリストに表示されます。
- 3 リストに表示されたパソコンの名称をダブルクリックする。
相手がファイル共有を設定しているフォルダまたはドライブが表示され、アクセスできるようになります。

LAN-TA 機能を使って接続する

Windows98/Me/2000/XPの「仮想プライベートネットワーク」機能を利用することで、本機を仮想TAとしてLAN上のパソコンから利用できます(LAN-TA機能)。ネットワークゲームやICQなどの、本機では正常に動作しないグローバルIPアドレスを使ったサービスも、LAN-TAを使用することで利用できるようになります。



ご注意

- LAN-TA機能は、PPTP(Point to Point Tunneling Protocol)に対応した機能のため、Windows98/Me/2000/XPでのみ利用できます。Macintoshでは利用できません。
- LAN-TA機能を利用中は、着信を受けられません。
- Windows95の場合は、「Microsoft Windows95 ダイアルアップネットワーク1.3アップグレード」でアップデートする必要があります。詳しくはMicrosoft社のホームページ(<http://www.microsoft.com/japan/windows/>)をご覧ください。
- この機能を使用中は、ISDNの1チャンネル分を占有します。すでに他のプロバイダ自動接続、TELポート、LAN-TA機能で2チャンネル分使用している場合は、接続できません。
- 2台のパソコンが同時にLAN-TAで接続している場合は、2チャンネル分を使用することになります。プロバイダによっては同一ユーザ名で複数同時接続を許可していない場合がありますので、ご注意ください。

必要な設定

LAN-TA機能で接続するときは、ルータやパソコンに次の設定が必要です。

ルータに必要な設定

LAN-TA機能を利用できるように設定する

パソコンに必要な設定

- 仮想プライベートネットワークをインストールする
- ダイヤルアップ接続の設定を変更する

本機の設定を変更する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

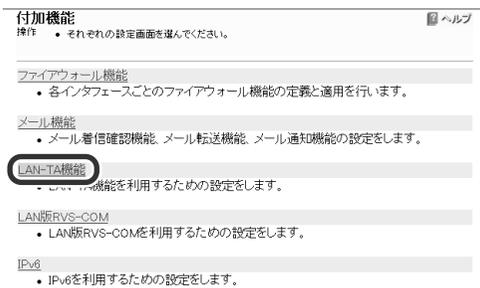
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

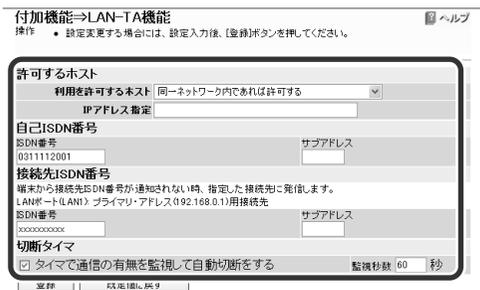
「トップ」画面が表示されます。

3 [付加機能]をクリックする。

4 [LAN-TA機能]をクリックする。



5 [利用を許可するホスト]を選んでから、接続制限や自動切断を設定する。



利用ホスト制限

LAN-TA機能の利用を許可する範囲を選びます。

自己ISDN番号

LAN-TA機能を使用する自局番号を入力します。

接続先ISDN番号

Windows Meなどで接続先をあらかじめ設定する必要がある場合に、接続先の電話番号を入力します。

切断タイマ 通信を行っていないときに、自動切断するまでの時間を設定します。

- 6** 画面下にある**[登録]**をクリックする。
メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

仮想プライベートネットワーク (VPN) をインストールする

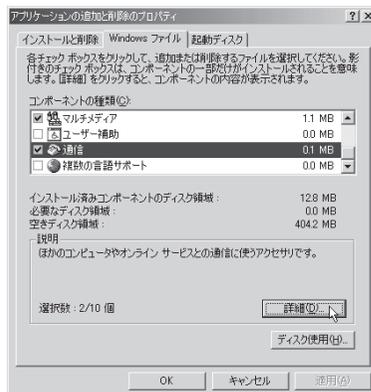
本機のLAN-TA機能を使用するには、Windowsの仮想プライベートネットワークが必要です。

- **Windows95の場合は:**「Microsoft Windows95 ダイヤルアップネットワーク1.3アップグレード」を入手して、インストールしてください。手順については、アップデートに添付のマニュアルをご覧ください。
- **Windows98/Me/2000/XPでインストールされていない場合は:**以下の手順でWindowsのCD-ROM(OSインストールCD-ROM)からインストールします。作業を始める前にシステムCD-ROMをご用意ください。

- 1** **[コントロールパネル]**の**[アプリケーションの追加と削除]**を開き、**[Windowsファイル]**タブをクリックする。

インストール済みのファイルがリストに表示されます。

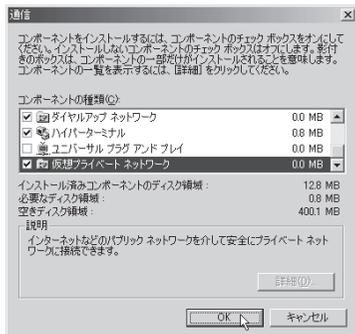
- 2** **[通信]**をクリックして選んでから、**[詳細]**をクリックする。



次のページにつづく▶

3 [仮想プライベートネットワーク]、[ダイヤルアップネットワーク]にチェックが付いていることを確認してから、[OK]をクリックする。

上記以外の項目にチェックがついていても、問題はありません。



4 [OK]をクリックする。

追加機能がインストールされます。CD-ROMを要求するメッセージが表示された場合は、WindowsのCD-ROMをドライブにセットしてください。

5 インストールが終わったら、パソコンを再起動する

再起動後に、仮想プライベートネットワーク機能が使えるようになります。

パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更する

LAN-TA機能を利用する各パソコンには、ダイヤルアップネットワークにLAN-TAにアクセスするためのアイコンを作成します。

1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックしてから、[新しい接続]アイコンをダブルクリックする。



[新しい接続]アイコンがない場合には

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が表示されるので、[次へ]をクリックします。

2 「NetVolante-LAN-TA」と入力してから、[モデムの選択]から[Microsoft VPN Adaptor]を選び、[次へ]をクリックする。



3 本機のIPアドレスと接続先の電話番号を半角スペース1つ空けて入力してから、[次へ]をクリックする。

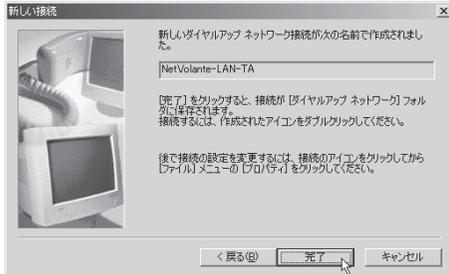


ご注意

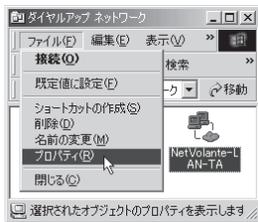
Windows Meでは、接続先の電話番号を設定できません。[かんたん設定ページ]の[付加機能]-[LAN-TA機能]画面で電話番号を指定してください。

4 接続名を確認してから、[完了]をクリックする。

「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録した仮想TA接続のアイコンが表示されます。

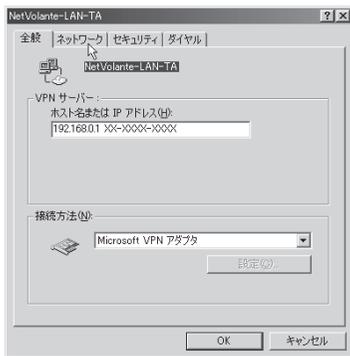


5 [NetVolante-LAN-TA]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



6 [ネットワーク]タブをクリックする。

Windows 98の場合は[サーバーの種類]タブをクリックします。



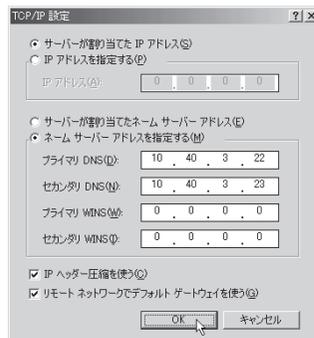
7 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮をする]:チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[NetBEUI]、[IPX/SPX互換]:チェックを外す。
- [TCP/IP]:チェックを付ける。



8 [名前サーバーアドレスを指定する]を選んで、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力してから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。

名前サーバのIPアドレスが指定されていない場合は、[サーバが割り当てた名前サーバアドレス]を選びます。

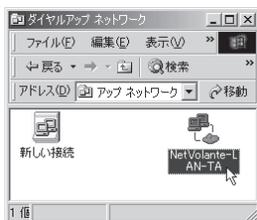


これで、LAN-TA接続の設定が完了しました。

接続する

LAN-TAで接続するときは、ダイヤルアップネットワークアイコンで接続します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、[NetVolante-LAN-TA]アイコンをダブルクリックする。



- 2 [接続]をクリックする。



本機へ接続すると、接続名のウィンドウが表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

ご注意

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、必要な作業を行う。
- 4 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。
プロバイダとの接続が切れます。

本機は次世代インターネット・プロトコルである「IPv6」(Internet Protocol Version 6)に対応しています。本機では従来の「IPv4」に関する機能も継承しているため、既存のネットワークに影響を与えずに、「IPv6」を利用できます。

ご注意

プロバイダがIPv6に対応していない場合、IPv6環境でインターネットに接続できません。契約しているプロバイダがIPv6接続サービスを提供しているかどうか、あらかじめご確認ください。

IPv6ネットワーク

- エンドーエンドの通信、双方向通信が可能
- 家電製品、自動車、携帯電話機もインターネットに接続できる

IPv4ネットワーク

アドレス不足によりプライベートアドレスを使用している場合、エンドーエンドの通信、双方向通信ができない。

IPv6を導入する前に

IPv6とIPv4のネットの環境を混在させるときのご注意

「IPv6」は、「IPv4」との互換性がないため、それぞれのネットワークが混在するときには、双方を併用するために移行技術(Transition Mechanism)と総称される仕組みが必要になります。また、一般的には、IPv4からIPv6への移行は複数の段階を踏むため、各段階に応じた移行技術が必要になります。

本機では、移行技術としてIPv4ネットワークを経由してIPv6ネットワークを接続するための「IPv6 over IPv4トンネリング」、IPv6ネットワークを経由してIPv4ネットワークを接続するための「IPv4 over IPv6トンネリング」をサポートしています。

プロバイダからの設定情報を確認してください

IPv6接続サービスを契約すると、以下の情報がプロバイダから提供されます。

- プレフィックス(アドレスブロック)
- 接続方法(ネイティブ接続／デュアルスタック接続／トンネル接続)
- トンネルの終端アドレス(トンネル接続の場合)
- 経路制御方法(RIPngを使うか使わないか)。特に記載がない場合、RIPngは使用しません。
- 接続の確認方法(ping6の相手アドレスや、閲覧するWebサイトなど)

IPv6を使えるように設定する

設定を始める前に、IPv6で接続する相手(プロバイダ)を登録しておいてください。

ご注意

プロバイダを登録していない場合は、以下の操作を行ってもエラーが発生します。登録していない場合は、接続方法に合わせて「接続設定」-「新規登録」画面で接続先のプロバイダを登録してください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

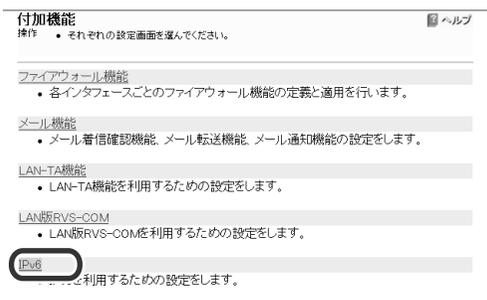
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

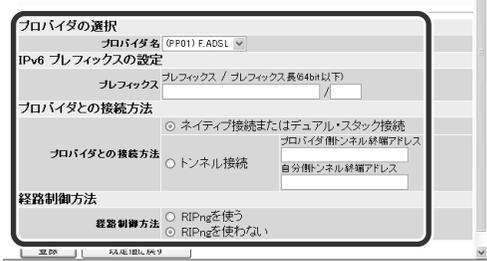
「トップ」画面が表示されます。

3 画面左側の[付加機能]をクリックする。

4 [IPv6]をクリックする。



5 必要な項目を設定する。



次のページにつづく▶

プロバイダ名

IPv6で接続するプロバイダを選びます。

プレフィックス

プロバイダから指定されたプレフィックス(またはアドレスブロック)を入力します。IPv6のプレフィックス(ネットワーク部)を64ビット以内で指定します。

プレフィックス長(「/」以下の値)は64ビット以下で設定してください。64ビット以上の値を入力すると、入力エラーになります。

プロバイダとの接続方法

プロバイダにIPv6接続する際の、接続方法を指定します。接続方法はプロバイダの提供しているサービスによって決まります。契約内容に合わせて設定してください。

- **ネイティブ接続またはデュアル・スタック接続:** ネットワークをすべてIPv6環境で構築している場合に選びます。IPv6で構築したネットワークにIPv6の packets を流すため、IPv6環境の機器がIPv4ネットワークにアクセスできなくなりますので、ご注意ください。
 - **トンネル接続:** ネットワーク上にIPv4環境の機器が多く存在する場合に選びます。IPv4のネットワーク内部にIPv6用の仮想的なトンネルを設置して、IPv6の packets をカプセル化してIPv4のネットワーク上に流します。
この場合、プロバイダから指定されたトンネル終端アドレス(プロバイダ側、自分側)を設定する必要があります。
-

経路制御方法

RIPng(動的経路)で経路制御するかどうかを指定します。契約内容に合わせて設定してください。プロバイダの資料に経路制御手法について何も記載されていない場合は、[使わない]を選びます。

- **RIPngを使う:** RIPng(動的経路)で経路制御を行います。
 - **RIPngを使わない:** 静的経路で経路制御を行います。
-

6 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されます。

IPv6接続を確認する

以下の手順で、IPv6環境が正しく設定されているかどうか確認します。

💡 ヒント

パソコンとRTA55iは、LANケーブルで接続した時点で通信可能になります。パソコン側での設定は、特に必要ありません。

1 LAN側の接続を確認する。

LANポートに接続されたパソコンから、RTA55iのLAN1アドレスにping6を実行します。返事があれば、正しく設定されています。

💡 ヒント

RTA55iのLAN1アドレスは、プレフィックスに「1」をつけたアドレスになります。

例：プレフィックスが「fec0:12ab::/64」の場合

- LAN1アドレスは「fec0:12ab::1/64」になります。
- RTA55iのLAN1アドレスにping6を実行するには、「ping6 fec0:12ab::1」とコンソールで入力してから、Enterキーを押します。

2 LAN側とWAN側の接続を確認する。

プロバイダへping6を実行したり、専用のWebサイトを閲覧するなど、プロバイダから指定されている確認手順を行います。

これでIPv6環境が利用できるようになりました。

第9章 その他の 情報

付録では、CD-ROMに収録されているマニュアルを読むためのソフトウェアのインストール方法や本機の仕様、用語集を収録しています。

Acrobat Readerで 説明書を読む

付属のCD-ROMに収録されているPDF形式の説明書を読むときは、「Acrobat Reader」が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからAcrobat Readerをインストールしてください。

Acrobat Readerをインストールする

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、CD-ROMドライブ内の[Utility]—[Acrobat]フォルダの[ar500jpn]をダブルクリックする。

インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Readerをインストールします。

Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、CD-ROMドライブ内の[ユーティリティ]—[Adobe Acrobat Reader]フォルダの[Japanese Reader Installer]アイコンをダブルクリックする。

インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Readerをインストールします。

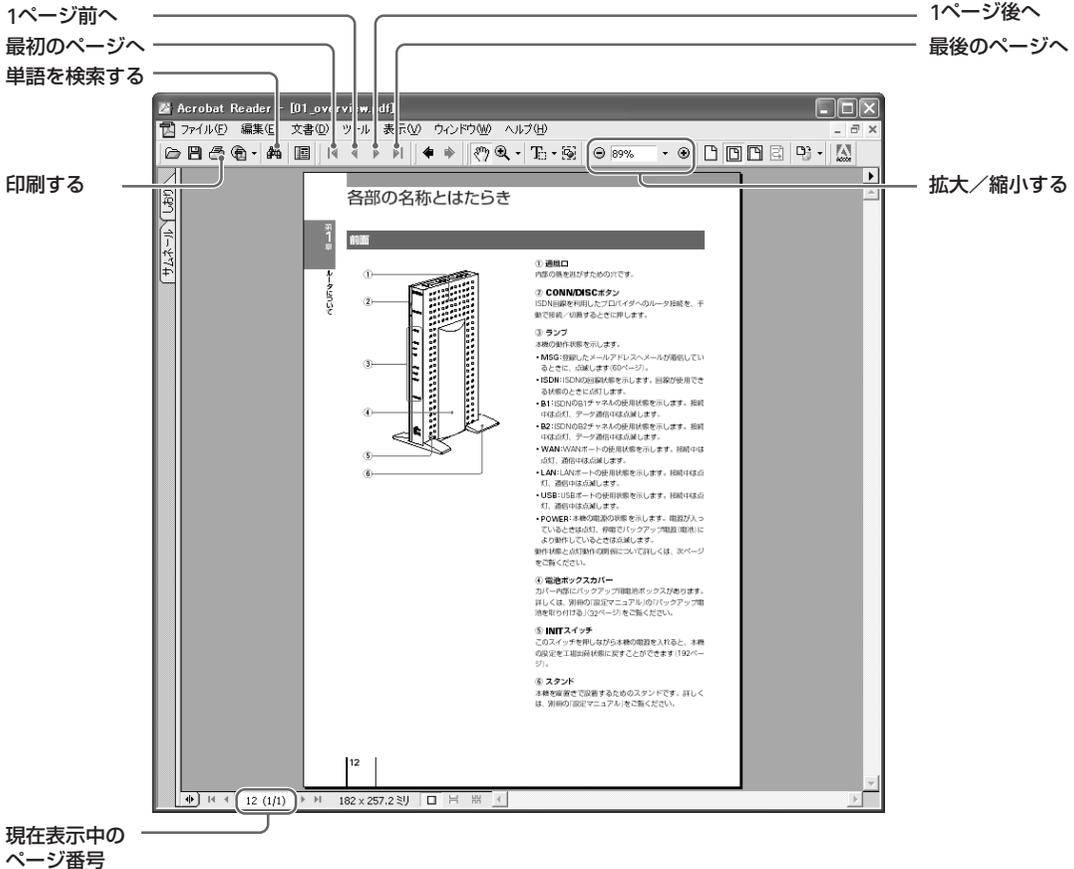


うまく動作しないときは、別冊の「困ったときは」をご覧ください。

Acrobat Readerの使いかた

本機の説明書は、Windows 95/98/Me/2000/XPではCD-ROMの[Manual]フォルダ、MacintoshではCD-ROMの[マニュアル]フォルダ内に収録されています。PDF形式の説明書のアイコンをダブルクリックすると、「AcrobatReader」ウィンドウに説明書が表示されます。

Acrobat Readerには、次のような機能ボタンがあります。詳しい操作の説明については、Acrobat Readerのヘルプをご覧ください。



パソコンの IP アドレスを管理する

LANやインターネットへのアクセスができないときは、DHCPサーバによるLAN内IPアドレス自動割り当てで、IPアドレスが重複している場合があります。そのときは、次のような操作を行ってください。

ご注意

固定アドレスで重複している場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

現在のIPアドレスを確認する

Windows 95/98/Meの場合

起動ディスクのWindowsフォルダ内にある [Winipcfg.exe] アイコンをダブルクリックして、使用中のLANカード名を選ぶ。

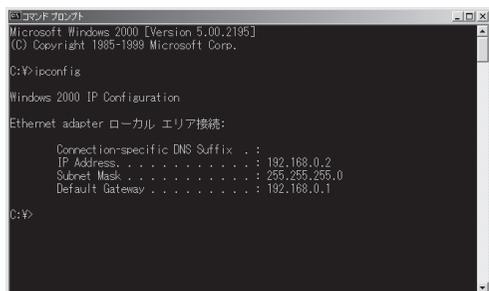


現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。

Windows 2000/XPの場合

Windows2000の場合を例にして説明していますが、WindowsXPでも操作は同じです。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] をクリックする。
- 2 「ipconfig」と入力してから、Enterキーを押す。

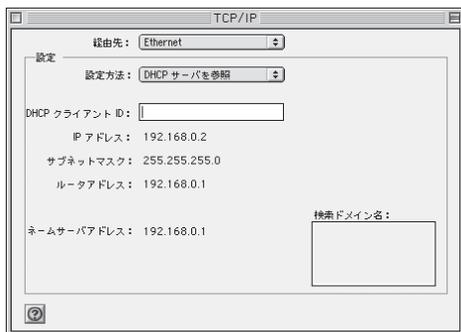


現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。

Mac OSの場合

コントロールパネルの[TCP/IP]を開く。

現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。



Mac OS Xの場合

- 1 アップルメニューから[システム環境設定]を選ぶ。

- 2 [ネットワーク]をクリックする。

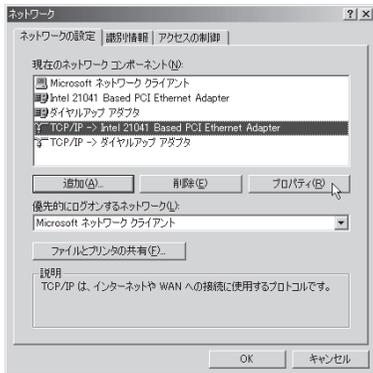
現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。



IPアドレスを変更する

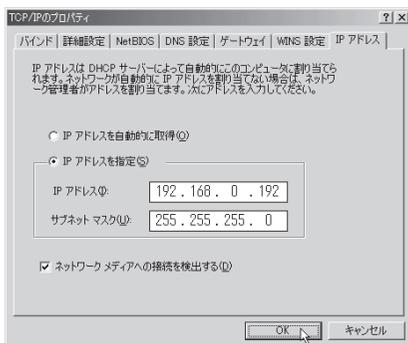
Windows95/98/Meの場合

- 1 [マイコンピュータ]の[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開いてから、リストの中の[TCP/IP->(ネットワークカードの名称)]を選び、[プロパティ]をクリックする。

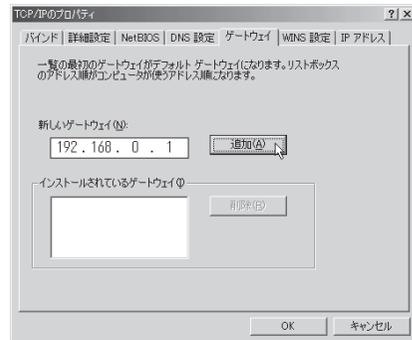


- 2 [IPアドレス]タブをクリックして、[IPアドレスを指定]を選ぶ。
- 3 IPアドレスとネットマスク欄に、パソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力する。

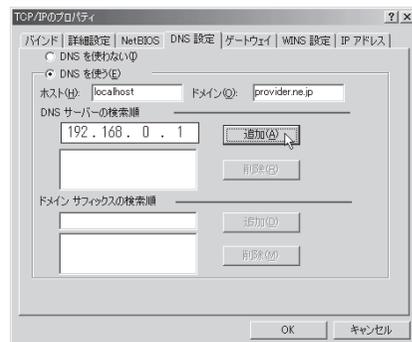
本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。



- 4 [ゲートウェイ]タブをクリックして、[新しいゲートウェイ]に本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.0.1)を入力してから、[追加]をクリックする。



- 5 [DNS設定]タブをクリックしてから、[DNSを使う]を選ぶ。
- 6 [ホスト名]にWindowsパソコンの名前、[ドメイン]に接続するプロバイダのドメイン名、[DNSサーバーの検索順]に本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力してから、[追加]をクリックする。



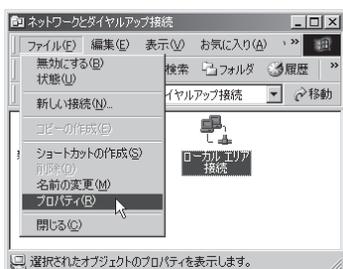
- 7 [OK]をクリックして、メッセージに従ってパソコンを再起動する。
- 8 LAN上のすべてのWindows95/98/Meパソコンに対して手順1~7の操作を繰り返し、すべてのWindowsパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

Windows2000の場合

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[設定]—[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



- 3 本機を接続しているネットワークボード名の[ローカルエリア接続]をクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

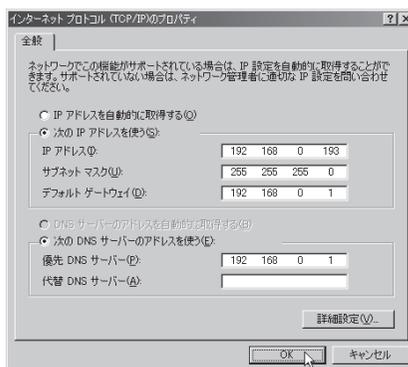


- 4 リストの[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



- 5 [次のIPアドレスを使う]を選んでから、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]にWindowsパソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力する。

- 本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
- デフォルトゲートウェイは、本機のIPアドレス(192.168.0.1)を設定します。



- 6 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選んでから、[優先DNSサーバー]に本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力する。

- 7 [OK]をクリックして、メッセージに従ってパソコンを再起動する。

- 8 LAN上のすべてのWindows2000パソコンに対して手順1~7の操作を繰り返し、すべてのWindows/パソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

WindowsXPの場合

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



- 3 [ネットワーク接続]をクリックする。



- 4 [ローカルエリア接続]のアイコンをクリックする。



- 5 [この接続の設定を変更する]をクリックする。

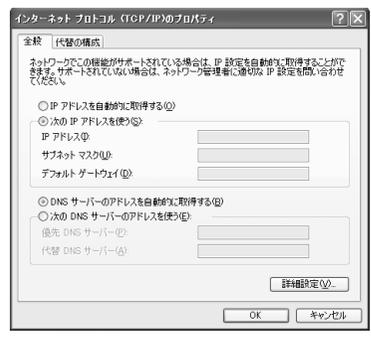


- 6 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



- 7 [次のIPアドレスを使う]を選んでから、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]にWindowsパソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力する。

- 本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
- デフォルトゲートウェイは、本機のIPアドレス(192.168.0.1)を設定します。



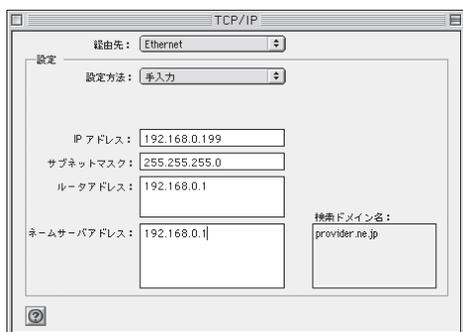
- 8 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選んでから、[優先DNSサーバー]に本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力する。

- 9 [OK]をクリックして、メッセージに従ってパソコンを再起動する。

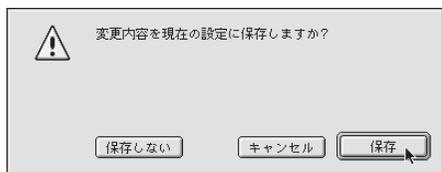
- 10 LAN上のすべてのWindowsXPパソコンに対して手順1~7の操作を繰り返し、すべてのWindowsパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

Mac OS の場合

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル]—[TCP/IP]を選ぶ。
- 2 以下のように設定してから、ウィンドウを閉じる。
 - 経路先: Ethernet
 - 設定方法: 手入力
 - IPアドレス: 割り当てるIPアドレス。本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
 - サブネットマスク: ネットマスク
 - ルータアドレス、ネームサーバアドレス: 本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)
 - 検索ドメイン名: 接続するプロバイダのドメイン名



- 3 確認のダイアログが表示されたら、[保存]をクリックする。



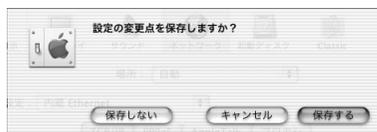
- 4 LAN上のすべてのMac OSパソコンに対して手順1~3の操作を繰り返し、すべてのMac OSパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

Mac OS X の場合

- 1 アップルメニューから[システム環境設定]を選ぶ。
- 2 [ネットワーク]をクリックする。
- 3 以下のように設定してから、ウィンドウを閉じる。
 - 経路先: Ethernet
 - 設定方法: 手入力
 - IPアドレス: 割り当てるIPアドレス。本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
 - サブネットマスク: ネットマスク
 - ルータ、ドメインネームサーバ: 本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)
 - 検索ドメイン名: 接続するプロバイダのドメイン名



- 4 確認のダイアログが表示されたら、[保存する]をクリックする。



- 5 LAN上のすべてのMac OS Xパソコンに対して手順1~4の操作を繰り返し、すべてのMac OS Xパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

IPアドレスをリセットする

Windows95/98/Meの場合

- 1 起動ディスクのWindowsフォルダ内にある [Winipcfg.exe] アイコンをダブルクリックする。
- 2 LANカード名を選び、[解放]をクリックする。
現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。

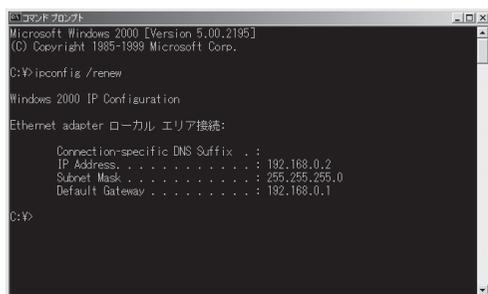


- 3 [書き換え]をクリックする。
他のパソコンと重複しないプライベートIPアドレスに更新されます。

Windows2000/XPの場合

Windows2000の場合を例にして説明していますが、WindowsXPでも操作は同じです。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム] - [アクセサリ] - 「コマンドプロンプト」をクリックする。
- 2 「ipconfig/renew」と入力してから、Enterキーを押す。



他のパソコンと重複しないプライベートIPアドレスに更新されます。

Mac OS/Mac OS Xの場合

Macintoshを再起動する。

割り当てられていたプライベートIPアドレスがリセットされます。

💡 ヒント

コントロールパネルの[TCP/IP]を開いて経由先を[Ethernet]以外に設定して保存し、もう一度コントロールパネルの[TCP/IP]を開いて経由先を[Ethernet]に設定し直すことで、DHCPサーバから割り当てられたプライベートIPアドレスをリセットすることもできます。

主な仕様

外形寸法(幅×高さ×奥行き、突起物を除く):

88 mm×234.5 mm×135 mm

質量:

本体:480 g(乾電池を除く)

ACアダプタ:90 g

電源:

AC100V(50/60Hz)

消費電力:

最大10 W

単3型アルカリ乾電池4本

(停電時TEL1ポート使用可)

動作環境条件:

周囲温度 0~40℃

周囲湿度 15~85%(結露しないこと)

保管環境条件:

周囲温度 -10~50℃

周囲湿度 10~90%(結露しないこと)

ISDNインタフェース:

ISDNまたはデジタル専用線(RJ-11、DSU機能内蔵)×1

S/Tインタフェース:

入出力切替可能(RJ-45)×1

アナログインタフェース:

2線式(RJ-11)×2(供給電圧-48V)

PB、DP(10PPS, 20PPS)自動認識

線路抵抗 400Ω(電話機込み)

LANインタフェース:

イーサネット10/100BASE-TX×4ポート

スイッチングHUB(RJ-45)

WANインタフェース:

イーサネット10/100BASE-TX×1(RJ-45)

USBインタフェース:

USBシリーズBコネクタ×1

表示機能:

LED×8(MSG、ISDN、B1、B2、LAN、WAN、USB、POWER)

操作ボタン:

1(CONN/DISCボタン)

付属品:

ACアダプタ P9V1.1A(1)

USBケーブル(1)

LANケーブル(1)

モジュラーケーブル(1)

CD-ROM(1)

各種マニュアル

• 設定マニュアル(1)

• 活用マニュアル(1)

• 困ったときは(1)

「かんたん設定ページ」 設定項目一覧

一般ユーザ用ページ

トップページ

- 手動接続と切断
- プロバイダ接続
 - CONN/DISCボタンの接続と切断の設定
 - 現在のISDN回線接続状態

- 料金と通信の記録
- 料金情報
 - 着信転送履歴
 - メール着信数
 - メール転送履歴
 - 通信履歴

管理者用ページ

【接続設定】

*の項目は、設定が登録されている場合に表示されます。

- 新規登録
- ISDN回線で必要に応じてインターネットに接続と切断を行う端末型設定
 - フレッツ・ISDNなどのISDN回線でインターネットに接続するための端末型設定
 - フレッツ・ADSLなどのPPPoEを使用したADSL接続設定
 - CATVまたはPPPoEを使用しないADSL接続設定
 - ネットワーク型プロバイダ接続
ネットワーク型ダイヤルアップ(ISDN回線によるネットワーク型プロバイダ接続)
ネットワーク型フレッツ・ISDN(ISDN回線によるネットワーク型プロバイダ接続)
専用線によるプロバイダ接続
PPPoEを用いるネットワーク型ADSLインターネット
CATVインターネット、またはPPPoEを用いないネットワーク型ADSLインターネット
 - そのほか(条件を選びながら接続設定を選ぶ)
インターネットに接続するための設定
LAN間接続設定(企業などの拠点間接続設定)
リモートアクセスサーバ(ISDN-TAやPHSからの接続を受け入れる設定)

- プロバイダ接続管理*
- プロバイダ接続
 - 登録の管理
 - 自動接続設定
 - プロバイダへの接続方式
 - CONN/DISCボタンの接続と切断の設定
 - 現在のISDN回線接続状態

- LAN間接続管理*
- LAN間接続
 - 登録の管理
 - CONN/DISCボタンの接続と切断の設定
 - 現在のISDN回線接続状態

- リモートアクセス管理*
- 発信者番号認証型リモートアクセスサーバ*
 - パスワード認証型リモートアクセスサーバ*
 - 登録の管理
 - 現在のISDN回線接続状態

-
- | | |
|----------|--|
| ISDN回線設定 | <ul style="list-style-type: none">• ISDN回線の使用• ルータのISDN回線番号• 現在のISDN回線接続状態 |
|----------|--|
-

- | | |
|-----------|---|
| LAN/WAN設定 | <ul style="list-style-type: none">• 基本設定
LANポート(LAN1)のIPアドレス設定
WANポート(LAN2)のIPアドレス設定
DHCPサーバ機能
DHCPスコープの管理• 経路設定 |
|-----------|---|
-

【電話設定】

-
- | | |
|------|--|
| 基本設定 | <ul style="list-style-type: none">• TEL1ポート• TEL2ポート• フレックスホンの設定 |
|------|--|
-

- | | |
|------------|--|
| TEL1ポートの詳細 | <ul style="list-style-type: none">• 着信機能• 着信ベル• 識別着信番号• フレックスホン• 電話機対応機能 |
|------------|--|
-

- | | |
|------------|--|
| TEL2ポートの詳細 | <ul style="list-style-type: none">• 着信機能• 着信ベル• 識別着信番号• フレックスホン• 電話機対応機能 |
|------------|--|
-

- | | |
|-------------|--|
| 機器間アナログ通話設定 | <ul style="list-style-type: none">• アナログ通話モードの設定 |
|-------------|--|
-

- | | |
|-------------|--|
| インターネット電話設定 | <ul style="list-style-type: none">• 基本設定• インターネット電話帳• ネットボランチDNSサービス |
|-------------|--|
-

【付加機能】

ファイアウォール機能	<ul style="list-style-type: none"> FW設定 <ul style="list-style-type: none"> 表示インタフェース 不正アクセス検知機能 静的フィルタの一覧 動的フィルタの一覧 静的フィルタと動的フィルタの適用 動的フィルタ用アクセス制御ルールの一覧 静的フィルタの設定 動的フィルタの設定 動的フィルタ用アクセス制御ルールの設定 FW状態 <ul style="list-style-type: none"> 表示インタフェース 不正アクセス検知機能の侵入履歴 動的フィルタの動作状態
メール機能	<ul style="list-style-type: none"> メール着信確認とメール転送機能(メールサーバの登録) メール通知機能
LAN-TA機能	<ul style="list-style-type: none"> 許可するホスト 自己ISDN番号 接続先ISDN番号 切断タイマ
LAN版RVS-COM	<ul style="list-style-type: none"> 着信許可設定 着信許可番号 RVS-COMへの切り替え時間 G4FAXの着信 音量レベル
IPv6	<ul style="list-style-type: none"> プロバイダ選択 IPv6プレフィックスの設定 プロバイダとの接続方法 経路制御方式

【システム管理】

ルータ設定	<ul style="list-style-type: none"> ルータのパスワード設定 HTTPサーバの利用ホスト制限 TELNETサーバの利用ホスト制限 日付と時刻の設定 ブザーの設定 かんたん設定ページの表示形式
料金情報	
コマンド設定	<ul style="list-style-type: none"> 表示スタイルの変更 Config表示 コマンド入力 HTTPまたはTELNETによるアクセス
システムログ	<ul style="list-style-type: none"> 表示スタイルの変更 Syslog表示 Syslog設定

ATコマンド一覧

ATコマンド

A 着信に対して応答

実行例:
ATA

D 指定された相手に発信

実行例:
ATD031234567(03-123-4567へダイヤルする)
ATD031234567;(03-123-4567へのダイヤルを準備し、コマンドモードへ)
ATD031234567/123(03-123-4567、サブアドレス123へダイヤル)
ATDR031234567/123(03-123-4567/123ヘコールバック要求する)
ATDN(再ダイヤルする)
ATDS=3(短縮3番へダイヤルする)

E コマンド入力に対するエコーの有無の指定

設定例:
ATE0(入力されたコマンドをエコーバックしない)
ATE1(入力されたコマンドをエコーバックする、工場出荷設定)

H 切断復旧処理の起動

実行例:ATH

I 製品情報等の表示

実行例:
ATI0(製品名を表示する)
ATI1(ファームウェアのバージョンを表示する)
ATI2(製造メーカー名を表示する)
ATI3(診断情報等を表示する)

O オンラインコマンドモードからオンラインデータ状態への遷移

実行例:ATO

Q コマンド入力に対する応答の有無の指定

設定例:
ATQ0(入力されたコマンドに対する応答あり、工場出荷設定)
ATQ1(入力されたコマンドに対する応答なし)

S Sレジスタの値の表示

実行例:
ATS30?(Sレジスタ30の値の表示)
Sレジスタについて詳しくは、「Sレジスタの詳細」(203ページ)をご覧ください。

S Sレジスタの値の設定

設定例:
ATS30=0(Sレジスタ30の値を0に設定)
Sレジスタについて詳しくは、「Sレジスタの詳細」(203ページ)をご覧ください。

V リザルトコードと情報テキストの表示フォーマットの指定

設定例:
ATV0(数字形式(numeric form)で出力)
ATV1(文字形式(verbose form)で出力、工場出荷設定)
数字形式/文字形式の対応について詳しくは、リザルトコードセット表をご覧ください。

W CONNECTの通信速度の指定

設定例:
ATW0(通信速度表示にはDTE速度を使用)
ATW2(通信速度表示には回線速度を使用(工場出荷設定))

X CONNECTの通信速度表示とトーン検出の指定

設定例:
ATX0(通信速度表示なし、BT検出なし、DT検出なし)
ATX1(通信速度表示あり、BT検出なし、DT検出なし、工場出荷設定)
ATX2(通信速度表示あり、BT検出なし、DT検出あり)
ATX3(通信速度表示あり、BT検出あり、DT検出なし)
ATX4(通信速度表示あり、BT検出あり、DT検出あり)
詳しくはリザルトコードセット表をご覧ください。

Z シリアルポートのリセットとユーザプロファイルの読み出し

実行例:ATZ

&C CD信号線の制御

設定例:
AT&C0(常時ON)
AT&C1(リモートDTEのRS信号(=受信キャリア)に応じて変化、工場出荷設定)

&D DTR信号のONからOFFへの変化に対する処理

設定例:
AT&D0(何もしない)
AT&D1(オンラインモードならばコマンドモードに遷移)
AT&D2(回線切断、工場出荷設定)
AT&D3(回線切断、シリアルポートのリセット)

&F 工場出荷設定に戻す

実行例: AT&F

&K DTEフロー制御

設定例:

AT&K0(なし)

AT&K1(RS/CSフロー制御、工場出荷設定)

AT&K2(XON/XOFFフロー制御)

&N CI信号線の制御

設定例:

AT&N0(着信中にON、工場出荷設定)

AT&N1(着信から通信終了までON)

AT&N2(着信中にON(1秒)とOFF(2秒)の繰り返し)

&Q 発信時のプロトコル選択

設定例: AT&Q1(非同期/同期PPP、工場出荷設定)

&R コンソールコマンド入力状態へ移行

実行例: AT&R

&S DSR 信号線の制御

設定例:

AT&S0(常時ON、工場出荷設定)

AT&S2(リモートDTEのDTR信号に応じて変化)

&V 現在のパラメータ内容の表示

設定例: AT&V(現在のパラメータとSレジスタの内容の表示)

&W現在のパラメータをユーザプロフィールへ保存

実行例: AT&W

&Z 短縮番号の登録

短縮番号は0から9まで使用できます。

設定例:

AT&Z2=031234567(03-123-4567を短縮2番に登録)

AT&Z9=031234567/12(03-123-4567/12を短縮9番に登録)

&Z 短縮番号の表示

実行例:

AT&Z(0~9の全ての登録番号表示)

AT&Z5(登録番号5の表示)

&Z 短縮番号の削除

短縮番号は0から9まで使用できます。

実行例: AT&Z3=(登録番号3の削除)

\$A 直前の通信料金の取り出し

実行例: AT\$A

ご注意

本機の料金表示は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。

\$B 累積通信料金表示

実行例: AT\$B

ご注意

本機の料金表示は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。

\$C 直前の通信の切断コードの取り出し

実行例: AT\$C

\$D 累積通信料金の初期化

実行例: AT\$D

\$G グローバル着信の有無

設定例:

AT\$G0(グローバル着信しない)

AT\$G1(グローバル着信する、工場出荷設定)

\$H 着信時におけるHLCによる通信可能性確認の有無

設定例:

AT\$H0(HLCが異なる端末からの着信は受け付けない)

AT\$H1(HLCが異なる端末からの着信も受け付ける、工場出荷設定)

\$I 自己アドレス登録時のサブアドレスなし着信の扱いの設定

設定例:

AT\$I0(着信しない)

AT\$I1(着信する、工場出荷設定)

\$L 着信時のリザルトコードRINGの表示形式

設定例:

AT\$L0(発信アドレス情報なし、工場出荷設定)

AT\$L1(発信アドレス情報あり)

\$M MP機能使用の設定

設定例:

AT\$M0(MP機能は使用不可、工場出荷設定)

AT\$M1(MP機能は使用可)

ご注意

MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

\$N スループットBODの設定

設定例:

AT\$N0(スループットBODを使用しない、工場出荷設定)

AT\$N1(スループットBODを使用する)

\$P 発信者番号通知の有無

設定例:

AT\$P0(発信者番号を通知しない)

AT\$P1(発信者番号を通知する、工場出荷設定)

\$R コールバックの有無

設定例:

AT\$R0(コールバック用の着信を受け付けない、工場出荷設定)

AT\$R1(コールバック用の着信を受け付ける)

\$S 識別着信の有無

設定例:

AT\$S0(識別着信しない、工場出荷設定)

AT\$S1(登録番号と一致時にその着信を拒否)

AT\$S2(登録番号と一致時にその着信を許可)

AT\$S5(番号通知のない着信を全て拒否)

\$V 非同期/同期PPP変換での制御キャラクタの**2バイト文字変換**

設定例:

AT\$V0(制御キャラクタを2バイト文字に変換しない、工場出荷設定)

AT\$V1(制御キャラクタを2バイト文字に変換する)

\$W 識別番号の登録

識別番号は0から99まで使用できます。

設定例:

AT\$W2=031234567(識別番号2を03-123-4567に登録)

AT\$W6=031234567/2(識別番号6を03-123-4567/2に登録)

\$W 識別番号の表示

識別番号は0から99まで使用できます。

実行例:

AT\$W2(識別番号2を表示)

AT\$W(0~99の全ての登録番号表示)

\$W 識別番号の削除

識別番号は0から99まで使用できます。

実行例:AT\$W2=(識別番号2を削除)

\$Z 自己アドレスの登録

設定例:

AT\$Z=031234567(自己アドレス03-123-4567)

AT\$Z=031234567/9(自己アドレス03-123-4567/9)

\$Z 自己アドレスの表示

実行例:AT\$Z

\$Z 自己アドレスの削除

実行例:AT\$Z=

@A 擬似LAN接続用のダイヤル番号の登録

設定例:

AT@A=123456789*#

AT@A=****(工場出荷設定)

@A 擬似LAN接続用のダイヤル番号の表示

実行例:AT@A

@A 擬似LAN接続用のダイヤル番号の削除

実行例:AT@A=

@B 擬似LAN接続時のIPアドレスの登録

設定例:

AT@B192.168.0.240(擬似LAN接続用のIPアドレス192.168.0.240)

AT@B0.0.0.0(DHCP 使用、工場出荷設定)

@C デフォルトのコンソールモードの設定

起動時とログインタイムのタイムアウト時、ここで設定されているモードになります。

設定例:

AT@C0(コンソール)

AT@C1(ATコマンド、工場出荷設定)

@D DTE速度未検出時のデフォルトDTE速度の指定

設定例:

AT@D0(DTE使用不可)

AT@D1(2400bit/s)

AT@D2(4800bit/s)

AT@D3(9600bit/s)

AT@D4(19200bit/s)

AT@D5(38400bit/s)

AT@D6(57600bit/s)

AT@D7(115200bit/s、工場出荷設定)

AT@D8(230400bit/s)

@F TAでの着信の許可／不許可の指定

設定例:

AT@F0(TAで着信しない)

AT@F1(TAで着信する、工場出荷設定)

@G MP時のCHAP認証のユーザ名とパスワードの設定

ユーザ名とパスワードは32文字以内で設定できます。ユーザ名やパスワード文字列の中に「/」が含まれる場合は、「=」や「?」等の文字を区切り子として使用してください。

設定例:

AT@G/RTA55i/himitsu/(ユーザ名RTA55i、パスワードhimitsu)

AT@G?RTA55i?(/123)?(ユーザ名RTA55i、パスワード(/123))

@H ブロードバンドTA接続用のダイヤル番号の設定

実行例: AT@H=***#

@H ブロードバンドTA接続用のダイヤル番号の表示

実行例: AT@H

@H ブロードバンドTA接続用のダイヤル番号の削除

実行例: AT@H=

@I ブロードバンドTA接続時におけるアクセスコンセントレータ名の設定

AT@Iの直後の文字を区切り子として、アクセスコンセントレータ名を半角英数字64文字以内で設定できます。

設定例: AT@I/Concentrator/

Sレジスタの詳細

番号	設定範囲	内容
0	0	自動応答なし
	1~255	指定回数の呼び出し後に自動応答
	1回	(工場出荷設定)
1	0~255	呼出カウンタ(注:設定不可)
	0回	(工場出荷設定)
2	0~127	エスケープシーケンスを構成する文字(コード)
	43	(工場出荷設定)
3	0~127	復帰文字(終端文字コード)
	13	(工場出荷設定)
4	0~127	改行文字コード
	10	(工場出荷設定)
5	0~127	後退文字(編集文字コード)
	8	(工場出荷設定)
7	1~50	発信時相手応答待ち時間(注:総合デジタル通信端末等の接続の技術的条件第4条)
	30秒	(工場出荷設定)
10	0~255	キャリア断許容時間(0.1秒単位)
	0秒	(注:キャリア=同期パターン/同期フラグ) (工場出荷設定)
12	0~255	エスケープシーケンスガードタイム(20m秒単位)
	50x20m秒	(工場出荷設定)
20	1~100	スループットBODで2Bチャンネル目の接続を始める回線の負荷率(回線速度に対する%値)。ATS20を越える負荷がATS21回繰り返されると2Bチャンネル目を接続。
	70%	(工場出荷設定)
21	1~100	スループットBODで2Bチャンネル目の接続を始める回線の負荷率の回数。ATS20を越える負荷がATS21回繰り返されると2Bチャンネル目を接続。
	1回	(工場出荷設定)

番号	設定範囲	内容
22	1~50 30%	スループットBODで2Bチャンネル目の切断を始める回線の負荷率(回線速度に対する%値)。ATS22を下回る負荷がATS23回繰り返されると2Bチャンネル目を切断。 (工場出荷設定)
23	1~100 2回	スループットBODで2Bチャンネル目の切断を始める回線の負荷率の回数。ATS22を下回る負荷がATS23回繰り返されると2Bチャンネル目を切断。 (工場出荷設定)
30	0 1~30 10分	自動切断しない 指定時間内にデータ送受信がなければ切断 (工場出荷設定;擬似LAN接続では無効)
42	0 ~255	現在のDTE-TA間速度とプロトコル(設定不可)
43	0 ~255	現在のTA-TA 間速度とプロトコル(設定不可)
50	1 2	ブロードバンドTAでLAN1を使用 ブロードバンドTAでLAN2を使用 (工場出荷設定)
51	1~10 3	PADIパケットの再送時間の初期値再送ごとに2倍の時間を設定 (工場出荷設定)
52	1~10 5	PADIパケットの最大再送回数 (工場出荷設定)
53	1~10 3	PADRパケットの再送時間の初期値再送ごとに2倍の時間を設定 (工場出荷設定)
54	1~10 5	PADRパケットの最大再送回数 (工場出荷設定)
55	0 1 1240~1452 0	TCPパケットのMSSを制限しない MSSをMTUの値に応じて制限する MSSオプション値 (工場出荷設定)

番号	設定範囲	内容
56	1~2 1	契約しているPPPoE事業者の最大セッション数 (工場出荷設定)
64	0 1~127 0	データポート用の呼にHLCなし データポート用の呼にHLCあり (コード) (工場出荷設定)(注:JT-Q931HLCの高位レイヤ特性識別)
96	1~255 60秒	コールバック起動側での着信監視タイム (工場出荷設定)
97	0 1~15 0秒	コールバック被起動側ですぐ折り返し コールバック被起動側で折り返すまでの待ち時間 (工場出荷設定)
102	0 1 2 3 4 5 6 7	呼び出ししない i・ナンバーのポート番号1 i・ナンバーのポート番号2 i・ナンバーのポート番号1と2 i・ナンバーのポート番号3 i・ナンバーのポート番号1と3 i・ナンバーのポート番号2と3 i・ナンバーの全てのポート番号 (工場出荷状態)

SレジスタのS64の設定値の設定範囲は、10進数で0から127までの全ての整数です。その中で決められているものだけを以下の表で示します。

10進数	16進数	意味
1	01	電話
4	04	G2/3FAX
33	21	G4FAX
49	31	テレテックス
50	32	ビデオテックス
53	35	テレックス
56	38	メッセージハンドリングシステム(MHS)
65	41	OSIアプリケーション

リザルトコードの詳細

数字形式、文字形式のリザルトコードセットによる違いを表に示します。

○:表示される、-:表示されない

数字形式	文字形式	ATX0	ATX1	ATX2	ATX3	ATX4
0	OK	○	○	○	○	○
1	CONNECT	○	-	-	-	-
2	RING*	○	○	○	○	○
3	NO CARRIER	○	○	○	○	○
4	ERROR	○	○	○	○	○
6	NO DIALTONE	-	-	○	-	○
7	BUSY	-	-	○	○	○
10	CONNECT 2400	-	○	○	○	○
11	CONNECT 4800	-	○	○	○	○
12	CONNECT 9600	-	○	○	○	○
13	CONNECT 19200	-	○	○	○	○
14	CONNECT 38400	-	○	○	○	○
15	CONNECT 57600	-	○	○	○	○
16	CONNECT 64000	-	○	○	○	○
17	CONNECT 115200	-	○	○	○	○
18	CONNECT 128000	-	○	○	○	○
19	CONNECT 230400	-	○	○	○	○

* AT\$LOに設定すると、文字形式でのRING表示の後ろの発信番号を省略できます。

10BASE-T

イーサネットの規格の一つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度のものを表します。本機のLANポートは10BASE-T/100BASE-TX対応です。

100BASE-TX

イーサネットの規格の一つで、ツイストペアケーブルを用いた、100Mbit/sの速度のものを表します。本機のLANポートは10BASE-T/100BASE-TX対応です。

APOP

メールサーバからメールを受信するために使用するPOP3プロトコルの認証において、パスワードを暗号化してやりとりする方式です。

ATコマンド

米国Hayes社が開発したモデムの制御コマンドです。コマンドがすべて「AT」で始まるのが特徴です。

Acrobat

アドビ・システムズ社が開発した、コンピュータ上で文書を電子的に取り扱うことのできるツールです。Acrobatが取り扱う文書はPDFファイルと呼ばれ、文書閲覧用ソフトであるAcrobat Readerで自由に閲覧することができます。

BIOS

パソコンのハードウェアの設定を行うことができる、もっとも基本的なソフトです。

BOD

必要に応じて通信速度を変更する機能です。MP接続を利用する場合、通信量の増減やアナログ電話の使用の有無に応じてBチャンネルの数を増減させることができます。

Bチャンネル

ISDNでデータ通信のために用いられるチャンネルです。NTTのINSネット64では2Bチャンネルが、INSネット1500では23Bもしくは24Bチャンネルが利用できます。

CHAP

PPPでのユーザ認証の方式の一つです。CHAPではパスワードを回線上に流さないで、たとえ回線を盗聴されてもパスワードが盗まれないという特徴があります。

DCE

コンピュータとモデムやTAを使った通信システムの中で、モデムやTAのことを総称してDCEと呼びます。

DHCP

コンピュータが起動するためのさまざまな情報をコンピュータ自体には持たず、サーバからネットワーク経由で受け取るためのプロトコルです。

DIN

DINとはドイツ工業規格(日本のJISに相当)するものですが、DINで規定されているコネクタのことをDINコネクタと呼ぶことがあります。Macintoshのモデム/プリンタポートにはDIN9pinコネクタが使われています。

DNS

インターネットで用いられる名前空間をドメインという階層で分散管理するためのシステムのことです。インターネットで用いられる名前には、ホスト名、メールサーバ名、ネームサーバ名、IPアドレスなどの種類があります。DNSを使うことでホスト名をIPアドレスに効率的に変換することができます。

DP

電話で発信する時に、電話機から電話局に送信する信号の一種です。

DSU

ISDNで、電話局から家庭/事務所までの電話線の、家庭/事務所側に設置する装置のことです。DSUは1本の電話線に必ず1つだけ必要です。

DTE

コンピュータとモデムやTAを使った通信システムの中で、コンピュータのことを総称してDTEと呼びます。

Dチャンネル

ISDNで発着信の制御などのために用いられるチャンネルのことです。

FTP

ファイルをさまざまなコンピュータ間で転送するためのプロトコルです。FTPサービスを提供する側をFTPサーバ、FTPサービスを利用する側をFTPクライアントと呼びます。

HTML

ドキュメント記述言語であり、通常の文章の中にタグを埋め込んでいく方式をとります。他のドキュメントへのリンクを持つことができるのが最大の特長で、それゆえに「ハイパーテキスト」と呼ばれることがあります。Webページを記述する言語として、広く利用されています。

HUB

10BASE-Tや100BASE-TXのポートを多数持ち、その間で通信を可能にする装置のことです。

ICQ

ネットワーク上のパソコン間で簡単にメッセージをやりとりできるインスタントメッセージングソフトのことです。インターネットでも簡単に利用できます。ICQの名前の由来は「I seek you」と読めるから、ということだそうです。

IDS (Intruder Detection System)

ネットワーク上を流れるパケットを分析し、不正アクセスを検知して管理者に通報するシステムのことです。

Ingressフィルタリング

ルータやファイアウォールなどで、確実に不要なパケットを事前にフィルタで破棄することです。例えば、LANと同じ発信元のIPアドレスのパケットは外部(WAN)からは受信しないという前提で外部からのパケットを制限します。本機では、プロバイダ接続設定を行なったときにプライベートIPアドレスとLAN側に設定しているIPアドレスに関するIngressフィルタを自動適用します。ネットワーク環境に合った設定で運用することが重要です。

Internet Explorer

Windows やMacOSに標準でついてくるブラウザソフトのことです。

IP

インターネットで使用されるプロトコルです。IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルが、下位には通信回線寄りのプロトコルが積み重なることで全体としてインターネットを構築しています。

IPX/SPX

ノベル社のネットワークOS、NetWareのために開発されたプロトコルです。

IPアドレス

インターネットでそれぞれのコンピュータを識別するためにつけられるアドレスです。

IPマスカレード

NATの中でも特にTCPやUDPのポート番号を変換することにより、1つのIPアドレスで複数のホストを動作させる技術のことです。

IPv4/IPv6

IPv6は現在のインターネットにおけるアドレスの不足や経路制御の複雑さを解決する新しい通信方式で、Internet Protocol Version 6の略語です。IPv6を用いると、すべての機器を固有のアドレスによって識別できるようになるため、双方向の通信が可能になります。なお、従来の通信方式はIPv4(Internet Protocol version 4)と呼ばれます。IPv4とIPv6の間には互換性はありません。

IPv6 over IPv4トンネリング/IPv4 over IPv6トンネリング

IPv6 over IPv4トンネリングとは、IPv4ネットワークを経由してIPv6ネットワークを接続するためのプロトコルです。IPv6への移行の初期においては、IPv4ネットワークの中にIPv6ネットワークが点在する環境となるため、IPv6 over IPv4トンネリングが重要になります。

IPv4 over IPv6トンネリングは、IPv6ネットワークを経由してIPv4ネットワークを接続するためのプロトコルです。IPv6ネットワークで隔てられたIPv4ネットワークを接続する場合に使用します。

ISDN

電話、FAX、データ通信など複数ある通信ネットワークを統合する、次世代の基本通信ネットワークです。日本ではNTTなどによりINSネット64などのサービスが行われています。

ISDNランプ

ISDN回線が電氣的に接続されている状態を示すランプです。

i・ナンバー

1本のISDN回線に3つまでの電話番号を割り当てるサービスです。i・ナンバーを利用するには、NTTなどの通信事業者に申し込みます。

Lモード

NTT東日本およびNTT西日本が提供する、電話機やFAXを使ってメールを送受信したり、情報を検索したりできるサービスです。

Lモード対応電話機やFAXなどのアナログ機器を本機に接続すれば、Lモードのメッセージ到着お知らせサービスを利用できます。

LAN

屋内に限定するなど、比較的狭い範囲でコンピュータを接続するネットワークのことです。

LAN-TA

Windows98/Me/2000/XPの「仮想プライベートネットワーク」機能を利用して、LAN上のWindowsパソコンから本機を仮想TAとして発信できる機能です。

LAN型ダイヤルアップ

2つ以上の孤立したLANを、ISDNなどのダイヤルアップ回線で接続することです。

MACアドレス

ネットワーク上の識別番号です。各ネットワーク機器に固有の番号が設定されています。

MP

PPPで、複数のリンクを束ねてより高速の通信回線を擬似的に得るためのプロトコルのことです。ISDNでは、MPIによって2つのBチャンネルを束ねて128kbit/s相当の通信ができるようになります。

NAT

IPパケットのIPアドレスなどを途中のルータで書き換える技術のことです。グローバルIPアドレスの世界であるインターネットとプライベートIPアドレス空間との間で通信できるようにすることができます。

NetBEUI

Windowsで使われるネットワークプロトコルです。

NTP

ネットワーク上でコンピュータの時計をあわせるためのプロトコルです。多くのプロバイダはNTPサーバを動作させているので、そこに時間合わせをさせると、コンピュータの時計を正確な時刻に保てます。

OutlookExpress

WindowsやMacOSに標準でついてくるメールソフトです。

PAP

PPPでのユーザ認証の方式の一つです。PAPではパスワードがそのままの形で回線上に流れます。

PB

電話機が電話をかける時に、ダイヤルボタンに応じて発する音のことです。いわゆる「ピボパ」です。

PDF

→Acrobat

POP3

メールサーバからメールを受信するためのプロトコルです。

PPP

ISDNなどの通信回線上で、IP通信を行うための下回りを担当するプロトコルです。データの圧縮を行ったり、接続の時には相手を確認するユーザ認証を行うことで、知らない相手からの接続を拒否するような機能を持っています。

PPPoE

Ethernet上で、PPP接続を行うためのプロトコルです。接続先を選択したり、接続の時にユーザ認証を行うことでダイヤルアップ接続と同じように接続を行うことができます。

PPTP

LAN上の特定の機器間でPPPパケットを通すためのプロトコルです。本機にこの機能に対応しており、LAN上のWindowsパソコンから本機をTAとして使用することができます。

RIPng

IPv4で広く用いられているRIPを、IPv6に対応させた経路制御プロトコルです。RIPngは、IPv6における基本的な経路制御プロトコルとして扱われます。

RVS-COM

ドイツRVS社が開発した、Windows用FAXソフトです。日本では、メガソフト株式会社が販売しています。RVS-COM2000を利用すると、FAXモデムを使わなくても本機経由でFAXを送受信できます。

S/Tポート

4線式のISDN回線ポートです。本機に内蔵のDSUを利用する場合、このポートに他のISDN機器を接続して使うことができます。本機のDSUを利用しない場合には、このポートに外付けのDSUを接続します。

TA

ISDNに対応していない装置をISDNに接続するための装置のことです。一般に、単にTAと言った場合には、RS-232Cのデータ用シリアルポート経由でパソコンをISDNに接続するための装置のことを言います。TAにはその他に、電話機やモデムなどのアナログ回線用端末を接続するためのアナログTAがあります。本機はUSBポート接続のTA機能を内蔵しています。

TCP

IPの上で、データが確実に相手に届くことを保証するためにあるプロトコルのことです。多くのアプリケーションはTCP上に構築されています。

TCP/IP

インターネットで使用されるプロトコル全体の総称です。

TELNET

他のコンピュータを遠隔操作するためのプロトコルです。本機もTELNETにより遠隔操作することができます。

TFTP

ファイル転送プロトコルの一種で、FTPに比べて簡単な仕組みで実現されています。本機のファームウェアのリビジョンアップにはTFTPを利用しています。

UDP

IPに、アプリケーションを識別するためにポート番号を指定する機能を付け加えるプロトコルです。

UPLINK

HUBを、より上位のHUBに接続するためのポートのことです。

URL

Webページのアドレスなどを記述したもののことです。例として、以下のようなものになります。

<http://www.rthro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/index.html>
(プロトコル名://ホストアドレス/一般的にはファイル名)

USB

プラグ&プレイに対応したシリアルバス規格です。本機には、1つのUSBポートを装備しています。

Uポート

2線式のISDN回線ポートです。本機内蔵のDSUを利用する場合は、ISDN回線のモジュラジャックとUポートを接続します。

WAN

LANよりも広い範囲でコンピュータを接続するネットワークです。離れた場所のLAN同士をつなぐネットワークを指す場合もあります。

Webブラウザ

→ブラウザ

WWW

World Wide Webの略語です。HTML文書を蓄えるWebサーバと、HTML文書を表示する能力を持つWebブラウザの間でHTTPを用いてHTML文書を転送するシステムのことです。

アクセスポイント

プロバイダ経由でインターネットに接続する時の、プロバイダの拠点のことです。ダイヤルアップの場合はそこへ電話をかけることでインターネットに接続できます。

アクティブデスクトップ

Windowsで画面全体の表示にWWWを利用したもののことです。画面がWWWと関係しており、登録されたWWWサイトへのアクセスが簡単に行えます。

イーサネット

LANで使われる、ケーブルまで含んだネットワークプロトコルのことです。使用されるケーブルや通信速度などで10BASE-2、10BASE-5、10BASE-T、100BASE-TXなどの種類があります。

インターネット

世界中のコンピュータをIPを使って接続したネットワークのことです。

オフフック

電話機の手話器を持ち上げた状態のことです。

オンフック

電話機の手話器を置いた状態のことです。オンフックの時、電話は切れています。

回線速度

通信回線が流すことのできるデータの転送速度のことです。例えば、ISDNのBチャンネルは64kbit/s、イーサネットの10BASE-Tは10Mbit/sです。

管理パスワード

本機の設定を行うために必要なパスワードです。

疑似LAN

USBポートに接続したパソコンから本機にダイヤルアップすることにより、本機のLANポートに接続されているLANにアクセスできる機能です。LANポートを持たないパソコンでもLANにアクセスすることができます。

キャッチホン・ディスプレイ

通話中に着信があったとき、どこから着信したかを通知してくれる機能のことです。

INSネット64では、アナログの電話回線からの着信では発信者の電話番号は通知されないの、どこからの着信かを知ることはできませんが、NTTとINSナンバー・ディスプレイ契約することにより、アナログの電話回線からの着信でも発信者の電話番号が通知されるようになり、どこからの着信かを知ることができます。アナログの電話回線以外(ISDN、携帯電話、PHSなど)からの着信では契約は必要ありません。

グローバル着信

着番号通知を伴わない着信のことです。ダイヤルインを契約しているISDN回線では、普通は必ず着信にはどの番号に着信したかを示す着番号通知がありますが、グローバル着信の契約をしていると、指定した番号への着信では着番号通知が行われません。

ゲートウェイ

→ルータ

コールバック

ISDNのようなダイヤルアップ回線回線で、発信側が着信側に何かの方法で接続したいことを伝え、着信側から電話をかけなおしてもらうことです。

コンソール

本機では、TELNETなどでログインしてコマンドを入力できる画面のことをいいます。

サーバ

ネットワーク上でいろいろなサービスを提供するコンピュータのことです。WWWサーバ、DHCPサーバ、FTPサーバ、ネームサーバ、メールサーバなどがあります。

サブアドレス

ISDNでは、1本の回線に複数のISDN端末を接続することができます。そのため、電話番号の他に相手を特定するためのサブアドレスを指定することができます。サブアドレスは、ISDNの他にPHSでも利用できます。

識別着信

電話番号を登録し、その電話番号から電話がかかってきた時に着信するかどうかを指定できる機能です。登録した番号からの着信は受け取らなかったり、反対に登録した番号からの着信だけができるようにしたりすることができます。

終端抵抗

→ターミネータ

スタティック(静的)フィルタ

固定的に動作するフィルタです。一度設定するとフィルタが常時有効になります。

静的IPマスカレード

IPマスカレードを利用する時には、外部からのアクセスができなくなりますが、静的IPマスカレードを利用すると外部からのアクセスをできるように設定できます。

静的フィルタ

→スタティックフィルタ

切断タイマ

データ通信が一定時間行われなかった時に、ISDN回線を切断するためのタイマです。

専用線

特定の相手と、常に通信できるようになっている回線のことです。利用するためにはNTTなどの通信事業者に申し込みます。

ダイナミック(動的)フィルタ

通信状態を監視しながら、必要に応じてフィルタを有効にします。

ダイヤルアップ

プロバイダのアクセスポイントに電話をかけて、インターネットに接続することです。

ダイヤルイン

1本のISDN回線に複数の電話番号を割り当てることです。ダイヤルインを利用するには、NTTなどの通信事業者に申し込みます。

ダイヤルトーン

電話で、受話器を上げた時にツーツと聞こえる音です。電話機のダイヤルはダイヤルトーンが聞こえてから回し始めます。

ターミネータ

ISDNのS/Tポートに複数の機器を接続した時に、一番端の機器に接続するものです。これが適切に接続されていないと、ISDNが誤動作を起こすことがあります。

端末型ダイヤルアップ

パソコン1台だけをダイヤルアップによりインターネット接続することです。LAN型ダイヤルアップとは異なり、端末型では事前にパソコンにIP関係の設定は必要ありません。

通信中着信通知

ISDNのサービスの一つで、2Bとも通信中で空きチャンネルがない状態でも着信があったらそれを通知する機能のことです。ISDN端末側では、通信中着信通知を受けてそれを着信させる場合には、現在使用中の通信を切断して、そちらの着信を行います。

動的フィルタ

→ダイナミックフィルタ

ドメイン名

インターネット上の組織名をあらわす名前のことです。例えば、「yamaha.co.jp」はドメイン名です。DNSで利用されます。

トーン回線

アナログの電話回線で、PBにより発信できる回線のことです。

ナンバー・ディスプレイ

オンフック時に着信があったとき、どこから着信したかを通知してくれる機能のことです。INSネット64では、アナログの電話回線からの着信では発信者の電話番号は通知されないので、どこからの着信かを知ることはできませんが、NTTとINSナンバー・ディスプレイ契約することにより、アナログの電話回線からの着信でも発信者の電話番号が通知されるようになり、どこからの着信かを知ることができます。アナログの電話回線以外（ISDN、携帯電話、PHSなど）からの着信では契約は必要ありません。

認証

接続相手を確認することです。パスワードを確認するのがもっとも一般的な方法で、PPPではPAPやCHAPを使ってパスワードを確認します。

認証番号

ISDN回線に接続する装置として届け出て、確認を受けたことを証明する番号で、装置の種類毎に存在します。ISDN回線の契約書に記入しなければいけないことがあります。

ネットマスク

IPアドレスと論理積をとるとネットワークアドレスが得られるようなビット列のことをいいます。ネットマスクは最上位ビットから連続して1が続き、あるところから最下位ビットまで0が続く形なので、最上位ビットから1が続いている長さでネットマスクを表すことができます。これをネットマスク長といいます。本機の設定では、ネットマスクはすべてネットマスク長で設定します。ネットマスクの設定を間違えるとまったく通信できなくなってしまうことがあるので注意が必要です。

ネットワークアドレス

ネットワークを識別するためのIPアドレスです。あるネットワークに所属するホストのIPアドレスはすべて、上位部分はネットワークアドレスと一緒になくてはなりません。

ネットワークゲーム

ネットワークを用いて不特定の相手や遠隔地の相手と対戦することのできるゲームのことです。インターネットの普及とともにネットワークゲームが愛好されるようになってきています。

ネームサーバ

DNSで、名前とIPアドレスなどの変換を行うためのサーバです。ネームサーバだけは名前で指定できないので、必ずIPアドレスで指定しなくてはなりません。

パケット

IPで取り扱うデータの1単位のことです。IPではすべてのデータはパケットという単位で扱われます。パケットはデータグラムと呼ばれることもあります。

発信者番号通知

電話をかける時に、自分の電話番号を相手に知らせる機能のことです。

パルス回線

アナログの電話回線で、DPの回数で発信する電話番号を指定する回線のことです。

ビジートーン

電話で、相手が話中などの時に聞こえる音「ツー、ツー」です。

ファームウェア

本機に内蔵されていて、本機の動作を制御するソフトのことです。ファームウェアをネットボランチホームページからダウンロードし本機をリビジョンアップすることで、購入後でも最新の機能を利用することができます。

ファイアウォール (Firewall、防火壁)

外部ネットワークからの不正アクセスを防ぐ機能/装置です。

フィルタ

ルータはパケットを転送する時に、パケットの内容によっては転送せずに捨ててしまう機能のことです。フィルタを適切に設定することで外部からの侵入を阻止したり、必要のない発信を止めたりすることができます。

フッキング

電話機のフックスイッチ(受話器を置くところにあるスイッチ)をポンと押してすぐ話す操作のことです。最近の電話機ではフックスイッチとは別にフッキングするためのボタンが用意されていることもあります。フッキングはフレックスホンの操作を行う時などに使います。

ブラウザ

WebサーバからHTML文書を手し、表示する機能を持ったソフトのことです。代表的なものには、Internet ExplorerやNetscape Communicatorがあります。

ブリッジ

パケットのIPアドレスをチェックせず、他のネットワークにすべて転送する装置です。

フレックスホン

NTTの提供するサービスで、INSキャッチホン、三者通話、通信中転送、着信転送の4つの総称です。

フロー制御

データ通信で、相手の状態にあわせてデータの送信を止めたり再開したりする機能です。シリアル通信であるRS-232Cでは、RS/CSフロー制御(ハードフロー制御)とXON/XOFFフロー制御(ソフトフロー制御)の2種類があります。

ブロードキャスト

ネットワーク全体のホストへパケットを送信することです。そのようなことができるアドレスをブロードキャストアドレスと呼びます。

プロトコル

通信を行う時の規約のことです。

プロバイダ

インターネットサービスプロバイダの略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことです。接続に必要なアクセスポイントの整備や、インターネットに必要なIPアドレスの取得代行サービスなどを行います。

ホスト

IPでは、ホストはIP的に接続されているすべてのコンピュータのことを指します。

ポート番号

TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWはTCPの80番、メールはTCPの25番です。サービスを提供するサーバ側のポート番号はアプリケーションによって決まっていますが、そこに接続していくクライアント側のポート番号はその時々によって変わります。

ホームページ

Webサイトの一番入口のページを指します。

メールサーバ

メールを送信したり、受信したメールを蓄えておくサーバのことです。

モデム

パソコンのシリアルポートやモデムポートに接続して、アナログ回線経由で通信を行うための装置です。

優先着信

同じ電話番号で複数のTELポートに着信する場合、指定したTELポートを先に鳴らす機能です。

ユーザ間情報通知

ISDNの発着信の時に、同時に情報を相手に伝えることができるサービスです。

リビジョン

本機に内蔵されるファームウェアの版のことです。バージョンともいいます。新しいリビジョンのファームウェアを本機に送り込むことをリビジョンアップといいます。

リモートセットアップ

ルータから、ISDN回線経由で別のルータの設定を行う機能のことです。ヤマハのRTシリーズ同士であれば利用できます。

ルータ

パケットのIPアドレスに基づいて適切な方向へパケットを転送する機能を持つ装置のことです。ゲートウェイともいいます。

レイヤ1起動種別

ISDN回線に端末を接続した時に、ISDN回線に常に信号を流しておくか、実際に通信している時だけ信号を流しておくかの種類の違いです。それぞれ常時起動、呼毎起動といい、ISDN回線の契約時に指定することができます。

ログ

装置の状態や動作の記録を時間順に記録したものです。

ログアウト

装置へのアクセスを終わることです。

ログイン

TELNETなどで装置へのアクセスを始めることです。

ログインパスワード

本機にログインするためのパスワードです。設定を行うことはできませんが、接続状態やログを見ることができます。

英数字

128kbit/s接続	142
Acrobat Reader	188
ADSL	
PPPoEネットワーク型ADSLで接続する	154
ATコマンド	
ATコマンドとは	29
ATコマンド一覧	200
B1ランプ	12
B2ランプ	12
CCLファイル	29、77
CONN/DISCボタン	12
DC-IN 9Vコネクタ	14
DMZホスト機能	137
DNS	15、206
DSUスイッチ	14
FAX機器	56
FAXモデム	57
ICQソフト	136、207
INFファイル	29
INITスイッチ	12
Internet Explorer	26、207
IPアドレス	
IPアドレスとは?	16
IPアドレスのルール	17
IPマスカレード機能	18
パソコンのIPアドレスを確認する	190
パソコンのIPアドレスを変更する	191
パソコンのIPアドレスをリセットする	195
本機のIPアドレスを変更する	134
IPv6	184、207
ISDN	
ISDN S/Tポート	14
ISDN Uポート	14
ISDN付加サービス	19
ISDNランプ	12
Lモード	52
LAN-TA	180
LAN間接続	172
LANポート	14
LANランプ	12

MACアドレス	208
MP接続	142、208
MSGランプ	12、63
NAT機能	18、208
OCNエコノミーで接続する	148
PDF形式	2、188
POWERランプ	12
RVS-COM	57
Sレジスタ	29
Sレジスタの詳細	203
TA機能	
設定／接続する	78
ブロードバンドTA機能	91
TCP/IP	15、209
TELポート	14
USB接続	
TA接続	78
USB接続でできること	69
擬似LAN接続	102
接続の準備	70
ブロードバンドTA接続	91
USBポート	14
USBランプ	12
WANポート	14
WANランプ	12
Webブラウザによる設定操作	26

五十音順

ア行

アース端子	14
アクセス制限	131
アタック	115
機器間アナログ通話	145
インターネットの基礎知識	15

カ行

各部の名称	12
仮想プライベートネットワーク	181
かんたん設定ページ	
画面の見かた	26
設定項目一覧	197
擬似LAN接続	102
擬似キャッチホン	37
擬似三者通話	41
擬似着信転送	44
擬似通信中転送	39
擬似ナンバー・リクエスト	51
キャッチホン	37
極性反転スイッチ	14
グローバルIPアドレス	16、115
コンソールコマンド	31

サ行

サーバを公開する	169
三者通話	41
識別着信機能	50
仕様	196
スタティック(静的)フィルタ	117、128、210
静的IPマスカレード	136、170、210
静的NAT	170
静的(スタティック)フィルタ	117、128、210
セキュリティ	3、114、115、118、126、131
設定方法の種類	20
専用線接続	
OCNエコノミーで接続する	148
PPPoEネットワーク型ADSLで接続する	154

タ行

ターミネータスイッチ	14
ダイナミック(動的)フィルタ	117、128、210
ダイヤル回線	56
着信拒否	50
着信転送	44
着信転送の解除	46
着信ベル音	48
通信記録	28
通信中転送	39
通信料金	28
転送	36
電話	
かける／受ける	33
電話機からの設定操作	21
電話機による設定機能一覧表	23
電話機による設定例	22
電話番号登録	47
トーン回線	56
動的(ダイナミック)フィルタ	117、128、210

ナ行

内線	
かける	35
転送する	36
ナンバーディスプレイ	49
ネームサーバ(DNS)	15、211
ネットマスク	17、211
ネットワークアドレス	17、211
ネットワークゲーム	136、211

ハ行

パソコンごとの接続先設定	144
パソコンのIPアドレス	
現在のIPアドレスを確認する	190
変更する	191
リセットする	195
パルス回線	56
ファームウェア	212
ファイル共有	123、173、177

フィルタ

静的(スタティック)フィルタ	117、128、210
設定する	119
設定例	123
動的(ダイナミック)フィルタ	117、128、210
フィルタ設定でできること	116
複数プロバイダの自動接続	143
不正アクセス	
検出する	129
対抗するには	116
不正アクセスとは?	115
メールで通知する	67
フッキング	35
プッシュ回線	56
プライベートIPアドレス	16
フレックスホン	19
ブロードキャストアドレス	17、212
ブロードバンドTA機能	91
プロバイダ接続制限の解除	140
プロバイダ接続制限の設定	138
ボイスワーブ／ボイスワーブセレクト	44、46
ホームページ	212

マ行

メールアドレス登録	62
メール専用の接続先設定	143
メール着信	63
メール着信確認機能	61
メール着信転送	64
メール着信転送停止	65
モデム初期化コマンド	29

ラ行

リザルトコード	29、205
リセット	
パソコンのIPアドレスをリセットする	195
リモートアクセス	158
リモートセットアップ	32
ルータ機能	18
ルーティング	18、114
ログ情報	213

ヤマハ株式会社

- ネットボランテコールセンター

RTA55i 専用サービス窓口

TEL-03-5715-0350

ADSLルータ専用お客様窓口

TEL-03-5715-3575

土日祝日を除く9時～12時、13時～17時

- 電子メールでのお問い合わせ

Webお問い合わせページ <http://NetVolante.jp/>

メールアドレス support@netvolante.jp

V927520



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書は無塩素紙 (ECF: 無塩素紙漂白パルプ) を使用しています。